

福井県文書館資料叢書9

福井藩士履歴 1

あゝえ

福井藩士履歴 1 あゝえ

福井県文書館資料叢書9



福井県文書館資料叢書 9

福井藩士履歴

1

あゝえ



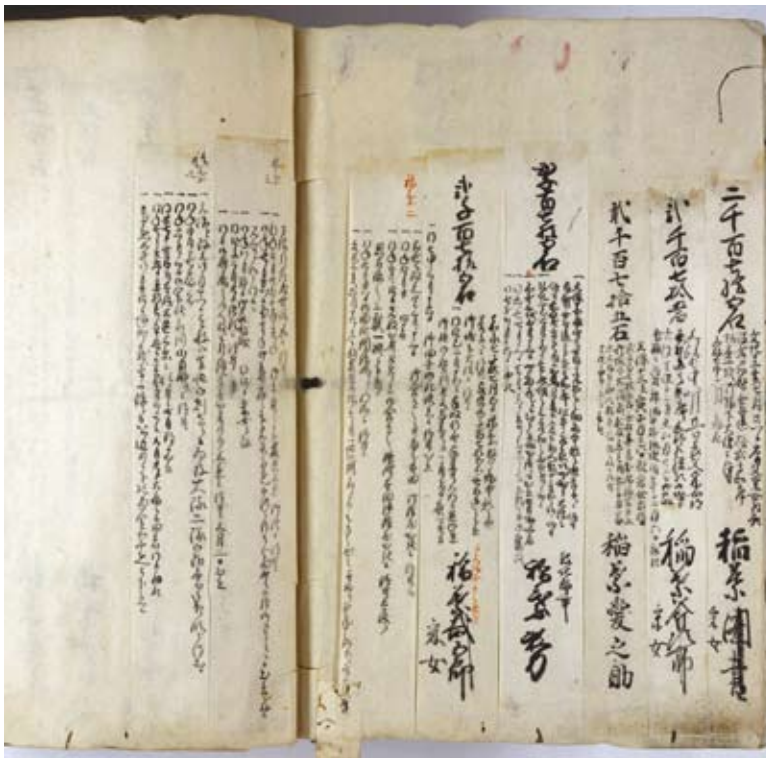
1 「剝札」(表紙)

松平文庫 福井県立図書館保管



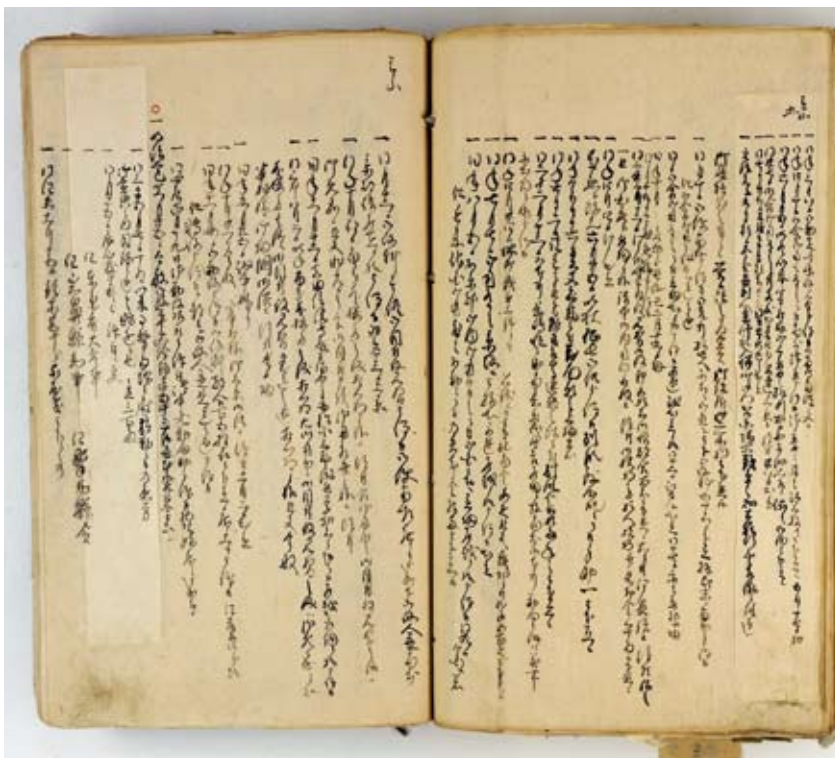
2 「士族」(表紙)

松平文庫 福井県立図書館保管



3 「剝札」 稲葉 1

松平文庫 福井県立図書館保管



4 「士族」 青山貞

松平文庫 福井県立図書館保管

発刊にあたって

このたび福井県文書館資料叢書の第九巻として『福井藩士履歴』を刊行することとなりました。これまで資料叢書では、江戸時代中期の越前国幕府領の大庄屋日記（第一巻・第二巻）、江戸時代後期の若狭国小浜の米商人の日記（第三巻）、さらに越前松平家の「家譜」のうち、とりわけ幕末の政治動向に大きな影響を与えた松平慶永に関わる五三冊分（第四巻から第八巻）を刊行してきました。

そして今回は、越前松平家の家臣団約三〇〇〇家のうち中・上層の約九〇〇家（士分以上）の人事記録を取りあげました。利用の便宜から、掲載家を五十音順に組み替え編集し、全六巻にわたる刊行を予定しています。

中核となるのは、越前松平家の藩政資料である松平文庫（福井県立図書館保管）に残る「剝札」「士族」と名付けられた資料です。「剝札」に掲載されている藩士は、いずれも死去や隠居などによって代替わりした各家の当主で、これに対して「士族」には、現役当主の履歴が福井藩を引き継いだ足羽県が廃止される一八七三年（明治六）ごろまで書き継がれていました。これらの資料から福井藩では、現役当主時代に短冊紙片を使って履歴を書き足すかたちで記録した人事記録を、隠居すると「剝札」に貼り替えていくという文書管理が行われていたことが推測されます。

その内容は、とりわけ一八五一年（嘉永四）以降において詳しくなり、各家の禄高の増減、家格の変化のみならず、職務内容や転役、江戸や京都・藩外への出張とその職務、改名、褒賞などにわたって充実したものとなっています。

こうした藩士履歴は、一般の利用者からもっとも問い合わせの多いルーツ調べに役立つのはもちろんですが、明治維新後に近代日本を支えた福井藩の人材創出の詳細を解明する上でも有用とされます。また、関連の職務や同時期に行われた人事を検索することができれば、幕末福井藩

の藩政・兵制などの諸改革、殖産政策や人材登用の変容、他藩との交流などが浮かび上がってくるでしょう。

これらの資料叢書と当館ウェブサイトに掲載するそのデジタル版が、福井県の歴史的な情報源をさらに豊かにし、県内外から活用されることで広く福井県にかかわる研究その他の文化活動が活発になることを願っています。

平成二十五年二月

福井県文書館長 柿 木 孝 勇

凡例

一、本巻は、福井県文書館資料叢書の第九冊目であり、『福井藩士履歴』全六巻中の第一冊目である。

一、本書の原本は、福井県立図書館に保管されている「松平文庫」のなかの「剝札」「士族」である。「剝札」は上・下、「士族」は一〜七で構成されている（三は欠）。このうち本巻では、あくえまでを翻刻した。

一、資料の利用に資するため、巻末に参考資料を付した。

一、編集にあたっては次のように取り扱った。

(1) 「剝札」と「士族」を連結して『福井藩士履歴』とし、翻刻、刊行することにした。その際、各家は「剝札」の記載順とし、利用の便を考慮して五十音順に組み替えた。さらに同姓が複数ある場合は、家名にアラビア数字を付した。

(2) 原本の藩士名には貼紙・訂正・朱書などがあるが、次のように取り扱った。

・ 見出しの藩士名は現役最後の名前を示した。

・ 改名は藩士名に付されているもののみを、原則として古い順に並べて見出しの藩士名の下に記した。

・ 続柄など名前以外の記載については名前の下に記した。

・ 藩士名の次に石高・扶持米を記した。

(3) 出典が「剝札」以外のものは、藩士名の下に「士族」と付した。

(4) 「剝札」の巻末および「あ」「い」の終わりなどに貼られていた家は、該当する場所に入れて、※で原本の場所を示した。

(5) 「士族」のみに出てくる藩士は、該当する五十音の最後に配列した。

(6) 柱は、原則としてそのページの最初の段落における家名を示した。

一、翻刻にあたっては、原本の体裁にそうよう努めたが、読みやすくするために、また検索

の便宜を図るため、次のように取り扱った。

(1) 使用字体は原則として常用漢字を用い、異体字は原則として正字に改めた。また変体仮名や合字は通常の仮名に改めたが、次に掲げるような仮名・俗字・慣用字句は残した。

躰(体) 斗(ばかり) 𠂔(より) 而已(のみ) 而(て)

江(え) 者(は) 与(と) 茂(も)

(2) 全文にわたって読点をつけ、あわせて文意が通じないものには(マ、)、文字が重複する場合は(衍)などの傍注を付した。また明らかな誤字・脱字は訂正したものもある。

(3) 欠損・虫損等によって文字が判読できない場合には、□や□□で示した。

一、本書には、現在から見ると基本的人権に関わる歴史的事象も含まれているが、地域の歴史的事実を正しく理解するために原文をそのまま翻刻することを原則とした。本書は人権尊重をめざし、史実にもとづく研究を進める立場から刊行するもので、この趣旨を理解し、利用していただきたい。

一、翻刻にあたっては田原健子氏(福井県文書館運営懇話会委員)が筆耕し、校合は吉田健氏(元福井県文書館文書専門員)と当館職員が行った。編集は吉田健氏のアドバイスを受け、当館職員が行った。

一、資料の所蔵者である松平宗紀氏、筆耕に多大なご協力をいただいた田原健子氏に深く感謝申しあげる。

福井藩士履歴 1 あゝえ 福井県文書館資料叢書9

目次

口絵

発刊にあたって

福井県文書館長

柿木孝勇

凡例

一 福井藩士履歴	あ	1
二 福井藩士履歴	い	105
三 福井藩士履歴	う	243
四 福井藩士履歴	え	269

解説

元福井県文書館文書専門員

吉田

健

参考資料

う

宇都宮 1

宇都宮勘解由……

上坂甚五右衛門……

宇都宮治部左衛門……

上坂五右衛門……

宇都宮弥三郎……

上坂五右衛門……

宇都宮勘解由……

上坂登也……

宇都宮弥三郎……

上坂確……

宇都宮務……

上坂利左衛門……

宇都宮 2

宇都宮九郎右衛門……

上坂利左衛門……

宇都宮恒右衛門……

上坂利左衛門……

宇都宮茂左衛門……

上坂忠藏……

宇都宮五郎助……

上坂利左衛門……

宇都宮又左衛門……

上坂八郎左衛門……

宇都宮茂左衛門……

上坂治部左衛門……

宇都宮五郎助……

上坂多賀之助……

上坂 1

上坂与七……

上坂治部之助……

上坂藤太夫……

上坂拙士……

上坂与三右衛門……

上坂多賀之助……

上坂藤太夫……

上坂治部左衛門……

上坂上……

上坂多賀之助……

上坂 2

上坂才右衛門……

上坂治部左衛門……

内田恒太郎……

内田 2

内田安右衛門……

内田作野右衛門……

内田安右衛門……

内田小左衛門……

内田作兵衛……

内田衡……

薄井

薄井伴右衛門……

宇貝

宇貝八郎右衛門……

宇貝八郎右衛門……

宇貝八郎右衛門……

宇貝八郎右衛門……

宇貝八郎右衛門……

浦井

浦井七左衛門……

浦井七左衛門……

浦井文左衛門……

浦井五兵衛……

浦井藤次郎……

浦井勝之助……

内海道安……

内海玄三……

内海松察……

内海桃仙……

内海玄高……

内海桃仙……

内海孝順……

上田

上田万順……

上田万順……

上田万順……

上田万順……

上田万順……

上田万順……

上田万順……

上田万順……

瓜生 1

瓜生三左衛門……

瓜生三左衛門……

瓜生等……

瓜生捨吉……

瓜生 2

瓜生三寅……

え

江口

江口次郎兵衛……

江口九之丞……

江口源左衛門……

江口次郎兵衛……

江口九之允……

江口半吾……

江口正己……

榎並 1

榎並左次右衛門……

榎並左次右衛門……

榎並安次郎……

榎並勘兵衛……

榎並勘右衛門……

榎並左次右衛門……

榎並 2

榎並勘兵衛……

榎並芸碩……

榎並芸碩……

榎並芸碩……

榎並玄沢……

榎並孝斎……

榎並彦作……

江上	江上茂太夫……………	276
江上	江上茂太夫……………	276
江川	江川吉左衛門……………	276
江川	江川宗左衛門……………	276
江川	江川吉之助……………	276
江川	江川馬之丞……………	277
江川	江川常之助……………	277
円乘 ₁	円乘彦藏……………	278
円乘 ₁	円乘仙吉……………	278
円乘 ₂	円乘乙次郎……………	279
円乘 ₂	円乘名右衛門……………	279
円乘 ₂	円乘仙右衛門……………	279
円乘 ₃	円乘素……………	279
円乘 ₃	円乘虎吉……………	280
円乘 ₃	円乘虎弥太……………	281

口
絵

1 「剥札」(表紙)

2 「士族」(表紙)

3 「剥札」 稲葉₁

4 「士族」 青山貞

福井藩士履歴

1

あゝえ

一 福井藩士履歴 あ



芦田下野

四千五百廿五石 内千石与力

天和二戌十一月九日養父凶書跡知七千五拾石無相違被下

貞享三一等半知

元禄十六未十一月九日与力御預

享保二酉六月廿六日御家老職被仰付

同十七子十月廿三日御家老職病氣二付御免被成、席高知上へ被仰付

芦田図書

三千五百廿五石

享保廿卯三月廿九日父下野跡知無相違、席狛木工上、御宮火消

寛延元辰閏十月六日御家老職

宝曆六子十一月十七日御家老職御免、席高知酒井与三左衛門上、御城下

火消被仰付

芦田大学

三千五百廿五石

宝曆九卯三月五日父凶書跡知無相違、席酒井与三左衛門上

同十一巳二月廿日御城下火消

(明和七)
寅十月廿八日病死

芦田下野

三千五百廿五石

明和七寅十二月十四日養父大学跡知無相違、高知席松平斎宮次、御城下
火消

芦田図書

三千五百廿五石

明和八卯七月十三日養父下野跡知無相違、高知席杉田主水次並、高知之

御取扱之由、御城下火消

寛政二戌五月廿六日不慎之趣二付、席本多左門次へ御下ケ被成、遠慮

芦田大学 下野

三千五百式拾五石

寛政九巳正月十四日父凶書内願有之隠居被仰付、家督無相違被下置、高

知席杉田權之助次、御城下火消

文化五辰死

芦田大学 内記

三千五百廿五石

文化五辰六月養父大学家督無相違、御城下火消、席本多修理次

文化十三子八月病死

芦田図書

三千五百式拾五石

文化十三子九月十八日養家之伯父大学病中願之通家督無相違相統被仰付、

高知席杉田宮内次、御城下火消被仰付

天保七申八月四日御城代役本多筑後跡、与力御預在之

文政八乙酉三月廿三日御家老職被仰付、岡部左膳次

同十一子九月廿八日御役御免被成、御城下火消被仰付、席杉田主水次

天保六未年三月十日御宮火消被仰付候

天保七申八月御城代

天保十三壬寅六月廿八日不埒至極之趣有之二付蟄居被仰付

芦田俊齋 内匠事 新六郎 信濃 右衛門 品野

三千五百廿五石

一天保十三寅六月廿九日養父図書不埒至極之趣有之二付蟄居被仰付、家督

三千五百廿五石無相違被下置、高知席本多四郎右衛門次、御城下火消被

仰付、遠慮被仰付

一弘化三年江戸立歸出府、御着返し二而五月十三日出立、六月三日帰着

一嘉永五子八月十日別段之誤合を以、稽古中於上屋敷鉄砲角場御免被成候

一同六丑二月廿六日遠慮伺之上指扣被仰付置候処御免

一同年七月三日去月十二日京町方出火之節出精二付御褒詞

一同年十月廿九日炮術功者二付、御家流炮術掛り被仰付候

一同七寅六月十二日塩町方出火之処及大火候節、出精之段御褒詞

一同九月廿二日御軍制御改正二付御備組調練被仰出候処、御家流炮術掛り

二付、尚以御趣意厚相心得、御軍帳掛り申談候様被仰付候、依之御城下

火消御免被成、出火之節下馬御門へ相詰候様被仰付候

一同日炮術御用二而出勤之節ハ、中ノ口致往来御用人下之部屋へ罷出候様

被仰付候

一安政二卯正月廿二日御備組調練之義、掛り同様被仰付候間、御用掛り申談候様被仰付候

一安政二卯三月十四日御家流炮術掛り御端立之御趣意厚致世話、追々引立候二付御褒詞、依之御目録御二所物被下置候

一同年十二月十八日今度海岸御備御治定二付、炮種二応し弾薬其外致全備候様被仰出候二付、右一件総管被仰付候

一同三辰三月朔日長家出火二付伺之上遠慮、同四日御免

一同年四月廿一日今度於三国湊、御台場築造被仰出候、右二付懸り被仰付候間、御製造方へ申談取斗候様被仰付候

一安政三辰六月三日炮術御用向厚被致心配、御機嫌二被思召候、依之年始御礼月次共於鉄砲之間被仰付、尤月次之義ハ御通掛ケ御目見被仰付、差物之間二着座、中ノ口致往来候様被仰付候

一万延元申六月廿八日御備組調練掛り同様被仰付置候処、御振替二相成候

二付御免被成候、猶又折々罷出致心配候様被仰付候

一文久元酉八月十九日御家老職

一同二戌十月九日思召有之御役儀御免被成、御城下火消被仰付、席之儀有賀左近次江被入候、同日伺之上遠慮被仰付、同十九日御免

一元治元子四月十一日御軍帳御割替二付、農兵二組狛山城方江御附被成候

二付、其手江属シ、山城方江厚申談致世話候様被仰付候、山城方在京御留守中ハ狛帶刀方江申談候旨

一同年四月十九日狛山城方御用多二付、調練出勤無之節ハ、其手之面々を始都而引受致世話候様被仰付候

一同年六月十四日御軍制御割替二付、農兵之義厚被致世話候様被仰付置候

処、御免被成候

一 同日農兵一組御附被成候間、其手之面々并掛り西尾十左衛門へ厚申談、万端引受被致世話候様被仰付候

一 同年八月十四日今度長州御征伐副將被蒙仰候ニ付、御備奉行被仰付、御座所江罷出取調有之、依之御取扱之儀ハ御用中ノ口往来、御用人下之部屋へ罷出候様被仰出候

一 同年十月十六日長征出陣、同二丑二月朔日帰着

一 同二丑三月廿四日昨年新組之内大砲組ト被仰付候分、并御小人御足者右教授御免被成候、且又家来依田勘太夫是迄引受致心配候趣ニ付、金五百疋被下置候

一 慶応与改元、五月廿五日征長御出陣ニ付御備奉行被仰付候処、骨折相動、依之三所物一具被下置候

一 同年六月廿四日小荷駄奉行被仰付、依之御取扱左之通被仰付候

中ノ口往来御用人下ノ部屋へ罷出可申事

一 評定日御軍帳役所へ相詰可申事

一 御軍事御用談之節ハ御用席へ罷出可申事

一 同年十二月十四日思召を以年始御礼月次共於鉄砲之間被仰付、尤月次之儀ハ御通掛御目見被仰付、指物之間ニ着座、中ノ口致往来、出火之節ハ下馬御門内江相詰候様被仰付候

一 同二寅三月十一日御軍事奉行被仰付候

一 同年五月七日兵学所掛り被仰付候

一 同年七月廿日御軍事之儀ニ付御含御用有之出坂被仰付候、今般之儀ハ格合ニ不拘、輕装ニ而罷越候様被仰付、一日式歩沓朱ツ、被下置候、同廿五日出立、九月二日帰

一 同年九月十七日公迎御停止中家来殺生差越候儀ニ付遠慮伺、不及其儀

一 同三卯正月廿二日仲ヶ間取扱被指除候
一 同日小鳥札被下置候

但罷越候度毎拜領之趣ニ相心得候様被仰付候事

一 同年二月七日左之通御取扱被仰付候

御座所御門下馬御門三ノ丸御座所御門下座、且又御持組御先組下座致し候事

一 同年同月廿日信濃事右衛門ト改

一 同年八月十六日思召有之ニ付隠居之上遠慮被仰付、九月六日御免

一 明治二巳六月十五日品野事俊斎ト改

一 同年九月九日折々御機嫌伺可罷出候事

一 同三午十月廿五日馬術厚心掛ニ付、折々調馬場へ罷出申談世話可致事

菅田信成 源十郎

三千五百廿五石

〔士族〕

元治元子十月十日今度新撰農兵之者八拾四人、小荷駄方御用ニ御遣被成候間、右之者共御用中御領預ケ被成候、但差配役之面々江都而可申談事

一 同年十月長征出陣、丑二月四日帰

一 慶応元丑閏五月十八日補兵隊被仰付

一 同二寅三月十日定座番外以上補兵隊之義ハ御趣意ニ付被相止候

一 同年八月十一日調練掛り被仰付

一 同三卯三月十二日調練掛り之儀調練致世話候様被仰付、但定座以上之面々可致世話候事

一 同年五月十四日砲術所頭取助并軍事方兼被仰付、勤中年々銀拾枚ツ、被下置候

一 同年八月十六日親右衛門思召有之二付隠居之上遠慮被仰付、倅源十郎江家督三千五百廿五石無相違被下置、高知席大谷丹下次、御城下火消被仰付

一 同日父母并家来等御咎二付伺之上遠慮、同日廿六日御免
一 同年九月廿日第一級二相進候二付花葵御紋御印被下置候

一 同四辰八月晦日今度越後表江出兵之儀、弁事務局御達二付一番狙撃隊引纏早々出張被仰付、九月六日出立、然ル処已二月廿九日若松方帰り掛糸魚川へ居残御用相勤候処婦

一 明治二巳五月十七日兵学所詰被仰付候、但右出張二付御手当七兩被下
一 同年七月廿二日屋敷地之内南西之方御用地被仰付候、坪数之儀ハ追而可相達候事

一 同年九月七日征会之節御用立之旋条砲今度致献上候段、御満足之事二候、依之御国札百貫匁被下候事

一 同年十月六日居屋敷外南之方御茶園地一円、今度御用地ニ被仰出候
一 同月十六日表座敷之分御用ニ而当分御借受相成候間、学校幹事可申談候事

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給祿六百四拾四俵壹斗八升九合下賜
一 同年十二月五日修業隊被仰付候事

一 同三年三月五日表座敷御用相濟候二付御返被成候事、但置替料として金十兩被下候

一 同年四月十二日先達而願之上卒族多田五郎作へ居宅振替致候処、地所手狭二付今度卒族野村淵蔵拝借地返上仕候由二付、私拝借地東南ノ隅卜淵蔵返上地下振替被成下候様願之通被仰付候

一 同年五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事

一 同年七月廿二日当分表座敷御用ニ被仰付候事、但学校江可申談事
一 同年十月二日居屋敷内表住居之分并東南之方御用ニ相成候事、但学校江可申談事

一 同年十一月 屋敷御用ニ被仰付候二付、会計寮ハ伺ニ而金三百兩被下候

一 同年同月廿五日依願同姓一馬江給祿之内百廿俵分祿被仰付候事
米五百貳拾四俵壹斗八升九合

一 同年十二月 予備二番隊 年給式俵
一 同四未正月廿五日依願給祿之内百拾貳俵弟登へ、百拾俵同三馬江分祿被仰付候之事
米三百貳俵壹斗八升九合

一 同四未四月七日予備隊解隊被仰出候事
一 同年十一月三日今般由緒之有無ニ不拘朱印地除地一般上地被仰出候二付、従来所持之石間歩可致返上事

一 同五申七月源五郎事信成ノブナリ

芦田²

芦田八郎左衛門

貳拾三石四人

元祿十二卯八月八日御取立
享保七寅年相身躰末席被仰付

芦田勘右衛門

廿三石四人

享保十四酉七月十一日養父八郎左衛門休息、跡無相違被下

同十七子十一月十六日御番改

元文五申七月廿九日番改御免

芦田十左衛門

廿五石五人

延享三寅六月廿一日父勘右衛門休息、家督無相違、大番入

同四卯九月六日御手廻二石老入扶持御加増、御書院番入順席

明和二酉二月十一日御供目付

同五子七月廿日御次詰

同年十一月十四日御書物奉行

安永七戌六月廿二日御役御免、大番入

寛政十年十二月九日年来相勤候二付御書院番組へ被入、御近習二被指置

文化三寅八月十一日休息、御紋御帷子拝領

芦田八郎左衛門

廿五石五人

文化三寅八月十一日父十左衛門休息、家督無相違、大御番入、十左衛門

年来相勤候二付御紋御帷子一被下置

芦田十郎 十右衛門 十左衛門

廿五石五人

一天保五年九月廿五日養父八郎左衛門病身内願二付休息被仰付、家督廿五

石五人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一同十亥九月廿九日大御番組へ被入

一嘉永五子三月十六日御広敷御用達中山藤右衛門跡被仰付、御留守番組へ被入

一同六丑三月江戸詰出立

一同年四月九日慎姫様御入輿御用掛り同様被仰付候

一同年九月廿八日右同断御用掛り被仰付候

一同年十二月廿五日謚姫様御婚姻被為濟、右御用掛り出精二付銀拾五匁被下置候

一安政三辰九月十六日御作事改役川地権内跡被仰付、大御番組へ被入候

一同五午二月十六日御普請方割場役所御作事方役所へ為引移候二付、御普請方改兼被仰付候

一同年七月十一日此度桜御門頬当御普請中格別出精相勤候二付御褒詞

一同年十二月十一日今度外国奉行始湊為見分御通行之節出精二付御褒詞

一同六未十二月晦日大御番頭荒川十右衛門へ名元差合候二付左之通名替、十右衛門事十左衛門

一文久元酉十一月十一日今度大橋御門御普請中出精相勤候二付、金貳百疋被下置候

一同二戌六月十九日御勘定吟味役平瀬儀作跡被仰付、御留守番組江被入候

一同年九月十一日制産方吟味役打込勤被仰付候

一同三亥二月五日御作事方改役御普請方改役兼帯被仰付、大御番へ被入候

一同年八月十九日今度三ノ丸御普請御用掛り被仰付候

一同四子二月十六日役前不参届儀有之伺之上遠慮、廿五日御免

一同廿九日扨御納戸役皆崎次右衛門跡被仰付、御書院番組へ被入候

- 一元治と改元、十月十六日長征出立、同二丑正月十六日帰
- 一慶応元丑六月廿日御代官役松村久右衛門跡被仰付、御留守番組へ被入候
- 一同年七月十一日先役中三ノ丸御普請御用掛り出精御褒詞
- 一同四辰閏四月十一日御代官役其儘郡方吟味役兼勤被仰付候
- 一明治二巳正月四日御代官郡方吟味役其儘川方兼被仰付
- 一同年二月十七日今般御改革二付御役御免被成、御広間当番勤被仰付
- 一同年五月四日元御書院番組席二被仰付、御広間番
- 一同年六月廿一日十左衛門事十郎卜改
- 一同年九月廿九日多年精勤之处、御藩制御改革二付、為御慰勞金三十五兩被下置候
- 一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五十三俵壹斗四升三合被下
- 一 優待列
 - 一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱
 - 一同年十二月十五日老年二付願之通隠居
- 芦田^{ヒロシ} 碩 金五郎 寛 十郎 倅
 - 〔士族〕
 - 文久二戊閏八月五日典籍方被仰付、学問厚致修行候様被仰付候
 - 一同年十二月廿四日安陪又三郎留守中、外塾生徒引請致世話候様被仰付候
 - 一元治元子六月十日御含有之早速上京被仰付、五人扶持被下置、同十四日出立、八月廿三日帰
 - 一同年十月二日京都詰中不容易御時態之处致心配候二付、御酒被下置候
 - 一同十六日長征出立、丑二月二日帰
 - 一慶応元丑五月廿七日助旬読師典籍方兼被仰付、右勤中老入扶持被下置候
 - 一同二寅三月十一日三番之補兵隊へ附属被仰付候
- 一同年四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候
- 一同廿九日一番之補兵隊へ割替
- 一同年六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日御供帰
- 一同三卯九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候
- 一同四辰閏四月十六日明道館授読被仰付、五人扶持被下置、役御番組へ被入候
- 一明治二巳七月四日年給式俵被下候事
- 一同年九月六日以明新館授読、從二位様御詩作御相手被仰付候事
- 一同日東京詰被仰付、詰中御手許書記方之儀も相心得候様被仰付候事
 - 但十月上旬出立可致事
- 一同月廿七日東京江出立、午六月廿八日帰
- 一同三午三月廿日役中給禄米廿俵高二被成下候
- 一同年四月廿二日御家從被仰付候事
- 米五拾三俵壹斗四升三合
- 一同年十二月十五日父十郎老年二付願之通隠居被仰付、家督米五拾三俵壹斗四升三合無相違被下候事
- 一同日御家從
 - 但正二位様御詩作御相手御記録兼
 - 一同四未正月廿五日御家從被免候事
 - 一同日非役江被入候事
 - 一同月廿八日任四等教授 年給式拾八俵
- 但文学掛り
 - 一同年七月十七日文章兼看読
 - 一同年九月二日准三等教授被仰付候事

但文学教官

一同年十二月十六日任三等教授

支那学兼国学

一同五申五月寛事碩

有賀₁

有賀孫左衛門

式千七拾五石 内五百石与力五人

寛文六年父小右衛門跡目被下、三千式百五石之上二御城代被仰付候節、

自分三百石与力知千石御加増、都合四千五百石之処

貞享三一統半知被下、御城代三月廿五日被仰付

有賀庄助

千式百七拾五石

宝永七寅正月廿三日父孫左衛門家督被下之

有賀小右衛門

千五百七拾五石

宝永七寅正月廿三日父孫左衛門配知三百石被下

正徳元卯十一月九日兄庄助養子被仰付、庄助跡知千式百七拾五石自分共

此通り被下、火消被仰付

有賀隼人

百五拾七人半

享保六丑十月九日父小右衛門為跡目被下

有賀極人

百五拾七人半

元文元辰九月十九日養父隼人病氣二付隠居、家督無相違、席杉田彈正次

寛延元辰十月六日御宮火消

明和五子七月五日隠居、伺之上父子指扣

有賀小右衛門

百五拾七人半 外失却五拾俵

明和五子七月五日養父極人思召有之隠居、家督無相違、高知席萩原孫右

衛門次三人下り、伺之上父子共指扣

安永三年六月廿四日御宮火消

寛政四子三月廿五日御家老職見習、席笹治一学次

同五丑七月十日御部屋附御家老職、御表之儀ハ是迄之通見習、月番被相

勤候様被仰付、月番被相勤候二付為失却毎年俵数五拾俵ツ、被下置候

有賀極人

千三拾石

寛政七卯八月廿日父小右衛門跡目無相違、高知席杉田權之助次、是迄百

五拾七人半扶持被下置候処

文政四巳三月十日格別之思召を以新知千三拾石二御直シ、御蔵出二而被

下之、定免式ツ八步七厘定渡リ与内無之

文政八酉十二月明石縫殿跡御宮火消被仰付候

文政十二丑十月二日御家老職被仰付、席岡部左膳次、御役中知行地方ニ御直し被下候

有賀内記 庄助

千三拾石

一文政十三寅十一月二日養父極人家督千三拾石無相違被下置、高知席稻葉

采女次

一天保五午五月十六日御附近シ出立、七月四日帰着

一同七申八月四日御宮火消被仰付

一同九戌十一月九日江戸立帰出府、同十二月廿日帰着

一同十二丑正月廿二日御家老職席稻葉采女次、御役中知行地方ニ御直し被

下

一同十四卯年江戸詰被仰付、三月廿三日出立、翌辰年五月十一日御供ニ而

帰着

一弘化三年七月八日御役御免被成、席岡部左膳次、同月九日御城代役笹治

織居跡、与力御預ケ、御役中知行地方ニ御直被下

一安政四巳三月三日内願之通隠居被仰付候、且又御役儀年来相勤太儀被思

召、依之御召御拝領被下置候、猶又御思召を以折々御機嫌伺罷出候様被

仰付

有賀左平 此面 左近 田中奚疑 実酒井与三左衛門孫

千三拾石

一安政四巳三月三日養父内記儀内願之通隠居被仰付、家督千三拾石無相違

被下置、高知席貳茂十郎次被仰付候

一同六未十一月十六日御趣意ニ付学諭御免被成、修行之儀ハ是迄之通相心得候様被仰付候

一万延元申十二月廿八日左近与名替

一元治元年子二月廿日御城代役山縣三郎兵衛跡、与力御預

一同年十二月賊徒一件御留守御用相勤、御手当五百三拾三匁被下

一慶応二寅九月十七日公辺御停止中家来殺生差越候儀ニ付遠慮伺、不及其

儀

一同年十月廿二日御趣意ニ付与力御預之儀ハ御免被成候

一明治二巳二月十四日先般從朝廷被仰出候趣も有之、御藩政御改革ニ付御

城代役御免被仰付候、是迄段々精勤苦勞被思召候、仍此品被下御召麻上

下一具

一同年六月左近事左平卜改

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更ニ給禄米式百九拾式俵四斗壹升三

合下賜

一同三年八月七日病身ニ付願之通隠居、同年九月廿七日左平事田中奚疑卜

改

有賀進^{ス、ム} 庄助 左平倅

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰

一慶応元丑閏五月十八日補兵隊被仰付

一同二寅三月十日定座番外以上、補兵隊之義ハ御趣意ニ付被相止候

一同年十二月進与名替

一同四辰九月六日補兵隊ニ而会征出立、巳二月六日帰、同廿二日右出張ニ

付御手当五兩被下候

一 明治二巳五月十六日兵学所詰被仰付

一 御備入被仰付

米貳百九拾貳俵四斗壹升三合

一同三年八月七日父左平病身二付願之通隠居被仰付、家督米貳百九十貳俵

四斗壹升三合無相違被下、第一大隊三番小隊江被入候事

一同年十二月八日常備三番隊、年給六俵

一同四未四月廿三日右隊被免

一同年十二月病死

有賀尚之助 実高田正次男

無息中

〔士族〕

文久三亥九月廿日中将様御伽御雇被仰付、銀五枚年々被下置候

同年十月十三日御供二而上京

元治元子四月廿三日婦

同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀二付、御酒被下置候

候

慶応元丑閏五月廿五日年頃二相成候二付、御伽御雇御免被成候

同年十二月廿八日尚之助与名替

一 明治四未十二月廿四日有賀進病中養子家督相続

一 給禄貳百九拾貳俵四斗壹升三合

有賀清右衛門

貳百五拾石 外役料百石

元禄九子五月十六日織部跡無相違被下、此節迄自分御奉公申上御膳番御

水主頭

有賀彦八郎

貳拾五人扶持

正徳二辰五月廿一日父清右衛門為跡目此通被下

有賀清右衛門

貳拾五人扶持

享保十巳十一月十六日養父彦八跡目無相違被下、大番入

宝曆四戌二月廿五日札所奉行矢野孫太夫跡

有賀六良右衛門 隠居

廿五人 役料百石

延享四卯九月六日中奥御小姓被召出並二御切米被下

寛延三年二月十一日御小姓御免、大番入

同年三月十六日中奥御小姓

宝曆五亥十二月十一日父清右衛門跡目被下、勤方其儘自分御擬作ハ上ル

同八寅四月十七日御小姓御免御近習二被差置、同五月廿八日中奥

明和五子七月廿日御附御小姓頭取

同七寅正月十六日御腰物方、末ノ番外

同年九月十四日御附御腰物方



安永五申八月十一日弟新十郎御追放之節役義御免、大番遠慮

同九子八月四日格式末ノ番外、席鈴木一右衛門次

天明七未正月十五日小馬印奉行大町次右衛門跡

寛政五丑九月廿九日御先物頭吉岡庄右衛門跡、御役料百石

有賀惣左衛門 清右衛門

廿五人

寛政十二庚申七月十七日養父六郎右衛門隱居被仰付、家督無相違被下置、

大御番組へ被入

同年八月廿四日御近習番御書院番入

文化元子七月廿八日奥御納戸

同三寅六月十日御近習番頭取御膳番

文化七年六月廿二日役義其儘、御書院番一番筆頭小宮山伝七跡

文化十一戌七月廿日御使番加藤半左衛門跡、御役料百石

同十三子六月廿九日御供頭兼帶、御趣意二付被仰付候

同十四丑正月廿一日御側武頭千本長右衛門跡被仰付候

同年十一月五日御側向頭取片山与三右衛門跡被仰付、席是迄与三右衛門

跡へ入ル、但新番頭之上也

文政元寅九月十一日御役御免、遠慮伺之処指扣被仰付、末之番外、但九

月十六日御免

文政七申七月三日御使番松原善左衛門跡被仰付、御役料百石被下置

文政九戌年四月十六日病身内願二付隱居

廿五人扶持

一文政九戌四月十六日養父惣左衛門内願之通隱居被仰付、家督廿五人ふち

無相違被下置、大御番組へ被入

一同十三寅六月六日謙五郎様御附御近習番被仰付候

一天保三辰五月廿三日御表様御近習番葛卷藤次郎跡被仰付

一同六未年江戸御供詰、同年天梁院様御棺御供二而帰着

一同六未九月五日今度御代替二付御役御免被成、御書院番組其儘御近習二

被差置候、御用筋之義ハ是迄之通可申談旨

一同年同月十六日御近習番被仰付候

一同七申江戸詰被仰付、八月廿八日出立

一同九戌江戸詰被仰付、九月三日出立

一同年十月廿五日今度御代替二付御役御免被成、御書院番組其儘御近習二

被差置候、御用筋之義ハ是迄之通可申談旨、同廿九日御近習番被仰付候

一同十亥九月廿九日御書物方三岡次郎太夫跡被仰付候

一同十一子江戸詰被仰付、八月廿九日出立

一同年十一月四日於江戸表御裏役被仰付候

一同十三寅江戸詰被仰付、八月廿三日出立

一同十四卯八月十七日御腰物数寄方奉行梶川半兵衛跡被仰付

一嘉永元申九月十五日役儀其儘格式末之番外被仰付候

一嘉永五子十月四日御使番役加藤伝内跡、御役料百石被下置

一同六丑二月十七日江戸御聞番役被仰付、御先物頭次席被成下、家内共引

越被仰付、右二付四月九日江戸表へ出立

但家内之義者願之上此表二指置

一同年四月八日御領分久喜津村堤之儀二付、公料片粕村方故障筋申立争論

有賀清右衛門 小三郎事 六郎右衛門事

二相成、公訴相願候ニ付右掛リ被仰付候

一同年十月廿日謚姫様御入輿御用掛リ被仰付候

一同年十二月四日今般十ヶ年之間格外之御省略被仰出候ニ付、右掛リ被仰付候

一同年同月廿五日謚姫様御婚姻被為濟、右御用掛出精ニ付銀杓被下置候

一安政三辰三月十二日大御番御用相勤大儀ニ思召、御召御上下一具銀一枚被下置候

一同年七月十七日御先物頭加藤茂右衛門跡被仰付、此表定詰中出精相勤候

二付御目錄御召御上下一具銀三枚被下置、且又代リ之者罷越候迄ハ御間番役是迄之通相勤候様被仰付候

一同四巳七月廿七日病死

有賀清門 小三郎

廿五人扶持

〔士族〕

一安政四巳九月十八日親清右衛門家督廿五人扶持無相違被下置、大御番組

江被入候

一同七申正月十八日御小姓被仰付候

一文久元酉三月十九日御供ニ而出立

一同三亥二月十日殿様御上京御供ニ而出立、三月六日帰着

一同年五月七日当亥御参府御供被仰付、八月十七日出立

一同年十二月江戸方御上京御供、子二月御帰国御供着

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰

一慶応元丑十二月廿八日清門与名替

一同二寅六月廿三日今度山陽山陰両道御出張之諸侯方之内へ、御陣中御見

廻御使者、且御含御用有之二付、支度出来次第罷越候様被仰付、同廿八日出立、九月十一日帰、但奥村垣蔵同道也

一同年十月廿六日軍事方被仰付、役御番組江被入

一同年三卯四月五日軍事方其儘、御書院番組江被入候

一同日宰相様御上京被遊候節御供被仰付、同十二日出立、八月帰

一同年八月十六日御持副物頭稻生二太夫跡、席末ノ番外格被仰付

一同年十月十六日当冬京都御警衛詰被仰付、詰引揚早速可致出立旨、廿日出立

一同十八日半小隊長被仰付候

一同年十一月晦日堺町御警衛詰之儀御免被成、直宰相様御滞京中為御備在京被仰付

一同四辰三月三日昨年来格別骨折相勤太儀之段、御褒詞

一同月八日京都帰

一同年四月廿九日一番大隊二番之小隊頭被仰付、末ノ番外順席ニ被成下御役料五拾石被下置候、但御役料被下置候ニ付是迄被下置候小者給ハ已後不被下候

一同年五月十六日今般徴兵被仰出候ニ付、一小隊引纏支度出来次第上京被仰付

但四番大隊へ附属之儀ハ御免

一同月廿二日御都合も有之二付上京御免被成候

但一番大隊江附属二番小隊是迄之通御預ケ被成候

一慶応四辰四月廿五日会征出立、十一月十三日帰

一明治二巳二月廿二日右長々出張太儀思召仍二十金被下、外二千五百疋

一同年六月十五日五番遊撃隊長被仰付候事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米七十式俵式斗式升八合

一同月廿七日今般御改革二付、解隊被仰出当役被免候事

一同三年四月廿五日戊辰北越二出張各所攻撃勉励二付、御賞典之内五十石

ツ、廿ヶ年令領授候事

一同年五月廿四日第一大隊三番小隊長被仰付候事

一同年十二月八日任中尉 年給七十三俵

但常備第三小隊

一同四未十月十三日今般解隊被仰出候二付職務被免候事

一同年十二月廿八日大尉心得勤

県下常備小隊

一同五申正月十九日解隊二付右被免候事

有賀³

有賀一郎右衛門

式百石 外役料百石

宝永七年寅正月廿三日父孫左衛門配知被下之

享保三戌三月六日大番四番之筆頭被仰付

同十巳三月十三日於江戸御使番被仰付、御役料百石被下

有賀軍藏

廿人扶持

享保十巳六月廿五日父一郎右衛門為跡目被下、御留守番入

同十五戌八月大番入

有賀一郎右衛門

式拾人扶持

享保廿卯六月五日養父軍藏跡目無相違被下、大番入

有賀市右衛門

拾五人

宝曆四戌十二月五日父一郎右衛門嫡子二被仰付、跡目十人扶持被下、御

留守番入

同九卯四月廿二日十五歳二付十五人扶持御直シ被下、大番入

天明六年六月十一日番改、高田新兵衛跡

同八申七月廿九日御代官河崎三郎兵衛跡、御留守番入

寛政十年十二月五日不念之儀有之役義御免、大御番組へ被入、遠慮

享和二戌六月十一日御留守武具奉行大久保元作跡被仰付、御留守番入

文化五辰二月十六日御代官大河原清右衛門跡、同年病身罷成、休息

有賀忠兵衛 弁十郎 庄助

拾五人扶持 外式人御足

文化五辰九月廿日親市右衛門病身二付休息、家督無相違、大御番入

同六巳正月廿七日御小姓

同七年七月廿日御小性勤之内御在国年限り表数十式俵御足、右二付御在

国年限り被下置候

文化十三子六月十日奥御納戸妹尾太郎左衛門跡御書院番入、奥御納戸役

被仰付候二付、是迄御在国年限り被下置候俵数十二俵以後不被下、江戸

詰不罷越年ハ改而十俵ツ、被下置候

文政元寅十月二日御近習番頭取御膳番大野三左衛門跡

同九戌二月十六日末ノ番外御時宜役被仰付、御足式人扶持被下置、是迄

江戸詰不罷越節十俵被下之義ハ已後不被下

文政十二丑三月廿九日御使番下山甚兵衛跡、御役料百五十石被下

天保四巳三月十五日御先物頭嶋津十太夫跡被仰付

天保八酉二月廿五日隠居

有賀忠兵衛 雄助事

拾五人扶持

一天保八酉二月廿五日親忠兵衛年寄候ニ付隠居被仰付、家督拾五人扶持無

相違被下置、大御番組へ被入

一嘉永六丑十月五日先達而出府御内意被仰付候節、不束之趣相聞候ニ付休

息之上遠慮被仰付、急度相慎可罷在候、且又養子敬助へ家督拾五人扶持

被下置、無役御留守番組へ被入、但忠兵衛遠慮、十一月五日御免

有賀信^{マコト} 敬助 弁十郎 実大井田幾次郎弟

〔士族〕

拾五人扶持

一嘉永六丑十月十一日養父忠兵衛義先達而出府御内意被仰付候節、不束之

趣相聞不調法之事ニ候、依之休息之上遠慮被仰付、急度相慎可罷在候、

且又敬助へ家督拾五人扶持被下置、無役御留守番組へ被入候

但敬助義遠慮伺之上指扣、同十八日御免

一安政三辰九月十六日大御番組へ被入候

一同四巳十一月廿五日御製造方見習被仰付候

一同五年十一月十六日出精相勤候ニ付銀式百匁被下置候

一万延元申十月廿日制産方被仰付候

一同年十二月廿八日弁十郎与改

一元治元子二月廿日堀武左衛門元家屋敷へ替被下候

一同年三月十三日製造方為御用支度出来次第上京被仰付

一同年六月廿日製造局小銃方被仰付、是迄出精相勤候ニ付銀七枚ツ、年々

被下置候

一同年七月四日支度出来次第上京被仰付、同十日出立、夫^レ長征、丑二月

三日帰

一慶応元丑五月廿八日御趣意ニ付役御番組ニ被仰付候

一 勘定掛り彈藥方兼被仰付候

一同年八月 鉄砲御用ニ付尾州名古屋へ出立、九月二日帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀^レ被下配当金千疋被下置候

一同年五月廿日製造奉行御用多之節、助同様相心得、諸事取扱候様被仰付

一同三卯七月十一日末ノ番外格ニ被成下、製造奉行助被仰付候

但小者給一人扶持銀三百匁被下置候、是迄年々被下置候銀七枚之

儀ハ已後不被下候

一同四辰閏四月十一日製造奉行御武具奉行兼被仰付、末ノ番外順席ニ被成

下、御役料廿五石被下置候、但御役料被下置候ニ付是迄被下候小者給ハ

已後不被下候

一同年八月十九日大砲を初附属御道具共今度悉皆西尾十左衛門へ為御任ニ

相成候間、已来御修復并新規製造之分ハ右十左衛門申談取扱候様被仰付

候

一明治二巳二月十五日製造局副司事被仰付、月給米三拾五俵御役料ハ不被

下候

一同月廿二日奥羽越御人数出張中格別勤勞二付金千疋被下候

一同年十一月廿五日今般御改革二付、更給祿米四十九俵九升壹合下賜

一同月廿七日今般御改革二付、製造局被廢候、依之当役被免候事、席松山

藤助次

但是迄取扱来候廉々軍務寮江附送り可申事

一同年十二月廿四日今般役義被免候処、是迄精勤二付金千疋被下候事

一 予備隊

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同五申五月弁十郎事信

有賀⁴

有賀玄哲

貳百石

延宝二寅三月七日父玄哲跡目三百石被下

貞享三一統半知

正徳元卯十一月七日五拾石御加増被下

有賀道順

二百石

享保九辰八月十六日養父玄哲家督無相違被下表^(マ、)

元文元辰九月十一日奥医

延享四卯十一月五日御匙

宝曆六子九月十一日及老年病身二相成り候二付御匙御免被成、奥医被仰付

有賀立長

二百石

宝曆十一巳十月十一日父道順隠居、家督無相違、表御医師

明和五子八月晦日奥医

安永五申七月十五日御附御匙医

天明七未三月十四日病身二付御匙御免、表医師

同八申正月廿日御匙医

有賀左右順 隆玄 道介 宗齋

貳百石

寛政七卯二月五日父立長跡知無相違被下置、表御医師

文政三辰十一月五日休息被仰付

有賀道順 小助事 立長 元哲

百五拾石

一文政三辰十一月五日親左右順休息被仰付、家督貳百石之内百五拾石被下

置、表御医師被仰付候

一同六未四月五日不慎二付遠慮

一同十二丑四月廿九日不慎之儀有之閉門被仰付候

一天保五年九月三日立長妹儀本多佐五左衛門方二罷在候内、心得方不宜趣

相聞候二付、為相慎差置候様被仰付、仍之立長儀伺之上遠慮、伺之上指

扣被仰付候

一同八酉十二月十一日先年茂度々御咎被仰付候処、又々当春不慎之趣相聞候二付閉門被仰付候

一同十一子九月十六日先年方度々御咎被仰付候処、今以相慎不申、又々昨年来不慎二付閉門被仰付候

一同十五辰正月十三日大奥女中引纏二而出立

一弘化三年十二月廿一日奥御医師被仰付候

一嘉永五子八月廿三日江戸詰出立、同六丑六月十二日帰着

一安政元寅十二月廿八日道順と名替

一同三辰十二月十六日除痘館当番致皆勤候段達御聴太儀二思召候、此段申

渡候様被仰出候

一安政四巳十二月十六日右同断御褒詞

一同五午十二月八日右同断

一同年同月十一日年寄候二付休息被仰付候

有賀琢二 義軒 元琢 実高間又四郎次男

百五拾石

〔士族〕

一安政五年十二月十一日養父道順年寄候二付休息被仰付、家督百五拾石無相違被下置、表御医師被仰付候

一同六未六月八日横浜御警衛二付詰被仰付、支度出来次第出立被仰付、十

七日出立

一同七申三月十五日御供二而帰着

一万延与改元、九月廿日奥御医師被仰付候

一万延元申十二月十六日除痘館当番致皆勤候二付御褒詞

一文久元酉十二月十六日右同断

一同三亥七月廿六日京都表へ出立

一同年十二月六日大坂表江罷越、夫方黒竜丸御船江乘組江戸表江罷越候様被仰付出立、同十日右御船二乗組兵庫表出帆、同十二日夕江戸表江着船、

同月廿三日公边蒸気船江乘組京都表へ出帆

一同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美式百五十疋被下置候

一同四子二月九日京都表方帰

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤太儀二思召、依之御酒被下置候

一同年十月十五日長征出立、丑正月帰

一慶応元丑十二月十六日除痘館当番致皆勤二付御褒詞

一同二寅三月五日当春江戸詰之処御人減二付御免

一同十一日医術為修行願之上長崎表江出立

一同三卯正月廿二日長崎表へ修行罷越候二付、右修行中一日金式朱ツ、被下置候、同年七月十九日帰

一同年十月十六日御匙医師格被仰付

一同年十二月十五日上海、辰閏四月十五日帰

一同月廿八日義軒事元琢卜改

一同四辰六月廿三日御匙医師見習被仰付

一明治二巳二月晦日御執匙試補可相勤事

一同年三月十七日元琢事琢二

一明治二巳五月朔日御執匙試補被免、更二内務局当番可相勤候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八拾式俵壹斗式升壹合被下

一同三年二月四日病院薬局方被仰付候事 但八等

一同年六月四日病院薬局取締主務監寮兼被仰付候事 但十四等

一同年七月廿二日医学監兼薬局取締被仰付候事

一同年十一月十三日薬品出納主務兼病院調合所惣取締

一同年十二月十二日権少属心得勤 年給十九俵

但薬局出納主務

一同四未六月朔日御改正二付免職

一同年七月十二日薬品出納方被仰付候事

但採薬製薬兼

一十六等一等ノ官禄被下候事

一同年十二月四日病院被廢免職

一同十八日更ニ会社薬品出納方

一同五申八月廿五日坂井港病院之儀ニ付吉川精一申立之趣有之二付、出港

之上病院接続方申談取調可有之事

但取調中日当金壹歩ツ、被下候事



明石縫殿

六百石

於松岡御家老職之処御相統後

享保七寅三月九日於江戸式百石御加増、都合此通、同日御用人被仰付、

席秋田八郎兵衛次被仰付

享保八卯二月死去

明石縫殿

千石

享保八卯八月六日明石縫殿跡、為相統跡知無相違被下、実宇都宮治部左

衛門次男、但於松岡ニ御番へ狛市右衛門申渡ス

同年九月十五日御近習勤

同九辰八月十一日御側

同十九寅六月六日御奏者

同廿一辰五月廿一日御書院番頭波々伯部八左衛門跡一人上リ、御徒御馬

付支配

延享元子十月廿一日御用人波々伯部八左衛門跡

同三寅五月十一日百石御加増

明和元申九月廿五日高知格三百石御加増、御家老中部屋へ相詰、御用状

加判可致旨、席波々伯部鞞負次

明石縫殿

千石

明和二酉二月十一日養父縫殿跡知無相違、高知席波々伯部鞞負次

安永六酉三月十六日御宮火消

明石縫殿 将監

千石

寛政六寅ノ正月十六日父縫殿内願ニ付隠居被仰付、家督無相違被下置、

高知席萩野孫右衛門次

文化五辰三月病死

明石縫殿 謙次郎

千石

文化六巳二月十一日養父縫殿家督無相違、高知席荻野孫右衛門次

文化十三子四月十二日御宮火消被仰付候

文政八酉十二月五日病身内願ニ付隠居

明石縫殿 富士

千石

文政八酉年十二月五日養父縫殿病身内願ニ付隠居被仰付、家督千石無相

違被下置、高知席荻野貞三郎次被仰付

文政十二丑十月三日有賀極人跡御宮火消被仰付

同十三寅六月五日不行狀閉門被仰付

天保七申八月四日御宮火消被仰付、右慎中仲間出奔いたし候ニ付、閉門

御免之上遠慮相伺、々之通被仰付

同年九月廿九日御宮火消御免、失火之節下馬御門前詰被仰付候

明石縫殿 悌次郎

千石

天保十三壬寅十二月五日養父縫殿家督無相違、高知席荻野左近次被仰付

候

弘化四未正月十五日御宮火消

嘉永元申五月十三日御着返シ御使罷越、於江戸表病死

明石將監 健吉 実縫殿弟

千石

一嘉永元申八月廿九日養父縫殿病中願之通養子ニ被仰付、家督無相違被下

置、荻野小四郎次席被仰付

一同七寅六月十三日塩町方出火之節、場所へ被指越出精之段、御褒詞

一安政元寅十二月廿八日將監与名替

一同四巳年正月十五日御宮火消被仰付候

一同年十一月廿日此度大砲科御端立相成候ニ付、右局へ被相詰御自分之講

究ハ勿論引立之義厚可被致心配候

一安政五子八月廿一日殿様御相続之御礼被仰上候節、御供被召連候ニ付立

帰出府被仰付、来月廿六日頃迄ニ致参着候様、九月十日出立、同十月廿

五日帰着

一元治元子四月十一日御軍帳御割替ニ付、農兵二組酒井外記方江御附被成

候ニ付、其手江属シ外記方江厚申談致世話候様、且又農兵之儀ニ付而ハ

掛リ西尾十左衛門へ可申談旨

一同年四月十九日酒井外記方御用多ニ付、訓練出勤無之節ハ、其手之面々

都而引受致世話候様被仰付候

一同年六月十四日御軍帳御割替ニ付、先達而農兵之義厚致世話候様被仰付

置候処、御免被成候

一同日大砲操練掛リ被仰付候

一同年十二月賊徒一件出張、右ニ付御手当銀壹貫六百匁被下置候

一慶応元丑七月十二日臨時御先手手代リ可被仰付候間、訓練之義兼而組頭

へ申談致世話候様被仰出候

- 一同二寅八月十一日当分御旗本調練致世話候様被仰付
- 一同年九月十七日公迎御停止中家来殺生差越候儀二付遠慮伺、不及其儀
- 一同三卯三月十二日定座以上調練之儀致世話候様被仰付
- 一同年七月廿一日調練掛り御備頭申談相勤候様被仰付
- 一同年九月廿九日調練掛り被仰付置候処、御免被成候
- 一同年十二月廿一日病身二付内願之通隠居被仰付

明石弘 実酒井外記方養弟也

〔士族〕

千石

- 慶応三卯十二月廿一日養父将監病身二付内願之通隠居被仰付、家督千石無相違被下置、高知席芦田源十郎次被仰付候
- 一同月廿二日御宮火消被仰付
- 一同四辰八月晦日今度越後表江出兵之儀弁事局方御達二付、二番狙撃隊引纏早々出張被仰付、九月六日出立、巳二月六日帰、同廿二日右出張二付御手当七両被下

- 一明治二巳五月十六日兵学所詰被仰付
- 一同年十一月廿五日今般御改革二付、更給禄式百八拾四俵壹斗七升壹合下賜
- 一同年十二月五日修業隊被仰付候事
- 一同三年五月廿五日第一大隊二番小隊入被仰付事
- 一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵
- 一同四未四月廿五日依願給禄之内百四拾貳俵八升五合養弟兵太郎江分禄被仰付候事

米百四拾貳俵八升六合

一同年八月八日洋学修行依願兵隊指免候事

明石²

明石藤太夫

百石

正徳五未八月廿五日酒井玄蕃与力方被召出、大番入、相身躰末席

明石藤太夫

百石

正徳六申五月廿一日父藤太夫跡知無相違被下、大番入、相身躰末席
享保五子正月三日於江戸自滅二付断絶

明石甚左衛門

藤太夫養子実弟

百石

- 享保五子三月十六日被召出、五人扶持被下、御留守番入
- 同十巳五月十五日家伝為執行廿五石被下、大番入
- 同廿卯十二月廿五日御旗本武具奉行村田刑左衛門跡、御書院番入
- 延享元子十一月三日御次詰
- 同二丑七月朔日新知百石
- 寛延三年二月十一日御次詰御免、大番入
- 同年六月十五日奥被仰付、御書院番入
- 宝曆十一巳正月廿二日御纏奉行今立次太夫跡
- 明和三戌十二月二日御纏奉行御免、御近習席御徒頭次

明石甚左衛門

百石

明和四亥十一月十一日父甚左衛門隱居、家督無相違、大番入、流儀之兵
学是迄之通取扱候様

安永五申十月十九日御書院番入

明石甚左衛門

百石

寛政二戌十一月朔日於江戸父甚左衛門跡知無相違、大御番入、流儀之兵
学親之通被仰付、来春迄詰被仰付

同十二申ノ十二月十日御書院番入

文政九戌十一月十六日年来家業出精二付、末ノ番外被仰付

文政十二己丑十一月十六日津田源之丞跡御長柄奉行被仰付、役料百五十
石被下置候

明石甚左衛門 文五郎

百石

一文政十三寅十一月廿五日親甚左衛門家督百石無相違被下置、大御番組へ
被入

一嘉永元申十二月十日御書院番組へ被入

一同五子十一月十六日格式末之番外被仰付候

一同七寅九月廿二日御軍制御改正二付、御備組調練之義掛リ同様被仰付候

一安政三辰十一月二日倅雄太郎義明道館へ相詰、兵学厚致修行候様被仰付、

且又甚左衛門義年輩ニも有之二付、折々致出席申談候様被仰付候

一同四巳四月十九日兵科掛リ教導掛リ被仰付候

一同五午十一月五日御使番次席ニ被成下、御役料五拾石被下置候

一文久二戌閏八月四日御先添物頭鱸長左衛門跡被仰付、御役料都合百五拾
石被下置候

一同三亥二月十日殿様御上京御供ニ而出立、三月六日御供ニ而帰着

一元治元子七月八日京都へ出立、九月四日帰着

一同年八月十九日於京都席御役料其儘御役御免被成候

一同二丑三月廿四日席并御役料之儀ニ付内達も有之候処、今般引立方致心
配候様被仰出も有之二付、席其儘是迄被下置候御役料之内百石被下置候

一慶応与改元、七月二日御軍制取調掛リ被仰付候

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千貳百疋被下置
候

一同年五月七日堂形へ兵学所御取建被成候二付、御預ケ被成、同所頭取被
仰付候、且又近來西洋諸洲戦争実験之上、三兵を始築城造営学等精練ニ
付掛リ役輩申談、流儀ニ不拘広く致研究、引立方致心配候様被仰付候

一同年七月朔日病死

明石央 雄太郎 甚左衛門倅

百石

〔士族〕

安政三辰十一月二日明道館へ相詰、兵学厚致修行候様被仰付候

一元治元子六月廿六日御舍御用有之早速上京被仰付、五人ふち被下置、同

廿八日出立、九月四日帰着

一同年十月十六日長征出立、丑二月四日帰

一慶応元丑六月廿四日新撰農兵差配役助被仰付候

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀に被下配当金千疋被下置候

一同年五月七日兵学所詰被仰付候

一同年八月廿日親甚左衛門家督百石無相違被下置、大御番組へ可被入之処、

御趣意二付役御番組被入、流儀之兵学是迄之通可取扱旨被仰付候、且又

兵学所之儀親甚左衛門同様相心得、尚又役輩申談流儀二不拘広く致研究

引立方致心配候様被仰付候

一同三卯正月九日兵学所頭取其儘軍事方被仰付候

一明治下改元、十月廿日奥州会津表江早速出張被仰付、十一月朔日出立、

巳三月四日帰

一同二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一同月廿八日歩兵訓導被仰付候事

一同日流儀之兵学世話之儀已来被免候事

一同三午五月廿四日昨年解隊以来生兵教導向格別致勉勵候二付、金千五百

疋被下候事

一同年十二月八日職務被免候事

一同日常備隊一番 年給六俵

一同四未四月朔日東京詰出立

一同年七月十七日雄太郎事央卜名替

一同年十月十三日解隊、十一月帰

雨森¹

雨森三右衛門

五百石

於松岡御奏者番見習之処御相続後

享保七寅二月廿八日御免、席番外二被仰付

同十一年三月廿一日父伝左衛門隠居被仰付、家督無相違被下、此節自分

二被下候御擬作上ル、席此所二被仰付

雨森伝左衛門

五百石

享保七寅二月廿八日百石御加増被下、席引渡、本多主殿次被仰付

雨森伝左衛門

五百石

享保十七子九月十九日父三右衛門隠居、家督無相違、寄合席洪谷弥悦次

延享三寅八月廿三日大番頭太田三弥跡引渡、永見多門次

宝曆八寅十一月十六日御留守居宇都宮治部左衛門跡

雨森伝左衛門

六百石 外百石御足

明和五子二月廿九日養父伝左衛門跡知無相違被下置、寄合席稲垣安右衛

門次

同年七月十一日孝頭寺火消

安永二巳十一月十一日御側見習

同七戌十一月朔日御側本役
同十丑正月十五日御用人御奏者兼

天明二寅十月廿五日於江戸表若殿様御傳役恒岡安左衛門跡、引渡席酒井孫八郎次

雨森伝左衛門 小十郎事 六百石

寛政二戌三月十二日御中老洪谷権左衛門跡

一天保十三寅四月廿五日養父伝左衛門年寄候二付内願之通隠居被仰付、家督六百石無相違被下置、寄合引渡之席被仰付

同三亥正月十五日御足高百石

一 同年五月十一日御側役并御用人見習被仰付、御小姓表御小性支配被仰付

寛政四子三月廿八日於江戸表指扣

一 同年八月廿九日御用人打込月番勤ル

同七卯九月廿九日御足高百石御加増二御結被下

一 同十五辰江戸詰被仰付、三月廿三日出立

同十一未九月十九日中将様御附御表御中老兼帯

一 弘化二巳四月十一日於江戸表御用人御奏者兼被仰付候

同十二申年十月十五日中将様御側御用人御趣意有之、御表御政事御勝手

一 同四未年御供詰二而四月六日出立

掛り、御奥向御用兼帯、御用部屋定詰席御中老上

一 嘉永三戌年江戸詰被仰付、三月晦日出立

文化二丑ノ正月廿一日御足高百石被下

一 同四亥十一月十七日遠慮伺之上指扣被仰付置候処、御免被成候

雨森伝左衛門 源四郎

六百石

一 同五子六月八日御鵜支配被仰付候

文化三寅十二月廿三日父伝左衛門跡知無相違、寄合引渡席洪谷権左衛門

一 同年八月朔日御番割御軍帳御用掛り被仰付候

上

一 同年十月廿六日御鷹支配被仰付、御鵜支配之義ハ御免被成候

同年同月廿五日御用人見習御側役、惣御小性支配

一 同六丑三月廿二日御供出立

文化四卯七月十一日御用人御奏者兼、毛受伝三郎跡

一 同年四月九日慎姫様御入輿二付御用掛り被仰付候

文化十一戌六月五日大御番頭永見主殿跡

一 同年十月十五日來々卯年迄詰越被仰付候

文政六未十月三日御留守居稲垣安右衛門跡

被仰付候

同九年戌六月廿九日御書院番頭格、御用人御奏者兼

一 同年十二月廿五日謚姫様御婚姻被為濟、右御用掛り出精二付、木綿御召御紋御綿入一被下置候

天保二卯二月十九日御書院番頭御徒支配、席一人御上ケ被成、於江戸表

一 同七寅四月廿六日御留守中、大奥向を初御側御用人取扱候御用取扱被仰

同七申正月十九日御側御用人被仰付

付候

同十三寅年四月廿五日隠居、御召御羽織被下置

一 同年六月十五日御書院番頭御用人御奏者兼御徒支配皆川多左衛門跡、來

卯年春迄其儘詰罷在候様被仰付候

一安政二卯四月廿日御改正御軍帳定掛り被仰付候

一同年七月八日御省略掛り江戸表之通相心得候様被仰付候

一同三辰年四月廿日此度黄門様御遠忌二付、於運正寺御廟御造営被仰出候

処、纒之日数二而宜出来太儀二思召候段被仰出候

一同年五月六日病身二付内願之通隠居被仰付候、同日隠居被仰付候二付、

水野風月同様之御取扱二被成下候

雨森右膳 謙太郎

六百石

一安政三辰五月六日親伝左衛門儀病身二付内願之通隠居被仰付、家督六百

石無相違被下置、寄合引渡之席被仰付候

一同五年三月十一日家屋敷元御預所江替被下候

一同年四月廿二日遠慮伺之上指扣被仰付置候処、御免被成候

一万延元申五月十八日明里御蔵火消被仰付候

一同年十二月廿八日右膳与名替

一文久二戌四月十一日永見多門家屋敷へ替被下候

一同三亥正月十九日今般農兵御派立二付、一組稲葉哉五郎へ御附被成候二

付、其手江属シ哉五郎掛り西尾十左衛門等へ厚申談、致世話候様被仰付

候

一同年四月五日御側役并御用人助被仰付、是迄相勤来候御用向都而其儘被

仰付、風廻リ之儀ハ御用捨被成候

一同年五月廿五日当亥年御参府之節農兵隊被召連候二付、御供被仰付候

一同年七月廿八日右御供御免被成候

一元治元子二月廿日稲葉采女方御附属之御人数被引纏、支度出来次第上京

被仰付候間、同断被仰付候、三月二日出立、四月十二日帰

一元治元子四月十九日稲葉采女方御用多二而調練出勤無之節ハ、松平貫之

助江都而申談致世話候様被仰付候

一同年六月五日明里御蔵火消御免被成候

一同月廿六日当春宰相様御職被為蒙候二付、早速上京諸事致心配候段御褒

詞

一同年七月廿二日御趣意二付、御側役并御用人助之義ハ被成御免候

一同年十月十六日長征出陣、丑二月帰、七月八日病死

雨森胖ユタカ 龜三郎 恕平 三右衛門 右膳弟 当戌廿七歳

六百石

一文久二戌十二月廿二日今般思召を以三人扶持御扶助被成下候、子八月廿

七日相止

一元治元子六月廿六日御舍御用有之早速上京被仰付、忒人御増都合五人ふ

ち被下置、同廿八日出立、八月廿二日帰着

一同年十二月賊徒一件出張、為御手当式百匁被下

一同二丑三月六日龜三郎事恕平卜名替

一慶応与改元、閏五月十八日補兵隊被仰付候

一同年八月廿七日兄右膳病中願之通相続被仰付、家督六百石無相違被下置、

寄合引渡之席被仰付、但席笹治兵庫次

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年十月廿六日下馬御門并三ノ丸南御門所御預ケ被成、御警衛向厚相心

得相勤候様被仰付、依之風廻且出火之節詰所之儀ハ御免被成、尚又勤方

之儀ハ御用人申談候様被仰付

一同三卯十二月廿八日恕平事三右衛門卜改

一明治二巳五月廿五日御門所御警衛之義ハ被免候

一同年六月十六日三右衛門事胖卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米二百十九俵一斗七升一合被下

一同年十二月五日修業隊被仰付事

一同三午閏十月十七日小隊江被入候事 但第一大隊四番

一同年十二月 予備二番隊 年給弍俵

一同四未四月七日予備隊解隊被仰出候事

一同六年一月病死

雨森信成 実松原秀成弟

一同十八日家督

一百石三升五合



雨森新七

弍百石 外役料百石

於松岡御奉行職御相続後右仮役

享保七寅十一月九日本役被仰付、御役料百石被下

雨森作助

二百石 役料百石

享保十五戌十二月廿八日父新七隠居、家督無相違、大番入

寛保二戌八月廿一日大番一番筆頭梁田太郎太夫跡

延享四卯九月六日御使番、役料百石、松原四郎兵衛跡

宝曆五亥十一月廿九日御先物頭大谷市右衛門跡

同八寅五月十六日御目付加藤長右衛門跡

同十一巳六月五日御奉行萩原金兵衛跡、於江戸被仰付

明和五子七月朔日役義取扱不参届二付役義御取上、席末之番外、遠慮被

仰付

同七寅八月七日御水主頭皆川平右衛門跡、御役料百石

安永四未二月十四日御旗奉行榊原助左衛門跡

同七戌八月十二日新番頭長谷川次郎左衛門跡

[士族]

雨森藤四郎 病死

弍百石 役料百石

安永十丑正月十五日父作助隠居、家督無相違

天明四辰正月十六日御附御近習番御書院番入

同五巳十月廿六日於江戸御小性

同七未八月十二日於江戸御小性頭取林直次郎跡

同八申十月十五日格式末ノ番外御小性頭取ハ御免被成、御時宜役之旨御

供可相勤旨

寛政四子七月三日御時宜役其儘御徒頭仮リ大木与右衛門跡

同五丑三月十五日格式是迄之通ニ而御徒頭本役、御役料五拾石、席末ノ

番外、嫡席

同八辰二月十五日杉形御躰奉行松原善左衛門跡、御役料百石ニ被成下候

享和三亥十月五日御先武頭松原四郎兵衛跡

雨森新助

貳百石

文化四卯五月廿日養父藤四郎跡知無相違、大御番入

同十二亥二月四日若殿様御附御近習番御書院番入

同年江戸二而病死

雨森作助 与三五郎 角兵衛

貳百石

文化十二乙亥九月廿五日養父新助家督無相違、大御番入

天保五年十二月十一日大御番筆頭役下山半左衛門跡

天保十四卯年九月廿一日於御前御使番茂呂久左衛門跡被仰付、役料百石

被下置

弘化五申正月十六日、杉形御鑓奉行宮北権六跡

雨森東四郎 文次郎 藤四郎 宇右衛門 実波多野頼太郎弟

貳百石

一嘉永元申年四月十六日作助病中養子願之通被仰付、家督無相違被下置、

大御番組江被入

一同年九月十五日御近習番被仰付、御書院番組江被入

一同年十二月十日御小姓被仰付

一同二酉年江戸詰被仰付、三月廿三日出立

一同四亥年江戸御供詰

一同六丑三月廿二日御供出立

一同七寅六月十九日奥御納戸役上月久右衛門跡被仰付、御書院番組へ被入

但役席市橋鑓藏次へ被入

一安政二卯江戸御供詰

一同四巳閏五月十一日御腰物数寄方奉行長谷川八十郎跡被仰付

一文久二戌十二月十一日役儀其儘御膳番格二被仰付候

一同年十二月廿八日宇右衛門与名替

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日御供二而帰着

一同年十月廿四日末之番外御時宜役被仰付

一元治元子二月廿日支度出来次第上京被仰付、滞京中御取次被仰付候、三

月三日出立、四月廿一日殿様御位階御昇進之為御使、早駆二而帰着

一同年八月廿日宰相様御上京中格別繁勤二付、御褒詞之上御酒被下置候

一同廿三日大馬印奉行小栗源藏跡被仰付候

一同年十月十六日長征出立、丑正月廿八日帰

一慶応元丑六月廿九日御先手御旗奉行被仰付、御使番格二被成下、御役料

廿五石被下置候

一同年八月晦日席其儘御徒頭猪子平左衛門跡被仰付、御役料廿五石御増、

都合五拾石被下置候

一同二寅十月廿六日席御役料其儘御使番役被仰付

但御徒頭勤向之義も当分相心得候様被仰付、然ル処十二月二日御

免、但御徒頭大谷儀左衛門在京留守二付

一明治二己二月十六日今般御改革二付、御役義御免被成、御広間当番勤被

仰付

一明治二己六月廿一日宇右衛門事東四郎卜改

一同年九月廿九日多年精勤之处、御藩制御改革ニ付、為御慰勞式十五兩被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給祿米百五俵式斗八升五合被下
一同三年九月十一日病死

雨森捨五郎 午十七歳 [士族]

米百五俵式斗八升五合

一明治三年閏十月二日養父藤四郎家督米百五俵式斗八升五合無相違被下、
修業列江被入候事

一同月廿五日修業列名目被廢非役卜唱



雨森藤右衛門

百石

正徳二辰二月父彦左衛門跡目百五拾石被下

享保三戌九月拜知之内五十石被召上

同十七子七月次筆頭御免

雨森弥兵衛

廿五石五人

享保三戌九月父藤右衛門拜知之内五十石被下

寛保二戌二月廿一日拜知五拾石を依願御切米十五石三人ニ直シ被下

延享元子十一月十一日玉葉奉行碓井伴右衛門跡

同二うし八月十一日十石二人フチ御加増、都合式拾五石五人、五十歳以上迄養子不致ニ付、末期養子之節十五石三人ニ相成

雨森彦左衛門

拾八石三人

延享二うし十二月十一日養父弥兵衛跡目御切米之内十五石三人扶持被下、
大番入

安永七戌八月十二日三石御加増、御旗本武具奉行内田惣左衛門跡、御書院番入

雨森彦左衛門 休足

拾八石三人

安永九子十一月廿二日父彦左衛門跡目無相違、大番入

寛政四子十月廿五日家内不締ニ付遠慮

文化十一戌十二月九日御留守武具奉行三上孫右衛門跡

雨森彦左衛門 彦三事

拾八石三人

一文政十二丑十二月十六日親彦左衛門年寄候ニ付休息被仰付、家督無相違

被下置、無役御留守番組へ被入

一天保五年五月三日大御番組入

一嘉永六丑三月十一日御旗本武具奉行岡十次兵衛跡被仰付、御書院番組へ

被入候

一安政三辰六月十四日年寄候ニ付休足

雨森彦三 彦十郎 彦左衛門 実瀬尾権八三男

〔士族〕

拾八石三人

一安政三辰六月十四日養父彦左衛門儀年寄候二付、家督拾八石三人扶持被下置、大御番無役組へ被入候

一同五年六月五日山田与一郎不埒之儀有之、侍御削被成蟄居被仰付候処、与一郎儀ハ実兄ニ付伺之上遠慮、同九日御免

一文久二戌閏八月八日御番割ニ付大御番入

一同三亥八月十七日御参府御供出立、同年十二月江戸方御上京御供、子二月十三日帰

一元治元子三月二日上京、四月十二日帰

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一慶応二寅四月七日京都詰出立、十一月廿四日帰

一同三卯十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之処、御模様ニ付途中方引返帰

一同廿六日先達而今庄宿陣中心得違之趣相聞遠慮、正月七日今般非常之儀ニ付御免

一同四辰正月八日又々急々出立、九月十五日帰

一明治与改元、十二月廿八日彦左衛門卜名替

一同月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日中納言様御供帰

一同二巳六月廿日彦左衛門事彦三下改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三十九俵四斗三合被下

一同年十二月廿三日数学訓導試補被仰付、修業隊江被入候事

但学校支配之事

一同三午六月二日十五等ニ被仰付候事、但年給是迄之通

一同年十一月晦日依病氣願職務被免候事

一同日非役

一同四未正月廿四日会計寮出仕檢地方 年給十俵

一明治四未六月朔日御改正ニ付免職

一同年十二月廿四日租税方雇差免候事



4

雨森儀右衛門

百五拾石

元禄六酉六月廿九日父儀右衛門跡目被下

宝永四亥七月廿一日御貯金奉行、相身躰末座之処

正徳三巳八月十五日順座

同五未五月廿五日御勘定奉行

享保三戌三月六日郡奉行役料五十石、武曾権左衛門跡

同四亥十月十五日五十石御加増、奉行役鈴木忠右衛門跡、御役料百石

同八卯八月六日五十石御加増

同十七子七月十六日不調法有之御役被召上五十石被減、逼塞被仰付、大

番入

雨森太郎兵衛 温

百五拾石 役料百石

享保十九寅六月十六日養父儀右衛門病氣ニ付休息、家督無相違、大番入

寛保二戌六月朔日御使番役料百石、土屋甚五左衛門跡
 寛延三年九月十一日御長柄奉行山田弥五左衛門跡
 宝曆三酉十月廿九日御先物頭神原助左衛門アト

雨森甚四郎

百五拾石

明和五子七月廿三日父太郎兵衛隠居、家督無相違、大番入
 安永五申八月十四日若殿様御小性

天明二寅四月十六日御附奥納戸立岩次郎左衛門跡、御書院番入

寛政十午正月十六日年来相勤候二付格式末ノ番外大道寺大助次ニ被仰付、
 御近習百五拾石無相違被下、大御番入被指置候

文化五、十一月御先武頭加藤源八郎跡、役料百石被下

文化九壬申七月三日隠居被仰付、倅屯へ家督

雨森儀右衛門 太郎兵衛事

百五拾石

一文化九申七月三日養父甚四郎年寄候ニ付隠居、家督百五拾石無相違被下
 置、大御番組へ被入

一同年同月廿五日表御小姓被仰付

一同十二亥江戸詰被仰付

一天保四巳三月十五日表御小姓筆頭織田仁兵衛跡被仰付候

一同六未二月五日役義其儘末ノ番外被仰付

一同十亥正月十六日御留守作事奉行内田小左衛門跡被仰付

一同十亥九月十六日諦観院様御靈屋御普請出精ニ付、御召御上下一金貳百

正被下之

一同十一子二月廿九日郡奉行山本源左衛門跡被仰付、御役料五拾石

一同十二丑正月廿日御預所郡奉行味岡彦太夫跡被仰付、席郡奉行上ニ被仰
 付

一同十三寅六月廿日御目付役萩野治部左衛門跡被仰付、御役料都合百石被
 下置候

一同十四卯江戸詰被仰付、二月七日出立

一同年十二月廿八日当秋神田橋御住居へ御立寄、御用掛リ出精ニ付御褒詞

一弘化三年七月九日御預所掛リ被仰付候

一同四未正月十三日御奉行市村甚右衛門跡被仰付

一嘉永元申江戸詰被仰付、三月廿七日出立

一同年十二月十五日急御出府之節、御用掛リ出精ニ付御褒詞

一同三戌三月五日昨酉年柳御門頼当御普請中、見廻リ出精相勤候ニ付御褒

詞

一同年六月九日昨年来御祝事始過分之御物入之義厚致心配候ニ付御褒詞

一同四亥十一月三日泥原新保浦丸岡領川崎村与出入出訴一件ニ付御褒詞

一同五子二月廿一日先月月番中京都日野西様方之御進物入箱、当月へ附送

リ落ニ相成恐入遠慮伺之上指扣、同廿三日御免

一同六丑三月廿九日御領分久喜津村堤之儀ニ付公料片粕村与争論ニ相成、

公訴相願候、依之右掛リ被仰付候

一同年七月三日去月十二日京町方出火之節出精ニ付御褒詞

一同年同月八日今度相州浦賀表へ異国船渡来ニ付御人数被指立候処、御金

繰を始無御指支心配行届候ニ付御褒詞

一同年十二月三日今般十ヶ年之間無類之御省略被仰付候ニ付、御内調掛リ

被仰付候

- 一同七寅年閏七月廿九日年来出精相勤候二付、銀五枚ツ、年々被下置候
- 一同年同月同日及老年内願之存寄有之趣二候得共、乍太儀今暫不致内願相勤候様御目付を以袖裏二而被仰付
- 一同年十一月十二日御借財懸リ兼帯被仰付候
- 一安政三辰四月十五日内達之趣も有之二付隠居被仰付、同日中根新左衛門同様之取扱被成下、是迄年々被下候銀五枚其儘被下置候
- 一同年四月廿日今度黄門様御遠忌二付、於運正寺御廟御造営被仰出候処、纔之日数二而宜出来太儀二思召候、此段申聞候様被仰出候

雨森儀右衛門 甚四郎

百五拾石

- 一安政三辰四月十五日親儀右衛門隠居被仰付、家督百五拾石無相違被下置、大御番組江被入候
- 一安政三辰十二月廿八日儀右衛門与名替
- 一同五年八月廿四日江戸詰出立
- 一同六未年詰越
- 一同七申三月十五日御供二而帰着
- 一文久武戌四月十五日江戸詰出立
- 一同年八月七地下地御人少之折柄、中将様臨時日々之御登城被仰出候処、格別出精相勤候二付金百疋被下置、失却之儀ハ取調之上追而可被下旨
- 一同年十二月廿三日来春中将様御船二而御上京被仰出候二付、陸廻リ御先へ出立
- 一同三亥三月廿五日中午中将様御供二而京都方帰着

一同廿七日他番へ被入候

- 一同年四月五日倅儀清治逼塞被仰付候二付伺之上指扣、同十日御免
- 一元治元子四月廿一日上京、九月十二日帰着
- 一同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候
- 一慶応元丑十月八日小荷駄造営方被仰付候
- 一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候
- 一同年十一月廿日役御番二番之筆頭役被仰付
- 一明治二巳二月十六日年寄二付休息

雨森雄介 儀清治 雄介 儀右衛門倅

百五拾石

- 一安政四巳十月十三日御家流砲術所詰被仰付候
- 一文久元酉八月廿日太田御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置、支度出来次第出立被仰付、廿九日出立
- 一同年十二月廿七日大砲方頭取被仰付、且又二ヶ所御台場御筒を始教授方申談取扱候様被仰付候
- 一同二戌四月三日太田御陣屋詰中横浜表江出張二付御褒詞
- 一同年閏八月二日内達も有之二付、来亥ノ春迄詰越被仰付候
- 一同三亥正月廿三日御陣屋致亡名大坂表江罷出、中将様御着船之御侍請罷出、然処二月廿二日御国表江御返シ被成、相慎罷在候様被仰付候
- 一同年四月五日御時体を存詰候とハ乍申、御陣屋御警衛詰中当務を不弁強而及上京候始末不束二付、急度も可被仰付候、格別之御憐愍を以逼塞被仰付、五月廿五日御免
- 一同年六月三日御番頭引纏上京、九月五日帰

- 一 同年十月七日農兵教授手伝被仰付、炮術所世話役之儀ハ是迄之通被仰付候
- 一 同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美式百五十疋被下置候
- 一 元治元子四月十三日京都御番士御雇詰被仰付、詰中五人扶持被下置候、廿一日出立、九月十一日帰着
- 一 同年七月十四日在京中大砲方指揮役被仰付
- 一 同十七日在京中農兵教授方手伝被仰付
- 一 同年十月三日京都へ出立、夫方長征、同二丑正月晦日帰着
- 一 慶応元丑五月廿八日三番之大砲方被仰付
- 一 同年九月十一日京都詰被仰付、同廿日出立、翌寅四月十三日帰
- 一 同年十二月廿八日雄介与名替
- 一 同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方配当被下金千疋被下置候
- 一 同年六月五日在京中不埒之趣相聞、御番頭へ移りを以御叱り
- 一 同年十二月廿二日砲術所世話役年来格別致出精候二付、銀拾五枚被下置候
- 一 同三卯三月廿四日砲術所頭取介并軍事方兼被仰付、是迄之通年々銀拾枚ツ、被下置、大砲方之儀ハ御免被成候
- 一 慶応三卯八月廿九日砲術所頭取介其儘、新撰隊砲術教授方被仰付
- 一 同年十月廿五日御趣意二付役輩之儀御免被成候、且又是迄出精相勤候二付、銀拾枚被下置候
- 一 同四辰正月八日補兵隊被仰付、此度御上京之節御供被仰付
- 一 同年四月廿五日遊撃隊へ被召出、五人扶持被下置候
- 一 同日四番後拒役被仰付、役中分隊長次席二被成下候
- 一 同年閏四月七日上京
- 一 同年六月四日英式教授方御雇被仰付
- 一 同年十月十四日右御雇中役御番組江被入候
- 一 同年七月十二日右御雇被免候事
- 一 同月十三日当分大砲方被仰付
- 一 明治卜改元、九月廿六日京方帰
- 一 同年十月九日一番之予備分隊長山田鞆之助跡被仰付、御書院番組江被入候
- 一 同日当時兵学所御人少二付軍事方助被仰付
- 一 同年十二月廿一日軍事方被仰付、役御番組江被入候
- 一 同二巳二月十六日親儀右衛門年寄二付休息被仰付、家督百五十石無相違被下置、軍事方其儘役御番組江被入候 月給廿俵
- 一 同年七月廿六日以当役御備入、子弟輩世話役兼被仰付候事
- 一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八拾式俵壹斗式升壹合下賜
- 一 同月廿八日歩兵佐教被仰付候事
- 一 同年十二月八日歩兵佐教被仰付候二付、芦田仮歩兵所当分受持候処、休日御改革演習日割相改、稽古人江可通処不念不都合二付、遠慮伺之上御用之外指扣、同十日被免
- 一 同三年五月廿四日昨年解隊已来生兵教導向格別致勉勵候二付、金貳千疋被下候事
- 一 同年八月四日練兵為取調東京江立帰可罷越事、同八日飛脚御用相勤出立
- 一 同年九月晦日
- 大坂陸軍所出仕申付候事
- 自今月給金三十兩ツ、被下候事

一同年十月十二日福井江罷越

一同四未四月廿日商人江对シ不束之始未有之、依止当職之条大坂兵部省方
申来ル

一同年六月十日於大坂表免職、後長逗留致居候儀不束ニ付謹慎二十日申付
候事

一同年十一月三日物産修行大坂へ出立

一同廿三日病身願隠居

雨森剛 雄介 倅 明治三年十二歳

〔士族〕

一明治三年五月十七日兼而瓜生三寅江相手寄洋学修行仕候処、今般東京方

見込之筋も有之二付、早速登京致候様申越候二付、三寅方江修業願之通
被仰付、同月廿三日出立

一同四未十一月廿三日親雄助病身願隠居

一米八拾式俵壹斗式升壹合



天方五郎左衛門

五百五拾石

貞享三寅六月十一日父五郎左衛門家督千百石、一統半減無相違被下

宝永二酉七月十三日御留主居被仰付

正徳二辰十二月五日御役ニ付席御上ケ被下

五百五拾石

享保三戌四月六日父五郎左衛門隠居、家督無相違被下

天方数馬

五百石

享保四亥七月十一日父金五右衛門為跡目、五十五人フチ被下

同十五年戌六月十一日御側見習

同年九月五日新知五百石被下

同年九月廿七日御側本役

元文三年八月七日御奏者

延享四卯八月十九日御書院番頭引渡雨森伝左衛門次、御部やへ二三年可
相勤旨

宝曆五亥五月廿八日御徒支配

天方外記 隠居

五百石

宝曆十一巳十二月廿八日養父数馬跡知無相違、寄合席高田小左衛門次

明和五子七月六日御側中根内膳跡

安永二巳十一月十一日大番頭磯野多宮跡、引渡席多賀谷舍人次

寛政五丑九月廿日御役儀出精相勤候二付、御紋御上下拝領

天方金五右衛門

四百石

寛政十一未六月廿九日養父外記内願有之隠居被仰付、家督無相違、寄合

天方金五右衛門

席、永見多門次

文化三寅五月廿九日不埒之義有之百石御取揚被成、閉門被仰付

文政二卯二月七日無役御留守番支配

文政三辰二月十五日御側役御用人見習、御小性支配

文政四巳十二月病死

天方孫八

五百石 外二百石御足

一文政五年閏正月十一日家督四百石無相違被下

一同年閏正月廿九日御側役御用人見習、惣御小姓支配被仰付

一同年二月十八日席富永孫四郎次被仰付

一同年九月朔日支度出来次第江戸詰被仰付

一同六未七月二日来申春迄詰越被仰付候

一同年十二月三日於江戸表御用人御奏者兼被仰付、右詰中御小姓御附御小

姓并表御小姓支配被仰付候

一同七申二月五日御位階御昇進御用掛り出精二付、御目錄銀杓被下

一同年十月七日御鶴支配被仰付候

一同八酉十一月三日御用人其儘御勝手掛り被仰付、同七月廿日御家譜御用

掛り被仰付

一同九戌八月十四日御内用二付江戸表江立帰出府被仰付

一同十亥十月十九日御書院番頭永見小八郎跡被仰付、御足高五拾石被下

一同年十一月十五日内達之趣有之二付、御勝手掛り御免被成候

一同十二丑四月十三日火之番御用出精二付、銀拾枚被下置候

一同年六月廿三日御中老見習被仰付、支度出来次第江戸詰被仰付、七月六

日出立

一同十三寅九月九日御中老本役被仰付、御足高五拾石御増、都合百石被下

置、席永見主殿次

一天保二卯二月十九日内願二付御役御免、風廻り御用捨、席寄合嫡席

一同四巳十月十六日御書院番頭御用人御奏者兼御馬支配渋谷権左衛門跡、

御足高五拾石被下置候

一同五年十一月十七日来未年御供詰被仰付、御足高五拾石被下置候

一同六未十一月十一日今般御養子被仰出候二付、右御用掛り出精二付御褒

詞

一同七申正月廿日御留守居役高田波門跡被仰付、是迄被下置候御足高五拾

石以後不被下候旨

一同十亥十月廿一日遠慮伺之上差扣被仰付

一同十一子二月廿九日御側御用人被仰付、御足高百石被下置、席雨森伝左

衛門次

一同年六月晦日江戸表江立帰出府被仰付出立、同九月十五日帰着、七月十

二日出府中御勝手御用取調掛り被仰付候

一同十三寅年江戸詰被仰付、四月三日出立、翌年六月御供二而帰着

一同十五辰正月十四日江戸御供詰二而出立、同年五月御供二而帰着

一弘化元辰五月廿三日出精相勤候二付、御足高之内五拾石御加増被成下候

一同二巳年江戸御供詰二而三月廿一日出立

一同三年七月六日御役御免被成、御近習二被差置候、御足高其儘被下置、

御側御用人次席被仰付候

一同四年正月十三日格別之思召を以御勝手掛り被仰付、御勘定所へ可被

致日勤、且又御取扱之義ハ御側御用人同様二被仰付候旨

一同年三月十一日御趣意銀取扱掛り、元分銅印御講銀当分取扱被仰付

一嘉永二酉二月十八日乍太儀、思召を以御札所之儀も掛り兼帶相勤候様被仰付

一同年六月九日昨年来御祝事を始過分之御物入之処、厚被致心配御満足被思召候、此段申聞候様被仰出候

一同四亥十二月十日御内用有之二付立帰出府被仰付、時節柄与申乍太儀、支度出来次第出立致し候様被仰付、同廿二日出立、翌子閏二月二日帰着

一同五子年五月十五日御中老御足高五拾石御加増、役中御足高百石被下置候

一御用部屋定詰之事、但於御用席多葉粉盆火鉢等為指出候事

一御勝手向并御札所其余共是迄之通相心得可被申談事

一御側御用人取扱候御用之儀ハ諸事御見除之事

一江戸詰并御先番御供等ハ御用捨被成候事、席御側御用人上

一同年八月朔日御軍帳御改正二付御用掛り被仰付候

一同六丑八月五日此度相州浦賀表へ異国船渡来二付御人数被指出候処、何等之御指支も無之二付御褒詞

一同七寅六月九日老年二罷成候二付、内願之通隠居被仰付候、且又長々相勤太儀思召、御召御羽織被下置候

但大宮奇山同様之御取扱二被成下候 山内遊庭与改

一安政三辰六月十六日勤中御趣意銀取扱掛り被仰付置候処、其節之御貸方并下代共引統致私欲横行、莫太之御損失被相成不届二付御咎被仰付候、

右掛り中ケ程之不届不心付候段、算当之儀与ハ乍申不念之事二付、依之御沙汰も可有之処、隠居之身分二も候へハ、其儀無之候

一同日右二付伺之上遠慮、同廿三日御免

天方五郎左衛門 彝之助

五百石

一嘉永七寅六月九日親孫八老年二罷成候二付、内願之通隠居被仰付、家督五百石無相違被下置、寄合引渡之席被仰付候

一同年八月十四日御側役并御用人見習御小姓表御小姓支配被仰付

一安政元寅十二月廿八日五郎左衛門と名替

一同年同月同日御備組調練懸り同様被相心得、御用掛り申談候様被仰付候

一同二卯二月廿二日御備組調練掛り被仰付、厚相心得申談行届候様可取斗旨被仰付候

一安政二卯三月七日御用人月番打込勤被仰付

一同年八月三日御軍制御用懸り被仰付、海岸御備向之儀も同様相心得可申旨被仰付候

一同三辰四月廿日此度黄門様御遠忌二付、於蓮正寺御廟御造営被仰出候処、纒之日数二而宜御出来太儀二思召候段被仰付候

一同四巳閏五月十五日松栄院様不容易御様躰二付、為伺御機嫌詰引揚早速出府被仰付、依之十八日出立

一同五午正月十八日御用人御奏者兼被仰付候、同日来未ノ春迄詰越被仰付候

一同年七月七日今般御家督御相統同御用掛り被仰付候

一同年九月十四日今般殿様御一字御拝領可被遊二付、右取調御用掛り被仰付候

一同年十一月廿一日右御用掛り出精相勤候二付、御召御上下一具銀壺枚被下置候

一同日御家督御相統御引移御用懸り出精二付、沙綾二卷被下置候

一同六未十二月十三日不心得之儀有之急度被仰付方も可有之処、此度内願之訳も有之二付、別段之御評議を以御役御免被成遠慮、申正月朔日御免

一同七申二月八日病死

天方道タダシ 八之丞 对馬 登雄志トヲシ

〔士族〕

五百石

安政七申三月十三日兄五郎左衛門病中願之通養子ニ被仰付、家督五百石無相違被下置、寄合引渡之席被仰付候

一文久三亥正月十九日今般農兵御派立二付、一組稻葉哉五郎江御附被成候

二付、其手へ属シ哉五郎掛り西尾十左衛門等へ厚申談、致世話候様被仰付候

一同年二月十日右掛り御免被成候

一同十四日学問修業願之上京都表江出立、四月五日帰

一同年四月五日御側役并御用人助被仰付、但是迄相勤来候御用向都而其儘被仰付、風廻り之義ハ御用捨被成候

一同年六月朔日今般農兵御派立二付、一組酒井与三左衛門へ御附被成候間、其手江属シ与三左衛門与厚申談致世話候様被仰付

一同年七月六日御用向有之二付支度出来次第立帰出府被仰付、右二付農兵掛り之儀ハ御免被成候

一同八日右出府之儀ハ御免被成上京、無息之面々引纏出立致世話候様被仰付、是又御免

一同八月廿五日遠慮伺之上差扣被仰付置候処、今日方御免

一同年十月廿日御側役其儘御用人見習被仰付、御小姓表御小姓支配被仰付

候

元治元

一同四子二月七日当秋江戸詰被仰付、永見多門与致交代候様、且又御用人月番打込相勤候様被仰付

一同廿日支度出来次第上京被仰付、当秋江戸詰之儀者御免被成候、二月廿三日出立

一同年五月廿日殿様御頂戴之口宣守護帰着

一同年六月五日当秋江戸詰稻葉左司馬与致交代候様被仰付、且又当暑中公辺御勤向二付詰引揚、右御使者御内意被仰付

一同月廿五日宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒被下置候

一同年七月五日江戸表へ出立、九月十九日帰着

一同年九月二日御舍御用有之二付、支度出来次第御国表江致出立候様被仰付

一同年十月十日大御番頭永見主膳跡被仰付候

一同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀壺貫匁被下置候

一慶応元丑七月十日御軍制掛り被仰付、厚申合早々取調候様

一同年十一月廿三日今度大坂表江出張二付願之上引上、八之丞事对馬卜改名

一同年同月廿九日大坂表江出張、夫方神戸江、寅九月十九日帰

一同二寅十一月十四日真田信濃守殿藩中赤松小三郎儀兵学巧者之趣二候処、当时在京二付右兵学取調候様思召候、依之早速上京被仰付、廿四日出立、十二月十二日帰

一同三卯四月六日思召を以御用人同様之御取扱二被成下候

一同年七月十二日第一級二相進候二付、花葵御紋御印一被下置候

一同年十月十八日御趣意二付遊撃隊頭卜被仰付、御取扱向左之通

一年始ヲ始御礼席寄合嫡席ニ被成下候事

一折々御機嫌伺可罷出事

一格別之思召を以御留川棧切場拝領被仰付候事

但已来之例ニハ無之候事

一御用人同様之御取扱被相止候事

一中ノ口往来可致事

一御坂札被下候事

一同月廿一日宰相様御上京被遊候ニ付、第一遊撃隊引纏御供被仰付候

一同月廿九日右御免被成、殿様御上京之節御供被仰付候

一同廿九日第一遊撃隊半隊引纏速見村御小休迄御見送御供被仰付、十一月

二日出立、同月七日夫々引纏帰

一同年十一月廿六日宰相様御滞京中為御備、第一遊撃隊之面々引纏仕度出

来次第上京被仰付、且又兼而被仰付置候御供之儀ハ御免被成候、同廿九

日出立

一同年十二月十四日御在京中御用人勤向之儀も相心得候様被仰付候、同廿

七日御用薄ニ付御免

一同四辰四月四日作冬已来格別骨折相勤候ニ付御褒詞

一同月十日京方帰

一同年六月二日御含御用有之二付立帰早速上京被仰付、六日出立、十三日

帰

一同年九月二日御都合も有之二付、一番二番之遊撃隊引纏支度出来次第京

都詰被仰付、水野小刑部卜可致交代旨被仰付、同八日出立

一明治卜改元、十二月十七日三番之遊撃隊京都江着之上仮支配被仰付

一同二巳二月十六日今般御改革ニ付、遊撃隊頭被廢候、仍御役儀御免被成

御近習ニ被指置候

一同日大隊長被仰出候 月給百俵

一同年六月十二日对馬事登雄志ト改

一同年十月十四日任福井藩少参寺宣下之事

一同月廿四日軍政局幹事被仰出候事、但月給米一年分当分百式拾俵被下候

事

同日今般少参事宣下ニ付、御取扱左之通被仰出

一五節旬朔望登城之節、於御座之間權大参事畢而御逢之事

但各員一同罷出候事

一詰所是迄之通参政職詰所之事

一御門々々下座之事

ノ

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米式百三俵五升七合被下候

一同三午九月八日以本官大隊指揮掛り兼被仰付候事

一同年十二月廿三日坂上寛之介・西村虎介謹慎被免日限、一日相延候ニ付

伺之上謹慎、同廿五日被免

一同四未六月朔日今般御改正ニ付、官員減省御窺可相成ニ付、不及出仕候

事

一同年八月朔日本官被免事

一同五申五月登雄志事道

秋田

1

秋田八郎兵衛

六百石

於松岡御家老職御相統後

享保七寅二月廿八日二百石御加増、都合此通、同日御用人被仰付、席萩

野孫右衛門次

秋田八郎兵衛

六百石

享保廿卯六月廿一日養父八郎兵衛跡知無相違被下、寄合被仰付、席中根

鞆負次

元文五申六月廿五日不届之義有之拜知被召上、弟金次方二蟄居

秋田勘解由 初金次

五百石

享保十五戌四月廿五日同姓勘ケ由名跡為相統三十人扶持被下、席番外井

上半太夫次、実八郎兵衛次男

元文五申六月廿五日兄八郎兵衛不行跡二付拜知被召上、親八郎兵衛久々

相勤候儀被思召付、親八郎兵衛為相統金治へ拜知五百石被下、寄合被仰

付、兄八郎兵衛義引取蟄居為致相指置旨、席牧野織之助次

秋田八郎兵衛

四百五十拾石

寛保三亥十月晦日父解ケ由跡目幼年二付五拾人扶持、寄合席毛受伝三郎

次

宝曆三酉七月廿五日十五歳二成候二付、新知四百五十石二御直被下

安永二巳年十一月十一日孝顯寺火消

寛政二戌八月十五日大御番頭笹治権右衛門跡、引渡席渡辺十郎左衛門次

同十二申十二月十日御留守居太田三弥跡

文化五辰十二月十六日年来出精相勤候二付、御召御上下被下置候

文化六巳ノ二月十八日隠居、内願二付

秋田長之丞

四百五十拾石

文化六巳ノ二月十八日親八郎兵衛跡無相違被下置、席永見多門次

同十一戌正月十六日運正寺火消

文政三辰二月十六日大御番頭酒井十之丞跡、引渡磯野勇次席

文政三辰八月病死

秋田豊^{ユタカ} 道之助事 八郎兵衛 弾正 大内蔵 大膳 玄蕃

五百五十拾石

一文政三辰十月五日養父長之丞跡知無相違四百五十拾石被下置、寄合席永見

小八郎次

一同五午六月廿七日御側役御用人見習被仰付

一同年九月朔日御小姓御附御小姓表御小姓支配被仰付候

一同七申年江戸詰被仰付

一同八酉四月十四日於江戸表御用人御奏者兼被仰付

一同九戌八月御番割御用掛リ被仰付

一同十亥十月十九日御鷹支配被仰付

一同十一子年江戸詰被仰付

一天保三辰年江戸詰被仰付候

一同六未年江戸詰被仰付候

一同年六月七日御家督前後無御滞被為濟、右御用掛り出精二付紗綾二被下之

一同年十二月廿日御元服御用掛り出精二付御召御上下一被下之

一同七申正月十九日於江戸表御書院番頭御用人御奏者兼雨森伝左衛門跡被仰付、引渡之席并御徒支配、席中川六左衛門次

一同年来酉年迄詰越被仰付候

一同九戌八月廿四日早駆御用二而江戸表へ出立、同九月朔日江戸二而来亥年迄詰と被仰付

一同年十二月七日来秋迄詰と被仰付

一同年十二月十四日今般御養子被仰出候二付御褒詞

一同年十二月廿八日今般御家督御引移御用掛り出精二付、紗綾二卷被下之

一同十亥十二月廿五日江戸御屋形向御普請二付御褒詞

一同十一子八月江戸詰被仰付出立

一同十二丑閏正月九日於江戸表年来相勤候二付、御足高五拾石被下候旨

一同年三月六日大御所様御出棺之節、御用掛り出精二付御褒詞

一同年六月十五日殿様御袖留御用掛り出精二付、御召御帷子一被下之

一同年九月廿四日御側御用人差支之節、御供相勤候二付御褒詞

一同十三寅四月廿五日御側御用人見習被仰付候、当秋江戸詰ハ御免被成候

一同十四卯七月十一日江戸表へ立歸出府二而出立、同九月六日歸着

一同十五辰五月廿三日御側御用人本役被仰付

一弘化四未江戸御供詰被仰付出立

一同年九月十一日当夏御參勤御道中御家老代り御供被仰付、万事出精二付

御褒詞

一嘉永三戌十一月廿八日出精相勤候二付、御足高五拾石御加増被成下候

一同四亥年江戸御供詰

一同五子八月十六日飯田十太夫家屋敷へ替被下候

一同六丑六月十五日江戸表方早御飛脚着、今度浦賀表へ異国船渡来二付急出府被仰付、同日出立

一同年同月廿八日此度出府之處、御用多二付当分御指留被成候、然ル処同年十月十二日歸着

一同年七月朔日御役義以来御武器之儀格別心配致被置候処、今度御人数被指出候二付而も御指支無之義ハ、全兼々行届候故卜御満悦思召候、此段申聞候様被仰出候

一同年九月十七日当夏急出府被仰付候処、遠路早速致出立、殊ニ大荒之時分太儀思召候、此段申聞候様被仰出候

一同年十一月三日今度大砲御製造二付右掛り被仰付候

一同七寅八月廿五日彈正与名替

一安政二卯三月十四日御軍制御改正御用掛り出精相勤候二付御褒詞

一同年江戸御供詰

一安政三辰三月十二日火之御番御用被相勤太儀ニ被思召、御目錄御召御給一銀壹枚被下置候

一同日右同断御出馬御名代之節、御家老指支候ハ、代り被仰付置候二付、銀壹枚被下置候

一同日江戸表御發駕後御家老代り御用取扱候様被仰付候

一安政三辰六月九日江戸表方歸着

一同四巳年正月十五日明春江戸表御發駕後、御家老代り御用取扱候様被仰

付候処、万事出精之儀被思召候、此段申聞候様被仰付候

一同五年七月十七日御機嫌為伺立歸出府被仰付、同日夕出立、同年十一月十二日歸着

一同六未二月廿五日年来出精相勤候付御足高五拾石被下置候

一同年九月八日支度出来次第江戸詰被仰付、十六日出立

一同年十月十五日横浜御警衛御用掛り被仰付候

一同七申三月十五日御供二而歸着

一万延元与改、六月朔日御内御用有之立歸出府被仰付、九日出立

一同年九月十二日乍太儀来西ノ春迄詰被仰付候

一同二酉正月十日今般御參勤御道中為御迎酒井外記方立歸御供被仰付候二付、再出府迄御家老代り御用取扱被仰付候

一文久与改元、四月五日連年出府御用相勤可為難儀二付、為御手当金三拾

五兩被下置候

一同九日今般御參勤御道中為御迎酒井外記方立歸御供被仰付候二付、再出

府迄御家老代り御用取扱候様被仰付置候処、万事出精之段御褒詞

一同廿二日歸着

一同二戌十月廿八日数年来格別致精勤候二付、御足高五拾石御加増

一同三亥七月廿八日御參府御供被仰付候、八月十七日出立

一同年十二月二日於江戸表大内蔵与改、同月江戸方御上京御供、子二月御

供二而歸

一元治元子二月十日大膳与改

一同年三月 玄蕃与改

一同年三月五日御軍制取調御用掛り被仰付

一同年五月二日御中老役被仰付候、且又御用部屋定詰之事、江戸詰并御先

番御供等ハ御用捨被成候事

一同年十二月賊徒一件御供二而出張、依之御手当銀壹貫匁被下置候

一慶応三卯九月廿五日定式掛り

一同四辰六月十九日御内用有之二付立歸り上京、早速致出立候様被仰付、

廿一日出立、七月十一日歸

一明治卜改元、十月廿二日数年来出精相勤候二付、格別之思召を以御足高五拾石被下置候

一今般御右筆部屋向御改正相成、已来公務局御取立相成候、依之御式事を始総而公務局之儀引受取扱候様被仰付候

一同年十一月廿七日今般中納言様江幸姫様御着輿之上、殿様方為御使上京被仰付、十二月三日出立、已三月十六日歸

一同二巳二月十二日今般御東幸、中納言様供奉被遊候二付御供被仰付

一同月廿日副執政被仰出

一同日從朝廷重臣御呼出之節申談御用可相勤候

一同日御滯京中御用御多端、且御人少之儀ニも候間、執政御用申談取扱候様被仰出

一明治二巳四月九日中納言様御供二而東京江出立

一同年五月廿八日玄蕃事豊、但思召二而改名

一同年八月廿五日

任福井藩權大参事 宣下候事

右宣下候得共、此地滞在中御家事御用筋從前之通可有勤仕候事

一九月廿日權大参事宣下二付御取扱左之通

一五節旬朔望登城之節御移相成候ハ、直ニ於御座之間御逢之事

但各員一同罷出候事

一出席之廉々已来上之御跡方引統罷出席之事

一詰所掌政内局之事

一御門々々惣下座之事

一行事監察案内之儀可為是迄之通候事

一諸願行事取次之事

一御坂札五枚被下候事

一小鳥札被下候事

一御留川定拝領之事

一御徒目付送迎可為是迄之通候事

一同年十月十四日

任福井藩大参事 宣下候事

一同年十一月十二日東京ヨリ帰

一同月廿五日今般御改革、更給禄米式百拾式俵壹斗式升壹合下賜

一同三年八月廿日依願本官被免候事

一同日老年且度々内願之趣も有之二付隠居

一同日多年勤勞有之二付、為慰勞年々金五十兩ツ、被下候事

一同日御家禄方多年精勤太儀ニ存候、依而為慰勞年々金五十兩ツ、被下、

御坂札一枚小鳥札一枚御留川折々可罷越事

秋田長之丞^{ヲサ} 内蔵丞

〔士族〕

拾人扶持

一文久三亥九月五日先達而養父彈正同道御供ニ而出府之处、芝御陣屋詰御

台場頭被仰付、御ふち方五人ふち被下置候、諸事永見主膳申談取扱候様

被仰付

一同年十月十日御台場頭被仰付之処彼是失却多之趣ニ付、詰中月々為雜用

銀三枚ツ、被下置候

一元治元子五月十日内蔵丞事長之丞^{ヲサ}与名替

一同年六月廿九日帰着

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑正月帰

一同二丑正月廿七日賊徒警衛、敦賀江出張、二月廿三日帰

一慶応与改元、五月十一日思召を以御側役并御用人御雇被仰付、右御雇中

御扶持方拾人扶持被下置候

一同年八月廿六日御用人月番打込勤被仰付

一同三卯正月廿二日御側役并御用人御雇其儘三ノ丸御座所振退勤被仰付

一同年二月七日御附御小姓御膳番御馬廻り之面々支配被仰付候

一同年十月廿一日今般宰相様御上京御供被仰付候、十一月二日出立、辰三

月十一日帰

一同四辰三月十九日当分御用人打込勤被仰付

一同年八月廿五日御小姓御膳番御馬廻之面々も已来支配ニ被仰付

一明治ト改元、十月廿二日今般御趣意ニ付御用人御雇御免被成候

米式百拾式俵壹斗式升壹合

一同三年八月廿日養父豊老年且度々内願之趣も有之二付隠居被仰付、家督

米式百拾式俵壹斗式升壹合無相違被下、優待列ニ被入候事

一同年閏十月廿五日右名目被廢非役ト唱

秋田²

秋田三五左衛門

百五拾石 外役料百石

寛文十戌三月十三日新知弐百石被下

同十二月二日百石御加増

貞享一統半知

元禄六酉八月廿八日御先物頭被仰付、鉄砲(マ)

秋田三五左衛門

二百石 役料百石

享保八卯八月六日養父三五左衛門拜知無相違、大番入

同十八丑七月廿五日大御番四番筆頭

同廿一辰五月三日御使番役料百石

元文五申五月十八日御目付大宮忠左衛門跡

延享四卯八月十九日長袴格、席御奉行次、御部屋附勤方之趣御側物頭、

女中支配も兼役

同年十一月七日五十石御加増

宝曆八寅四月十七日御代替二付御側勤御免、其儘御近習二被指置

同五月廿八日勤方最前之通被仰付

同年十二月十一日隠居、三人扶持被下

秋田八左衛門

弐百石 役料百石

寛保二戌六月五日兎御小姓被召出

延享二丑正月十五日奥御小姓

同四卯十一月十五日新知被下

寛延三年二月十一日御小姓御免大番入、同月十六日中奥

宝曆五亥二月朔日中奥筆頭

同八寅四月十七日御免、御近習二被差置、同五月廿八日中奥

同八寅十二月十一日父三五左衛門隠居、三人扶持被下、家督無相違、御

小姓其儘

同十一巳十月十一日御膳番

同年十一月廿九日御書院番筆頭

明和元申十月廿二日御書院番前々之通弐番被仰付、筆頭御免

同二酉三月十六日御書院番弐番筆頭

同四亥閏九月十六日御使番小栗八郎兵衛跡、御役料百石

同七寅五月廿一日御徒頭津田新兵衛跡

安永三年六月廿六日御側物頭渥美新右衛門跡

同五申七月十五日御泉水預り

同九子五月廿七日御目付助、同月廿九日席御上ケ、是迄御持物頭席打込

席二候得共、御目付助被仰付候故、席御目付次へ御上ケ被成

天明二寅十月十四日御広式御用人介

同三卯三月朔日御広式御用人長袴格

同七未四月三日御形合被相改、万端御省略二付御広式御用人二人二被仰

付候二付、御役御免被成、御役料其儘御先物頭次席被仰付、但シ於江戸

同九月廿五日御先物頭土屋五郎太夫跡

秋田八兵衛 病死

弐百石

寛政五丑七月十一日父八左衛門年寄候二付隠居被仰付、家督無相違大番入

秋田三五左衛門 末吉郎

貳百石

享和元酉三月廿五日養父八兵衛病中願之通跡知無相違被下、大御番入

文化十三年六月五日筆頭役林又左衛門跡

文政三辰ノ六月廿三日御使番役、御供頭兼帶猪子太郎右衛門跡、同日津

田四郎左衛門屋敷替被下旨被仰渡

同六未十二月三日於江戸御目付役本多九太夫跡被仰付、支度次第罷歸り、

来申年御留守詰被仰付

文政十二巳丑八月十三日御預所掛り被仰付

文政十三庚寅六月三日松田善右衛門跡新番頭被仰付

天保十一子十月廿五日御目付役西尾五右衛門跡、御奉行次席被仰付、同

日御預所掛り被仰付

同五辰五月廿三日御預所元締役萩原長兵衛跡席其儘

嘉永三戌六月三日年寄二付内願之通隠居被仰付、故萩原長兵衛隠居被仰付候節之通御取扱被成下候

秋田三五左衛門 孫太郎

貳百石

一嘉永三戌年六月三日親三五左衛門年寄候二付、内願之通隠居被仰付、家

督無相違被下置、大御番組江被入

一安政二卯年 江戸御供詰出立、宿割

一同七申正月十六日大御番筆頭役助林藤五郎跡被仰付候

一万延与改元、六月廿六日御供皆勤二付御褒詞

一同年九月十六日御書院番組へ被入候

一文久三亥二月十日殿様御供二而上京、三月六日御供二而帰着

一元治元子十月十六日長征出立、丑二月八日帰

一慶応元丑十一月廿五日御腰物数寄方奉行、奈良太郎左衛門跡

一同三卯七月廿一日年寄候二付休息

秋田三吾 城太郎 三五左衛門倅

〔士族〕

貳百石五人扶持

安政六未三月廿五日測量御用有之出府被仰付、右出府中三人扶持被下置候

一同十月四日帰着

一同七申閏三月十二日測量為御用出府被仰付大儀二付、銀沓枚被下置候

一文久二戌十月六日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰

付候

一同年十二月十四日中将様御上京御供御用二付、江戸出立之処、御都合二

付途中方京都へ

一同三亥三月廿五日右御供二而帰着

一同廿八日測量方手伝被仰付候

一同年五月十六日農兵掛り被仰付、郡方吟味役勤方之儀も相心得候様被仰

付、御扶持方三人扶持被下置候

一同年九月廿一日支度出来次第上京被仰付、同廿三日出立

一同年十一月十六日於京都御滞京御用向取扱被仰付候

- 一 同四子正月十八日山階宮被任御頼当分御附人被仰付
- 一元治と改元、三月廿九日、一昨戌十二月江戸表江罷出中将様御供二而京都表江可罷越筈二而此表致出立候処、俄二御船行相成候二付途中方京都江罷出、夫方大坂江為御迎罷越御供二而京都江到着之處、失却も有之趣
- 二 付金壹両被下置候
- 一 同年四月十日失却も有之二付、月々金三両ツ、御手当被下置候
- 一 同年六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、依之銀式枚被下置候
- 一 同年八月廿三日御含御用有之二付、本多修理方手二属シ上京被仰付、廿八日出立
- 一 同年九月十日被召出御扶持方五人扶持被下置、御書院番格二被成下、御用人支配被仰付候
- 但是迄被下候三人扶持之儀ハ以後不被下、且又御含御用儀ハ是迄之通
- 一 同月廿五日立帰御用着、晦日折返シ出立、十月征長御先調として豊前小倉へ出立、丑二月八日帰
- 一 同年十月十三日御含御用有之二付、芸州表江罷越候様被仰付
- 一 同年十月十九日今度応接方被仰付
- 一 慶応元丑五月廿五日長征御供別段心配ニ付銀式枚被下
- 一 同年七月二日御軍制取調懸り被仰付候
- 一 同年九月晦日宰相様御出坂御宿割ニ而出立、高宮方引戻十月四日帰
- 一 同年十月五日御含御用有之二付京坂江被指出、早速致出立候様被仰付、同六日出立
- 一 慶応二寅三月廿三日大坂方着
- 一 同年四月十二日本多興之輔方へ御附属被成候間、出坂被仰付候
- 一 同年五月七日御軍制取調掛り其儘兵学所詰被仰付候
- 一 同年七月九日御含御用有之二付芸州地へ被指出、支度出来次第一旦上京之上罷越候様被仰付、十二日出立之處、彼地之模様相変り候二付、同十四日帰
- 一 同三卯正月九日軍事方被仰付、役御番組へ被入
- 一 同年七月廿一日親三五左衛門義年寄候二付休息被仰付、家督式百石無相違被下置、軍事方頭取並被仰付、役御番組江被入候
- 一 同年十月十八日半小隊長被仰付、役義二付席末之番外格二被成下候
- 一 同四辰正月廿四日今般勅使御下向二付、御國中附廻シ被仰付候
- 一 同年五月廿五日御目付役見習被仰付、御役料五拾石被下置末ノ番外順席二被成下候
- 一 同年八月朔日京都詰被仰付奈良元作与致交代候様、同月廿日出立
- 一 明治二巳二月十三日詰中御馬支配被仰付
- 一 同十二月御東幸、中納言様供奉被遊候二付御供被仰付
- 一 同月十五日軍監被仰付、月給米七十俵御役料ハ不被下候
- 一 同年三月朔日京都方東京江出立之處、御呼戻二付桑名方引返、同七日御国江着
- 一 同年四月九日中納言様御供二而東京江出立
- 一 同年六月廿五日軍政局承事軍監兼被仰付候事、但席鈴木拾五郎次
- 一 同年九月廿日帰藩被仰付、十月十二日帰
- 一 同年十一月廿七日今般御改革二付、当役被免候
- 一 同日軍務寮権大属被仰付候事
- 一 同月今般御改革二付、更給禄米百五俵式斗八升五合下賜

一同三年七月廿二日武生士族卒支配被仰付、軍務寮權大属可為是迄之通事、但年給四十俵

一同年八月廿二日武生士族卒支配之儀被免候事、席波々伯部八十八次

一同月廿五日武生両族支配被仰付出張罷在候処、市中動揺之砌職務不参届

二付本官被免、修業列江被入謹慎被仰付、九月十六日被免

一同年閏十月十七日小隊江被入候事、但第一大隊式番

一同年十二月八日軍務寮出仕 年給四十俵

但予備隊長動向

一同月十八日城太郎事三吾卜改

一同四未四月七日予備隊解隊被仰付候二付、軍務方出仕被免候事

一同月十四日兵学所出仕 但年給十俵

一同年六月朔日御改正二付免職

秋田³

秋田又左衛門

百石 役料百五拾石

宝曆五亥二月朔日中奥御小性被召出、御擬作式拾五石五人扶持被下置

同八寅四月十七日御免、同五月廿八日中奥

明和七寅九月十四日御膳番兼帯

同九辰九月廿四日新知百石

安永三年六月十四日御側向頭取、末ノ番外

同年八月六日御時宜役被仰付

同五申五月十一日於江戸五拾石御足高被下

同年七月十五日御使番格、当役其儘馬飼料百石被下

同七戌六月廿二日御目付浅見七十郎跡

天明三卯九月十四日御役御免、末之番外被仰付、御足高御役料共二上ル

同六年閏十月十五日御使番荒川又八郎跡、御役料百五拾石

寛政二戌二月二日於江戸若殿様御側締役河合善十郎跡、席御先武頭次席

同四子二月十六日格別之思召を以長袴席沢木金右衛門次二被仰付

同八辰八月三日役義其儘席町奉行次二被仰付

同十年二月廿三日席其儘御広式御用人

享和元酉六月廿九日席其儘御預所元締役岡半右衛門跡

秋田又兵衛

廿五石五人

文化元子十月廿四日父又左衛門隠居被仰付、家督無相違、大御番入

文化三寅六月十六日拜知御取上廿五石五人扶持被下、遠慮

同五辰閏六月十六日御前様御附御広式御用達、御留守番入

同年十一月五日表御納戸松原次郎左衛門跡、大御番入

文化十三子閏八月廿九日御先御武具奉行大越猪左衛門跡

文政九戌六月十六日御代官笠原平八跡

秋田左太夫 八五郎事

廿五石五人

一文政十一子正月八日父又兵衛家督被仰付、無役御留守番入

一天保二卯六月廿五日大御番組へ入

一同五年十一月十日吉田五左衛門家屋敷へ替被下

一同十亥九月廿九日用水奉行瀬尾権八跡、御留守番組へ被入

一嘉永二酉七月十日不時為御用立帰江戸出府急々致出立候様被仰付、同月十二日出立、翌戊正月五日帰着

一同三戌六月三日下河三右衛門家屋敷へ替被下

一同四亥十一月三日御預所并御領分村々、丸岡領樋爪為安両村与十郷用水路論及出訴一件二付、立帰出府被仰付、旁出精二付御目録銀五枚被下置候

一同五子六月十七日伊藤友四郎家屋敷へ替被下

一同七寅六月十九日御勘定吟味役被仰付

一同年十一月廿九日御代官役吉池角左衛門跡被仰付候

一安政元寅十二月五日今般大橋御出来之処、先役中御用掛り出精二付金百疋被下置候

一同二卯二月十三日長崎藤四郎家屋敷へ替被下候

一同五年十一月十一日用水奉行勤中、中野村用水堰所之義二付不念之義有之ニ付急度御叱、依之遠慮伺之上指扣、同十八日御免

一同六未二月五日御旗本武具奉行林弥兵衛跡被仰付候

一万延元申十二月五日耳遠二付休息

秋田一学 寅太郎 又左衛門

〔士族〕

廿五石五人

嘉永六丑七月廿日此度思召を以支度出来次第江戸表江罷出、砲術調練致修行、御扶持方式人扶持被下置、猶委細之儀ハ御奉行へ可申談旨被仰付候

一同七寅三月廿三日品川御殿山へ御人数繰出之節致世話候二付、御扇子一

对被下置候

一同四月十八日帰着

一万延元申十二月五日親左太夫耳遠二付内願之通休息被仰付、家督廿五石五人扶持無相違被下置、大御番組へ被入候

一文久二戌十月六日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候

一同三亥正月廿五日当春芝御陣屋詰被仰付候

一同年二月廿二日早速引揚出立被仰付、廿五日出立

一元治元子六月廿八日帰

一同年十月十三日長征出立、丑正月廿九日帰

一慶応元丑五月廿八日大砲奉行被仰付、役御番組江被入候、大砲支配申談候様被仰付

一同年九月十一日家屋敷細井玄篤卜相对替願之通被仰付

一同年十一月廿八日大坂表江出張

一同二寅九月十八日帰

一同年十一月十六日郡方吟味役川除奉行兼被仰付

一同四辰閏四月十一日御趣意二付、郡方吟味役之儀ハ御免被成候

一明治卜改元、十二月五日御趣意二付役儀御免被成、御留守番組ニ其儘被措置御広間当番勤被仰付

一同二巳二月十八日大砲隊彈藥預被仰付

一同年六月廿六日又左衛門事一学卜改

一同月廿八日器械并彈藥差配方被仰付候事

一同年九月廿日東京詰藤間左門卜致交代候様被仰付出立、午五月十一日帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合被下

一同月廿五日右同断ニ付製造局被廢候、依之当役被免

一 予備隊

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

荒川¹

荒川十右衛門

三百五拾石

宝永三戌五月十六日親十右衛門家督無相違被下、此節迄御手廻相勤

同五、八月廿五日御先物頭被仰付

荒川右衛門太

三百五拾石

宝永三戌五月十六日御手廻被召出

正徳二辰十二月廿三日父十右衛門跡知無相違被下、但只今迄之御擬作ハ

上ル

享保四亥五月十九日右衛門太病氣ニ付、養子新九郎江新知弍百石被下

荒川惣右衛門

三百石

享保四亥五月十九日養父右衛門太病氣ニ付、為新知拜知之内二百石被下

同十三申七月廿九日大番四番筆頭木内甚兵衛跡

同十八丑六月廿一日御聞番席御使番順、役料百石被下、宮北十郎左衛門

跡

元文五申四月十九日御先物頭順席

延享元子九月十八日御近習長袴格井原丞助次

同二丑五月廿五日御預所御所務請込下山半左衛門跡、役料百石、本知御

結被下

寛延三年六月廿五日御役御免、御近習被仰付、席鈴木半左衛門次

宝曆三酉正月十六日御武具并忍之者支配

同五亥十一月廿九日新番頭酒井六郎右衛門跡、席其儘

同七丑八月廿九日岩上梶太夫跡金津奉行被仰付、番外平本但見次

荒川惣右衛門

三百石

宝曆十三未七月五日養父惣右衛門隠居、家督無相違、番外平本但見次

荒川十右衛門

三百五拾石 五拾石御足高

天明元丑九月十一日養父惣右衛門跡知無相違、番外席一柳新九郎次

寛政二戌五月廿八日御触頭大宮彦右衛門跡

寛政九巳九月廿日格別之思召有之寺社町奉行被仰付、与力御預ケ被成候、

小林又右衛門跡

文化元十月廿四日金津奉行平本藤七郎跡

同三寅九月廿七日先御役已来出精ニ付五拾石御足

文化六巳八月廿日御側並御勝手懸リ、御足高五拾石御加増ニ被成下、御

祐筆部屋入、且又御勘定所日勤

文化九壬申七月三日御側並其儘御勝手掛リ御免被成候

同十一戊七月三日思召を以御預所元締役仮り被仰付

文化十三子六月廿四日金津奉行海福久右衛門跡

文化十五寅正月十六日格式寄合ニ被成下、浅姫君様御引移リ之上御附御

用人被仰付、来ル三月中出府御引移前諸事御用引請取扱候様被仰付候

文政二卯七月朔日於江戸御用人御奏者兼被仰付、浅姫君様御附御用人兼被仰付、御足高五拾石被下置

同十亥閏六月廿五日耳遠之趣ニ而内願も有之月番御免

文政十二丑十月十一日隠居

荒川十右衛門 八十郎
三百五拾石

一同十五辰六月十七日年来相勤候ニ付、御足高五拾石被下置候

一嘉永四亥二月十三日年寄候ニ付内願之通隠居被仰付、高田波門同様之御取扱ニ被成下候

一嘉永四亥二月十三日親十右衛門年寄候ニ付内願之通隠居被仰付、家督三百五拾石無相違被下置、寄合之席被仰付候

一同七寅六月九日御側役御用人見習御小姓表御小姓支配被仰付、同十一日十右衛門与名替

一安政元寅十二月廿八日御備組調練懸リ同様被相心得、御用掛リ申談候様被仰付候

一同二卯正月十六日当秋江戸詰被仰付、詰中御足高五拾石被下置、大宮藤馬卜可致交代旨

一同年八月廿四日出立
一安政三辰三月十二日火之御番御用相勤太儀ニ思召、御召御給一被下置候

一同年十月十七日御用人御奏者兼
一同四巳三月十二日調練懸リ被仰付候

一同六未三月十一日御軍制御用懸リ被仰付、海岸御備向之儀も同様相心得候様被仰付候

一同年十月十一日大御番頭齋藤民部跡被仰付、役中御足高百石被下置、引渡之席被仰付候

一同七申閏三月十四日太田御陣屋詰中、同所御用向都而引受取扱候様被仰付候、同廿五日出立

荒川十右衛門 小弥太事

三百五拾石 外二五拾石御足

一文政十二丑十月十一日親十右衛門年寄内願ニ付隠居被仰付、家督三百五拾石無相違被下置、寄合席相馬幸之助次被仰付候

一同年十月廿日御側役御用人見習被仰付、御小姓表御小姓支配被仰付
一同十三寅正月十六日御用人打込月番相勤候様被仰付

一天保四巳江戸詰被仰付、三月十一日出立
一同五年五月廿四日御用人御奏者兼被仰付候

一同八酉江戸詰被仰付、四月十七日出立
一同十亥江戸詰被仰付、四月十一日出立

一同年五月十三日今般於御国表諦観院様御靈屋御普請出来候処、右御用掛リ出精ニ付御召御帷子一被下之

一同十三寅四月廿五日御鷹支配被仰付、御鶉支配之義ハ御免被成候
一同十四卯江戸詰被仰付、四月四日出立

一同年十二月廿八日当秋神田橋御住居江戸御立寄御用掛リ出精ニ付御褒詞

一文久元酉四月九日帰着

一同廿五日太田御陣屋詰中横浜表江長々御人数出張之節、致心配候ニ付御褒詞之上手助一手綱一被下置候

一同二戌九月八日思召被為在候ニ付、御懇意之御取扱ニ被仰付、日々朝之内御座所江相詰、支配向々厚心を尽し可申談旨、且御尋之儀も可有之御直へも可申上、尤評定所御用部屋江も無案内罷出可申達旨、猶又御用人同様之振合、毎朝御機嫌伺等も御用人一列ニ罷出可申上旨

一文久二戌十二月十二日御番組引纏京都表へ罷越候様被仰付

一同三亥正月十九日役儀其儘御用人奏者兼

一同年二月十二日上京出立

一同年五月廿二日御軍帳御変革ニ付掛リ被仰付

一同年八月廿日役儀不参届趣相聞御役御免遠慮被仰付、九月十日御免、席仙石伯耆次

一元治元子四月十一日御軍帳御割替ニ付、農兵二組酒井外記方江御附被成候ニ付、外記方江申談致世話候様、且又農兵之義ニ付而ハ掛リ西尾十左衛門江申談候様被仰付

一元治元子四月十九日酒井外記方御用多ニ而調練出勤無之節ハ、荻野小四郎へ都而申談致世話候様被仰付候

一同年六月五日運正寺火消被仰付

一同年八月廿三日御用人御奏者兼被仰付、支度出来次第江戸詰岡部造酒助与致交代候様被仰付、詰中御足高五拾石被下置候

一八月晦日江戸表へ出立

一慶応元子四月廿六日江戸表方早駆ニ而帰

一同年閏五月十八日二番之補兵隊頭并御用人御奏者兼勤被仰付候、月番之

儀ハ御免

一同年七月十日御軍制掛リ被仰付、厚申合早々取調候様被仰付候

一同二寅十一月三日御趣意ニ付補兵隊頭之儀ハ御免被成候

一同三卯正月廿二日役御番支配被仰付、引渡之席被仰付

但右ニ付中ノ口致往来候様被仰付

一同四辰二月七日病死

荒川多芸津 常吉

〔士族〕

三拾五人扶持

一慶応四辰三月廿七日親十右衛門家督、幼年ニ付御定之通御扶持方三拾五人扶持被下置、寄合之席被仰付候

一明治二巳十一月廿八日今度給禄御改正被仰出候処、元知ヲ以適宜御改正之上、更御規定之通米百六十三俵式斗三升五合可被下候処、幼年ニ付九拾八俵五升被下候

一同年十二月五日修業生被仰付候事

米百六拾三俵式斗三升五合

一同三午正月十日十五歳相成候ニ付、米百六拾三俵式斗三升五合被下候事

一同三午七月十七日常吉事多芸津ト改

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役ト唱



荒川助右衛門

百五拾石 外役料百石

元禄十五年閏八月十一日養父宗兵衛跡目無相違被下、御使番
宝永七寅六月十八日被仰付御持弓

享保二酉六月十九日被仰付西尾源太左衛門跡

同戊三月十九日御目付役大野三左衛門跡

荒川助右衛門

百五拾石 外役料百石

享保四亥五月十六日御手廻被召出、御合力銀被下

同九辰十月十一日御供目付平岡金左衛門跡

同十巳八月廿五日父助右衛門跡知被下、御供目付其儘御合力銀上ル

同十七子閏五月廿八日御使番加藤所左衛門跡

元文四未三月三日御先物頭長谷川武右衛門跡

寛保二戌八月十三日御役御免大番入、遠慮

寛延元辰三月廿五日京都御留守居御目付兼、御勝手御用も御奉行共申談

可相勤旨、二三年相詰可申旨、御役料被下、川村郷右衛門跡

同三年十一月五日京都役御免、末之番外

荒川助右衛門

百五拾石 役料百石

宝曆元未十一月十六日父助右衛門跡知無相違被下、大番入

同十辰八月十六日御手廻り、御書院番入

明和五子七月廿日御次詰

同七寅五月廿八日御小道具方田口惣兵衛跡

同九辰六月十四日御小姓頭取大関彦兵衛跡

安永四未二月十四日御近習番頭取、御書院番入

同五申五月十六日御近習頭取其儘二而御膳番

同八亥二月廿四日御書院二番筆頭

同九子八月四日御部屋御腰物方飯嶋三五左衛門跡

天明五巳六月十一日御使番尾高小右衛門跡、御役料百石

同六年閏十月十五日御目付助海福久右衛門跡

寛政二戌八月十五日御目付奈良太郎右衛門跡

同九巳九月廿日御簾奉行海福久右衛門跡

荒川助右衛門 助右衛門 金左衛門

百五拾石

寛政九巳十二月十六日父助右衛門跡知無相違、大御番入

同十年二月廿三日御近習番被仰付、御書院番入

同十一未九月十八日御附御用人支配

同十二申二月廿九日御附御不用二付大御番入

同十三酉二月十四日表御小性

文化十三子四月廿九日若殿様奥御納戸

文政五年六月廿四日御留守作事奉行長谷川源之進跡

同六未三月廿九日御先作事奉行野中健藏跡、御役料百石被下置

文政八酉十一月三日御側物頭奈良權太夫跡被仰付

文政十一戌四月江戸表を罷歸り候節、中仙道加納駅二而病死四月

荒川宗兵衛 熊三郎

百五拾石

文政十一、五月廿九日家督無相違百五拾石被下、大御番組へ被入
同十二寅十月十五日若殿様御近習番

天保六未六月五日超倫院様御逝去ニ付御役御免、大御番入

荒川万吉

百五拾石

天保十二丑年閏正月十六日親宗兵衛家督百五拾石無相違被下置、無役御
留守番組へ被入

荒川助尾

百五拾石

小三郎 助右衛門 隱居後汶水 実萩野治郎左衛門弟
一嘉永元申正月十六日養父万吉病身内願ニ付休息、家督無相違被下置、大
御番組江被入

一同年九月十五日御近習番被仰付、御書院番組江被入

一同四亥年江戸御供詰

一同四亥九月廿日御書物方市橋環藏跡被仰付候

一同五子六月九日御裏役市橋環藏跡被仰付候

一同六丑年江戸詰、三月御供ニ而出立

一同年九月十八日奥御納戸役被仰付候

一安政二卯年正月十五日御手元御文筆御用御書物方兼帯被仰付、役儀之儀
ハ御免被成、奥御納戸役順席ニ被成下候

一安政三辰五月六日御世譜方被仰付候、席其儘御書物方兼帯、御近習ニ被

指置、御手元御文筆御用之儀ハ御免被成候

一同六未三月廿日御世譜方御用引受被仰付候、但御取扱是迄之通

一同七申三月廿日御内移有之願之上助右衛門与名替

一万延与改元、七月十一日役儀其儘御膳番格ニ被仰付候

一文久三亥二月十日殿様御上京御供ニ而出立、三月六日御供ニ而帰着

一元治元子二月廿日格式末ノ番外御時宜役被仰付候

一同年十二月賊徒一件ニ付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応二寅十一月三日今度御軍制御変革之御趣意ニ付、御広間当番勤被仰
付候

一同年十一月廿九日御使番格ニ被仰付、年々銀三拾枚ツ、被下置、役儀之
義ハ御免被成候

一同三卯五月廿九日席其儘御使番役、御役料五拾石被下置候
但御役料被下置候ニ付、是迄年々被下置候銀三拾枚之儀ハ已後不
被下候

一同四辰八月廿九日内達之趣も有之二付御役御免被成、御広間当番勤被仰
付、末ノ番外ニ被仰付

一明治二巳二月十九日外塾師被仰付、月給八俵

一同年六月廿一日助右衛門事助尾ト改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八拾式俵壹斗式升壹合被下

一同月廿七日御改革ニ付役儀被免

一同年十二月二日訓蒙被仰付候事

一同三年六月廿三日内願之通訓蒙被免、且老年ニ付隱居被仰付

一同年八月十三日助尾事汶水

荒川源次郎

午十式歳

〔士族〕

米四拾九俵壹斗六升四合

一明治三年六月廿三日父助尾内願之通訓蒙被免、且老年二付隠居被仰付、幼年二付御規則之通家督米四拾九俵壹斗六升四合被下、修業列被仰付候事

米八十式俵壹斗貳升壹合

一同年七月四日水戸小膳伯父猪太郎江代勤為致度旨願之通被仰付候、依之給禄米八拾貳俵壹斗貳升壹合高二被成下候事



荒川徳左衛門

廿五石五人

元禄四未閏八月五日父三郎太夫跡目五石二人扶持

宝永四亥十月十八日御切米被下

享保五子十二月廿六日仕立弘御納戸高田藤太夫跡

同十二未七月廿九日御役御免

同十四酉十月十一日御祈禱奉行小倉平兵衛跡

同十七子五月廿九日御代官宇貝八郎右衛門跡

元文三年九月御吟味之上席御上ケ被下

荒川三郎太夫

廿五石五人

延享二うし正月廿九日養父徳左衛門休息、家督無相違被下、大番入

宝曆六子正月十六日番改波々伯部市右衛門跡

明和七、六月廿日御代官、御留守番入

天明元丑十二月十一日於在方心得違之義有之二付役義御免、大番入、遠慮

荒川九郎次

廿五石五人

天明五巳八月廿日父三郎太夫休息、家督無相違、大番入

文化八、九月廿九日休息

荒川三郎太夫 平吉

廿五石五人

文化八、九月廿九日親九郎次家督無相違、御留守番入

同九申十月十九日無役御留守番入

文政三辰八月十一日大御番入

文政十一子三月十一日御内御右筆栗原作太夫跡

文政十二丑十二月十六日御留守武具奉行雨森彦左衛門跡被仰付

天保五年六月十六日御持武具奉行柳下勘七跡、御書院番組入

同七申三月五日用水奉行吉倉茂右衛門跡

天保九戌十二月十六日御代官役栗原作太夫跡

荒川徳左衛門 簡平

廿五石五人

一嘉永三戌三月廿九日養父三郎太夫家督無相違、廿五石五人扶持被下置

一安政元寅十二月廿八日徳左衛門与改

一同二卯四月十八日病死

荒川平吉

〔士族〕

式拾五石五人

一安政二卯六月八日親徳左衛門家督廿五石五人扶持無相違被下置、大御番

無役組江被入候

一文久三亥二月十二日番頭引纏上京

一同年八月廿六日早速上京被仰付、同廿九日出立

一元治元四月宰相様御供二而帰

一同年五月十一日上京中不埒之趣相聞遠慮、六月朔日御免

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒被下置候

一同年七月四日京都へ出立、八月廿三日帰着

一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張、二月廿三日帰

一慶応二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年六月廿日砲術所世話役被仰付

一同年十二月廿二日砲術所世話役格別致出精候二付銀拾枚被下置候

一同三卯三月十日御上京御供出立、直二御警衛詰七月十八日帰

一同四辰四月三日京都御警衛詰出立、閏四月十五日帰

一同年閏四月十一日郡方吟味役見習并山方御坂掛り被仰付、御留守番組江被入候

一同日小者給一人扶持銀三百匁被下置候

一明治卜改元、十月十一日御代官役并郡方吟味役兼、南部源次郎跡被仰付

一明治二己正月四日御代官郡方吟味役其儘川方兼被仰付

一同年二月十七日民政局庶務方下被仰付、月給十五俵、役米八不被下候

一同年六月十七日民政局庶務方引立方被仰付、月給米是迄之通

一同年十一月廿一日今般御改革二付、役義被免候事

但付送り之義ハ追而御指図相待可申事

一同日民政局少属被仰付候事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合被下

一同三年正月十日治水堤防等格別致精勤候二付金三百疋被下候事

一同年十二月十二日権少属心得勤 年給十九俵

但民政寮出仕

一同四未六月朔日御改正二付免職

荒川⁴

侍御削追放

※「剝札」あ末にあり

荒川安太夫

百五拾石

貞享三寅六月十一日父彦太夫家督三百石半知無相違被下

荒川彦太夫

百石

宝永五子九月廿九日養父安太夫跡目被下、但父彦太夫儀府中^方被召出、依之席百五拾石之時式百之百石二成候末座へ被指置候処、鐘之師役仕候

二付

正徳二辰三月十九日席常座へ被仰付、則当十九日師役被仰付

荒川彦太夫

百石

享保十六亥七月廿五日養父彦太夫跡目被下、家業之鎧後見鈴木源兵衛・

市村五太夫・矢野権平相談仕候様

延享二丑四月廿二日師役

安永二巳正月十六日御書院番入

天明二寅八月廿五日家業出精二付格式末之番外

同八申八月十日御纏奉行山名次郎右衛門跡

天保五年八月廿五日荒川彦太夫家芸之儀格別訳合も有之候得ハ、高弟共厚申談相弟子之面々引立為致修行、流儀退転不致候様被仰付、但稽古所之儀ハ其儘御貸被成候事

高弟共

御徒中山真佐右衛門 江戸詰西村仙右衛門 河村三太夫

岡田喜右衛門 八田金右衛門 高坂武右衛門

江戸佐野権蔵

荒川团次郎

百石

天明八申十月廿日養父彦太夫跡知無相違被下、大御番入、師役

文化七年十月五日与内立合伊藤助十郎跡

同十二亥七月十八日御書院番入

文政元寅六月十六日御札所奉行畑中久兵衛跡被仰付

文政十亥年九月廿四日役儀其儘末ノ番外席被仰付

文政十二丑八月廿九日隠居

荒川一郎 太次兵衛 原蔵 源内

〔士族〕

廿三石五人

一安政二卯八月三日かとか

一慶応二寅十月廿二日御趣意二付被召出新番並組二被仰付、御充行之儀ハ

廿三石五人扶持被下置候、且又席之儀ハ家督順二被仰付候

一慶応三卯八月五日第一級二相進候二付、花葵御紋御印被下置候、但胴乱

纏革之内へ付可申事

一同年九月廿七日当冬京都御警衛詰被仰付、詰引揚支度出来次第致出立候

様被仰付、十月六日出立

一同年十月十一日詰中大砲方御雇被仰付候

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同年十一月十七日先般堺町御警衛心配相勤候二付、御酒被下置候

一同年十二月廿八日太次兵衛事原蔵卜改

一同四辰二月晦日帰

荒川彦太夫 列吉

百石

文政十二己丑年八月廿九日親团次郎隠居、家督百石無相違被下置、大御

番組へ被入、流儀之鎧師役被仰付

天保五年八月廿五日不埒至極之趣相聞候二付侍御削被成、御国内十三里

四方追放被仰付候、但流儀之書物御取揚被成候

一 同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一 同年閏四月七日上京、九月十八日帰

一 明治二巳四月九日中納言様御供、東京江出立、六月八日御人減ニ付帰

一 同年六月十七日御近習被仰付候事、御小姓勤、月給六俵

一 同月廿七日原藏事源内卜改

一 同年九月十一日源内事一郎卜改

一 同年十一月七日御家従被仰付候事

但奥詰

一年給式俵被下候事

一 同月廿五日今般御改革、更給禄米五拾俵壹斗五升被下

一 同三年九月十三日任権少属、但民政寮引立方

一 同年十二月十二日職務被免候事

一 同日非役江被入候事

一 同五申七月十九日第七区与力町組副戸長



6

荒川団治 喜代太 順之助 順之介

〔士族〕

拾五石三人

一 嘉永五子十一月十四日被召出、年数も無之候得共、家業宜ニ付御取立被

成新番格被仰付候、此上猶更家業秀候様致修行引立方等も厚致心配候様

被仰付、尤御徒勤之義ハ御免被成候

但御引立已前御記録御用綴ニ有之

一 同六丑三月廿二日家業之義ニ付願之上江戸表へ出立、五月十七日帰着

一 安政二卯三月十六日年来剣術厚相心掛重キ手数江も相進候ニ付、花葵御

紋付御扇子被下置候、精々稽古所江も罷越師匠申談引立候様被仰付候

一 安政三辰十一月十一日家業宜敷ニ付新御番組江被入、御足充行三石被下

置候

一 同四巳四月廿二日数代指南相勤別而近來出精太儀ニ思召候、依之御目録

銀五枚被下置候

一 同五午三月廿日家業厚心懸候ニ付猶以広く致修行可然候、依之百日御暇

被下置候間他邦江罷越厚精調致し候様被仰付、四月五日出立

一 同年四月六日諸国廻国致出立候、六月七日帰着

一 同年六月十一日武芸所開館以來困窮相勤少御充行ニも候へ者、御足式人

扶持被下置候

一 同五午九月廿五日今般他国修行被仰付太儀ニ付、銀壹枚被下置候

一 同六未四月十一日山田五平太拜地之内百坪余御用地ニ被仰付、右御用地

被下置、是迄之居宅其儘建被下候

一 同年七月五日先達而右同断之处、浅見仲右衛門拜地之内百坪余當時不用

ニ付御茶園地ニ指上、今度喜代太へ被下候御用地与振替之上、右地面へ

家作致度旨、願之通被仰付候

一 文久三亥八月廿九日稽古所建地野田喜平次拜地之内ニ而被下置候

一 元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、御手当三百匁被下置候

一 元治二丑正月十六日御舍御用有之敦賀表江罷越候様被仰付候、同十六日

出立、御内御用ニ而二月九日京都江罷越、翌十日同所出立、敦賀表へ立

寄、同十二日早かけニ而帰着

一 同年三月七日右出張太儀之段御褒詞

一 同廿日年来家業厚致心配候ニ付大御番組へ被入御足充行式石御増、都合

五石式人扶持被下置候

一慶応与改元、五月廿五日賊徒一件別段骨折候二付、銀二枚被下候

一同年閏五月十一日御趣意二付役御番組江被入候

一同年十月五日御含御用有之京坂へ被差出、早速出立致し候様被仰付、同

七日出立、十一月九日帰

一慶応元丑十二月廿八日順之介与名替

一同二寅十月廿六日軍事方被仰付

一同年十一月十四日支度出来次第京都御警衛詰被仰付、同廿六日出立

一同三卯四月四日御上京御供振替り帰

一同年九月廿九日御軍事局調役被仰付

一同年十月十六日御軍事御用二付早速上京被仰付、廿一日出立

一同年十一月十一日御都合も有之二付勝手次第御国表江罷帰候様被仰付、

然ル処御指留

一同年十二月十九日昼夜格別致精勤候二付金三百疋被下置候

一同四辰三月十九日昨年来格別骨折相勤候二付御褒詞、同廿四日帰

一同年五月廿日出精相勤候二付年々銀拾枚ツ、被下置、席上ケ被仰付

一明治二巳二月十七日軍政局庶務方被仰付、月給十俵

一同月廿日槍術師役已来被免候

但相手寄候者へ相談可為勝手事

一年来流儀致世話勤方被思召候、仍金貳千五百疋被下置候

一同月廿二日奥羽越御人数出張中格別勤勞二付金貳両被下

一同年六月十二日順之介事团治卜改

一同月廿六日学校庶務方兼被仰付候事

一同年十一月廿七日今般御改革二付軍務寮庶務方被免候事

一同月廿八日学校大管務被仰付候事

一同月 今般御改革二付、更給禄米三十五俵四斗五升下賜

一同三年七月十七日当分一人ツ、寄宿所当直可相勤候事、但五人也

一同年九月四日寄宿所当直被免

一同日任寄宿所取締兼大管務 但十三等

一同年十二月十二日権大属心得勤 年給三十八俵

但寄宿所取締

一同四未六月朔日御改正二付免職

一同年十一月二日第七区戸長申付候事

一同五申正月廿七日右同断

一同年七月十九日第六区戸長申付候事

渥美

渥美新右衛門

六百五拾石 外役料百石 内四百石与力四人

寛文二寅十一月廿五日於江戸被召出

翌卯七月於御国新知四百石被下

貞享二丑四月廿九日百石御加増、都合五百石之処

同三一統半知被下、町奉行、御加増同日被仰付寺社共二

渥美新右衛門

二百五拾石 役料百石

正徳元卯十一月七日父新右衛門隠居、家督無相違

享保二酉八月廿一日大番二番筆頭

同六丑九月十五日御使番杉田段七跡

同十三申十月十六日於江戸御杉形奉行太田三郎兵衛跡

同十五戌九月五日御目付土屋十郎右衛門跡

渥美新右衛門 隱居

式百五拾石 役料百石

元文五申八月廿一日父新右衛門跡目、幼年二付御扶持方二十五人被下、御留守番入

寛保三亥二月十六日新知二百石御直被下、大番

宝曆七丑七月五日大番六番之筆頭加藤所左衛門跡

宝曆十一巳六月五日御使番荻野弥三左衛門跡、御役料百石

明和五子七月九日御杉成奉行中根九右衛門跡

同九辰六月十四日御側物頭長谷部次郎兵衛跡

安永三年六月廿六日御目付杉浦幸右衛門跡

同四未二月朔日御預所御目付席御表目付次

同七戌六月廿二日御預所元締役加藤長右衛門跡席御奉行次

同八亥正月十六日御奉行順席

同年五月十六日寺社町奉行鈴木藤十郎跡、与力御預被成

天明四辰五月廿四日金津奉行鈴木藤十郎跡、定番外席荒川主稅次

寛政十一未八月廿日役儀出精相勤二付、御加増五拾石被下置

享和三亥二月廿二日隱居

式百五拾石 役料百石

享和三亥五月廿二日父新右衛門年寄候二付隱居被仰付、家督無相違、席

菅沼十左衛門次

文化十五寅正月十六日金津奉行荒川十右衛門跡被仰付候、御役料百石被

下置候

文政七申八月六日内願隱居被仰付、折々御機嫌伺二罷出候節中ノ口往来

渥美新右衛門 亘

式百五拾石

文政七申八月六日養父太郎左衛門家督無相違被下置、定座番外席村上沖之介次

文政十二丑六月廿三日御側向頭取被仰付、御役料百石被下置、支度出来

次第江戸詰被仰付候

同丑八月十三日小栗九右衛門家屋敷江替被下候

天保七申正月廿日触頭鈴木彦太夫跡

同十五辰九月十六日役義其儘御家譜物書次、取調御用掛り兼

弘化三年四月朔日病死

渥美直記 直記 新右衛門 実山田喜太郎弟

式百五拾石

一 弘化三年五月廿五日養父新右衛門家督式百五拾石無相違、定座番外被仰付候

一 嘉永六丑九月廿九日金津奉行鈴木主稅跡被仰付候

一 安政三辰六月廿八日格別之思召を以寺社町奉行被仰付候

渥美太郎左衛門 三郎兵衛

一同五年七月廿五日御名乗ニ指合候ニ付新右衛門与改

一同年十二月十一日今度外国奉行始湊為見分御通行之節、出精之段御褒詞

一同六未十月十一日格別之思召を以御預所元締役被仰付候、且又長谷部甚

平家屋敷へ替被下候

一文久二戌四月廿六日御役御免被成、御役料其儘御近習ニ被指置候

一同年五月十九日思召を以長谷部甚平出府留守中、寺社町奉行相勤候様被

仰付候

一同三亥七月廿六日家屋敷平本但見家屋敷江替被下候

一同年十月七日触頭白石十郎右衛門跡被仰付候

一同年十一月十六日折々御機嫌伺罷出中ノ口致往来候様被仰付、御坂札壹

枚被下置候

一元治元子四月十九日酒井外記方御用多ニ而調練出勤無之節ハ、荻野小四

郎都而申談致世話候様被仰付候

一同二丑三月十一日波多野五郎左衛門家屋敷江替被下候

一元治元子十二月賊徒一件ニ付御供ニ而出張、依之銀八百匁被下置候

一慶応与改元、四月十五日波多野五郎左衛門家屋敷へ替被下候処、難洪之

趣も相聞候ニ付為造作料銀貳貫匁被下置候

一同年十一月廿九日格別之思召を以寺社町奉行平本但見跡被仰付

一同二寅十月十三日御趣意ニ付以來評議席江罷出御用申談候様被仰付

一同三卯四月廿五日倅英之助御叱ニ付遠慮伺之上指扣、同廿八日御免

一同四辰四月五日北陸道惣督御通行之節心配相勤候段御褒詞

一同年五月四日寺社奉行其儘町奉行之儀ハ御免被成候

一同年八月廿七日倅英之助御咎ニ付伺之上遠慮、九月四日御免

一同明治二巳二月十五日今般御藩政職掌御改革ニ付、御役儀御免被成、御近

習ニ被指置候

但年来勤功有之二付、為御慰勞年々貳十五金ツ、被下置候

一同年六月十六日新右衛門事直記ト改

一同年八月九日病死

渥美狭織^{サワリ} 英之助 直記倅

貳百五拾石

文久二戌二月学問為修行江戸表江差越、水野和泉守殿家来塩谷幸藏与申

者へ為相手寄申度旨願済、三月廿四日出立

一同年七月朔日願之上修行被仰付出府罷在候ニ付、右修行中御扶持方三人

扶持被下置候

一同年閏八月廿六日帰着

一同年十二月十五日中将様御上京御供御用ニ付江戸表江出立之処、御都合

ニ付途中方京都へ

一同三亥三月廿五日右御供ニ而帰着

一同年七月八日上京被仰付相止

一同年八月廿一日早速上京被仰付、廿二日出立、同四子正月廿八日御都合

も有之二付、御国表へ罷帰候様被仰付

一同四子二月五日京都方帰

一元治元子二月廿三日滞京中不行状之趣相聞候ニ付、移りを以御叱被成候、

依之慎、三月十六日御免

一同年三月廿九日、一昨戌十二月江戸表江罷出中将様御供ニ而京都表江可

罷越筈ニ而此表致出立候処、俄御船行相成候ニ付途中方京都へ罷出、夫

方大坂へ為御迎罷越御供ニ而京都へ到着之処、失却も有之趣ニ付金壹両

被下置候

一元治元子六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、依之銀式枚被下置候

一同年六月廿六日上京出立、八月廿三日帰着

一同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相働候段達御聽一段之事二被思召候、依之為御賞御小柄一被下置候

一同年十月十六日長征出陣、丑二月六日帰

一慶応元丑閏五月十八日補兵隊伍長被仰付

一同二寅三月十日定座番外以上補兵隊之義ハ御趣意ニ付被相止候

一同年同月十一日三番補兵隊伍長勤向被仰付候

一同年四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋、且又戦功ニ付式千五百疋被下置候

一同年十二月廿六日嚮導被仰付

一同三卯三月廿六日分隊司令士被仰付、是迄之通年々銀拾枚ツ、被下置候
一慶応三卯四月廿五日於補兵隊中自己之取斗方有之趣相聞候ニ付、御叱被成候、且又分隊司令士之儀ハ内達之通御免被成候、但是迄被下候銀拾枚之儀ハ已後不被下候

但右ニ付親新右衛門儀も恐入父子共遠慮伺之上指扣、五月二日御免

一同年十月廿二日第一遊撃隊御雇被仰付、御雇中年々銀三拾枚ツ、被下置候

一同廿三日後拒役被仰付銀式拾枚御増、都合五拾枚ツ、年々被下置候、役中其隊之上席ニ被仰付候

一同年十一月二日宰相様御上京ニ付速見迄御見送り出立、同七日帰

一同年十一月廿六日宰相様御滞京中為御備支度出来次第上京被仰付、同廿九日出立

一同四辰四月十日帰

一同年四月廿五日被召出四番之遊撃隊長被仰付、御扶持方五人扶持被下置、格式末ノ番外ニ被成下御足五人扶持、外ニ御役料廿五石被下置候

一同月廿七日四番之遊撃隊支度出来次第京都御警衛詰被仰付、引纏致出立候様被仰付、閏四月七日出立

一同年八月十九日御都合有之二付御国表江罷帰候様被仰付、同廿四日帰

一同月廿七日在京中不行状之趣相聞、隊長ニも不似合心得違至極ニ付、被召出并遊撃隊長御免被成逼塞被仰付、九月廿七日御免

一明治与改元、十二月廿八日英之助事狭織与改

一同二巳九月廿九日父直記家督式百五拾石無相違被下、予備隊江被入候事
但山川主弥次

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百式拾六俵四斗三升四合被下候

一同三午五月廿四日第一大隊一番小隊入被仰付候事

一同年十二月常備歩兵隊二番伍長 年給九俵

一同四未十月九日病氣依願右被免候事

一同年十二月十五日給禄之内五拾俵弟小五郎へ分禄願之通

一同五申七月廿五日病身ニ付弟小五郎へ家督

渥美小五郎

〔士族〕

米百式拾六俵四斗三升四合

但昨年十二月分禄之处合禄願



渥美助左衛門

式拾五石五人

宝永四亥八月廿九日被召出、養父助左衛門拜知百五拾石ハ此節被召上
享保五子十一月十一日御預所御金奉行被仰付

同十五戌八月五日御代官吉池角左衛門跡、私云養父助左衛門長病ニ付、
御内意を以井原丞助三男を養子ニ相願候由

渥美助左衛門

廿五石五人

宝曆七うし三月十一日父助左衛門休息、家督無相違、大番入

同九卯八月十一日御代官、御留守番入

同十一巳四月十六日御代官御免、大番入

明和四亥三月十六日御代官高階勘左衛門跡、御留守番入

渥美助左衛門

廿五石五人

寛政三亥三月廿九日父助左衛門年寄候ニ付休息、家督無相違、大番入

渥美助左衛門 佐之助

廿五石五人

寛政十年十一月十六日父助左衛門跡目無相違、大番入

文政二卯七月廿三日御番改松尾伝藏跡

文政十三寅四月十一日用水奉行木内甚兵衛跡被仰付

天保四巳三月十六日御代官役中村多左衛門跡被仰付

天保十亥九月廿九日御勘定吟味役本多茂兵衛跡

同十三寅七月十六日御預ケ所御代官伊黒源五右衛門跡

同十五辰六月廿日休息

渥美無年二 佐太郎 助左衛門 無年右衛門

廿五石五人

〔士族〕

一天保十五辰六月廿日父助左衛門休息、家督廿五石五人ふち無相違被下置、

無役御留守番組江被入候

一嘉永三戌十二月廿八日佐太郎事助左衛門与名替

一安政四巳四月廿二日御製造方見習被仰付候

一同年五月廿九日火薬製法振退相勤候様被仰付候

一同五年十一月十六日制産方被仰付候、同日出精相勤候ニ付銀三百匁被下

候

一同六未十二月十六日御勘定吟味役被仰付、御留守番組へ被入候

一万延元申六月廿六日御番皆勤ニ付時服被下

同年九月江戸詰出立

一同年九月廿五日詰中表御納戸役兼帯被仰付候

一同年十一月十八日巢鴨御屋敷御普請ニ付出精之段、御褒詞之上金五十疋

被下置候

一文久元酉五月十三日御用有之御国表江立帰被仰付帰着、折返シ十七日出

立

一同年七月朔日来戌ノ秋迄詰越被仰付候、同年九月廿九日帰着

一同二戌四月七日先達而御持場替一件御用掛り出精之段、御褒詞之上銀壹枚別段金貳百疋被下置候

一同年九月十一日制産方吟味役之儀も打込勤被仰付候

一同年九月十四日一昨年来臨時御用多之処格別出精相勤、別而昨年御国表御内用有之立帰罷越候二付、別段之御評議を以御紋御袷被下置、且又詰中表御納戸役兼帶相勤候二付、金貳百疋被下置候

一同月廿五日一昨年来諸役所向御締り方等出精相勤候二付、金百疋被下置候

一同三亥八月十九日今度三ノ丸御普請御用掛り被仰付候

一同年九月廿七日内達も有之二付、油町南地壇原次郎右衛門罷在候家屋敷へ替被下候

一元治元子二月廿九日出精相勤候二付、勤中御足三人扶持被下置候

一同年三月廿九日三ノ丸御普請中御作事改役同様相心得、振退相勤候様被仰付候

一同年十月十五日長征出立、夫々婦掛ケ京都江立寄、丑二月廿八日帰

一慶応元丑五月廿八日御趣意二付役御番組へ被入候

一同年閏五月廿日昨秋征長御供二而罷越候節、御用向別段致心配候二付銀壹枚被下置候

一同年七月十一日三ノ丸御普請中格別出精二付、御紋御上下一具銀三枚被下置候

一慶応二寅二月五日当春江戸詰被仰付、三月十九日出立

一同年十二月七日御近火之節格別骨折御褒詞

一同三卯四月十二日詰中表御納戸役兼帶相勤候二付金貳百疋并御金奉行兼帶二付金貳百疋、且又諸役所向御取締方出精二付同百疋被下置候

一同廿六日帰着

一同年七月廿六日今度於御座所御建繼御普請被仰出候二付、御用掛り被仰付

一同四辰四月十一日北陸道総督御通行之節格別心配相勤候二付、御袴地一被下置候

一同年五月九日御勘定元締役被仰付、席末ノ番外格二被成下、御役料五拾石被下置候

但御役料被下置候二付、是迄被下置候三人扶持之儀ハ已後不被下候

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰

一明治与改元、十二月廿八日無年右衛門与名替

一同月十一日諸局御道具調被仰出候二付、取調御用掛被仰付

一同二巳正月廿六日御用有之二付早速上京被仰付、翌廿七日出立、三月廿四日帰

一同年二月十五日司計局承事被仰付候、月給米七十俵、御役料ハ不被下候

一同月廿二日会征長々出張太儀思召、仍式十金被下

一同年六月廿日無年右衛門事無年二卜改

一同年十月十六日以当役物価調掛り被仰付候事
但市民政局へ出勤幹事可申談候事

一同年十一月朔日今般御改革二付、役義被免候事

一同日役義被免候得共物価調掛り之儀ハ是迄之通被仰付候事
但等級月給米当分是迄之通

一同月廿一日今般御改革二付、物価取調掛り被免候、但席水野彦藤次
一同日民政局権大属被仰付候事

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五十三俵壹斗四升三合被下
一 同三年四月十九日引立方被仰付候事

一 同月廿五日北越出張軍事精励二付、御賞典之内式拾石三ヶ年令領授候事

一 同年七月廿三日武生御支配被仰付、民政寮権大属可為是迄之通候事

一 同年八月廿二日武生町支配之儀ハ被免候事

一 同月廿五日武生町支配被仰付出張罷在候处、市中動揺之御職務不参届二付、本官被免優待列江被入謹慎被仰付、九月十六日被免

一 同年十月五日任少属、但民政寮勤 山林方

一 同年十二月十二日任権少属 年給式拾八俵

但会計寮勤仕

一 同四未六月朔日御改正二付免職

一 同十八日藩庁出仕

但山林方

一 同廿四日任福井藩権少属

但同断

一 同年十二月廿日免本官



浅井源左衛門

式百石

於松岡御奉行御相統後

享保七寅十一月九日御役御免、席御先物頭

浅井弁左衛門

二百五拾石 役料百石

享保九辰七月廿九日養父源左衛門隠居、家督無相違、大番入

同十巳八月廿八日表御小姓

同十五戌七月三日中奥

同廿一辰五月廿一日御膳番御書院番筆頭

元文三年五月十三日御使番、役料百石高坂武右衛門跡

同四未四月廿一日御留守居見習

同年十月九日本役

延享元子九月十九日御先物頭順席、弓組御預荒川十右衛門跡

同二うし閏十二月九日五十石御加増

同三寅七月七日御旗奉行白石十郎右衛門跡

寛延二巳六月五日御奉行小栗次右衛門跡

宝曆七うし十月十六日御役御免末之番外、加藤半左衛門次

同十三未二月十六日御先物頭、御役料百石被下林忠太夫跡

明和五子七月廿八日御普請奉行海福瀬左衛門跡

浅井弁左衛門 隠居

式百五拾石 役料百石

安永三年七月五日養父弁左衛門跡知無相違、大番入

天明八申六月廿五日大番五番筆頭川瀬次太夫跡

寛政五丑七月十一日御留守物頭山崎藤五郎跡

同八辰十月四日御先物頭相沢八郎右衛門跡、御役料百石

浅井弁左衛門 権三郎

式百五拾石

寛政十一未九月廿九日父弁左衛門隠居、家督無相違、大御番入

文化八未二月廿日御腰物数寄方奉行波々伯部八十八跡、御書院番入

文政三辰九月晦日末之番外、御時宜役

同五年九月晦日杉形御鐘奉行武田平太夫跡、御役料百石被下

文政十亥二月十六日病身内願二付御役御免、御使番次席二被指置

文政十二丑七月廿日御札所目付今村伝兵衛跡被仰付、御役料百石被下置

御役人並被仰付、御側物頭次席、但シ中村太郎左衛門次

一嘉永二酉年十二月廿三日親八百里家督式百五拾石無相違被下置、大御番組江被入

一同三戌年九月十七日御小姓堀連之助跡被仰付

一同四亥年江戸御供詰

一同六丑三月廿二日御供出立

一安政二卯江戸御供詰

一同年十一月七日御小姓頭取定助被仰付候

一同三辰八月廿六日御小姓頭取被仰付候

一同四巳四月廿五日江戸御供詰出立

一安政五年七月六日中将様御附御小姓頭取被仰付候

一同五年十月五日帰着

一同年十一月八日明道館へ罷出、学問致修行候様被仰付候

一同六未二月十一日御書院番組へ被入、御膳番格二被成下、御近習二被指置候、且又明道館へ罷出、学文致修行候様被仰付候

一万延元申八月廿日中将様御附御近習頭取川村藤市郎跡被仰付、支度出来

次第江戸詰被仰付候、役席小栗五郎太夫次

一同廿九日江戸詰出立

一同二酉正月廿二日於江戸表郡奉行岡田喜八郎跡被仰付、御役料五拾石被

下置候、二月十三日帰着

一同文久与改元、五月三日御役人並被仰付、御城代支配被指除候

一同三亥五月廿二日席其儘御先新物頭御供頭兼帯河合太郎太夫跡、御役料

都合百石被下置候

一同年八月四日御目付役出淵伝之丞跡被仰付、且又御参府御供被仰付候、

八月十七日出立

浅井八百里

式百五拾石

文政十三寅十二月十日祖父弁左衛門隠居、家督二百五拾石無相違被下置、

大御番組江被入

天保十一子二月廿九日御近習番被仰付、御書院番組へ被入、当秋江戸詰

天保十四卯七月廿二日格式末之番外御読書御相手御近習二被指置

天保十五辰五月廿三日御側向頭取見習、御水主頭次席御役料五十石

同十五辰八月廿四日御側向頭取前波忠兵衛跡、御役料都合二百石

弘化三年七月九日席其儘御目付役太田三郎兵衛跡

嘉永二己酉閏四月廿五日御預所掛被仰付

同酉十一月二日病死

浅井政由 弁之助 権十郎

式百五拾石

〔士族〕

- 一 同年十二月江戸方御上京御供、子二月御帰国御供
- 一元治元子七月十三日此度為御名代本多興之輔方上京被仰付候二付、右興之輔方為指添被遣、同十六日出立、同月廿八日早駆帰
- 一 同年七月廿四日弟常次郎義致戰死候二付、石碑之義ハ上方御建被下候
- 一 同年八月廿五日今度御上京御供被仰付、廿八日出立、夫方長征、丑三月帰
- 一 慶応元丑七月十四日御用向有之二付京坂へ被差出、毛受鹿之介同道出立候様被仰付、八月朔日出立、寅六月十六日早かけ御用二而帰
- 一 同二寅六月廿一日御側物頭海福猪兵衛跡
- 一 同年十月廿六日席其儘御持物頭被仰付
- 一 同年十一月十六日宰相様御上京之節、組之者半小隊召連御供可被仰付候、兼而致用意置候様被仰付
- 一 慶応三卯三月廿九日右御供御免被成候
- 一 同年十月十八日小隊頭と被仰付候
- 一 同年十一月二日宰相様御上京御供出立
- 一 同四辰正月廿六日在京中軍監兼被仰付、但第一之方ト可心得候
- 一 同年三月三日右軍監兼御免、同七日昨年来格別骨折相勤候二付御褒詞
- 一 同年同月十二日京都方帰
- 一 同四辰五月廿五日御目付役被仰付
- 一 明治ト改元、十月十九日奥州会津表江出張被仰付、市村勘右衛門ト致交代候様十一月朔日出立、巳三月九日帰着
- 一 同二巳二月十五日監察被仰付、月給米七十俵御役料ハ不被下候
- 一 同月廿二日奥羽越御人数出張留守中格別致心配二付御褒詞被成下候
- 一 同年六月十五日軍政局承事軍監兼被仰付候事、但席其儘

- 一 同年八月二日大谷遜他国御用中御馬支配可取扱候事
- 一 同年十一月廿日支度出来次第東京江罷越候様被仰付候、同晦日出立
- 一 同月廿七日今般御改革二付、当役被免候事
- 一 同軍務寮權大属被仰付候事
- 一 同月今般御改革、更給禄米百廿六俵四斗三升四合下賜
- 一 同三年二月廿二日帰藩被仰付、三月十三日東京ヨリ帰
- 一 同年六月十九日当分武生取締被仰付候事
- 但取締リ之儀二付而ハ諸寮出張之向も附属同様可取斗事
- 一 同年七月廿二日武生取締被免候事
- 一 同年九月十日本官被免優待列江被入候事
- 一 同月十九日任權大属、但民政寮勤 年給五十四俵
- 一 同四未四月十二日藩庁一集相成候二付御改正中不及出仕候事
- 一 同年六月朔日今般御改正二付免職
- 一 同十五日任戸長
- 一 同年十一月二日免職
- 一 同五申五月權十郎事政由マサヨリ

浅井²

浅井常次郎

- 文久二戌十二月十五日中将様御上京御供御用二付江戸表江出立之処、御都合二付途中方京都へ
- 一 同三亥三月廿五日右御供二而帰着
- 一 同年七月八日上京被仰付相止

一 同年八月十七日御参府御供二而兄同道出立

一 同年九月七日御国表方被召連候無息之面々同様被仰付、勤中五人ふち被下置候

一 同年十一月十九日於江戸表御上京御供被仰付、同十二月御供出立、子二月御供帰

一元治元子三月廿九日、一昨戌十二月江戸表江罷出中将様御供二而京都表江可罷越筈二而此表致出立候処、俄御船行相成候二付途中方京都へ罷出、

夫方大坂へ為御迎罷越御供二而京都江到着之処、失却も有之趣二付金壹両為御手当被下置候

一 同年六月廿五日宰相様御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、依之銀壹枚被下置候

一 同廿六日御含御用有之早速上京被仰付五人ふち被下置、同廿八日出立

一 同年七月十九日京都堺町御門御固メ場ニおいて戦死いたし候、但一番鎗一慶応二寅四月廿四日堺町戦争ニ付、公辺方被下配当金千疋、戦功ニ付五千疋被下

浅井外卷 荒川敬之助 外卷

〔士族〕

万延二酉二月朔日太田御陣屋表江出立、同年四月九日帰着

一文久二酉十二月十六日中将様御上京御供御用二付江戸表江出立之処、御模様ニ付途中方京都江

一同三亥三月廿五日右御供二而帰着

一同年十一月九日中根鞆負同道京都江出立

一同四子正月九日中将様御附御小姓勤御雇被仰付、五人扶持被下置候

一同年正月十一日外卷卜名替

一元治卜改元、三月廿九日、一昨戌十二月江戸表江罷出中将様御供二而京都江可罷越筈二而此表致出立候処、俄御船行相成候二付途中方京都江罷出、夫方大坂江為御迎罷越御供二而京都江到着之処、失却も有之趣二付

金壹両為御手当被下置候

一同年四月廿三日宰相様御供二而京方帰

一同年六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、依之銀壹枚被下置候

一元治元子八月廿六日浅井権十郎弟常次郎義今度長州人京師乱入、堺町御門於御固場所ニ戦争之砌、致一番鎗拔群尽粉骨相働遂戦死候段達御聴、

存生二候ハ、被召出御賞賜も可有之処御残念ニ被思召候、依之思召を以一家御立被下常次郎為跡式百五拾石被下置、大御番組へ被入候間、親類共之内見立相願可申旨被仰付候

一同月廿七日右同断被仰出候処荒川十右衛門甥外卷儀、血統之者二付相統為致度旨願之通被仰付候

一元治元子八月廿九日宰相様御附御小姓被仰付候

一同年九月五日宰相様御馬廻り被仰付、右二付兩人ツ、昼夜当番被仰付候

一同年十月十四日今度長征御先備江罷出御奉公致度旨願之通被仰付、依之御馬廻り之儀ハ御免被成、大御番組被入出陣、同十五日出立、丑二月三日帰

一同二丑二月九日宰相様御馬廻り被仰付候

一慶応卜改元、九月廿二日永見司馬屋敷地之内御用地ニ而家屋敷被下置候

一同年十月朔日宰相様御出坂御供二而出立、同三日今庄方引戻二付帰

一同年十二月十二日中根雪江同道出坂

一同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日御供帰

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰着

一同年十月十八日小隊之分隊長被仰付、御書院番組へ被入候

一同年十一月廿六日殿様御上京被遊候節御供被仰付

一同年十二月十二日急々上京被仰付、十四日出立之処、御模様二付途中より

引返シ帰

一同四辰正月六日又々急々出立上京、閏四月十四日帰

一同年八月廿九日半小隊長林忠太夫跡被仰付、役義二付席末ノ番外格二被

仰付

一明治下改元、十一月朔日若松表へ出立、巳三月四日帰

一同二巳七月廿五日依病氣願役儀被免御広間当番勤被仰付候事、席高橋羽

次馬次

一 予備隊

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱



相沢六郎右衛門

貳百石

延宝八申年六月父六右衛門為跡目貳百五拾石被下、以後物頭被仰付

元禄十六未年二月物頭并五拾石被召上

相沢九郎右衛門

二百石 役料百石

享保十四酉六月五日父六郎右衛門休息、家督無相違

延享元子十一月十五日大番二番筆頭

宝曆二申六月廿五日御使番小川次郎兵衛跡、役料百石被下

同七うし四月廿二日御長柄奉行田辺平学跡

相沢八郎右衛門

二百石 役料百石

宝曆十辰二月廿九日父九郎右衛門隠居、家督無相違、大番入

安永五申五月廿日大御番五番筆頭大井田新九郎跡

天明三卯三月朔日御使番吉岡庄右衛門跡、御役料百石

同七未三月廿五日御留守物頭柘植市兵衛跡

同九酉正月十四日御先物頭吉田弥八郎跡、御役料百石

相沢九郎右衛門

貳百石

寛政八辰十月四日父八郎右衛門隠居被仰付、家督無相違、大番入

文化六巳ノ五月十六日大御番六番筆頭役川瀬次郎右衛門跡

文政四巳二月十日御使番溝口郷右衛門跡

文政八酉二月十三日御先物頭根来半兵衛跡被仰付候

文政十亥九月廿四日隠居

相沢八太夫

貳百石

文政十亥年九月廿四日父九郎右衛門年寄候ニ付隠居被仰付、家督貳百石被下置、大御番組江被入候

相沢八郎兵衛 斧捨 八郎右衛門

貳百石

一文政十三寅年八月十六日養父八太夫家督無相違被下置、大御番組江被入
一天保三辰年正月廿五日表御小姓堀十兵衛跡被仰付
一同五午年九月廿九日若殿様御附御小姓被仰付

一同六未年六月五日超倫院様御逝去ニ付御附御小姓御免、大御番組江被入
一同八酉年江戸詰被仰付、四月十五日出立

一同十亥年正月廿九日表御小姓被仰付

一同十一子年江戸詰被仰付、四月十一日出立

一嘉永五子十月四日表御小姓筆頭役金子十郎平跡被仰付

一安政二卯正月廿八日御時宜役被仰付、御徒頭次席ニ被成下候

一安政三辰四月十五日御留守物頭三岡助右衛門跡被仰付、同日右ニ付御鷹方兼帯被仰付、家屋敷之儀ハ是迄三岡助右衛門罷在候御役屋敷へ替被下候

候

一安政六未二月十六日御先物頭生駒藤兵衛跡被仰付、御役料百石被下置候、且又生駒藤兵衛跡家屋敷へ替被下候

一同年六月八日横濱御警衛ニ付詰被仰付、支度出来次第出立被仰付、十七日出立

一同月晦日詰中太田御陣屋表御門預リ被仰付、且又出火之節御用火消出馬被仰付候

一万延元申四月廿二日帰着

一同年七月十一日右詰中臨時横濱へ出張ニ付御褒詞
一元治元子八月廿六日御持物頭堀権之助跡被仰付、同日右ニ付屋敷奉行兼帯被仰付候

一同年十月十五日長征出立、丑二月二日帰

(慶応)
一同二寅十月廿六日席其儘予備組支配被仰付、御役料五拾石被下置候

一同三卯四月廿日御趣意ニ付夜廻り勤被仰付候

一同四辰七月廿四日当分三ノ丸御座所御門御預ケ当番被仰付、右勤中夜廻勤之儀ハ御免被成候

一明治二巳二月十六日今般御改革ニ付、御役儀御免被成、御広間当番勤被仰付候、無役当番御用捨

一同年六月廿日八郎右衛門事八郎兵衛卜改

一同年九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革ニ付、為御慰勞金五十兩被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百五俵式斗八升五合被下候

一同三年八月廿七日病死

相沢唯之助 八郎右衛門倅 明治三年三十六歳

〔士族〕

貳百石

安政七申正月廿五日太田御陣屋詰御雇被仰付、詰中御扶持方三人扶持被下置候、同三月晦日出立

一万延与改元、七月廿八日先達而臨時横濱出張ニ付御褒詞

一文久元酉四月七日帰着

一同廿五日太田御陣屋御雇詰被仰付候ニ付銀貳枚被下置、且又横濱表へ長々致出張候ニ付銀壹枚、別段金貳百疋被下置候

一文久二戊十月六日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候

一同年十二月十四日中將様御上京御供御用二付江戸表江出立之處、御都合

二付途中方京都へ

一同三亥三月廿五日右御供二而帰着

一同年七月八日上京被仰付相止

一同年八月五日御參府御供被仰付、詰中御扶持方五人ふち被下置候、八月

十七日出立、同年十二月江戸方京都江御供、子二月十三日帰

一元治元子三月十三日農兵掛り被仰付、郡方吟味役勤方之儀も相心得候様

被仰付、三人扶持被下置候

一同年同月廿九日、一昨戊十二月江戸表江罷出中將様御供二而京都表江可

罷越筈二而此表致出立候処、俄御船行相成候二付途中方京都へ罷出、夫

方大坂へ為御迎罷越御供二而京都江到着之處、失却も有之趣二付金壹兩

為御手当被下置候

一同年六月廿五日宰相様御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、依之銀壹枚

被下置候

一同年十月十日今度新撰農兵百六拾八人之者共御国并他国共御用二御遣被

成候二付、右差配役被仰付、調練等之儀致世話候様被仰付候

一同年十二月賊徒一件出張、御手当貳百匁被下

一慶応三卯正月廿九日新撰隊教授方并指揮役兼被仰付候

一同年十月廿一日御趣意二付右役配御免被成候

一同廿三日第一遊撃隊御雇被仰付、御雇中銀三拾枚ツ、被下置候

一同四辰四月三日京都御警衛詰出立、閏四月十五日帰

一慶応四辰四月廿五日遊撃隊江被召出、五人扶持被下置候

一同日一番後拒役被仰付、役中分隊長次席二被成下候
一同年九月二日戦地为斥候早急越後表へ致出立候様被仰付、早駆二而出立、
十月六日帰

一明治下改元、十月十二日上京、十一月十六日帰

一同二巳二月廿九日上京、三月六日中納言様御供帰

一同年三月九日後拒第一二被仰付

一同年四月九日中納言様御東京御供出立、十月十三日帰

一同三年五月廿四日第一大隊一番分隊長被仰付候事

米百五俵式斗八升五合

一同年十月十七日父八郎兵衛家督、米百五俵式斗八升五合無相違被下候事

一同日任分隊長 但第一大隊一番

一同年十二月八日任権曹長 但常備第二小隊 年給二十俵

一同四未四月四日依願給祿之内三十俵弟助三郎江分祿被仰付候事

米七拾五俵式斗八升五合

一同月廿四日弟助三郎今般園田豊之助養子指遣度二付、従前之通合祿願之

通被仰付候

米百五俵式斗八升五合

一同年十月十三日解隊

浅見徳右衛門

浅見

浅見徳右衛門

百五拾石

元禄四未閏八月五日父徳右衛門家督

宝永六丑五月十三日奥御納戸

正徳四年十月七日御側物頭小栗九右衛門跡

享保七寅二月十三日御役御免、大番入、御役料上ル

浅見忠右衛門

百五拾石 役料百石

享保十七子六月廿二日御小姓被召出

同廿卯十二月十一日奥御小姓於江戸

元文元辰五月廿一日新知

同二巳十一月於江戸奥御小姓頭取

寛保元酉九月十五日御膳番

同三亥十二月廿五日父徳右衛門跡知無相違於江戸、但自分知ハ上ル、御

膳番其儘

延享元子十一月八日御書院番二番筆頭

同三寅五月十八日勤方萩原金兵衛通、飼料百石、席御使番末席

寛延三年二月十一日御近習役御免、馬飼料其儘

宝曆二申十二月廿二日御長柄奉行役料被下、吉岡伝五右衛門跡

浅見忠右衛門

百五拾石 役料百石

宝曆十二年三月廿二日父忠右衛門隠居、家督無相違、大番入

明和元申九月十六日表御小性

同二酉正月十九日中奥

同七寅五月廿八日御近習御書院番入

安永五申七月十五日御小道具方佐野主水跡

同年十一月七日御聞番小林又右衛門跡、御使番順席役料百石

天明元丑十二月五日御先物頭順席

同五巳六月十五日大井弥十郎跡、組御預ケ

同八申三月廿一日年来出精相勤候二付席御上被下、御目付助次

寛政元酉四月八日於江戸御普請奉行波多野五郎左衛門跡、席其儘

同二戌十月十五日御広式御用人大野左十郎跡

同五丑二月廿五日不調法有之御役御免遠慮被仰付、格式末之番外東郷吉

藏次

同六寅十月廿二日御先物頭大野一郎左衛門跡、御役料百石

享和元酉六月廿九日御広式御用人秋田又左衛門跡

文化五辰七月廿二日御預所元締役横田作太夫跡、御奉行順席

文化六巳ノ二月晦日今立跡御奉行席町奉行次席

同年六月廿四日内願二付御役御免、御役料其儘御近習二被指置候、席御

広式御用人次

同年八月廿日新番頭海福久右衛門跡

同七年七月廿三日御側物頭御奉行次席御泉水預り、御寺御参詣之節御先

番風廻り等之義御用捨、席江口源左衛門次

同年十一月十七日御預所元締役鈴木新八郎跡

文化十一戌七月三日病身二付御役御免、席御役料其儘御近習被指置候

文化九申七月廿一日御内々銀五枚年々被下

同十三子六月十日年寄隠居被仰付、二枚御増都合銀七枚ツ、御内々年々

被下、尤御機嫌伺折々罷出候節中ノ口往来御坂札拝領

浅見徳右衛門 熊太郎

百五拾石

文化十三年六月十日父忠右衛門年寄ニ付隠居、家督無相違、大御番入
 天保六未正月廿九日大御番三番之筆頭役枋屋八左衛門跡被仰付候
 天保十一子六月五日格式末之番外渡辺左衛門次
 天保十一庚子十一月四日病死

浅見忠右衛門 忠兵衛

百五拾石

一天保十一子十二月廿四日親徳右衛門家督百五拾石無相違被下置、大御番
 組江被入

一同十五辰年江戸詰

一嘉永三戌年江戸詰、四月十日出立

一同五子五月廿五日倅徳太郎儀御堀御法を背、其上廻り之者へ対シ不法之
 致業有之ニ付遠慮被仰付候、依之忠右衛門儀遠慮伺之上指扣被仰付、同
 廿九日御免

一安政三辰年江戸御留守詰

一同五午五月十一日御預所御金奉行小栗源蔵跡被仰付、御留守番組江被入
 候

一同六未三月廿日病身ニ付内願之通御役御免被成、大御番組へ被入候

一同年五月十一日右同断ニ付休息

浅見岱輔 徳太郎

百五拾石

〔士族〕

安政六未五月十一日親忠右衛門儀病身ニ付内願之通休息被仰付、家督百
 五拾石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同六月十七日横濱御警衛詰被仰付出立

一万延元申四月廿日帰着

一同年七月十一日太田御陣屋詰中臨時横濱出張ニ付御褒詞

一文久元酉八月廿三日江戸詰出立

一同二戌五月十三日中将様御附御近習被仰付候

一同三亥正月廿三日中将様御船ニ而御上京被遊候ニ付御供、三月廿五日右

御供ニ而着

一同年十月十三日中将様御供ニ而上京

一同四子正月九日御附御近習番被仰付候

一同十四日御附御表役被仰付候

一元治と改元、四月廿三日御供ニ而京へ歸

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ思召候、依之御
 酒被下置候

一同年九月五日宰相様御馬廻リ被仰付候、右ニ付兩人ツ、昼夜当番被仰付
 候

一同二丑正月岱輔与名替

一元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応与改元、五月廿六日御附御馬廻り筆頭役被仰付候

一同年八月五日浅見他五郎押込被仰付候処、岱輔儀兄之続ニ付遠慮伺之上
 指扣、同七日被免

一同年十月朔日宰相様御出坂御供ニ而出立、同三日今庄へ御引戻ニ付帰

一同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月同断帰

一 同年十一月廿九日御附御馬廻其儘御附御供頭指添被仰付、筆頭役之儀ハ御免被成候

一 同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰着

一 同年十一月二日右同断出立、辰三月廿一日帰

一 同四辰五月廿八日上京、十二月九日帰

一 同年八月十七日弟雄蔵出奔ニ付伺之上上京、留守ニ付家内之者指扣同様被仰付、同廿日御免

但岱輔於京都八月晦日遠慮伺之上指扣被仰付、九月三日御免

一 明治二巳二月二日上京、三月六日中納言様御供ニ而帰

一 同年四月五日弟雄蔵御咎ニ付伺之上遠慮被仰付、然ル処御供ニ付八日方被免

一 同月九日中納言様御供東京江出立、八月廿五日帰

一 同年十月四日役義被免予備隊江被入候事、但席渥美狭織次

一 同年十一月六日農民政務局庶務方被仰付候事、但引立方

一月給米一年分十五俵被下候事

一四王天潔上

一 同月廿一日今般御改革ニ付、役義被免

但附送り之義ハ追而御指図相待可申事

一 同日民政局少属被仰付候事

一 同年同月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下

一 同三年四月十九日民政寮少属被免、修業隊江被入候事

但席高木富蔵次

一 同年五月十九日御家従被仰付候事

但正二位様内務局頭取被仰付、当職ヲ以奥詰肝煎御供頭兼被仰付

候事

一 席本多七平次

一 同日支度出来次第東京詰被仰付、同晦日出立

一 同四未二月十六日奥詰頭取御供頭兼被仰付候事

一 同日休暇被仰付勝手次第出立可致事、三月八日東京方帰

但当秋上京可致事

一 同年四月五日当分年給十三級 式十八俵三斗六升四合八勺

一 同年五月八日御家従被免候事

浅見²

浅見七郎右衛門

百五拾石 役料百石

元文五申五月九日兎御小姓被召出

延享三寅八月十八日奥御小姓

同四卯十一月十五日新知百石被下

寛延三年二月十一日御小姓御免、大番入、同月十六日中奥

宝曆六子三月廿二日御腰物奉行河合定右衛門跡

明和三戌五月十七日御膳番

同四亥十月廿五日御書院番筆頭

同五子七月九日御徒頭役料百五十石

同九辰七月三日御目付高村四郎左衛門跡

安永五申十月十九日五十石御加増

同七戌六月廿二日若殿様御側向締役杉浦幸右衛門跡、長袴格高村四郎左

衛門次

同八亥五月廿日於江戸御奉行高間九兵衛跡

天明四辰五月廿四日御預所元締役小林又右衛門跡

浅見城之助 病死

百五拾石

天明六年十一月廿九日父七郎右衛門跡知無相違、大番入

浅見七十郎 外七郎

百五拾石

寛政十二庚申八月廿五日養父城之助跡知無相違被下置、大御番入

文化十三子八月病死、九月十六日養子権之助へ家督無相違被下

浅見七郎右衛門 七郎助事 権之助事 七十郎 隱居後涼二下改

百五拾石

一文化十三子九月十六日養父七十郎願之通養子二被仰付、家督百五拾石無

相違被下置、大御番組へ被入

一文政八酉江戸詰被仰付、三月十七日出立

一同十亥閏六月廿日御近習番被仰付、御書院番組へ被入

一同十一子江戸御供詰被仰付候

一同十一子七月廿二日御小姓横田作太夫跡被仰付

一天保二卯江戸御供詰被仰付候

一同四巳右同断

一天保五年十一月十日御小姓頭取前波他之助跡被仰付候

一同六未江戸詰被仰付、八月廿三日出立

一同年天梁院様御尊骸御供二而帰着、直二詰被仰付候

一同年九月五日此度御代替二付御役御免被成、御側支配御近習二被差置、

勤方之義ハ追而可被仰付候、御用筋之義ハ先是迄之通可申談旨

一同年同月十四日御小姓頭取被仰付候

一同九戌江戸詰被仰付、九月十八日出立

一同年十月廿五日今度御代替二付御小姓頭取御免被成、御近習二被差置、

勤方之義ハ追而可被仰付候、御用筋之義ハ先是迄之通可申談旨

一同年同月廿九日御小姓頭取被仰付候

一同十二丑江戸詰被仰付

一同十三寅五月廿日於江戸表末之番外御時宜役被仰付

一弘化元辰江戸詰被仰付

一同三年十月朔日御使番役御供頭兼上坂藤太夫跡被仰付、御役料百石被下

置候

一同四未江戸詰被仰付、三月十九日出立

一嘉永元申六月急御出府御供二而出立、同七月御供二而帰着、右二付十二

月七日御褒詞

一同年九月十五日御長柄奉行生駒五左衛門跡被仰付

一同三戌七月廿八日御先物頭村上作右衛門跡被仰付候

一安政五年十二月十一日神奈川御警衛御人数出張被仰出候二付、生駒藤兵

衛儀組之者召連支度出来次第詰被仰付候処、病氣二付願之上詰御免被成、

代り溝口郷右衛門儀も病氣二付内達も有之詰御免被成候、依之組之者共

召連支度出来次第詰被仰付候、十二月廿日出立

一同六未六月晦日詰中太田御陣屋御殿御出来之上御預ヶ被成入念可取扱旨、

且又遠見番所掛リ并調練掛リ被仰付候

一同年九月廿八日帰着

一同年十一月十一日御側物頭榊原十郎大夫跡被仰付候

一同年十二月遠慮伺之上差扣、同廿日御免

一同七申閏三月十一日中村八太夫儀近々太田御陣屋詰罷越候二付、右留守
中御座所仮預リ被仰付候

一万延与改元、六月廿一日御座所預リ被仰付候

一同年十月九日御泉水預リ被仰付、御座所預リ之儀ハ御免被成候

一文久三亥八月朔日御武具支配忍之者預リ被仰付

一同廿九日家屋敷内達も有之二付、大平勘次郎預リ之外塾所へ替被下候

一同四子正月十六日御旗奉行高間文四郎跡被仰付候

一元治と改元、八月廿三日年寄候二付隠居、後涼二卜名替

一同二丑正月八日思召を以折々御機嫌伺罷出、其節々中ノ口致往来候様被
仰付

浅見貞衛^{サダエ} 七十郎

〔士族〕

百五拾石

安政六未七月五日横浜御警衛二付御人数之内へ御雇詰被仰付、詰中御扶
持方三人扶持被下置候、翌申四月十九日帰

一文久二戌十月六日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰
付候

一同三亥七月八日上京被仰付相止

一同年八月廿一日早速上京被仰付、廿二日出立

一元治元子四月廿三日宰相様御供二而帰着

一同年五月十一日在京中不行状之趣相聞御移りを以御叱り

一同年六月廿五日宰相様御上京中格別骨折相勤候二付、銀沓枚被下置候

一同廿六日御含御用有之早速上京被仰付五人ふち被下置、同廿八日出立、
八月廿四日帰着

一同年八月廿三日親七郎右衛門年寄候二付隠居被仰付、倅七十郎へ家督百
五拾石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一慶応元丑十一月晦日大坂表江出張

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀被下配当金千疋被下置候

一同年九月十八日帰

一同三卯十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之处、御模様二付途中
方引返シ帰

一同廿六日先達而今庄宿陣中心得違之趣相聞遠慮、正月七日今般非常之儀
二付御免

一同四辰正月八日又々急々出立上京、閏四月十二日帰

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張二付十三
兩被下候、外二百五疋

一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下
一同三午四月廿五日戌辰北越出張各所攻撃勉励二付、御賞典之内十石十ヶ

年令領授候事
一同年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年十二月 予備二番隊 年給式俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

一同五申七十郎事^{サダエ}貞衛

一同年十月廿五日病身二付俸直へ

浅見直

一米三拾七石五斗壹升三合

〔士族〕



浅見仲右衛門

百石

元禄十三辰正月十一日被召出、御切米

正徳三巳閏五月十三日御手廻り

同四年十月十七日御駕附

享保三戌三月六日新知

同九辰十月十一日御駕付御免、大御番入

寛保三亥十月十六日札所奉行三岡助右衛門跡

浅見又七郎

百石 外役料百五拾石

延享元子十一月七日養父仲右衛門休息、家督無相違被下、大番、同月十

五日表御小姓

同五辰七月十九日中奥御小姓

寛延三年三月朔日御小姓御免、大番

宝曆五亥六月十一日御小道具方柘植忠太郎跡、御書院番入

同十辰五月十一日御裏役大野又六跡

明和五子七月廿三日御近習番頭取

同年九月廿四日筆頭御膳格

同七寅九月十四日筆頭其儘御膳番

安永二巳十一月十一日御書院番二番筆頭原田彦八郎跡

同七戌十一月十九日御徒頭大関彦兵衛跡、御役料百五拾石

同九子十一月廿二日御先物頭比企文左衛門跡

浅見平内

百石

寛政二戌四月九日父又七郎隠居、家督無相違、大番入

同三亥二月四日御小性見習

同六寅二月廿九日御近習番加藤舍人跡、御書院番組へ被入

同十一未九月十八日御用人支配

同十二申十月十四日大御番入

享和元五月十六日御附御近習番御用人支配

享和三亥十二月五日御裏役御書院番入

文化五辰閏六月二日御腰物奉行猪子太郎右衛門跡

文化十三子六月四日末之番外御時宜役上月久右衛門次席

文政三辰十月十九日小馬印奉行武田平太夫跡

文政九丙戌四月十六日御使番役有賀惣左衛門跡被仰付、御役料百五拾石

被下置

文政十二丑三月廿九日御先物頭松原善左衛門跡

同四月廿九日養子郡吉不慎之義有之遠慮、平内義遠慮伺之上指扣

浅見甚内 滝之助 仲右衛門

百石

- 一天保五年九月廿七日養父平内年寄候二付隠居被仰付、家督百石無相違被下置、大御番組へ被入
- 一同十一子年江戸詰、四月十三日出立
- 一弘化二巳年江戸詰、三月十六日出立
- 一嘉永三戌年江戸詰、四月十一日出立
- 一安政三辰七月廿九日御金奉行妹尾平八跡被仰付、御書院番組へ被入候
- 一安政四巳四月廿日与内立合吉岡孫太夫跡被仰付候
- 一同六未七月五日荒川喜代太拜領屋敷地山田五平太御用地百坪余被下置候処、仲右衛門拜領地之内百坪余當時不用二付御茶園地二指上、喜代太へ今度被下候御用地与振替之上、右地面へ喜代太家作致度旨申聞候処、當時不用二付内談致候旨、願之通被仰付候
- 一万延元申十二月廿八日甚内与名替
- 一文久元酉五月廿日御書院番組へ被入、役儀之儀ハ御免被成候
- 一同三亥二月十日殿様御上京被遊候二付御供、三月六日帰着
- 一同年八月廿九日家屋敷野田喜平次家屋敷江替被下候
- 一同年十月十三日中将様御供二而上京、子四月廿三日同断帰
- 一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀二思召候、依之御酒被下置候
- 一同年十月十六日長征出立、丑二月三日帰
- 一慶応元丑八月晦日格式末之番外被仰付候
- 一同二寅十月廿五日病身二付内願之通隠居

浅見平内 捨五郎 又七 実安本佐治兵衛次男 甚内養子

百石

- 安政二卯三月十六日横山昨寅年中も支合皆勤二付御褒詞
- 一同三辰五月廿二日横山引続年々皆勤二付、御持御扇子二本被下置候
- 一同四巳四月十四日右同断二付御褒詞
- 一同年十月十六日浅見仲右衛門養子願濟
- 一捨五郎事又七与名替
- 一文久三亥十月十三日中将様御供二而上京、同子四月廿三日帰
- 一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤太儀之段、御褒詞
- 一同年十月十六日長征出立、丑二月朔日帰
- 一慶応二寅十月廿五日養父甚内儀病身二付内願之通隠居被仰付、家督百石無相違被下置、大御番組へ被入候
- 一同三卯十月十九日御警衛増詰上京
- 一同年十二月六日二条御城方御下り之節暫時御供欠候二付伺之上遠慮、同十日今度非常之義二付御免
- 一同年同月廿八日又七事平内卜改
- 一同四辰二月廿九日京方帰
- 一同年閏四月五日上京、九月十五日帰
- 一明治卜改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日中納言様御供帰
- 一同二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下
- 一同三年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事
- 一同年十二月 予備一番隊 年給式俵

〔士族〕

- 一同四未四月七日右解隊被仰出候事
- 一同年九月廿五日宿浦へ土着
- 一同六年六月七日病身願之上養子丈兵衛へ家督

浅見丈兵衛

〔士族〕

浅見

4

浅見他五郎

〔士族〕

廿三石五人

- 一安政六未十月十八日かごとく
- 慶応二寅十月廿二日今度御趣意二付被召出、新番並組二被仰付御充行之儀ハ廿三石五人扶持被下置候、且又席之儀ハ家督順ニ被仰付候
- 一同三卯九月廿七日当冬京都御警衛詰被仰付、詰引揚支席出来次第致出立候様被仰付、十月七日出立
- 一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付
- 一同廿五日新番並組被仰付、詰御免、十一月廿二日帰着
- 一同年十一月十七日先般堺町御警衛向心配相勤候二付、御酒被下置候
- 一同四辰五月十一日遊撃隊江被入候
- 一同年九月八日御警衛詰上京、十一月十六日帰
- 一明治二巳四月五日弟雄蔵御咎二付伺之上遠慮被仰付、然ル処御供二付八日方御免
- 一同月九日中納言様御供、東京江出立、十月十二日帰

- 一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五十俵壹斗五升被下
- 一同三年七月三日修業列被仰付候事
- 一同年十月十二日第一大隊四番小隊江被入候事
- 一同年十二月 予備二番隊 年給式俵
- 一同四未四月七日右解隊被仰付候事
- 一同六年九月廿九日病死
- 一同年十月七次日男喜代平へ家督

浅見喜代平

〔士族〕

味岡

味岡彦八

- 一 式百石
- 延宝三卯七月廿三日被召出
- 九月九日拝知百石被下
- 貞享四卯十二月十六日百石御加増被下
- 味岡彦太夫
- 百五拾石 馬飼料百石
- 正徳五未五月廿五日御手廻ニ被召出、御切米被下
- 享保二酉六月廿六日御駕附平尾新五兵衛跡
- 同五子二月廿八日新知被下

同九辰十一月十一日御駕附御免、大番入

同十七子十月廿五日与内吟味役被仰付

元文元辰十月十五日郡奉行被仰付役料五十石、井上孫左衛門跡

延享元子十一月三日御預所郡奉行五十石御加増、御役料百石御先物頭順

席、片山与三右衛門跡

寛延三年六月廿五日御役御免、御先物頭次ノ席下山半左衛門上、馬飼料

百石其儘

同年九月廿日御先物頭小栗九右衛門跡

味岡彦太夫

百五拾石 役料百石

宝曆二申六月五日父彦太夫隠居、家督無相違被下、大番入

安永五申七月十五日郡奉行村田十太夫跡、役料五十石

同七戌正月十六日御留守物頭下山半左衛門跡

天明八申八月十日御先物頭大井弥十郎跡、役料百石

味岡甚左衛門

百五拾石

寛政二戌五月廿八日父彦太夫隠居、家督無相違、大番入

享和元酉五月十一日大御番三番筆頭佐々木藤左衛門跡

文化五辰正月廿日病身内願二付退役、同年十月病死

味岡彦太夫 清助

百五拾石

文化五辰ノ十一月廿九日養父甚左衛門跡知無相違、大御番入

文化十酉四月十一日不埒之義二付遠慮

天保三辰年三月十一日郡奉行波々伯部八右衛門跡被仰付、御役料五拾石

被下置

同七申五月廿日役前心得違之趣二付御役御免、末之番外被仰付、遠慮被

仰付

天保十亥二月廿五日御預所郡奉行津田弥太六跡被仰付、御役料五拾石被

下置、席郡奉行上二被指置

天保十二辛丑正月十九日倅彦八婚姻之節、御役柄二不似合心得違之趣御

役御免遠慮、席末之番外

嘉永元申ノ九月十六日隠居

味岡甚左衛門 彦八

百五拾石

一 嘉永元申九月十六日親彦太夫家督無相違被下置、大御番組江被入

一同六丑三月十九日江戸詰出立、同七寅四月帰着

一同七寅年三月廿三日御殿山へ出張二付、御下緒褰掛ケ被下置候

一 安政五午五月十一日病身二付内願之通休息

味岡彦八郎

百五拾石

〔士族〕

一 安政五午五月十一日親甚左衛門儀病身二付内願之通休息被仰付、家督百

五拾石無相違被下置、大御番無役組江被入候

一文久元酉三月廿五日大御番組へ被入候

一同二戌閏八月廿日江戸詰出立

一同三亥正月廿三日中将様御船ニ而御上京被遊候ニ付御供、同三月廿五日
歸着

一同年八月十七日御参府御供ニ而出立

一同年十二月江戸方御上京御供、子二月御帰国御供着

一元治元子三月二日上京、四月十二日帰

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一慶応元丑十一月晦日大坂表江出張

一同二寅九月十八日帰

一同年十二月廿六日仕長被仰付

一同三卯十月十九日京都御警衛増詰出立

一同年十二月十六日後拒役被仰付、役中以来其隊之上席ニ被仰付候

一同四辰二月廿九日京方帰

一同年四月廿五日二番後拒役被仰付、役中分隊長次席ニ被成下候

一同年九月十日御警衛詰上京、巳正月十二日帰

一明治ト改元、十一月廿九日小隊之分隊長粕谷外次郎跡被仰付、御書院番

組江被入候

一同二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下

一同三年五月廿四日第一大隊二番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日予備四番隊押絶 第一 年給七俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

青木藤太夫

百五拾石

寛延三年五月十一日父藤太夫跡無相違、大番入

明和五子七月廿日御次詰、御書院番入

安永五申八月十四日若殿様奥御納戸河合佐十郎跡

青木金次郎

百五拾石

天明元うし閏五月廿九日父藤太夫跡目無相違被下、大番入

青木七郎右衛門

百五拾石

天明四辰七月廿日養父金次郎跡知無相違、大番入

同六年四月十一日表御小性見習

寛政六寅七月三日表御小性本役

文化二巳三月十六日表御小性筆頭

文化五辰九月御時宜役末之番外、席金子六右衛門次

同十一戌二月五日御鵜方大関助左衛門跡

文化十四丑六月廿日御留守作事奉行三沢勘左衛門跡

文政元寅十月二日御先作事堀十兵衛跡、役料百石被下置候

同三辰三月廿九日御先武頭高田三郎左衛門跡

文政十亥五月六日隠居

青木

1

此前代きニ出、但木滑と号

青木喜作

百五拾石

文政十亥年六月六日親七郎右衛門家督無相違、大御番入

青木七郎 十太郎 与一郎 七郎右衛門

百五拾石

一天保元寅三月十六日親喜作家督百五拾石無相違被下置、無役御留守番組

江被入

一天保五午九月三日大御番組江被入

一同九戌十一月十二日御小姓大井留之助跡被仰付、支度出来次第江戸詰被仰付

一同年江戸詰被仰付候二付、十一月廿日出立

一同十三寅年江戸詰被仰付、八月廿五日出立

一弘化元辰年江戸詰被仰付、正月御供二而出立、同年五月十一日御供二而帰着

一同年四月廿日病氣之上痛所有之二付内願之通御小姓御免被成、大御番組

江被入

一同三年十月朔日奥御納戸三岡次郎太夫跡被仰付、但席野中重左衛門次

一嘉永二酉年江戸詰被仰付、三月廿三日出立

一同六丑年江戸詰、三月御供二而出立

一同年九月十八日御近習番頭取御膳番被仰付候

一同七寅年九月廿九日末之番外御時宜役被仰付候

一万延元申六月廿一日御纏奉行井原次郎右衛門跡被仰付候

一文久二戌五月廿六日御使番役金子十郎平跡被仰付、御役料都合百石被下

置候

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月廿六日御供二而帰着

一元治元子八月廿三日御役料其儘、御留守物頭伊藤掃部兵衛跡被仰付候

一同年十二月廿八日彦根表へ御使者出立、正月七日帰

一同年同月賊徒一件之節、御留守御用相勤候二付、御手当式百匁被下

一慶応二寅十月十三日御鷹方御用取扱并鳥見之者支配被仰付

一同年十月廿六日席其儘御留守組支配与被仰付、御役料之内五拾石被下置候

一同三卯四月廿日御趣意二付夜廻り勤被仰付候

一同年十一月廿九日先達而御膳所為見分罷越候節、其筋江伺候と八午申、当節於御役前其儀二も不被及候義、見分之都度御時態を不弁心得違至極

之次第有之趣相聞、不調法之事二候、依之御役御免被成、末ノ番外二被仰付遠慮、十二月十九日御免、御広間当番勤

一明治二己六月廿一日七郎右衛門事七郎卜改

一同年九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革二付、為御慰勞金五十兩被下置候

一同年十一月廿二日次男木滑貫人重キ御咎二付恐入伺遠慮、同廿八日被免

一同年同月廿五日今般御改革、更給禄米八拾式俵壹斗式升壹合被下

一同三年閏十月八日病死

青木咸一 隼人 七郎俣

〔士族〕

一文久三亥十月十三日中将様御上京御供被仰付出立

一元治元子四月廿三日御供二而帰

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤候二付、銀壹枚被

下置候

- 一 同廿六日御舍御用有之早速上京被仰付、五人ふち被下置、同廿八日出立、八月廿三日帰
- 一 同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相働候段達御聴一段之事二被思召候、依之為御賞御小柄一被下置候
- 一 同年十二月賊徒一件二付出張、御手当弍百匁被下
- 一 慶応二寅四月十五日兵科取調被仰付候
- 一 同年四月廿四日堺町争乱二付、公儀方御手当配当金千疋、且又戦功二付弍千五百疋被下置候
- 一 同年五月七日兵学所詰被仰付候
- 一 同年六月十一日日本多興之輔方へ増御附属被成、大坂表へ出張被仰付、支度罷在御差図次第致出立候様被仰付候
- 一 同年八月八日雲州表江被指遣候間急速致出立候様、同十九日出帆、九月十九日帰
- 一 同年十二月廿六日御先第六小队指添被仰付
- 一 同三卯正月九日軍事方被仰付候
- 一 同四辰四月廿五日軍事方其儘被仰付五人扶持被下置、役御番組へ被入候
- 一 同年閏四月四日中根新左衛門義、松平日向守様榊原式部大輔殿江為御使者被遣候二付附添被仰付、為探索居残
- 一 同年五月廿八日早駆二而帰、六月朔日折返シ早駆出立無程帰、亦々高田表へ出立、同月廿五日早かけ二而帰、無程越後筋江出立、十一月十七日帰
- 一 明治卜改元、十二月十五日軍事方其儘公務方被仰付、御書院番組江被入、御足弍人ふち被下置候
- 一 同月廿日上京
- 一 同月廿五日先般越後表へ被指越候処、諸失却相高難洪之訳も有之二付、為御手当金五両被下置候
- 一 明治二己正月十一日御小屋内火之元不念二付伺之上指扣、翌十二日御用儀ハ相働候様、同十四日御免
- 一 同年二月廿二日会征出張、為御賞五百疋被下、外二十三両被下
- 一 正月廿七日公務方勤中月々弍千五百疋ツ、被下
- 一 同年四月六日軍務方被免候、月給十俵、已後不被下候
- 一 同年五月廿日御繰合も有之二付、御国表へ罷帰候様被仰付
- 一 同年六月十二日隼人事咸一卜改
- 一 同月九日今度一万石御加増、御使御用相勤早駆二而東京方帰着
- 一 同月廿五日軍事方被仰付、月給米一年分十俵被下候事、御足弍口ハ被廢、席宇都宮勝太郎次
- 一 同年十一月廿二日弟木滑貫人重キ御答二付遠慮伺之上指扣、同廿四日被免
- 一 同月廿八日武学所少訓導被仰付候事
- 一 同年十二月十七日役中給禄廿俵高二被成下候事
- 一 同三午四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵二付、御賞典之内十五石十ヶ年令領授候事
- 一 同年五月廿二日文学少訓導兼被仰付候事
- 一 同月廿九日願之通文学少訓導兼之儀ハ被免候事
- 一 同年六月十四日御用有之二付伏見迄罷越候様被仰付、同日出立、廿七日帰
- 一 同年七月九日ル七一御雇入途中致心配候二付、金千疋被下候事
- 米八拾弍俵壹斗弍升壹合

一同年十一月廿八日父七郎家督米八拾貳俵壹斗貳升壹合無相違被下、四等教授被仰付候事、但武学掛り 未正月年給貳拾八俵

一同四未三月十八日御用有之二付越後筋江被遣候事、翌十九日出立、五月十五日帰

一同年六月五日藩庁出仕被仰付候事

一同廿四日任福井藩権少属

一同廿七日御用有之東京へ可罷越事

但小笠原大参事随従之事

一同年七月廿一日詰中権大属之御取扱ニ被成下候事

一同年九月二日東京府出仕 邸宅掛り

青木²

青木与一右衛門

貳拾石三人

宝永三戌四月廿五日父与右衛門跡目無相違被下

正徳二辰七月十一日御土蔵番へ被仰付

同四年三月五日番改役被仰付

寛延二巳二月十六日御役御免、但御先代方永々相勤候ニ付銀貳枚被下之

青木新右衛門

廿石三人

宝曆四戌閏二月十六日父与一右衛門休息、家督無相違、大番入

明和五子十一月廿五日番改横山十郎兵衛跡

青木与一右衛門 死

廿五石五人

安永四未閏十二月十一日養父新右衛門跡目無相違、大番入

天明三卯十月廿日御右筆五石二人扶持御足擬作被下、御書院番入

同六年六月十一日御部屋附御内用御右筆并評定所留役兼帶諸木野半太夫

跡、大番入

寛政二戌八月五日御内用御右筆

同七卯正月九日五石式人扶持御加増、都合廿五石五人扶持ニ被成下

文化元子十一月廿九日表御納戸

同二病死

青木与一右衛門 金八事

百石

一文化二丑十一月五日与一右衛門家督廿五石五人扶持無相違被下置、大御

番組へ被入

一同九申九月十六日評定所御用留役被仰付

一同年十月廿九日御内御右筆西脇林右衛門跡被仰付

一文政十二丑正月廿日出精相勤候ニ付、銀三枚ツ、年々被下置候

一天保三辰九月十六日樋口伝助跡御用共引受、書方は迄之通相勤候様被仰

付

一同五年七月廿八日新知百石被下置候

一同十亥六月十八日遠慮伺之上差扣之処、今日御免

一同年九月廿八日右同断之処、今日御免

- 一 同十二丑五月十六日来相勤候二付格式末之番外被仰付候
- 一 同十四卯十一月四日御徒頭大藤治兵衛跡被仰付、御役料五拾石被下置候
- 一 弘化四未二月十二日御使番役石川弥五太夫跡被仰付、御役料都合百五拾石被下置候
- 一 嘉永四亥二月十三日年寄候二付隠居被仰付候

青木作太 作藏 与一右衛門 作太夫 高間文四郎次男作太夫 [士族]
百石

- 一 嘉永四亥二月十三日養父与一右衛門年寄候二付隠居被仰付、家督百石無相違被下置、大御番組江被入
- 一 安政六未五月廿四日横濱御警衛二付詰被仰付出立
- 一 万延元申年直二江戸詰
- 一 同年七月九日御番精出候二付御褒詞
- 一 文久元西四月十四日帰着
- 一 文久二戌十月六日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候
- 一 同年十二月廿八日与一右衛門与名替
- 一 同三亥三月九日江戸詰出立
- 一 同年三月十六日家屋敷御用屋敷二被仰付、追而相当之家屋敷被下置候旨
- 一 元治元子四月廿二日是迄岡嶋順之助罷在候家屋敷被下置候、五月廿一日帰着
- 一 同年十月十五日長征出立、丑二月二日帰
- 一 同年十二月作太夫卜名替
- 一 慶応二寅四月七日京都詰出立、同年十一月廿四日帰

- 一 同年七月五日御番皆勤二付時服被下置候
- 一 同三卯五月廿九日新撰隊教授方并指揮役兼野村彦太夫跡被仰付、役御番組江被入候
- 一 同四辰四月五日小隊之分隊長長谷部民十郎跡被仰付、御書院番組へ被入候
- 一 同年六月廿五日会征出立、十一月十三日帰、巳二月廿三日出張二付十三兩被下、外二千五百疋
- 一 明治二巳二月十六日三番小隊半隊長被仰付番外二被仰付、席溝口兵三郎次、月給廿俵
- 一 同年六月十六日作太夫事作太下改
- 一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下
- 一 同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉励二付、御賞典之内十五石十ヶ年令領授候事
- 一 同年五月廿四日第一大隊十番分隊長被仰付候事
- 一 同年十二月八日軍務寮出仕、但予備分隊長勤向
- 一 同四未四月七日右解隊被仰出候二付、軍務方出仕被免候事

青木³

青木吉右衛門

式拾石三人

- 天明九酉正月十六日小役人御預所御勝手方御取立、新番入役儀其儘
- 寛政三亥正月十六日三石御加増、都合拾八石三人扶持
- 同七卯十二月十九日御紋御上下拝領

享和三亥十一月十六日式石御加増、都合二拾石三人扶持
文化元子十一月五日御花壇預り吉江仁左衛門跡
同五辰七月休息

青木一右衛門 伝助 吉右衛門

式拾石三人

文化五辰七月廿五日養父吉右衛門年寄休息、家督無相違新番入
同年十月十一日御前様御附御広式添役
同十二亥七月廿一日御蔵奉行北嶋右太夫跡
同十四丑六月廿日御作事改役平岡次右衛門跡
文政六未二月五日御預所御勝手役

文政十亥年三月廿五日御勝手役被仰付
同十三寅年正月廿九日川除奉行福田二右衛門跡被仰付候

天保四巳年九月十六日御預所御勝手役被仰付
天保八酉十一月十六日出精相勤候二付御留守番組へ被入候
天保十一子六月十六日用水奉行安原作右衛門跡

同十三寅九月廿九日御勘定吟味役被仰付
嘉永二酉正月十六日表御納戸役仙石喜左衛門跡被仰付、大御番組へ被入、
役中銀三枚ツ、年々被下置候

嘉永二酉十一月十六日休息

青木雄左衛門 雄蔵

廿石三人

一嘉永二酉十一月十一日親一右衛門休息、家督式拾石三人扶持無相違被下

置、無役御留守番組へ被入
一同三戌正月十六日御内用御右筆見習御記録振退勤被仰付、大御番組へ被入

一同五子六月十六日御記録方其儘御内用御右筆本役被仰付、御足充行五石
式人扶持被下置候

一同六丑九月十九日江戸表へ出立

一同年十月廿日謚姫様御入輿御用掛り同様被仰付候

一同年十二月廿五日謚姫様御婚姻被為濟候、右御用掛り同様出精二付銀拾
匁被下置候

一同七寅三月四日御右筆部屋兼帯御書院番入被仰付、順席二被成下、家内
共江戸表へ引越被仰付候

一同年三月廿三日御殿山へ出張二付御下緒耆掛ケ被下置候
一安政三辰四月廿五日御趣意二付御国表へ御返シ被成、御泉水番被仰付、
御留守番組へ被入候、且又是迄被下置候御足充行五石式人扶持以後不被

下候旨被仰付候、同年六月八日帰着
一同五午十月五日御世譜方御右筆被仰付、御書院番組へ被入候、依之御足
充行五石式人扶持被下置候

一文久二戌十一月廿一日足痛有之難儀二付、内願之通御役御免被成、大御
番組へ被入、是迄役中被下置候御足充行之儀ハ以後不被下候

一同三亥正月廿六日兼而中症有之折々足痛致し難儀二付、右足痛指発候節
倅源太郎代番為勤度旨願、右病氣無拗趣ニも相聞候二付、格別之御憐愍
を以願之通被仰付候

一元治元子五月十六日病身二付内願之通休息

青木育徳 源太郎 雄蔵

〔士族〕

廿石三人

一文久三亥五月十二日狛山城手御物頭指添扣被仰付

一同年八月廿八日上京出立

一同四子二月十四日松平源太郎江名元指合候ニ付雄蔵と改

一元治と改元、五月十六日親雄左衛門病身ニ付内願之通休息被仰付、家督

廿石三人扶持無相違被下置、大御番組江被入候

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤候ニ付、銀老枚被

下置候

一同年七月朔日上京出立、八月廿四日帰着

一同年十二月賊徒一件出張、御手当銀三百匁被下

一慶応元丑四月廿八日上京、翌寅四月十七日帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀に被下配当金千疋被下置候

一同三卯十月十九日御警衛増詰上京

一同年十一月十六日於同国表心得違之趣相聞候ニ付御叱り、伺之上遠慮、

同廿三日御免

一同四辰二月廿九日京都に帰

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、已二月廿二日出張ニ付十三

両被下候、外二三千疋

一明治二己三月九日五番遊撃隊後拒被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四十式俵六升被下

一同月廿七日今般御改正ニ付当役被免

一同三年四月廿五日戊辰北越出張各所戦争拔群尽力ニ付、御賞典之内永世

十石令頒授候事

一同年五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

一同年十月三日下馬御門内ニ而百八十六坪拜地被下候

一同年十二月 常備補兵隊三番伍長 第四 年給七俵

一同四未十月十三日解隊

一同五申二月晦日捕亡伍長申付候事

一同年五月雄蔵事育徳ヤスノリ

同年九月十八日取締邏卒長申付候事

跡部

跡部多助

百石

享保七寅十二月十八日役人格に御取立、新番入、三石御加増、十八石三

人被成下

同十三申五月十一日二石御加増、廿石三人フチ、御右筆見習評定所留役、

大番入順席

同十八丑二月廿八日五石二人フチ御加増

延享二うし五月廿五日新知被下、大河原助右衛門同役被仰付

跡部門右衛門

百石

宝曆十一己四月廿九日父多助休息、家督無相違、大番入

跡部主計

百石

安永六酉正月廿日父門右衛門跡知百石無相違、大番入

同七戌正月十六日御小性見習

同九子八月四日御小性本役

天明三卯四月廿三日御附御小性席御上被成、杉浦弥四郎上

同年六月廿八日於江戸御表御小性

同五巳正月十五日御小性頭取

寛政元酉六月十九日於江戸御部屋附御近習番頭取格御供頭、御書院番入

寛政二戌四月十一日於江戸格式末ノ番外御小性頭取、同五月廿八日御時

宜役

同三亥二月四日御側向頭取勤方御小性頭取兼帶

同六寅五月廿二日御使番役山田弥五左衛門跡、御役料百五拾石

同七卯二月六日拝知被召上、御擬作廿五石五人扶持被下置、大御番入、

閉門

文化三寅九月廿九日御附御近習番

同四席上夕笹木七左衛門次

同六巳八月廿五日靈岸島御附御免、大御番入、是迄出精相勤大儀思召候

段御家老中被申渡

同七年八月二日御纏奉行堀江宅平跡、御擬作十七人扶持二御直被下

文化十酉八月五日新知百石、御部屋附御側向頭取御使番次席

同十三子二月三日御使番比企佐左衛門跡、御役料百五拾石

文政元寅十月二日御先物頭加藤茂右衛門跡

文政三辰五月廿一日御側物頭本多九太夫跡

跡部幸八郎 源八 源八郎

百石

一文政九戌二月十一日父主計家督無相違被下置、大御番組江被入

一同十一子十一月三日謙五郎様御近習番被仰付、御書院番組へ被入

一同年江戸詰、十一月十五日出立、同十二丑七月廿九日早駆二而帰着

一同十二丑七月廿三日若殿様御誕生被遊候二付、御国表へ道中五日振御使

相勤

一天保七申八月五日表御小姓近藤次右衛門跡被仰付

一同十亥江戸詰、四月十六日出立

一嘉永五子十月四日末ノ番外、御時宜役被仰付

一安政六未二月十一日御徒頭井上弥一郎跡被仰付、御役料五拾石被下置候

一同年八月廿九日病死

跡部源八郎 他之助

百石

安政六未十月廿日親幸八郎家督百石無相違被下置、大御番無役組へ被入

候

一文久元酉三月廿五日大御番組へ被入候

一同二戌七月廿五日不行状之趣相聞候二付、御番頭へ移りを以御叱り被成

候

一同三亥正月廿五日当亥年芝御陣屋詰被仰付候

一同年二月廿二日早速出立被仰付、廿五日出立

一元治元子六月廿八日帰

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一同二丑二月 雲州表江御使出立、四月十三日帰

一慶応と改元、十一月晦日大坂表江出張

一同二寅九月十八日帰

一同年十二月源八郎与名替

一慶応三卯十月十九日京都御警衛増詰出立

一同年十二月十六日後拒役被仰付、以来其隊之上席二被仰付候

一同四辰二月晦日京都方帰

一同年五番後拒役被仰付、役中分隊長次席二被成下候

一同年五月十六日病氣内達之趣有之二付、後拒役御免被成、他番江被入候

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰

一明治二巳正月廿日病身二付無役組江被入候

一同年五月二日病身二付内願之通隠居

跡部喜三太 喜代太 喜代吉 実仙石喜左衛門弟 源八郎養弟

〔士族〕

百石

元治元子上京、八月廿三日帰

一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張、二月廿三日帰

一慶応二寅三月十一日三番之補兵隊へ附属被仰付候

一同年四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同廿九日一番之補兵隊へ割替

一同年六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日御供帰

一同三卯九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同四辰七月七日今度越後表江御出陣被仰出候二付、補兵隊被仰付出張被

仰付候処難洪之訳も有之二付、為御手当銀七百匁被下置候

一同年八月廿二日越後表江早速出張被仰付、勤向之儀ハ於出張先軍事惣奉行へ相伺候様被仰付候、同廿六日出立、巳二月六日帰、同廿二日右出張

二付御手当五兩被下候

一明治下改元、十月五日仙石喜左衛門弟喜代吉跡部源八郎養子願之通被仰付

一同二巳二月十五日喜代吉事喜三太卜改

一同年五月二日養父源八郎病身二付内願之通隠居被仰付、家督百石無相違被下、遊撃隊江被入候

一同年十一月廿五日今般御改革二付、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一同三年五月廿四日第一大隊一番小隊入被仰付候事

一同年閏十月廿七日砲兵訓導試補 年給十二俵

但十六等也、二等

一同四未十月十三日解隊二付免職

一同年十二月廿八日軍曹心得勤

一同五申二月彦根分営出張

一同年五月二日四等軍曹給養營掛り

跡部²

跡部又八

廿五石五人

延享三寅十月十六日御徒目付方御取立、五石壱人扶持御加増、大番入、

勤方只今之通、御役筋可相勤旨

宝曆四戊正月十六日二石壺人扶持御加増

同十二丑七月休息

同五亥十月廿五日御代官林新助跡、御留守番入、只今迄役義出精二付相

身躰末

跡部敏広 ビシクワウ 又蔵 又八

〔士族〕

同十一巳四月十六日御役御免、大番入

廿五石五人

跡部彦一郎

廿五石五人

明和三戌八月五日父又八家督無相違、大番入

同五子七月廿三日表御小性順席

安永三年六月廿九日表小性御免、大番入

寛政十二申八月十一日御先武具奉行田中伴右衛門跡

文化八未閏二月廿五日休息

跡部又八 俊助

貳拾五石五人

文化八未閏二月廿五日父彦一郎休息家督貳拾五石五人無相違、御留守番

入

文化九申十月十九日無役御留守番入

文化十二亥二月廿九日吟味役、御留守番入

文政五年十月廿五日産物掛リ被仰付、御勘定所吟味役之儀者御免被成候

同七年申八月十一日御広敷御用達

文政十二丑十月五日御札所受込

天保二卯十一月十六日御代官河村三太夫跡

天保十一子十二月五日御預リ所御代官岡田金左衛門跡被仰付

一天保十二丑七月廿日親又八年寄候二付休息被仰付、家督廿五石五人扶持

無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一嘉永二酉九月十六日御家譜方御右筆見習被仰付候

一同四亥三月十七日御世譜方御用書繼出精相勤太儀二思召候、依之御目錄

金百疋被下置候

一同五子六月十六日御世譜方御右筆本役被仰付、御書院番組へ被入候

一同年十二月廿八日又八与名替

一文久二戌二月廿日御世譜御用引請同様被仰付候

一同三亥二月十日殿様御上京被遊候二付御供、三月六日帰着

一元治元子二月廿九日御世譜方御右筆御用引請被仰付候

一同年十月十六日長征出立、丑二月四日帰

一同十二月廿九日御用有之豊後表へ被遣候

一慶応元丑九月十一日出精相勤候二付、年々銀三枚被下置候

一同二寅三月十一日御右筆被仰付、御世譜方引請之儀も是迄之通相心得候

様被仰付、役席内藤彦左衛門次へ被入候

一同年七月廿日病氣二付内願之通御役御免被成、御書院番組二其儘被指置

候

一同年十一月三日今度御軍制御変革之御趣意二付、御広間当番勤被仰付候

一同三卯二月十六日御右筆被仰付、御世譜方御用引受被仰付、役席之儀ハ

内藤彦左衛門次江被入候

一同四辰四月九日御世譜方御用引請其儘、御趣意二付御右筆之儀ハ御免被成候

一明治二巳三月廿六日月給六俵

一同年十一月廿五日今般御改革二付、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合下賜

一同月廿八日御家從被仰付候事、但勤方は迄之通御世譜方也、年給六俵

一同四未四月五日当分年給十六俵三斗六升四合八勺、但十四級也、是迄在

六俵也

一同年五月八日御家從被免候事

一同五申五月又八事敏広

有沢

有沢勘助

式拾五石五人

元文四未十二月廿一日御徒目付方御取立、新番並

寛保元酉七月二日新番入、御守殿御取次其儘

同三亥六月廿八日桜田様御道具預リ

延享四卯八月廿八日御留主番入、御部屋御広式御用

寛延三年四月十五日三石御加増

宝曆五亥三月九日五石式人扶持御加増、仕立弘納戸、定府

同六子四月廿二日長病二付御役御免

有沢権四郎

廿五石五人

宝曆六子九月六日養父勘助病氣二付休息、家督被下、大番入
明和九辰十一月廿九日相身躰末

安永三年七月五日御広式御用達中村久兵衛跡御留守番入

同十丑正月十五日御近習番格御供方御書院番入

天明二寅三月五日順席

同年六月十四日御書物奉行山名次郎右衛門跡

同七未三月十四日御形合被相改万端御省略二付、役義御免、大番入

同九酉正月十四日御近習番頭取格、御裏役御書物奉行兼帶御書院番入、

稻生与一郎跡

寛政二戌八月三日御裏役御免、御書物奉行表役、御書院番其儘

有沢榮左衛門 三郎左衛門 久右衛門 勘助 病死

廿五石五人

寛政七卯六月廿九日父権四郎休息家督無相違被下置、大御番組へ被入

文政二卯二月廿日御番改河村三太夫跡

文政十二己丑十一月廿日坂部兵左衛門跡、表納戸役被仰付

有沢勘介 勘三郎事 勘助

廿五石五人

一天保四巳年三月五日養父榮左衛門家督無相違、廿五石五人扶持被下置、

無役御留守番組へ被入候

一同九戌四月廿日大御番組入

一同十一子八月五日先達而矢野孫太夫七ツ藏於御番所不埒之節、取斗方不

宜二付遠慮被仰付

一安政三辰四月十六日御番改役堀又七跡被仰付候

一同年十二月廿八日勘介与名替

一万延元申六月廿六日御番両度皆勤二付、御紋御帷子被下

一文久二戌三月廿日遠慮伺之上差扣、廿三日御免

一元治元子二月廿九日御代官役西村勘五兵衛跡被仰付、御留守番組へ被入候

一同年十二月賊徒一件御留守御用、御手当百匁被下

一慶応二寅七月五日御番数度皆勤二付時服被下置候

一同三卯二月十六日年寄候二付休息

有沢権四郎 勘介倅

〔士族〕

廿五石五人

安政二卯三月十六日鰐淵引続年々支合皆勤二付御褒詞

一同三辰五月廿二日右同断、就中昨寒稽古共免状以上二而出精二付、御持

御扇子二本銀拾五匁被下置候

一同年十一月廿六日御含有之来巳年江戸表江被遣、右詰中御扶持方三人扶持被下置候

一同四巳四月十四日鰐淵引続年々皆勤、免状以上二而出精二付金百疋被下

置候

一同五月朔日江戸出立

一同十三日詰中長剣術并砲術厚致修行候様被仰付候

一文久二戌十一月廿九日武芸出精之趣師役方内達も有之二付、修行中銀式

枚年々被下置候

一同年十二月十六日中将様御供御用二付江戸表江出立之处、御都合二付途

中方京都へ

一同三亥三月廿五日右御供二而帰着

一同年八月十一日毛受鹿之介同道上京被仰付、十二日出立

一同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美式

百五十疋被下置候

一元治元子三月廿九日、一昨戌十二月江戸表江罷出中将様御供二而京都表

江可罷越箒二付此表致出立候处、俄御船行相成候二付途中方京都へ罷出、

夫方大坂江為御迎罷越御供二而京都江到着之处、失却も有之趣二付金壹

両為御手当被下置候

一元治元子四月廿三日宰相様御供二而帰京

一同年六月廿六日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、依之

銀式被下置候

一同年十一月二日京都詰早速出立被仰付、同五日出立、同十二月賊徒騒乱

二付立帰罷越

一同年十二月右同断二付出張御手当式百匁被下

一同二丑正月十九日再上京、五月六日帰

一慶応卜改元、閏五月十八日補兵隊伍長被仰付

一同二寅十二月廿六日仕長被仰付

一同三卯二月十六日親勘介年寄候二付休息被仰付、家督廿五石五人扶持無

相違被下置、大御番組江被入候

一慶応三卯十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之处、御模様二付途

中方引返帰

一同四辰正月八日又々急々出立上京、閏四月十二日帰

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰

一明治二巳二月廿二日長々出張太儀思召、仍六両二步被下
 一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合被下
 一同三年六月廿二日第一大隊三番小隊江被入候事
 一同年十二月八日常備三番隊 月給六俵
 一同四未六月七日兵隊被免候事

青山
1

青山幸八

式拾五石五人
 享保四亥正月十一日岡本団藏為跡目廿石四人扶持被下
 同七寅四月御手廻於江戸被仰付、五石老人扶持御加増、同年順席被仰出
 同九辰十月十一日御駕附被仰付

青山半藏

式拾五石五人
 享保十七子八月十六日養父幸八為跡目無相違被下、大番入

青山弥五右衛門 初忠左衛門

廿五石五人
 元文二巳六月五日養父半藏跡目被下、大番入
 宝曆六子閏十一月五日不慎之儀有之二付閉門、御擬作之内二石一人フチ
 被減如此被下

明和七寅閏六月廿日用水奉行吉倉茂右衛門跡、御留守番入

安永七戌八月十二日役義出精相勤候二付、最前御取上被成候二石一人フチ被下

天明元丑十二月十一日役義御免遠慮、大御番入
 同八申七月廿九日御代官藤井曾兵衛跡、御留守番入
 寛政十年正月十六日数年来相勤候二付御紋御上下被下置候

青山半兵衛

廿五石五人
 寛政十年十二月十一日親弥五右衛門休息、家督無相違、大番入
 文化十二亥二月十一日休息

青山半兵衛 長之助

式拾五石五人
 文化十二亥二月十一日親半兵衛病身内願休息、家督無相違、無役御留守番入
 文政五年十月二日大御番入

青山弥五右衛門 他三郎 忠左衛門事

廿五石五人
 一文政八酉年十月五日養父半兵衛家督無相違、廿五石五人扶持被下、無役御留守番組へ被入
 一弘化三年年江戸詰、四月十日出立
 一同四未十一月十六日玉葉奉行南部源兵衛跡
 一嘉永二酉十一月十六日用水奉行伴五郎左衛門跡被仰付、御留守番組へ被

入

- 一同四亥十一月三日御預所并御領分村々、丸岡領樋爪為安西村与十郷用水路論出訴一件二付御褒詞
- 一同五子七月五日御代官役字貝八郎右衛門跡被仰付
- 一文久二戌六月十六日出精相勤候二付、銀三枚ツ、年々被下置候
- 一同三亥五月廿二日御代官役頭取被仰付、右勤中御足五人ふち被下置候、銀三枚之儀ハ其儘被下置候
- 一同四子二月廿九日休息

青山貞 小三郎

〔士族〕

拾七人扶持

- 安政二卯五月廿九日学問所御取建之処全備ニも相成兼候得者、是迄素読致世話居候二付、外塾之趣を以当分是迄之通致世話候様被仰付候
- 一同三辰四月廿一日兼而文学心掛宜生徒も有之二付外塾之趣被仰付候処、引立方出精二付御袴地一被下置候
- 一同年六月十九日明道館句読師被仰付、外塾之儀ハ御免被成候
- 一同四巳二月朔日明道館勤向宜二付御書物一部被下置、猶以出精相勤候様被仰付候
- 一同五年十月五日明道館学諭被仰付候
- 一同六未十一月十六日御趣意厚相心得致世話候様被仰付、右勤中御扶持方三人扶持被下置候
- 一万延元申九月廿六日学諭其儘外塾師被仰付候
- 一同年十月廿日外塾師其儘訓導師被仰付、学諭之儀ハ御免被成候
- 一同二酉二月十三日長谷部協・千本弥三郎・勝山藤五郎制産方為御用箱館

表江罷越候二付、御含有之同道罷越候様被仰付候、晦日出立

一文久与改元、七月廿日帰着

一同年九月廿日今度横井平四郎肥後表江罷帰候二付、修行旁同道罷越候様被仰付、十月五日出立

一同二戌四月十五日帰着

一同年七月廿三日御含有之二付支度出来次第出府被仰付、廿七日出立、閏八月廿六日帰着

一同年九月八日被召出御扶持方五人扶持被下置、御勘定吟味役見習被仰付、御留守番組へ被入候、右二付明道館役配御免被成、是迄被下候三人扶持之儀ハ以後不被下候

一同三亥四月廿一日京都方着

一同年五月九日御用有之、加州表江村田巳三郎同道罷越候様被仰付、同十三日出立、同廿三日帰

一同年同月廿六日支度出来次第上京被仰付、六月三日出立、八月朔日帰、又々十二日出立

一同年十一月廿七日御滞京御用向取扱被仰付

一同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美式百五十疋被下置候

一元治元子二月廿九日親弥五右衛門年寄候二付休息被仰付、家督廿五石五人扶持無相違被下置、大御番組へ被入候

一同年三月八日御勘定吟味役見習被仰付、御留守番組江被入候

一同年四月十日御含御用も有之二付当分滞京被仰付、滞京中月々銀三枚ツ、被下置候、五月十七日帰

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒

被下置候

一同廿七日御含御用有之二付支度出来次第早速上京被仰付、廿八日出立

一同七月廿五日早駆二而京都表方着、同廿六日折返し出立

一元治元子九月朔日今度長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、差配行届相働候段達御聽格別之事二被思召候、依之為御賞御紋附御二所物被下置候

一同月十日御使番役被仰付、御充行拾七人ふち二御直シ被下、御役料五十石被下置、格式末ノ番外二被仰付

但御含御用之儀是迄之通

一同日御含御用有之二付立帰出府被仰付、早速致出立候様、同十二日江戸江出立、同十七日亦々京都江帰

一同年十月 京都方長征、丑二月十九日帰

一同月十九日今度応接方被仰付

一同二丑二月十二日江戸御聞番役見習、御役料五拾石御増都合百石被下置候、右二付江戸長詰被仰付、依之一旦御国表江罷帰候様、詰中御内用向取扱被仰付御扶持方拾人扶持并失却金三十両被下置候

一同年四月四日江戸出立

一慶応下改元、六月廿五日昨秋征長御供被仰付別段致心配候二付、手助一被下置候

一同年閏五月十六日実父病氣二付対面願之上帰着

一同年六月二日諸色高直二而雜用相嵩迷惑之趣二付、別段金貳拾兩年々被下置候

一同二寅二月十三日御奉行岡嶋恒之助当春交代時節罷帰候後、当分御奉行

勤向之儀も兼帯相心得候様被仰付

一同年四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋、且又戦功二付貳千五百疋被下置候

一同年七月七日御用有之京阪江被指出早速罷越候様被仰付出立

一同年八月五日於京都御内御用有之二付御国表へ立帰罷越候様被仰付、同九日御国江着

但近来他国御用度々相勤候二付、為失却金拾両被下置候

一同月十二日御役料其儘御目付役見習被仰付、御使番順席二被成下御役人並当分京都詰罷在候様被仰付、翌十三日上京

一同年十月朔日当分外接方之儀相心得候様被仰付、右御用中御目付役見習之儀ハ御免被成候、且又非常之節御目付申談御用相弁候様被仰付候

一同年十一月十二日真田信濃守殿藩中赤松小三郎儀兵学功者之趣二付、罷越取調候様被仰付

一同三卯八月二日昨年当分外接方之儀相心得、右御用中御目付役見習之儀ハ御免被成候、外接方其儘御目付役見習是迄之通相心得候様、且又今般宰相様御帰国御供被仰付九日帰

一同年九月廿五日議事掛り

一同年十月廿一日今般宰相様御上京御供被仰付、十一月二日出立

一同年十一月晦日御勤役被仰付、御役料都合百五拾石被下置候、席上ケ被仰付伊藤友四郎次

但転役被仰付候得共御役人並是迄之通被仰付

一同四辰正月十九日御勤役頭取被仰付、御中老勤向助被仰付、物頭嫡席二被成下候

一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米五十三俵壹斗八升式合被下

一同三年五月七日丁卯以来事務多端之処精勤二付、為慰勞御賞典之内目錄

之通令贈進候也、金三百兩

一同月十五日居屋敷御用ニ被仰付候事

一 任東京府大参事

一 任岩鼻県知事 任群馬県令

一同四未十一月十五日鈴木甚十郎家屋敷被下候事

一明治六年一月八日小三郎事貞卜名替之旨親類方届



青山次郎右衛門

拾八石三人

明和七寅十二月十六日小役人方御取立、新番人、御切米三石御加増、都

合拾八石三人扶持被成下、御台所頭

青山次郎左衛門

拾五石三人

天明元丑十月廿五日親次郎右衛門跡目無相違、新番人

同七未正月十五日御広式添役

同年三月十六日御形合被相改二付、役義御免

同年十一月廿日御広式添役

寛政四子正月廿日御趣意ニ付添役御免

享和二戌十一月十六日御台所目付被仰付、来亥年方長詰被仰付

文化三寅七月十一日御借米方菱川九左衛門跡

文化七年八月廿五日御定之年数相満候ニ付大御番人、役義之儀ハ御免被

成候

同八未閏二月廿五日御留守武具奉行本多平五郎跡、御留守番人

同十二亥九月十一日用水奉行大橋十兵衛跡被仰付候

文政二卯七月廿日役儀并三石御取揚遠慮、大御番人

同六癸未二月廿五日病身内願ニ付休息被仰付

青山丈太郎

拾五石三人

文政六未二月廿五日養父次郎左衛門病身内願休息、家督拾五石三人扶持

無相違被下置、無役御留守番江被入

同十二丑大御番人

青山三郎助

拾五石三人

天保七申八月五日養父丈太郎病身内願ニ付休息、家督拾五石三人扶持無

相違、無役御留守番組江被入

青山弁吉

拾五石三人扶持

天保九戌八月十一日青山三郎助病中願之通養子ニ被仰付、家督拾五石三

人扶持無相違、御趣意ニ付新御番組へ被入

同十四卯十一月廿五日心得違之趣有之二付閉門被仰付候

同十五辰ノ八月廿日休息被仰付候、病身内願也

青山丈太郎 茂四郎

〔士族〕

拾五石三人

- 一 嘉永元申十二月廿八日御趣意ニ付先年小役人席へ御下ケ被成候処、思召を以已前之通大御番組へ被入、御趣意ニ付無役御留守番組へ被入
- 一 安政四巳四月廿二日今度明道館内へ武芸稽古所御集被成候ニ付、慶増安太夫稽古所詰被仰付候
- 一 同五年十一月十一日丈太郎与名替
- 一 文久二戌十月六日今度農兵御端立ニ付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候

一 同年十一月三日制産方見習被仰付候

一 同三亥十二月十一日製造方被仰付

一 元治元子四月五日御先武具奉行彈藥方兼帯被仰付、大御番組江被入候

一 同年十二月賊徒一件ニ付、出張御手当銀三百匁被下置候

一 慶応元丑閏五月十二日昨年来非常之御用繁相勤候ニ付、銀式枚被下置候

一 同年十一月廿四日京都江立寄出坂

一 同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀被下配当金千疋被下置候

一 同年十月朔日帰

一 同年十一月十一日御武具御修復御改正中出精相勤候ニ付、金貳百疋被下置候

置候

一 同三卯二月十六日御趣意ニ付御役御免被成、御書院番組江被入候

一 同年五月十一日御趣意ニ付大御番組へ被入、御札席之儀ハ是迄之通御書院番組二被成下候

院番順席二被成下候

一 同年十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之処、御模様ニ付途中方

引返帰

一 同四辰正月八日又々急々出立、九月十五日帰

一 明治卜改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳三月六日中納言様御

供帰

一 同二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾五俵四斗五升被下

一 同三年六月廿三日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一 同年十二月 予備一番隊 年給貳俵

一 同四未四月七日右解隊被仰出候事



青山与兵衛

拾五石三人

一 天保十四卯正月十六日出精相勤候ニ付御取立、新番格二被成下候

一 嘉永五子七月廿日数年相勤候ニ付新御番組江被入候

一 同七寅六月四日年寄候ニ付休息被仰付、同廿日数年出精相勤候ニ付御目

録金貳百疋被下置候

青山与兵衛 三次郎

拾五石三人

一 嘉永七寅六月四日親与兵衛年寄候ニ付休息被仰付、家督拾五石三人扶持

無相違被下置、新番組へ被入、御料理方被仰付候

一 安政三辰十二月廿八日与兵衛与名替

一文久二戌四月廿一日病死

青山加治馬カヂマ 久太郎 実徳山三左衛門次男

[士族]

拾五石三人

一文久二戌六月十一日青山与兵衛願之通養子二被仰付、家督拾五石三人扶持無相違被下置、新御番組江被入、御料理方被仰付候

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月二日帰

一慶応二寅十月廿二日役新番組二被仰付候

一同三卯三月廿五日御趣意二付御料理方御免被成、新番組江被入候

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同年十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之処、御模様二付途中方

引返帰

一同四辰正月九日急々上京、四月廿日帰

一同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一同年閏四月五日上京、九月十五日帰

一明治下改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳三月六日中納言様御

供帰

一同二巳八月十四日久太郎事加治馬卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾五俵四斗五升被下

一同三年五月廿四日第一大隊四番小队入被仰付候事

一同年十月三日是迄居住罷在候持地之内百七十四坪拜地二被成下候、未六

月廿日御取消相成

一同年十二月八日常備一番隊 年給六俵

一同四未(マ、)

一同年十月十三日解隊、十一月帰

厚治

厚治直左衛門

式拾石四人

一享保四亥十二月十日於松岡御取立

同七寅年新番入

堀吉太夫

拾八石四人

ほ二出、但堀二改

厚治兵右衛門

拾八石四人

明和八卯二月廿五日父吉太夫蟄居家督無相違、新番入、遠慮

天明五巳五月十六日不宜義有之遠慮

同年六月十六日休息

寛政四子十月廿五日不埒至極二付侍御削被成、御国追放

厚治惣三郎

拾八石四人

天明五巳六月十六日養父兵右衛門休息、家督無相違、新番入

寛政二戌正月病死

厚治丈左衛門 金平

拾八石四人

寛政二戌三月五日養父惣三郎跡目無相違、新番入

同四子十月廿五日養祖父兵右衛門御咎二付遠慮

文化五辰八月廿九日御定之年数相満候二付大御番入

文政七申五月三日御掃除奉行多田林右衛門跡被仰付

文政十三庚寅六月五日御代官役嶋津右太夫跡

天保十一子六月十六日休息

厚治丈助

拾八石四人

一天保十一子六月十六日親丈左衛門年寄候二付休息被仰付、家督拾八石四

人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一安政三辰九月廿日弟鉄吉義先達而舟川ニ罷越候節、心得違之趣相聞、依

之遠慮被仰付候二付、伺之上指扣被仰付、同廿六日御免

一同四巳十月五日弟鉄吉儀夜廻り役之者へ対シ心得違之趣相聞、御叱被成

候二付、丈助儀遠慮伺之上指扣、同八日御免

一同六未六月十七日横浜御警衛詰被仰付出立、翌申四月十九日帰

一万延元申六月廿六日御供皆勤二付御褒詞

一同年七月十一日太田御陣屋詰中臨時横浜へ出張二付御褒詞

一同年九月朔日御定之年数相満候二付相身躰末席被仰付候

一文久元酉十一月十二日弟鉄吉儀、今度不慮之儀ニ而死去致候始末不調法

恐入丈助遠慮伺之上指扣、十四日御免

一同年八月廿日弟鉄吉儀当六月九日夜在方出火之節、於赤坂辺ニ木田町火

消之者共を相手取、かさつ之所業、素方酒狂、其上近年病身二付相願、

医道心掛候身分与八年申、不心得至極之始末二付、存命ニも候得ハ急度被仰付方も可有之候得共、既ニ相果候二付御沙汰ニ不被及候、且又其方

并弟与三次郎儀も右取斗方心得不宜趣相聞、不調法二付五人共遠慮

一同三亥五月廿二日御先武具奉行并彈藥方兼帯被仰付候

一元治元子四月十五日の上京、八月廿三日帰着

一同年十月十八日早速上京致出立候様被仰付、廿日出立、丑五月九日帰

一慶応元丑閏五月十二日昨年来非常之御用繁相勤候二付銀式枚被下置候

一同年六月廿日扨御納戸役芦田十左衛門跡被仰付、御書院番組へ被入候

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同三卯二月十一日御書院番其儘、役義之義ハ御免被成候

一同年九月十八日病死

厚治金平 丈助倅

拾八石四人

一慶応三卯二月廿一日三番之補兵隊江被入候

一同年七月十一日御警衛詰上京、九月廿三日親対面願帰

一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同年十一月十四日親丈助家督拾八石四人扶持無相違被下置、第一遊撃隊

江被入候

一同四辰四月三日京都御警衛詰出立、閏四月十五日帰

一同年九月十日御警衛詰上京、巳二月六日帰

一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米四十式俵六升六合被下

一同三年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年十二月 予備一番隊 年給式俵

〔士族〕

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

安陪

安陪喜兵衛

廿五石五人

元禄六酉四月五日養父清兵衛跡目

同十一寅十一月十八日玉葉奉行

享保十巳十二月十六日玉葉役御免、葉調合ハ是迄通相勤候様

安陪清兵衛

貳拾五石五人

元文元辰九月十九日養父喜兵衛休息被仰付、跡目無相違被下、大番入

寛延四未正月十六日御武具奉行三村藤右衛門跡、御書院番入

宝曆四戌三月五日武具請込役坂井勘市跡

同六子八月十六日御役御免、大番入

安陪喜兵衛 初弥八郎

五人扶持

宝曆七うし二月廿九日養父清兵衛跡廿五石五人無相違、大番入

明和四亥三月十六日不行跡ニ付格式御下被成、御切米被召上、五人フチ

被下、新番組へ御下ヶ閉門

五人扶持

寛政七卯十二月廿五日養父喜兵衛家督無相違、新番入

安陪清兵衛 駒吉

五人

一文化元子四月廿九日清兵衛病中願之通養子ニ被仰付、家督無相違、新番

組へ被入

一同三寅八月廿五日御定年数相満候ニ付大御番組江被入、順席

一同九申十月十九日無役御留守番組へ被入

一天保三辰二月廿九日御具役被仰付、御書院番組へ被入、役中為御手当二

人扶持被下置候

一弘化二巳八月廿九日倅百次郎不埒ニ付蟄居被仰付、依之清兵衛儀も締リ

方不参届ニ付遠慮被仰付候

一嘉永六丑五月朔日病死

安陪市郎左衛門 百次郎

五人扶持

一嘉永六丑年五月廿日親清兵衛家督五人扶持被下置、無役御留守番組へ被

入候

一安政元寅十二月廿八日市郎左衛門与改

一同年四月十一日病死

安陪喜重郎 又三郎

五人扶持

〔士族〕

- 一 安政二卯六月三日兄市郎左衛門病中願之通養子二被仰付、家督五人扶持無相違被下置、大御番組へ被入候
- 一 同三辰九月廿四日明道館定詰助句読師被仰付、少御充行二付右勤中御足式人扶持被下置候
- 一 同四巳二月朔日明道館句読師被仰付候
- 一 同年三月七日思召を以中国并九州筋へ被指遣候段被仰付、同月廿八日出立
- 一 同年九月廿三日家屋敷石原甚十郎罷在候屋敷地之内長屋取補埋替被下置、明道館預り被仰付候
- 一 安政五午三月廿五日大御番組被入候、但明道館御預ケ中御番御供之義ハ御免被成候
- 一 同年十月五日御足扶持其儘外塾師被仰付、是迄末松久兵衛罷在候外塾御預被成候間、右外塾へ引移候様被仰付候
- 一 同六未四月十一日荒川喜代太罷在候地所へ外塾并御用宅建被下、是迄又三郎へ御預之外塾地所御預役所二被仰付候
- 一 同年十一月十六日少御充行二付、外塾勤中失脚銀三百匁ツ、年々被下置候
- 一 一文久二戌十一月廿六日来春殿様御上京被遊候二付為御待請出立
- 一 同三亥三月六日御供二而着
- 一 同年六月四日御番頭引纏上京、九月七日帰
- 一 同年十一月廿一日御足ふち其儘学諭被仰付、外塾師之儀ハ御免被成候
- 一 同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美式
- 一 元治元子年七月廿一日京都表へ出立、夫方長征、丑二月帰
- 一 同年十二月喜重郎卜名替
- 一 同二丑二月三日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰
- 一 同二丑三月十一日家屋敷是迄餌指頭罷在候家屋敷江替被下候
- 一 同廿四日右同断之処御都合ニ方荻野左十郎家屋敷江替被下候
- 一 同年四月十五日山階宮様御附人被仰付、御扶持方五人ふち被下置候、五月十七日出立
- 一 但為失却月々金三兩ツ、被下、外二衣裳金十兩被下置候
- 一 慶応二寅三月三日来卯之春迄詰越被仰付、五月四日願之上帰
- 一 同年九月廿五日宮様御附長詰相成候二付、家内共為引越度旨先達而相願候(処九)、願之通勝手次第為引越候様被仰付候、十月七日家内引越、十一月十九日宮様御附不用二相成候二付喜重郎初家内共帰
- 一 慶応二寅十二月十一日御足扶持其儘郡方吟味役見習被仰付、御留守番組江被入
- 一 明治二巳正月四日御代官郡方吟味役其儘川方兼被仰付
- 一 同年二月十七日民政局庶務方卜被仰付 月給米十五俵、役米ハ不被下候
- 一 同年七月十九日民政局庶務方引立方被仰付候事、但月給米是迄之通
- 一 同年十一月廿一日今般御改革二付、役義被免候事
- 一 但付送り之義ハ追而御指図相待可申事
- 一 同日民政局少属被仰付候事
- 一 同月廿五日今般御改革、更給禄米拾九俵三斗六升五合被下
- 一 同三午正月十日治水堤防等格別致精勤二付、金七百足被下候事
- 一 同年十二月十二日権少属心得勤 年給十九俵
- 一 但民政寮出仕
- 一 同四未六月朔日御改正二付免職
- 一 同年八月廿日戸長被仰付候事 第五区

安部

安部武右衛門

拾八石三人

元文三年八月廿一日御鷹匠方御取立、三石御加増、新番並

寛延元辰九月廿五日新番入

同二巳三月十六日休息

安部武右衛門

廿石四人

寛延二巳三月十六日父武右衛門休息、家督被下新番入、御鷹方

安永七戌八月十二日年来相勤候二付大番入

天明四辰十二月十四日二石一人扶持御加増、都合廿石四人

此後代つ二出、但堤与改

安西

安西梅干之助

百石 外二銀十枚

正徳二辰八月廿一日於江戸御馬乗方御取立、新番入被仰付、同日御切米

三石御加増

正徳三巳七月廿三日新知被下、御馬方

安西梅干之助

百石

享保十三申六月廿一日父梅干之助跡目百石被下、新番入、御馬方

安西源五左衛門

五人扶持

享保廿卯二月十六日養父梅干之助為跡目願之通養子源七へ五人扶持被下、

新番組、但家業之手筋無之者相願不了簡之趣二付、百石跡此如御扶持方

二被仰付

安西梅干之助

貳拾石三人

延享元子九月五日養父源五左衛門跡目無相違、五人扶持被下、父之座其

儘

同五辰七月廿五日廿石三人扶持被下、御馬方被仰付

宝曆三酉六月十一日大番入被仰付

安西吉郎右衛門 病死

廿石三人

宝曆八寅九月廿二日養父梅干之助跡目無相違被下、大番入、御馬方

安永七戌十月廿六日御定年数相満候二付相身躰末

安西平八 藤太郎

廿石四人

寛政十一未五月廿五日父吉郎右衛門跡目無相違、大番入、御馬方
 享和二戌九月廿九日御定之年数相満候二付順席
 天保三千辰十一月廿一日年来相勤候二付、御書院番組へ被入
 同十四卯壱人ふち御加増

安西梅干之助

式拾石四人

弘化五辰三月十六日親平八家督廿石四人扶持無相違被下置、大御番組へ
 被入、御馬方被仰付

安西関六 安太郎 実米岡源太郎弟

〔士族〕

廿石四人

一嘉永三戌八月十一日梅干之助病中願之通養子被仰付、家督廿石四人扶持
 無相違被下置、大御番組江被入、御馬方被仰付

一同六丑年願之上江戸表へ修行詰

一同年十月来々卯之春迄詰被仰付候

一同七寅三月廿三日御殿山へ出張二付御下緒帯掛ケ被下置候

一安政四巳三月廿三日御含有之当年江戸表へ被遣、右詰中御扶持方三人扶
 持被下置候、五月朔日出立

一同年五月三日詰中用方之馬術厚穿鑿致修行、砲術之儀も心懸ケ候様被仰
 付候

一同五年十二月関六与名替、同年詰越、未四月廿日帰着

一文久二戌四月四日江戸修行願詰出立

一同年六月十一日先達而方為馬術修行出府罷在候処、失却も多く且少御充

行難洪之儀も有之趣二付、別格之御評議を以修行中三人扶持被下置候
 一同年七月廿五日臨時御用火元見兼被仰付候

一同年閏八月朔日南部表へ罷越駒乗立之儀致修行度旨、内達も有之二付被
 差遣、生育方之義も習受候様被仰付候

一同年十一月廿五日先達而奥州南部表江出立之砌、不取締之趣有之二付御
 叱り、依之伺之上指扣、廿三日御免

一同三亥正月廿一日旧臘廿二日方御供被仰付候二付、同日方御供中式人扶
 持御増都合五人扶持被下置候

一同年同月廿四日中将様御上京御用二付江戸方京都へ出立、三月廿五日御
 供二而帰着

一同年五月六日当亥御参府御供被仰付

一同年六月四日御番頭引纏上京、九月五日帰

一同年十月廿二日御国馬生育掛り被仰付候

一同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美式
 百五十疋被下置候

一同四子二月七日御馬御用之儀有之南部表江被遣候間、江戸表方国沢政之
 助同道罷越、駒乗立之儀厚致修行尚又生育方之儀も習受候様被仰付

一元治元子七月九日内達之趣も有之二付、今度御埋立之油町地所之内二而
 式百坪余拝地二被成下、是迄罷在候家屋敷之儀ハ揚家屋敷二被仰付候

一同年七月廿一日京都表へ出立、八月廿四日帰着

一同年十月十六日長征出陣、丑二月三日帰

一同二丑二月十二日種馬掛り中御留守番役へ被入候

一慶応与改元、閏五月十四日御趣意二付役御番組へ被入候

一同年十月廿日種馬一件出精相勤候二付、御書院番組被入候

一 同年十一月廿六日種馬之儀二付御調御用有之出府被仰付、十二月六日出立、寅正月□□歸

一 慶応三卯正月廿二日用馬乘方仕立方飼方取調掛り被仰付

一 同年二月朔日取調為御用立歸出府被仰付、同七日出立、四月十九日歸

一 同四辰三月六日日々郡役所へ罷出、種馬之儀今一際相端立候様郡奉行へ可申談旨被仰付、依之右勤中御馬方勤向之儀ハ御免被成候

一 同年閏四月十一日種馬掛り其儘郡方吟味役兼被仰付、御留守番組江被入候

一 同年七月廿九日御代官役并郡方吟味役兼勤高木庄次郎跡被仰付、種馬掛之儀も是迄之通被仰付候

一 明治ト改元、十一月廿九日御趣意ニ付種馬掛り御免被成、是迄心配相勤候ニ付銀五枚之当を以被下置候

一 同二巳正月四日御代官郡方吟味役其儘、川方兼被仰付

一 同年七月十九日民政局庶務方引立方被仰付候事、但月給米是迄之通

一 同年十一月朔日造営被仰付候事

但月給米是迄之通

一 等級是迄之通

一 席戸田弥太郎上

一 同月廿一日司計局少属被仰付候事

一 同月廿五日今般御改革、更給禄米四十五俵壹斗四升四合被下

一 同年十二月廿日造営主務被仰付候事、同寮七等上席之事

一 同三年正月十日治水堤防等格別致精勤ニ付金七百疋被下候事

一 同年五月十五日木田地方赤坂清光院受地之分、今度以相对譲受抱地ニ仕度は迄之拜地坪数ト御振替在来之建物被下置候様、願之通被仰付候上ハ

建物之儀ハ卒族石丸静之介ト申者江讓度、願之通被仰付候

一 同年六月廿二日先般掌政堂ヲ始諸寮御普請ニ付、役前不参届儀有之ニ付遠慮、七月八日被免

一 同年十月廿三日田原町元荒子部屋締り方不行届之儀有之ニ付、遠慮伺之上指扣、同廿六日被免

一 同年十二月十二日任権少属 年給式十八表

但会計寮勤仕 造営方

一 同四未六月朔日御改正ニ付免職

浅野

浅野恭齋

拾人扶持 外五人御足

安永五申八月十四日町医方被召出、五人扶持被下、表御医師被仰付

同九子四月五日奥医被仰付、五人フチ御加増、都合十人扶持被成下

同十うし正月十五日五人フチ御足、御匙医被仰付

浅野高山 道有

新知百石

天明四辰六月廿九日父恭齋跡目無相違被下、表御医師

同八申七月廿日奥御医師

寛政五丑年六月廿日御匙医格

同年十一月十一日妻度々致離縁義不宜相聞へ候ニ付、母御呵被成、道有指扣被仰付

同九巳閏七月五日御部屋附御匙医師

同十年正月十六日御足扶持五人扶持被下置

同十一未三月五日江戸留主扶持五人被下

文化十四十二月廿四日格別出精二付御足扶持五人扶持御加増、都合拾五人扶持二被成下

文政二卯八月新知百石被下置候、但是迄江戸詰中御国渡り五人扶持、御匙医役中被下置候

文政十一子九月廿九日病身二付内願之通隠居被仰付、家督之儀ハ於江戸表俸恭齋被仰付候間、嵩山義、年来相勤候二付御召御羽織一銀三枚被下置

置

浅野恭齋

百石

文化十四丑十月廿九日於江戸表奥御医師二被召出、御扶持方五人扶持被下置

文政八酉正月十六日御匙医師見習被仰付
文政十一子九月廿九日於江戸表父嵩山病身内願二付隠居、家督百石無相違、御匙医師被仰付、五人扶持已後不被下

天保六未十月廿一日江戸詰年御国渡五人扶持被下

天保八酉三月廿九日病死

浅野恒庵

百石

天保八酉五月廿日養父恭齋家督百石無相違被下置、表御医師

浅野嵩三タカザウ 初名卯吉 恭齋 実大崎七太夫弟

百石

一嘉永二酉七月十一日恒庵病中養子願之通被仰付、家督無相違被下置、表御医師、即日剃髮致改名候

一同五子十二月十六日種痘之儀致出精候段、達御聴太儀被思召候段、御側御用人を以被仰付候

一同六丑為修行江戸詰罷越居候
一同七寅三月廿三日御殿山出張二付御下緒耆掛被下置候

一安政元寅十二月十六日種痘之義出精二付御褒詞

一同三辰十二月十六日除痘館致皆勤二付御褒詞
一同五午十二月八日右同断

一同七申二月十六日太田御陣屋詰出立

一万延与改元、四月五日佐倉表江罷越、縹帯術厚致修行候様被仰付、太田御陣屋詰之儀ハ御免被成候

一同年七月廿八日先達而臨時横浜表江出張二付御褒詞
一同年十一月九日今度堀田鴻之丞殿医師佐藤舜海与申者長崎表江罷越候二付、願之上同道罷越候様被仰付候

一文久二戌四月十七日帰着

一同年五月廿八日奥御医師被仰付候

一元治元子二月廿三日支度出来次第上京被仰付、三月二日出立、八月廿六日帰着

一元治元子十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一同二丑正月廿九日キンストレーキ致繕修候様被仰付

一慶応元丑十一月廿八日大坂表江出張、夫方神戸江、寅九月十五日帰
 一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候
 一同年九月朔日於御国表吉池角兵衛御咎被仰付候処、実兄二付恐入遠慮伺
 差扣、四日御免

一同四辰六月廿五日会征出立、巳三月十九日柏崎病院方帰着、巳二月廿二
 日出張二付十式両被下候

一明治二巳四月廿九日恭齋事嵩三

同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合

一同三年四月廿五日戊辰北越出張軍事精励二付、御賞典之内十石三ヶ年令
 領授候事

一同年六月四日医学所病院詰被仰付、役義之義ハ被免候事 掛所

但十五等

一年給ハ無之事

一同年七月廿二日病院廻診方兼種痘懸り被仰付候事 但十五等

一同年十月三日芦田源十郎屋敷横、附寄地二而式百廿五坪坪地被下候

一同年十二月十二日職務并家業被免候事

一同日非役江被入候事

一同四未十月三日倅雄輔へ家督

浅野雄輔 父嵩三

〔士族〕

米六拾俵四斗三升六合

一明治四未十月三日家督

安藤

安見格下ヶ 今号安藤

安見権八郎

拾七石五人

明和七寅閏六月廿日御徒組頭方御取立、新番入

安見久次郎

拾七石三人

安永三年七月廿四日養父権八郎家督無相違被下父ノ座、新番入

同九子四月廿九日安見瑞碩紛敷手形取扱其上致出奔候処、致同居罷在心

付不申不調法二付侍御削、式石御取上ヶ御徒へ御下ヶ被成

安藤甚左衛門 吉右衛門

拾五石三人

文政十亥六月十一日新番格御取立、御員役被仰付

天保十三寅十月廿九日来御員役出精相勤候二付新番入

天保十五辰八月休息

安藤久蔵

拾五石三人

一天保十五辰八月十一日親甚左衛門年寄候二付休息被仰付、家督拾五石三

人ふち被下置、新御番組江被入候

一同年八月廿日御員役被仰付候

一安政四巳六月廿日御員役中御書院番組江被入候

一文久三亥二月十日殿様御上京御供ニ而出立、三月六日御供ニ而帰着
 一同年十月十三日中将様御供ニ而上京、元治元子四月廿三日同断帰着
 一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ思召候、依
 之御酒被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰
 一慶応三卯五月二日病死

安藤豊平^{ブン} 彦八 久蔵弟

〔士族〕

拾五石三人

文久二戌十二月廿二日今般思召を以三人扶持御扶助被成下候、子八月廿
 七日相止

但当戌三十一歳

一同三亥二月十日殿様御上京被遊候ニ付御供、三月六日御供ニ而帰着
 一同年十月十三日中将様御供ニ而上京

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中、格別骨折相勤候ニ付銀壹
 枚被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方征長、丑春帰

一慶応二寅三月十一日三番之補兵隊へ附属被仰付候

一同年四月廿九日一番へ割替

一同年六月廿五日宰相様御登坂御供出立可致処不快ニ付残、九月廿八日出
 立、然ル処水落宿ニ而飛脚ニ出合引返し帰

一同三卯六月廿三日兄久蔵病中願之通相統被仰付、家督拾五石三人扶持無
 相違被下置、新番組江被入候

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付候

一同廿五日新番組ニ被仰付候

一同四辰五月十一日今般御趣意ニ付無役組ニ被仰付

一同月廿日無役新番組江被入候

一明治二巳六月廿一日彦八事豊平卜改

一同年八月十四日御広間当番勤被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三十五俵四斗五升被下

一同年十二月五日修業隊江被仰付候事

一同三年六月廿二日予備隊江被入候事

一同年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

天谷¹

天谷五兵衛

廿石三人

正徳五未六月十六日御徒目付方御取立、上水奉行榊原七郎右衛門跡、大
 番入

享保五子七月廿一日御代官

天谷五兵衛

廿石三人

寛保三亥二月廿九日親五兵衛休息、家督無相違被下、大番

天谷五兵衛

廿石三人

寛延二巳六月廿九日父五兵衛跡目幼年ニ付五人扶持被下、御留守番入

同三年七月廿三日相身躰末

宝曆二申正月十六日十五歳罷成ニ付、御切米廿石三人フチ被下、大番入

明和八卯八月廿日番改雪吹牛兵衛跡

安永三年十月十七日順席

同五申正月廿日役義御免

同七戌六月廿五日不埒有之蟄居、御擬作被召上、養子慶七郎へ五人扶持被下、新番入

寛政六寅六月十一日不埒至極之義有之侍御削、御国十三里四方追放

此後代を二出、但織田与改

天谷²

天谷純藏 元武生家来 午三十六

一 嘉永四亥十月

一 明治二巳十一月廿五日今般御改革之処、物頭已上ニ付士族ニ被仰付、給

一 禄之儀ハ適宜御改正之上更ニ被下候事

一 同三年正月廿三日米三拾六俵式斗五升六合被下

一 同年五月廿五日日本多興之輔願之儀ニ付押而強願申上心得違ニ付謹慎、六

一 月十日被免

一 同年八月廿二日福井江引越被仰付

一 同年九月十日武部作源太居屋敷裏ニ而百七十四坪坪地被下候事

一 福井引越被仰付候ニ付是迄之建物被下候間取払可申事

一 一家作之儀ハ建被下候

〔士族〕

一家作中寓居御貸渡被成候事、但百日限り

一同月廿五日芦田源十郎屋敷横附寄地ニ而百七十四坪、更坪地被下候事

一同年十月十二日修業列江被入候事

一同年閏十月廿五日右名目被廢非役ト唱

芦崎

此前代さニ出、但斎藤と号

芦崎治左衛門

百人扶持

享保六うし二月廿五日養父民部跡目無相違被下

寛延元辰七月廿八日隠居

此後代さニ出、但再ヒ斎藤与改

荒井

御取立已前御記録ニ有之

荒井重久 栄藏

拾五石三口

〔士族〕

一 明治二巳六月五日監察局庶務方被仰付、勤中新番格ニ御取立被成候、但

一 月給是迄之通、月給十俵

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三十五俵四斗五升下賜

一 同月廿七日刑法寮少属被仰付候事 監正寮ト改

一 同三年十月十八日任権大属 但十三等 佐々木要之介次 年給五十四俵

一 同年十一月十日御用有之ニ付東京江早速可相越事、同十二日出立、未二

一 月七日帰着

- 一 同年十一月廿八日居住罷在候屋敷地之内ニ而九十六坪拝地被下候
- 一 同四未六月朔日御改正ニ付免職
- 一 同二日任福井藩権大属
- 一 同年十二月七日福井県十等出仕、監視捕亡
- 一 同十日任福井県大属、右同断
- 一 同五申五月栄蔵事重久シゲヒサ

二 福井藩士履歴
い



1

稲葉采女

三千百七拾五石 内千石与力十騎

元禄二巳五月九日父采女跡知無相違被下

宝永四亥八月十三日御家老職被仰付

享保二十卯四月十五日組頭被仰付、於江戸芦田下野与力御預

稲葉采女 斎宮

貳千百七拾五石

元文三年七月六日父采女隱居、家督無相違被下、席芦田図書次二被仰付、

御城下火消

延享五辰七月十八日亥ノ下刻死ス、死後書付十九日

稲葉采女 多宮 隱居

貳千百七拾五石

寛延元辰九月七日父采女跡知無相違、席笹治多門次、御城下火消

稲葉采女

貳千六百七拾五石 内五百石与力

宝曆九卯三月十三日養父采女隱居、家督無相違、席狛茂十郎次、御城下

火消

明和元申七月廿五日御家老職、席本多左門次

同五子八月廿三日組頭与力御預

同七寅五月十九日思召在之二付御役組頭共二御免、高知席松平斎宮次
安永三年六月十四日御城代大谷助六跡、与力御預席其儘
同七戌十月朔日年明御礼月並共二鉄砲之間二被仰付

稲葉采女 図書

三千百七拾五石 内千石与力

寛政五丑七月三日養父采女内願有之二付隱居被仰付、家督無相違被下置、

高知席芦田図書次、御城下火消

同六寅十一月廿八日御家老職被仰付、席本多左門次

寛政十二庚申五月五日於御本丸物頭岡部左膳跡被仰付、与力御預

文化三寅十月十二日狛帶刀隱居二付与力役支配被仰付

文化十二亥七月廿一日隱居被仰付候、御門々々是迄之通惣下座、中ノ口

方往来御家老中部屋へ被入候旨被仰出、御羽織拝領

稲葉采女 図書

二千百七拾五石

文化十二亥七月廿一日養父采女内願隱居、家督無相違、格式高知席狛木

工次、御城下火消被仰付

文政七申十一月病死

稲葉采女 斧次郎

貳千百七拾五石

文政七申八月廿一日養父采女跡無相違、高知席岡部左膳次、御城下火消

天保十二辛丑正月廿二日御家老職被仰付、席酒井外記次

同年十二月六日病死

稲葉愛之助

式千七七拾五石

天保十三壬寅正月廿六日親采女家督式千七七拾五石無相違、高知席狛帶
刀上、御城下火消、前髪有之内出馬月番等不及相勤、人数斗指出候様被
仰付
天保十四卯十一月病死

稲葉務 敬次郎事

式千七七拾五石

一天保十五辰正月廿四日兄愛之助病中願之通養子ニ被仰付、家督無相違被
下置、高知席松平庄兵衛跡、御城下火消被仰付、前髪有之内ハ出馬月番
等不及相勤、人数斗差出候様被仰付
一弘化二巳四月十五日遠慮伺之上差扣之處、御免被成候
一嘉永三戊五月十三日御着返シニ而江戸立帰、出府ニ付出立、六月晦日帰
着
一同六丑七月三日去月十二日京町方出火之節出精ニ付御褒詞
一同七寅五月十六日病死

稲葉采女 哉五郎 実酒井十之丞弟

式千七七拾五石

嘉永七寅七月五日稲葉務病中願之通養子ニ被仰付、家督式千七七拾五石
無相違被下置、御城下火消被仰付候

一同四巳二月十五日家政行届家来共心得も宜趣達御聽御褒詞、且又家来共
江ハ自分ゝ褒可遣旨

一同七申三月十六日御帰国御礼使者被仰付出立

一万延与改元、閏三月十三日御含有之ニ付、当分太田御陣屋出張被仰付候

一同年四月廿 帰着

一同年五月四日先般出府罷在候節御含有之、臨時太田御陣屋出張被仰付太
儀ニ思召、依之三骸一掛被下置候

一同年六月廿八日御備組調練掛り同様被仰付候

一文久三亥正月十九日今般農兵御端立ニ付一組御附被成候間、其手之面々
并掛り西尾十左衛門等へ厚申談、万端引請致世話候様被仰付

一同年五月廿五日当亥年御参府之節農兵召連御供被仰付

一同年七月廿八日当亥年御参府之節農兵召連御供被仰付候処、当時之御模
様も有之ニ付、出立之義ハ見合候様被仰付候

一同年八月朔日御家老職、同四日采女と改

一同四子二月廿日組頭被仰付候

一同日御附屬之御人数被引纏支度出来次第上京被仰付候、三月二日出立
一元治と改元、四月十一日今般御軍帳御割替ニ付、向後大隊二隊御附屬被
成候段被仰出候

一同年五月十七日帰着

一同年六月三日御軍帳取調御用掛り被仰付候

一同廿七日無間乍太儀早速上京被仰付候、七月朔日出立

一同年七月廿五日京都表方早驅ニ而着、翌廿五日出立、九月廿日大病ニ而
帰着、同日病死

一慶応二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公辺仍被下配当金式千疋被下置

候

稲葉俊之助

〔士族〕

式千七百七拾五石 四百五人扶持与壹俵壹斗四升四合

一元治元子十一月九日兄采女病中願之通相統被仰付、家督拾五歳未滿二付

御定之通御扶持方右之通被下置、高知席芦田信濃次江被入、御城下火消

被仰付、且又幼年二付左之通

一前髪有之内者出馬月番等不及相勤、人数斗指出可申事

一月次出仕御用捨被成下候事、但年始五節旬其外不時登城之儀ハ可罷

出事

一相定恐悅御機嫌伺等不及罷出候事、但御触有之節ハ可罷出候事

一同年十二月賊徒一件御留守御用相勤候二付、銀七百三拾三匁御手当被下

一慶応元丑十二月十四日家塾先年来御借用被成候処、追々塾生相増候二付、

尚又塾中建広為致世話候段達御聽一段之事ニ被思召候、此段申聞候様被

仰出候

一同二寅正月十六日家督之節幼年ニ付御定之通御扶持方被下候処、年頃ニ

罷成候ニ付元知之通式千七百七拾五石被下置候

一同年四月廿四日故采女病中堺町戰爭一件ニ付、公儀方被下配当金式千正

被下置候

一同四辰二月十三日今度丸岡鯖江両藩之人質勅使方御家江御預ケ被仰出候

二付、右人質御預ケ被成候

一同年四月五日両藩御預人御預ケ中格別致心配候二付、御三所物白銀式拾

枚被下置候

一同月十二日今度評定局御取建二付而ハ夫迄之処居屋敷表之分、右局二御

借受被成候

同年五月廿二日屋敷地之内西南之間御用地ニ被仰付、坪数之儀ハ追而被

仰付候

一明治卜改元、十月五日先般御用地ニ相成候為代地、下屋敷地続ニ而右御

用地坪数被下置候

同年十二月廿一日居屋敷表之分長々御借受二付、鎧一足金五千疋被下置

候

一同二巳二月廿二日御馬梅ヶ崎金老万疋被下候事

一同年八月廿一日是迄家塾御借受二付、拾貫匁被下候事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五百三拾俵七升壹合下賜

一同年十二月五日修業隊被仰付候事

一同三午正月元日居屋敷表方御用ニ被仰付候事、掌政堂ニ相成

一同月十八日先般居屋敷表方御用ニ被仰付候処、今度居屋敷一円更御用ニ

被仰付候事

一同年三月八日先般家屋敷一円御用ニ被仰出候処、御都合も有之二付御返

シ被成候

但居屋敷表之方ハ掌政堂出来候迄是迄之通可相心得候事

一同年四月七日今度返上仕候下屋敷内竹木共御用ニ無之候ハ、伐取申度、

且又建物并溜池之分六百坪余当分御指延被下候様相願候処左之通

但願之通御指延被下候間相当之地子上納可致候事

一竹木伐取之儀ハ監正寮江可相伺候事

一同月廿七日表住居向御用濟ニ付御返被成候事

一同年五月十八日元下屋敷之内当分拜借之地所御用ニ付可致返上事

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役卜唱、但軍務寮支配

一同四未五月十三日横滨江洋学修業願之通
一同年十一月三日今般由緒之有無二不拘朱印地除地一般上地被仰出候二付、
從來所持之石間歩可致返上事

稲葉²

稲葉要人 初市助

五百石

元禄十六未六月四日被召出此通三百俵被下、同廿一日寄合並、御奉公之

品願二付

正徳四年三月五日寄合被仰付

元文元辰十二月廿八日大番頭被仰付知行御直五百石被下、席多賀谷舍人

次、毛受孫兵衛跡役五番

寛保三亥十二月廿七日死

稲葉要人

五百石

寛保四子二月廿一日父要人跡知無相違被下、席寄合稲垣直理跡

延享元子十月廿五日嶋田清左衛門跡御側

同三寅十月五日御小姓支配

同四卯八月十九日御用人御奏者兼御部屋附御小姓支配

寛延三年十一月十一日御書院番頭御徒御駕附支配とも二

稲葉要人 富五郎 病死

五百石

宝曆五亥六月十一日養父要人跡知無相違被下、寄合席稲垣安右衛門次

稲葉織部

四百石

宝曆十辰十一月廿九日養父要人跡知五百石無相違、寄合席田中斎宮次

同十四申四月十六日御側御小姓支配

明和二酉十二月十五日御小姓支配御免

同三戌九月朔日御用人

天明八申八月十日御書院番頭御用人磯野多宮跡、引渡席飯田作左衛門次

寛政二戌五月廿八日御徒支配林八右衛門跡

同四子十一月廿一日御留守居役飯田作左衛門跡

同五丑八月廿九日妻不埒至極二付離縁被仰付、御役御取揚拝知之内百石

被召上、席高田小左衛門次、閉門

同九巳九月十六日遠慮

稲葉要人

四百石

寛政十午正月廿五日養父織部内願有之二付隠居被仰付、家督無相違被下

置、寄合席富永新左衛門次

文化八未七月七日病死

稲葉式部 初頼母

四百石

文化八年八月廿九日養父要人病中願之通養子被仰付、家督無相違被下置、寄合席飯田儀兵衛次

文政五年十二月十六日孝頭寺火消被仰付

同十二月廿日無役御留守番支配飯田作左衛門跡被仰付

嘉永二酉閏四月十六日近年多病相成二付、内願之通隱居被仰付

稲葉左司馬

〔士族〕

四百石

一 嘉永二酉閏四月十六日養父式部近年多病二相成候二付、内願之通隱居被

仰付、家督四百石無相違被下置、寄合席被仰付荒川十右衛門次

一同六丑二月十七日無役御留守番支配林八右衛門跡被仰付候

一同七寅六月九日御用人見習被仰付

一 安政元寅十二月廿八日御備組調練懸り同様被相心得、御用掛申談候様被

仰付候

一 安政三辰三月十二日火之御番御用相勤太儀二思召、御召御給一銀一枚被

下置候

一同年四月廿七日昨年御判物於木ノ本駅御頂戴被遊、右御礼使者被仰付、

同駅方追込致出府御使者相勤候二付、御目錄御召御小袖壹被下置候

一同四巳三月十二日御省略懸り被仰付候

一同五年八月廿三日江戸詰出立

一同年十月廿九日今般御家督御相統被為濟候二付、日光江御代參被仰付候

一同年十一月廿一日今般御家督御相統御引移二付、御用多相勤候二付御褒

詞

一同六未五月廿四日横浜御警衛御持場内御台場并御陣屋等御取建二相成候

二付、右御用掛り被仰付候

一同七申三月十一日太田御陣屋御普請江戸詰中御用掛り出精二付、銀壹枚被下置候

一万延元与改元、五月十四日御軍制御用掛り被仰付、海岸御備向之儀も同様相心得候様被仰付候

一同年九月十日御都合も有之二付来西ノ春江戸詰被仰付、正月中引揚致出府候様被仰付、且又詰間も無之可為難儀二付、此度限為御手当金廿五両被下置候

一同年十二月七日来春江戸詰被仰付置候処、今度鶴御拝領之御沙汰有之二付、乍太儀右御使者御内意被仰付候、且又右二付為失却銀七枚被下置候

一万延二酉正月五日出立、但振り也

一文久与改元、四月十九日詰中横浜御警衛御用掛り被仰付候

一同九月鶴御拝領御礼使者相勤候二付、御召御小袖一被下置候

一同年十一月三日来戌ノ秋迄詰廻被仰付候

一同年十二月十一日御鵜支配被仰付候

一同十六日今般和宮様御下向御道固二付、御用掛り出精之段御褒詞

一同二戌四月三日横浜表江御人数出張之節、致心配候段御褒詞

一同七日先達而御持場替一件御用掛り出精之段御褒詞之上、三階一被下置候

候

一同年六月五日伺之上差扣、然処御免被成、御用之外慎罷在候様被仰付、

七日御免

一同年八月十九日帰着

一同年十月十一日御世譜掛り被仰付候

一同三亥正月十九日大御番頭中川淵跡并御用人御奏者兼勤、御足高五拾石

被下置候、且又大御番頭被仰付候二付引渡之席被仰付、是迄永見主膳相番之御番組相番二被仰付、将又今般農兵御派立二付一組大谷丹下江御附被成候二付、其手へ属シ御番組役配之儀を初、丹下并掛り西尾十左衛門へ厚申談、万端致世話候様被仰付候

一同廿一日御鵜支配御免被成候

一同年五月廿二日御軍帳御変革二付掛り被仰付

一同年八月廿一日御用人兼勤被仰付置候処御免被成、昨年被仰出候以前之通相心得候様被仰付

一同四子正月十三日御足高其儘、御書院番頭格御用人御奏者兼被仰付、支度出来次第江戸詰渋谷弥税与致交代候様被仰付候、二月朔日出立

一元治元子三月十二日御留守中、御書院番頭大御番頭假御徒御馬支配并大奥御用を始、御側御用人取扱候御用取扱被仰付候

一同年九月四日江戸方帰

一同年十月十五日御軍帳掛り被仰付候

一同年十二月賊徒一件出張、右二付御手当銀尅貫匁被下置候

一同二丑二月廿二日御書院番頭御用人御奏者兼大宮藤馬跡被仰付候、且又御徒支配被仰付候

一慶応卜改元、閏五月五日御軍帳定掛り被仰付

一同年七月十日御軍制掛り被仰付、厚申合早々取調候様被仰付候

一同年十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日御容膝二付今庄方御引戻帰着

一同二寅五月七日兵学所掛り被仰付候

一同年六月四日宰相様御登坂御供被仰付候、同廿五日出立、十月五日帰

一同三卯正月廿二日今般御趣意二付御書院番頭御役名被廢候、依之御書院

番頭之儀ハ御免被成候

一同日当御時勢二付追々被仰出候義も可有之候間、御趣意通相心得御右筆部屋向之儀引受厚致心配候様被仰付、依之月番之義ハ御用捨被成候、且又御軍帳定掛り御免被成候

一同年十月廿五日殿様御上京被遊候節、御供被仰付候

一同四辰二月廿九日支度出来次第上京被仰付、宇都宮勤ケ由卜可致交代旨、三月十日出立

一同年四月五日北陸道惣督御通行之節、心配相勤候二付御褒詞

一同年閏四月七日在京中御側御用人助被仰付

一同年六月十七日帰

一明治卜改元、十月廿二日今般御趣意二付御右筆部屋被相止候、依之御役儀御免被成、御近習被指置候、且又年来出精相勤候二付御足高并席其儘御取扱向是迄之通被仰付

一同年十一月廿日御留守居役并御奏者兼中川淵跡被仰付、御取扱向是迄之通被仰付

一同二巳二月十四日行事被仰出候

一同年三月十日行事主務被仰出、月給五十俵

一同月廿六日出精相勤候二付御足高五十石其儘被下候

一同年十月十四日任福井藩少参事宜下候事

一同月廿四日行事主務更二被仰出候事、但月給米当分百式拾俵被下候事
一同日今般少参事宜下二付御取扱左之通

一五節旬朔望登城之節於御座之間權大参事畢而御逢之事

但各員一同罷出候事

一詰所是迄之通参政職詰所之事

一 御門々々下座候事

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米百七十八俵三斗四升式合被下候

一同三年正月十日日本官被免候事

一同日行事局被廢候、依之職務被免優待列被仰付、且又年来出精ニ付年々金五十兩ツ、被下候事、但御足高已後不被下候

但午閏十月廿五日優待列名目被廢非役卜唱

一同日非役上席被仰付候

一 明治六年六月十八日老年ニ付倅文雄へ家督

稲葉文雄

一

〔士族〕



稲葉源右衛門 初儀八郎

百俵

元禄十六未六月四日被召出、此通百俵被下

同廿一日寄合弟並

正徳四年三月五日御奉公願ニ付御番組並被仰付、依之知行末席ニ入

稲葉新右衛門 死 同十九年

百三拾石 初百俵

延享三寅六月廿八日父源右衛門休息、家督百俵無相違、大番入

同年九月二日御番割之節御切米順席之処、御吟味之上百石末席出

同五辰七月廿九日百俵之処百三拾石御直し被下、御手廻御書院番入寛延二巳二月廿九日御手廻御免、大番入

宝曆八寅七月廿五日御手廻吉田弥一右衛門跡、御書院番入

稲葉藤之丞 休息

百三拾石

明和三戌四月廿九日養父新右衛門跡知無相違、大番入

同年十二月二日表御小姓

同五子七月九日御小姓

同七寅八月七日御近習番御書院番入

天明四辰十一月十五日病身ニ付役義御免、御近習番格

同七未三月十四日御形合被相改万端御省略ニ付御近習番格御免、大番入

同八申六月十一日家内不締リニ付閉門

稲葉源右衛門 三四郎

百三拾石

享和二戌年正月十六日実父藤之丞内願ニ付休息被仰付、家督無相違被下、

大御番入

文政五年九月廿五日大御番壺番筆頭富田弥兵衛跡被仰付

文政十三庚寅六月三日高橋吉兵衛跡御使番御侍頭兼帶被仰付、役料百石

被下置

天保四巳九月九日遠慮伺之上差扣被仰付

天保十亥三月廿九日出精相勤候ニ付、御役儀其儘御先物頭次席被仰付候

稲葉源右衛門 三四郎

百三拾石

天保十一子三月廿五日親源右衛門家督百三拾石無相違被下置、大御番組へ被入候

嘉永二酉九月廿五日相煩江戸表方罷返候節、相州湯本ニ而病死

稲葉多金吾 捨作 フジ 藤之丞

百三拾石

一 嘉永二酉十一月廿九日兄源右衛門病中願之通養子ニ被仰付、家督無相違被下置、大御番組へ被入

一同七寅正月十一日江戸表へ出立

一同年四月廿五日屋敷地面之内、南之方へ豎拾五間四尺幅五間御用地ニ被仰付、東之方屋敷廿坪地面被下置候

一 安政三辰十二月廿八日多金吾与名替

一同四巳九月廿三日家屋敷伊藤友四郎家屋敷ニ替被下候

同年十月五日病身ニ付内願之通休息

一元治元子三月十六日昨暮方知行所へ理不尽ニ迷惑を掛候段、兼而被仰出も有之処心得違ニ付逼塞被仰付候、五月七日御免

稲葉悦之助

〔士族〕

百三拾石

一 安政四巳十月五日養父多金吾儀病身ニ付内願之通休息被仰付、家督百三拾石無相違被下置、大御番組無役組へ被入候

一同五年十一月十一日家屋敷高橋十郎兵衛家屋敷へ替被下候

一文久元酉三月廿五日大御番へ被入候

一同二戌閏八月四日家屋敷鱸長左衛門家屋敷へ替被下候

一同三亥二月十二日番頭引纏上京、三月廿五日中午將様御供ニ而帰着

一同年八月廿六日早速上京被仰付、同廿九日出立

一元治元子二月廿九日家屋敷河合五右衛門家屋敷へ替被下候

一同年三月廿七日養父可御咎ニ付伺之上指扣、四月二日御免

一同年四月廿一日殿様御位階御昇進之為、御使雨森宇右衛門指添早駆ニ而帰着

一同年五月十一日在京中不埒之趣相聞遠慮、六月朔日御免

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒被下置候

一同年七月四日京都表へ出立、八月廿四日帰着

一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張、三月朔日帰

一 慶応卜改元、九月廿二日家屋敷山田延次郎家屋敷江替被下、為造作料銀七貫匁被下置候

一同二寅正月廿二日当寅年江戸詰被仰付、三月廿一日出立

一同年四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年十二月六日今度御趣意ニ付勝手次第罷帰候様被仰付、同廿六日帰

一同三卯三月十日御上京御供出立直ニ御警衛詰、七月十八日帰

一同年十月廿三日後拒役被仰付、役中其隊之上席ニ被仰付候

一同四辰四月三日京都御警衛詰出立、閏四月十五日帰

一同月廿五日一番後拒役被仰付、役中分隊長次席ニ被成下候

- 一同年九月八日上京、十一月十六日帰
- 一明治二巳四月九日中納言様御東京御供出立、十月十三日帰
- 一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米七拾三俵四斗貳升七合被下
- 一同三午五月廿四日第一大隊三番小隊後絶被仰付候事
- 一同年十二月八日常備歩兵隊一番伍長一 九俵
- 一同四未四月朔日東京詰出立
- 一同年十月十三日解隊、在京中是迄之通

儀野¹

儀野多宮

五百石

於松岡御奏者御相統後

- 享保七寅二月廿八日百石御加増、都合三百五十石、同日御奏者
- 同十一年十月廿九日百石御加増
- 寛保三亥十月廿五日御留守居役被仰付、御加増五拾石被下、着座寄合二被仰付、菅沼与一郎跡也
- 寛延元辰十一月三日死

儀野多宮 隠居

五百石

- 寛延元辰十二月廿三日養父多宮跡知無相違、寄合席富永新左衛門次
- 同三年十二月十一日御側御小姓支配並河一九郎跡
- 宝曆五亥七月廿二日御用人御奏者兼

- 同十一巳五月廿二日大番頭菅沼与一郎跡、席引渡永見丹下次
- 安永二巳十一月十一日御用人御奏者兼御書院番頭中根内膳跡

儀野多宮 文化十四十一月死

五百石

- 天明八申八月十日父多宮隠居、家督無相違被下、寄合席稻垣安右衛門次
- 同日御側役中根小弥太跡御用人見習
- 寛政二戌正月十一日御小姓支配
- 同五月廿八日御用人本役御鶴支配
- 同八辰五月廿六日御鶴支配御免、御鷹支配
- 同十二申十二月十日大御番頭秋田八郎兵衛跡、引渡席
- 文化六巳ノ二月十八日御留守居秋田八郎兵衛跡

儀野多宮 □□ 勇

五百石

- 文化十四十二月五日父多宮家督無相違、寄合席稻垣安右衛門次
- 同十三子十一月十二日御側役御用人見習御小姓支配
- 同十四丑三月十五日御用人月番打込助
- 文政二卯正月廿五日大番頭中川空之助跡、林八右衛門次席
- 天保四巳年十月十六日御留守居役林八右衛門跡
- 天保七申二月廿日倅祐之丞心得違之趣有之遠慮被仰付候二付、遠慮伺之上指扣被仰付候
- 天保十三寅四月晦日病死

磯野石見 留 右仲

五百石

一天保十三寅六月廿日親多宮家督五百石無相違被下置、寄合之席被仰付、
席稻垣安右衛門上被仰付

一同十四卯八月廿五日不慎二付閉門被仰付候

一嘉永元申九月十五日明里御藏火消被仰付林八右衛門跡

一同四亥九月十七日病死

磯野近^{チカシ} 他五郎 左近 多宮

〔士族〕

五百石

一嘉永四亥十一月十一日兄石見病中願之通養子被仰付、家督五百石無相違
被下置、寄合之席被仰付候

一安政元寅十二月廿八日左近与名替

一同三辰五月九日孝顯寺火消被仰付候

一同四巳六月廿日運正寺火消被仰付、孝顯寺之義ハ御免被成候

一同年十一月廿日此度大砲科御端立相成候二付右局へ相詰、自分ハ講究ハ

勿論引立方之儀厚致心配候様被仰付候

一文久三亥四月五日御側役并御用人助被仰付、是迄相勤来候御用向都而其
儘被仰付、風廻り之義ハ御用捨被成候

一同日今般農兵御派立二付一組狛帶刀へ御附被成候間、私儀其手江属シ帯
刀并掛り西尾十左衛門等江厚申談致世話候様被仰付候

一元治元子四月十一日昨年狛帶刀方江農兵一組御附被成候処、今般御軍帳
御割替二付御免被成、狛山城方江御附被成候間、其手江属シ山城方江厚

申談是迄之通致世話候処、山城方在京留守中ハ帶刀方江可申談旨

一元治元子四月十九日狛山城方御用多二而訓練出勤無之節ハ、芦田信濃へ
都而申談致世話候様被仰付候

一同年六月五日運正寺火消御免被成候

一同年六月十四日是迄山県三郎兵衛方附農兵致世話候様被仰付置候処、御

軍帳御割替二付狛帶刀方附農兵致世話候様被仰付候

一同年七月上京出立、八月廿二日帰着

一同年七月廿九日御趣意二付御側役并御用人助御免被成候

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一同二丑二月廿六日孝顯寺火消被仰付

一慶応与改元、十二月廿八日多宮与名替

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千五百疋被下置
候

一同年十月廿六日下馬御門并三ノ丸南御門所御預ケ被成、御警衛向厚相心
得相勤候様被仰付、依之風廻り且出火之節詰所之儀ハ御免被成、尚又勤

方之儀ハ御用人申談候様被仰付

一明治二巳五月廿五日御門所御警衛之義ハ被免

一明治二巳六月十一日去ル朔日夜廻之節心得違之旨有之二付御叱被成候、

伺之上遠慮、同十六日被免

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米二百三俵五升七合被下

一同年十二月五日修業隊被仰付候事

一同月九日中間久助不慎御咎二付伺之上指扣、同十一日被免

一同月十五日多宮事下改

一同三午四月二日居屋敷御用地二被仰付、本多興之輔揚屋敷地之内二而代

り地被下候事

但建物引料取調之上被下候事

一 坪数之儀ハ追而御指図之事

一同年四月廿二日先般屋敷代地本多興之輔元屋敷地ニ而被下候処、御都合

ニ付元小学校之内ニ而家作共被下候事

但坪数家作場所之儀ハ追而相達候事

一同年五月十八日内達之趣有之二付、先般被仰出候通本多興之輔返上地之内相当之坪数、更ニ屋敷替地被下候事

但在来之家作被下引料之儀ハ元小学校取繕被下候、修復料之積り

ヲ以被下候事

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役卜唱

一同六年五月廿七日病死

磯野平三郎 左近養伯父 明治三年三十式歳

〔士族〕

文久二戌六月廿九日身分をも不顧不行状之趣相聞候ニ付、移りを以御叱被成候

一同年十二月廿二日今般思召を以三人扶持御扶助被成下候、子八月廿七日相止、当戌廿五歳

一元治元子六月廿六日御舍御用有之早速上京被仰付、式人ふち御増都合五人ふち被下置、同廿八日出立、八月廿二日帰

一同年十一月二日京都詰早速出立被仰付、同五日出立、同十二月賊徒騒乱ニ付立帰罷越

一同年十二月右同断ニ付出張、御手当式百疋被下

一同二丑正月十九日再上京、五月六日帰

一慶応元丑閏五月十八日補兵隊被仰付候

一同二子三月十日定座番外以上補兵隊之義ハ御趣意ニ付被相止候

一同年四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一明治元辰八月御備入被仰付、巳八月十四日予備隊卜唱、同十一月八日修

業隊卜唱

一同六年六月三日兄近病死ニ付家督

磯野

2

磯野無二

百五拾石 外役料百石

於松岡御普請奉行御相続後仮役

享保七寅十一月九日御加増五拾石被下、御先物頭被仰付、役料百石被下

磯野源内

百五拾石

享保十五戌七月十一日無二跡無相違

磯野仲右衛門 隠居

百石 役料百五拾石

元文三年二月五日養父源内跡目幼年ニ付十五人扶持被下、御留守番入

寛保四子二月十六日十五歳ニ罷成ニ付新知百石御直被下、大番入

安永四未十月十一日与内立合雨森平八郎跡

同五申八月十四日与内檢地奉行高屋半左衛門跡、御留守番入

天明三卯十月廿日札所奉行岡嶋清兵衛跡、大番入

寛政二戌十月十八日大馬印奉行須崎三郎右衛門跡

同八辰十月四日御使番渡辺佐五右衛門跡、御役料百五拾石

磯野三四郎

百石

享和二戌九月二日養父仲右衛門隠居、家督無相違、大番入

文化八未十月廿七日病死

磯野仲右衛門 佐五右衛門 雄三郎

百石

文化八未年十二月十七日養父三四郎家督無相違、大御番入

文政六未十月十六日無役御留守番世話役波々伯部七三郎跡

文政十三寅三月廿日山奉行吉田五左衛門跡

天保二卯十一月十六日役向不忠之義二付遠慮被仰付候

天保三辰年三月十一日御預所御金奉行野村五左衛門跡被仰付

同申五月廿日与内檢地奉行高屋源兵衛跡

同十二丑十二月五日病身二付内願之通御役御免被成、大御番役へ被入

磯野憲之丞 鉄平

百石

一天保十三寅三月廿九日親仲右衛門家督無相違被下置、無役御留守番組江

被入

一文久二戌年江戸詰

一同三亥正月廿三日中将様御船二而御上京被遊候二付御供、三月廿五日右

御供二而京都方着

一同年八月廿六日早速上京被仰付、同廿八日出立、子四月廿三日宰相様御供二而帰

一元治元子六月廿五日昨冬已来宰相様御上京中格別繁勤太儀二思召候、依之御酒被下置候

一元治元子七月四日京都へ出立、八月廿三日帰着

一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同二丑正月賊徒警衛敦賀江出張、二月廿三日帰

一慶応二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同三卯三月十日御上京御供出立直二御警衛詰、七月十八日帰

一同年八月十一日御趣意二付御留守番組へ被入候

一同四辰五月十一日今般御趣意二付無役組江可被入之処、御広間当番勤被仰付、御留守番組江其儘被指置候

一明治二巳九月廿九日多年之精勤之処御藩制御改革二付、為御慰勞式拾五

金被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

予備隊

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同五申二月廿五日病身二付倅猛へ家督

磯野猛

一米六拾俵四斗三升六合



稲垣安右衛門

四百石

元禄元辰十一月十一日養父安右衛門為名跡四百石被下

同十四巳三月若殿様御取次被仰付

正徳三卯十一月七日右取次御免、最前番外之處此節席上被下

稲垣安右衛門 初メ清助

四百石

享保十巳八月五日養父安右衛門跡目無相違被下、寄合席天方五郎左衛門

次

同十九寅六月六日御側御小性支配

稲垣安右衛門 病死 同廿五年

四百石 外百石御足高

元文五申七月廿九日養父安右衛門跡知無相違、寄合席富永新左衛門次

延享元子十一月三日御側見習

同四卯八月廿九日御側本役御小性支配

寛延三年十月五日御用人

明和五子七月六日御書院番頭宇都宮勘ヶ由跡御足高百石、引渡席大道寺

孫九郎次

稲垣安右衛門

四百石

明和七寅六月五日父安右衛門跡知無相違被下、寄合席天方數馬次、父元

之席也、同月廿日孝顯寺火消

文化十四丑三月十一日年来相勤候二付御紋御上下被下置

文政五年十二月十五日御留守番頭酒井十之丞跡、席高田波門次

文政六未十月三日年寄内願隠居

稲垣源太郎

四百石

文政六未十月三日養父安右衛門内願之通隠居、家督無相違、寄合席多賀

谷權助次

文政七申八月晦日病死

稲垣治部 文庫 安右衛門事

四百石

一文政七申九月廿日養父源太郎跡知四百石無相違被下置、寄合席富永孫四

郎次

一文政九戌五月三日運正寺火消被仰付候

一嘉永七寅六月九日無役御留守番支配稲葉左司馬跡

但安政元寅十二月十八日御軍制御改正二付、御役名大御番無役支

配と替ル

一安政三辰五月九日御用人見習被仰付

一同年五月十七日御備組調練之儀懸り同様二相心得、御用懸り申談候様被

仰付候

稲垣重教^{シゲヨシ} 半之丞 実中川主膳養方弟
四百石

〔士族〕

儀ハ御免被成候

- 一 同年七月七日御用人月番打込相勤候様被仰付候
 - 一 安政五年四月十五日江戸詰出立
 - 一 同年十一月廿一日今般御家督御相続御引移ニ付、御用多相勤候ニ付銀壹枚被下置候
 - 一 同六未二月三日来申ノ春迄詰越被仰付候
 - 一 同年三月廿五日御用人御奏者兼被仰付候
 - 一 同七申二月十八日帰着
 - 一 万延与改元、六月廿八日御備組調練掛り被仰付候
 - 一 文久三亥正月廿一日御鷄支配被仰付、御鷹仮支配之義ハ御免被成候
 - 一 同年八月廿五日遠慮伺之上指扣被仰付置候処、今日方御免
 - 一 同年九月廿六日御用有之、立帰上京被仰付早速致出立候様、同廿八日出立
 - 一 同年十一月廿七日在京被仰付置候処、御都合も有之二付勝手次第罷帰候様被仰付、十二月十七日帰
 - 一 同年十二月賊徒一件ニ付御供ニ而出張、依之御手当銀壹貫匁被下置候
 - 一 慶応元丑五月廿八日役御番支配被仰付候、但中ノ口致往来御用人下ノ部屋へ罷出候様被仰付候
 - 一 同年閏五月十八日役席右御番頭次ニ被成下、引渡之席被仰付候
 - 一 同四辰八月廿二日御役御免被成、席其儘御近習ニ被指置候
 - 一 明治二巳二月十六日年寄ニ付隠居
 - 一 同年三月廿六日折々御機嫌可相伺候事
-
- 安政四巳四月十四日多年出淵劍術厚心掛重キ手数ニも相運候ニ付、花葵御紋付御扇子一本被下置候
 - 一 同年十一月廿日大砲科御端立ニ付右局へも罷越、大砲之儀厚致講究引立筋之儀致心配候様被仰付候
 - 一 同五年養父治部江戸詰ニ付同道罷越
 - 一 同年七月六日殿様御隠居、松平日向守様御相続ニ付御国へ御使、道中五日振出立被仰付候
 - 一 同六未四月六日昨夏以来御代拝御使者并御客取扱等ニ御雇被成候ニ付、銀五枚被下置候
 - 一 文久三亥正月十六日農兵教授手伝被仰付候
 - 一 同年三月十一日当亥年大砲為御用芝御陣屋詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置候、同廿六日引揚出立、同年六月十八日病氣ニ付願之上着
 - 一 元治元子五月十日兵科局詰并農兵教授手伝被仰付置候処、病氣内達も有之二付御免被成候
 - 一 同年十月十六日長征出陣、丑二月五日帰
 - 一 慶応元丑閏五月十八日補兵隊伍長被仰付
 - 一 慶応二寅三月十日定座番外以上補兵隊之義ハ御趣意ニ付被相止候
 - 一 同二寅三月十一日一番之補兵隊筆頭役勤向被仰付、勤中銀式拾枚ツ、年々被下置候
 - 一 同年四月十五日兵科取調被仰付候
 - 一 同年五月七日御軍制取調掛り并兵学所詰被仰付候
 - 一 同年六月廿五日宰相様御登坂御供出立
 - 一 同年七月七日京坂御滞在中御用人助被仰付、右御用中補兵隊筆頭勤向之儀ハ御免被成候

一 同年九月廿一日補兵隊筆頭勤向并御用人助御免被成、御国表へ罷歸候様被仰付、同廿六日帰

一 同三卯正月九日軍事方被仰付候

一 同年七月廿一日軍事方頭取助被仰付候

一 同四辰四月廿五日軍事方頭取助勤中五人扶持被下置候

但是迄被下置候銀之儀ハ已後不被下候事

一 明治二己正月十九日軍事方其儘生兵局頭取被仰付候

一 同年二月十六日養父治部年寄二付隠居被仰付、家督四百石無相違被下置、軍事方并生兵局頭取其儘被仰付、寄合之席二被仰付候、席中川稔衛次

一 同年七月廿六日以当役御備入子弟輩世話役被仰付候事

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百七拾八俵三斗四升式合下賜

一 同月廿八日修業隊世話役被仰付候事

一 同三年六月二日今般修業隊之名目被廢候二付、役儀被免優待列被仰付候

事

一 同年閏十月廿五日非役触支配被仰付、但優待列名目被廢非役卜唱

米百八俵三斗四升式合

一 同四未二月八日依願給禄之内七十俵弟五十三江分禄被仰付候事

一 同月十四日族長被仰付候事

但役給十式俵被下候事

一 同年六月十五日族長被免候事

一 同五申五月半之丞事重教^{シゲヨシ}

稲垣重

一 同六年一月十八日父重教病死二付家督

〔士族〕

一 八拾壹石五斗壹升

稲垣重^{シゲシ} 文庫 楊介 半之丞倅 午十八歳

無息中

一 元治二丑正月十三日宰相様御伽御雇被仰付、銀五枚ツ、年々被下置候

一 慶応三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰着

一 同年十一月廿四日支度出来次第上京被仰付、十二月四日出立、辰三月廿一日帰

一日帰

一 同四辰三月十七日年頃二罷成候二付、御附御伽御雇御免被成候

一 明治三年十二月十八日文庫事楊介卜改

一 同四未二月十四日依願同姓五十三代勤被仰付、非役江被入候事

同年六月不及代勤

一 同五申五月楊介事重^{シゲシ}

飯田

飯田治左衛門

三百石

御先代六百石

貞享三一等半知被下

元禄十六未八月十一日百五拾石二被仰付、御番組へ被入

正徳元卯十一月七日百五拾石御加増、以前之席二被仰付

正徳三巳閏五月二日御奏者役被仰付

〔士族〕

享保二酉十月十五日御役御免

同四亥五月十六日隱居、養子多宮へ家督被下

飯田十太夫

四百石

享保四亥五月十六日養父治左衛門隱居、家督無相違、同日觸頭花木外記跡

同七寅十二月十八日御側被仰付、席寄合御小姓支配

同十五戌九月五日百石御加増

同十九寅六月六日御奏者

飯田作左衛門

四百石

享保二十卯十一月廿九日養父十太夫跡知無相違、番外席西尾仁左衛門次

元文五申十月廿五日御側御小姓支配稻垣安右衛門跡、寄合席水谷弥三郎

次

同六酉三月朔日御小姓支配御免、御側役斗

延享元子十月廿一日御小姓支配

同四卯六月十五日御奏者

明和三成五月廿九日御役御免

天明二寅十月十四日御留守居嶋田清左衛門跡、引渡席佐野内膳次

飯田十太夫 長之助 病死

四百石

寛政四子十一月廿一日養父作左衛門御先々代様方長々相勤太儀二思召候、

年寄内願も有之二付隱居被仰付、家督無相違被下置、寄合席高田小左衛門次

飯田作左衛門 安太郎 織衛

四百石

文化五辰正月廿五日父十太夫家督無相違、寄合席富永孫四郎次

文化十二亥十一月十六日運正寺火消

文政二卯二月五日姉多賀谷權助妻義不埒二付揚り屋へ被入、仍之伺之上

遠慮被仰付

文政九戌五月三日無役御留守番支配相馬隼人跡被仰付

文政十二丑十月廿日御用人見習被仰付

同十三寅正月十六日御用人打込月番相勤候様

天保三辰七月朔日御用人奏者兼被仰付

同四巳年之十月十五日浅姫君様御附御用人兼帶被仰付

天保十二丑九月五日御留守居役佐野内膳跡被仰付、引渡席牧野主殿次

飯田十太夫 徳次郎事

四百石

一 弘化三年七月廿日養父作左衛門家督無相違被下、寄合席多賀谷舍人次被

仰付

一 嘉永五子五月十六日孝顯寺火消被仰付

一 同年八月十六日家屋敷波々伯部熊藏家屋敷揚屋敷二相成候上替被下候

一 安政三辰五月廿五日勝手向及難洪御仕送り相願候二付内調之処、先代方

之旧借も有之哉二候得共、第一年若^ろ文武心掛ケ薄ク勤向物入之廉も無
 之旨、御奉公も難相勤程二相成候儀ハ兼々心得方不宜趣二相聞不調法至
 極之事二候、依之隠居之上遠慮、六月廿日御免

飯田静馬 捨五郎 実十太夫養家之弟 故作左衛門実子
 四百石

一安政三辰五月廿五日養父十太夫儀勝手向及難洪御仕送り相願候二付内調
 之処、先代^ろ之旧借も有之哉二候得共、第一年若^ろ文武心掛ケ薄勤向物
 入之廉も無之ニ付、御奉公も難相勤程二相成候儀ハ兼々心得方不宜趣二
 相聞不調法至極之事二候、依之隠居之上遠慮被仰付、養子捨五郎江家督
 四百石被下置、寄合之席被仰付候、勝手向取締之儀ハ追而被仰付旨被仰
 付候、依之捨五郎儀伺之上差扣、六月三日御免
 一同四巳八月廿五日屋敷地之内東北之方ニ而七拾坪余御用地ニ被仰付、且
 又屋敷地之内村上沖之助勤中居住罷在候節、願之上三十九坪四歩五厘御
 茶園地ニ被成下拜借地ニ被仰付候分、御取揚被成候
 一同六未十月廿日病身ニ付内願之通隠居
 一明治四未四月廿五日同姓力、給禄之内五拾俵被下候事
 米五拾俵

但静馬三十一歳罷成、先年病身ニ付願之上隠居、然ル処近来壮健
 罷成、殊ニ壮年之儀ニ付一廉之御奉公相勤度願之上如此

飯田力 慎之助 主税 実宇都宮勘解由伯父
 チカラ

〔士族〕

四百石
 安政六未十月廿日養父捨五郎病身ニ付内願之通隠居被仰付、家督四百石

無相違被下置、寄合之席被仰付候

但家督被下置候処御仕送中ニ付諸事養父之通相心得候様被仰付候
 一同十二月五日今般家督無相違被下置候得共、御仕送り中ニ付諸事養父之
 通被仰付候処、諸上納方之儀当年ニ而ハ皆上納濟ニ相成之趣ニ候処、何
 之勤向も無之ニ付、寄合之席ニ而勤向之分ハ諸事相勤度旨、親類之面々
 江申聞候ニ付為相勤度、暮方并締方等之儀ハ当分恒岡安左衛門皆川宮内
 引請致世話度旨相願候ニ付、来申正月^ろ当人願之通被仰付候
 一同七申三月十一日柘植常五郎家屋敷へ相对替願之通被仰付候
 一万延与改元、十二月廿八日主税与名替
 一文久三亥二月八日今般農兵一組稻葉哉五郎へ御附被成候ニ付、其手へ属
 シ哉五郎并西尾十左衛門へ申談致世話候様被仰付候

一同年四月五日御側役并御用人助被仰付、是迄相勤来候御用筋都而其儘被
 仰付、風廻り之儀ハ御用捨被成候

一同年五月廿五日当亥年御参府之節農兵隊被召連候ニ付、御供被仰付候

一同年七月廿八日右御供御免被成候

一同年八月廿九日家屋敷地御用ニ付、波々伯部熊太郎家屋敷江替被下候

一元治元子二月四日稻葉采女方御附属之御人数引纏、支度出来次第上京被
 仰付候ニ付、同断被仰付候、三月二日出立、四月十一日帰

一同年四月十九日稻葉采女方御用多ニ而調練出勤無之節ハ、松平貫之助へ
 都而申談致世話候様被仰付候

一同年六月廿五日当春宰相様御職被為蒙候ニ付早速上京諸事致心配、御褒

詞

一同年七月廿二日御趣意ニ付御側役并御用人助御免被成候

一同年四月廿三日御側役并御用人見習被仰付、御小姓表御小姓支配被仰付

候

一 御坂札被下候事

一同年八月十九日今度御上京御供被仰付、御道中無息致世話候様被仰付、

一同年十一月三日東京方帰

同廿八日出立、夫方長征、丑二月帰

一同月十日御改革二付、御門所御警衛被免候事

一慶応元丑五月廿五日御用人御奏者兼被仰付候

一同年十一月廿五日今般御改革二付、更給禄米百七十八俵三斗四升式合被

一同二寅正月廿九日江戸詰被仰付、佐野小太郎与可致交代旨被仰付

下

一同年三月五日右被仰付置候处、当分御人減二付御免被成、当秋詰被仰付、

一 予備隊 午閏十月廿五日名目被廢非役下唱

皆川宮内と可致交代旨

一同三午閏十月廿五日非役触支配被仰付

一慶応二寅八月十六日江戸詰中御家老御用取扱を始、諸事皆川宮内同様相

一同四未二月十四日触支配被免候事

勤候様被仰付、同廿二日出立

一同年四月廿五日依願給禄之内五拾俵同姓静馬江分禄被仰付候事

一同年十二月七日御近火之節骨折致心配候趣二付御褒詞

米百式拾八俵三斗四升式合

一同三卯二月十四日手馬繫置候様被仰付、且又非常之節并時宜二寄御用馬

二被仰付候儀も有之二付、口附之者為給料壹人ふち被下置候

一同年四月廿一日来辰ノ春迄詰越被仰付、辰二月廿日帰

市村

市村勘右衛門

一同四辰三月廿九日屋敷地御用地二被仰付、代地中ノ馬場於御花畑被下置、
家作并長屋之儀ハ勝手次第取引移候様被仰付候

三百五拾石

一明治卜改元、十月廿二日今般御趣意二付御右筆部屋被相止、依之御役儀

元禄十六未六月五日養父勘右衛門跡知無相違被下

御免被成、御近習二被指置候

宝永七寅六月十八日御使番被仰付

一同二巳三月晦日行事職補被仰出、但三等官井上小左衛門上、月給廿俵

享保三戌三月六日御先物頭神原十郎左衛門跡、鉄砲

一同日中納言様御供被仰付、四月九日出立

同八卯八月七日秋田三五左衛門組与替候

一同年五月二日詰中公務局之儀も可相心得候

同九辰十一月廿五日御持弓頭屋敷奉行被仰付、落合善兵衛跡

一同年六月十二日主税事力卜改

一同年十月十一日帰藩被仰出候事

市村勘右衛門 三一郎 病死 同四十九年

一同月廿六日当役被免御門所御警衛被仰付候事、但席大道寺孫九郎次

三百五拾石

一同日折々御機嫌伺可罷出候事

享保十二未十二月五日父勘右衛門跡無相違、大番入

元文五申八月五日大番筆頭、松原四郎兵衛跡

延享三寅五月十一日御使番杉田五太夫跡

宝曆三酉十一月廿五日御先物頭高田金太夫跡

同九卯正月十六日御持弓頭柘植伊右衛門跡

明和元申十月廿九日御側物頭服部吉左衛門跡

同五子七月二日御目付太田三郎兵衛跡

市村勘右衛門 市十郎

三百五拾石

安永五申五月廿九日父勘右衛門跡知無相違、大番入

天明二寅正月十六日御使番井上半太夫跡

同七未四月廿五日杉形御槍奉行渡辺喜太郎跡

寛政四子六月十七日御持弓頭屋敷奉行兼帯井上半太夫跡

同八辰十月四日病身二付内願有之御役御免、御先物頭次席吉田茂左衛門

次

文化五辰五月廿五日隱居

市村勘右衛門 久太郎事

三百五拾石

一文化五辰五月廿五日養父市十郎家督三百五拾石無相違被下置、大御番組

へ被入

一文政七申年江戸詰被仰付候

一同十亥九月廿四日杉形御鍵奉行松原善左衛門跡被仰付

一天保二卯十月十一日御持弓頭屋敷奉行兼帯被仰付、大谷市右衛門跡也

一同三辰八月七日御奉行奈良助右衛門跡被仰付候

一同五午江戸詰被仰付、四月三日出立、翌年九月迄詰延

一同六未十一月十一日今般御養子被仰出候二付、御用掛り出精二付御褒詞

一同八酉江戸詰被仰付、四月七日出立

一同九戌三月十九日謹姫様御婚姻被為濟、御用掛り出精二付御召御上下一

外二銀式枚被下之

一同年四月十六日昨年右之御番御用多之處、出精二付銀式枚被下之

一同年十二月廿七日松栄院様仮御住居御普請中出精二付銀式枚被下之

一同十一子三月七日御役御免被成、御先物頭次席被仰付奈良權太夫跡、右

二付遠慮伺之上差扣、同十一日御免

一同十三寅六月廿日御預所郡奉行雨森儀右衛門跡、御側物頭次席御役人並被仰付候

一同十四卯八月十七日御奉行河崎三郎助跡被仰付、西尾源太左衛門次

一弘化二巳三月五日御役義不参届趣有之二付遠慮

一同年六月廿九日当秋江戸詰被仰付置候処御免被成、来午春詰被仰付候

一同三年三月十六日当年江戸詰被仰付置候処、此表御用之御都合も有之二

付詰御免被成候

一同年十一月十六日御役義不参届儀有之二付遠慮被仰付候

一同四未正月十二日御役御免被成、御広敷御用人次席被仰付、同十三日御

広敷御用人被仰付候

一嘉永元申五月廿八日席其儘御普請奉行上坂藤太夫跡被仰付候

一同四亥二月十三日新番頭太田三郎兵衛跡被仰付

一同五子六月九日御預所元締役川村文平跡被仰付、御奉行次席被仰付候

一同六丑四月八日病死

市村市十郎 乙助 勘右衛門 実井上半太夫次男

〔士族〕

三百五拾石

一 嘉永六丑年五月廿九日養父勘右衛門家督三百五拾石無相違被下置、大御
番組へ被入候

一 同七寅七月廿三日大御番三番筆頭役大河原助右衛門跡被仰付候

一 安政三辰二月廿六日江戸御留守詰出立

一 同四巳十月十六日筆頭役其儘御使番順席二付被仰付候

一 同五午正月廿五日御目付役堀権之助跡被仰付候

一 同六未三月十九日江戸詰出立

一 同年十二月廿八日乙助事勘右衛門与名替

一 同七申二月廿六日太田御陣屋御普請御用掛り出精二付、銀三枚被下置候

一 同年三月十五日御供二而帰着

一 同廿五日、今度御入部御道中御供壺人二而相勤候二付、銀壺枚被下置候

一 万延与改元、八月朔日御番割御軍帳御用掛り被仰付候

一 文久元酉五月八日除痘館掛り并軍馬掛り被仰付

一 同二戌十一月四日来春殿様御上京被遊候二付、御供被仰付候

一 同三亥二月十日右御供二而出立、三月六日御供二而帰着

一 同年五月廿二日御軍帳御変革二付掛り被仰付

一 同年八月十九日今度於三ノ丸御座所向御普請御用掛り被仰付候

一 元治元子三月五日御軍制取調御用掛り被仰付

一 同年六月廿七日組之者召連支度出来次第早速上京被仰付、廿九日出立、

九月十四日帰

一 同年九月十四日今般長州人京師乱入、堺町御門御固場所江二番手御人数

山県三郎兵衛引続出張之途中敵兵卒発砲之砌、夫々致指揮候へ共、無扱

場合二而一旦御屋敷江引取再御人数繰出之節出張可致処、稲葉采女方指

留候と八乍申無其儀御役前不参届趣不調法之事二候、依之御役御取揚被

成末之番外二被仰付遠慮被仰付候、急度相慎可罷在候、十月四日御免

一 同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀壺貫匁被下置候

一 慶応元丑五月廿一日御先物頭出淵伝之丞跡被仰付候

一 慶応元丑七月十一日先役中三ノ丸御普請御用掛り出精二付御褒詞

一 同二寅十月廿六日御持物頭被仰付

一 同三卯八月十六日倅久太郎遠慮被仰付候二付伺之上指扣、同廿三日御免

一 同年十月十八日小隊頭卜被仰付候

一 同年十一月廿六日殿様御上京被遊候節御供被仰付相止

一 同年十二月十二日急々上京被仰付、十四日出立之処、御模様二付途中へ

引返シ帰

一 同廿六日右同断之節召連候後、非役并組之内府中宿陣中不埒至極有之御

咎被仰付候二付遠慮伺之上差扣、廿九日御免

一 同四辰正月六日出立

一 同年同月廿六日在京中軍監兼被仰付、但第二ノ方卜可心得候

一 同年四月八日在京中第二大隊軍監兼被仰付置候処、御免被成候

一 同年閏四月十四日從京都帰着

一 同十六日御目付役被仰付候、席大谷儀左衛門次

一 同年五月廿四日御内用有之二付立帰上京被仰付、早速致出立候様、同夜

出立、同廿九日帰

一 同年六月廿六日会征出立

一 明治卜改元、十月廿七日御雇を以出張中軍監相勤候様御沙汰二候

一同二巳二月十五日軍監被仰付、月給米七十俵御役料ハ不被下候

一同月廿二日去夏越後江出兵之節及出張、昼夜之連戰中別格之尽力太儀之

一段御褒詞、御短刀一 三骸被下候 外二十金

一同年三月廿二日若松表方東京江罷出、夫方帰着

一同年六月十二日勘右衛門事市十郎卜改

一同月十五日学校承事軍政局承事軍監兼被仰付、且又出精相勤二付席上ケ

被仰付候事、但席大谷遜次

一同年九月十七日堤五市郎東行中幹事代御用可相勤候事

一同年十月十一日幹事代御用被免候事

一同年十一月廿七日今般御改革二付、当役被免候事

一同日軍務寮大属被仰付候事

一同月 今般御改革二付、更ニ給禄米百六拾三俵式斗三升五合下賜

一同月廿八日是迄之勤功ヲ以四等ニ被仰付候事

一同年十二月十五日戊辰之歳賊徒掃攘之砌、軍事勉勵之段神妙之至被思召、仍為慰勞金三百両下賜候事

一同三午三月五日任權少参事、軍務寮勤被仰付候事

一同年四月廿五日戊辰北越出張軍務勉勵其職掌ヲ尽シ候二付、御賞典之内

永世五十石令頒授候事

一同年八月廿二日以本官武生士族卒支配被仰付候事

一同月廿七日両族支配被仰付候二付而ハ、各寮役員之儀も総轄可致事

一同年閏十月廿七日武生病院并種痘所取建之儀、下山少参事申談可取扱事

一同四未二月五日武生郷学所御取立二付出張中懸り被仰付候、学校幹事申

談諸事可取扱事

一別紙之通自今可取扱事

諸役員 非役士族卒 社寺

右諸願伺等惣而取扱候事

一士族卒屋敷之事

一宗門改之事

一明治四未六月朔日今般御改正二付、官員減省御窺可相成二付不及出仕事

一同年八月朔日被免本官

一同年十月十五日給禄之内六拾俵次男深造へ分禄

市村²

市村喜六

廿石四人

元禄十一寅十一月十四日養父三右衛門跡目無相違

享保七寅冬順席

市村三右衛門

廿石四人

享保廿卯八月廿一日父喜六跡目被下、大番入

明和五子四月五日番頭平田幾郎右衛門跡

安永六酉三月十六日用永奉行河村五左衛門跡、御留守番入

天明四辰八月九日御代官上坂藤太夫跡

同五巳六月十日下代引負在之二付御役御免、大番入

同年八月廿日御代官本儀長藏跡、御留守番入

市村三右衛門

廿石四人

寛政五丑九月朔日父三右衛門年寄候二付休息被仰付、家督無相違被下置、大番組へ被入

文化五辰十月休息

市村三右衛門 十助

貳拾石四人

文化五辰十月十六日養父三右衛門病身内願休息、家督無相違、大御番入

文政十二丑十二月十六日番改松山平太夫跡被仰付

天保十四卯二月十六日表御納戸役大町次左衛門跡被仰付

同十五辰六月廿日御代官役平瀬久作跡御留守番入

嘉永三戌六月廿九日次男三吉義猥二鉄砲持参野先へ罷出候趣相聞、心得

違二付遠慮被仰付、三右衛門伺之上差扣被仰付

嘉永戌十一月廿九日休息

市村貞治 八太郎 喜六 三右衛門

廿石四人

一 嘉永三戌十一月廿九日父三右衛門年寄候二付休息、家督廿石四人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一同五子十二月廿八日喜六与名替

一同七寅年十一月廿九日筒井小太郎稽古納之節、菅沼主水宅へ罷越候始末、酒狂と八乍申不宜致業二候得共、此度之儀ハ御沙汰二不被及候間、以来

右様之儀無之様番頭へ移りを以被仰付候

一文久元申閏三月廿三日太田御陳屋詰出立

一文久元酉四月三日帰着

一文久元酉四月廿五日太田御陣屋詰中横浜表江長々致出張候二付、銀壹枚被下置候

一同年八月廿日砲術所世話役被仰付候

一同二戌六月廿七日御日柄致失念勝見口江殺生道具持参罷越、依之遠慮伺之上指扣被仰付、七月朔日御免

一同九月廿九日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候、

尤砲術所世話役之義ハ是迄之通相心得候様

一同年十一月廿四日来春殿様御上京被遊候二付為御待請出立

一文久二戌十二月廿八日三右衛門与名替

一同三亥三月廿五日中将様御供二而帰着

一同年六月三日御番頭引纏上京、九月五日帰

一同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美貳百五十疋被下置候

百五十疋被下置候

一元治元子四月廿五日筒井権右衛門上京留守中、稽古所万端引請致世話候様被仰付候

一同年七月廿八日京都表へ出立、九月十一日帰

一同年十月十六日長征出陣、同二丑正月晦日帰着

一慶応元丑五月廿八日大砲方御免被成候

一同二寅二月十六日番改役中野惣左衛門跡被仰付候

一同年七月五日御番皆勤二付時服被下置候

一同年十一月三日御趣意二付役儀御免被成候

市村 3

一同三卯三月十日御上京御供出立直ニ御警衛詰、七月十八日帰
 一同四辰四月三日京都御警衛詰出立、閏四月十六日帰
 一慶応四辰閏四月十六日御代官役并郡方吟味役兼勤被仰付、御留守番組へ
 被入候

市村惣右衛門

十八石三人

一明治二巳正月四日御代官郡方吟味役其儘川方兼被仰付
 一同年二月十七日民政局庶務方卜被仰付 月給十五俵 役米八不被下候
 一同年六月廿一日三右衛門事貢治卜改

天保六未正月十六日年来相勤候ニ付御取立被成、新番格ニ被仰付候
 同十二丑七月廿日数年相勤候ニ付新御番組へ被入
 同十四卯二月十六日休息

一同年七月十九日御代官役之儀ハ被免候事、但月給米是迄之通
 一同年十一月廿一日今般御改革ニ付、役義被免候事

市村与八郎 増吉事 謙之助 惣右衛門

拾八石三人

但附送り之義ハ追而御指図相待可申事
 一同月廿五日今般御改革、更給禄米四十五俵壹斗四升四合被下
 一同三午五月廿二日病死

一天保十四卯二月十六日親惣右衛門儀年寄候ニ付休息被仰付、家督拾八石
 三人扶持無相違被下置、新御番組江被入候
 一同年十二月五日親惣右衛門心得違之儀有之逼塞被仰付候ニ付、伺之上遠
 慮被仰付候

市村省三郎 午十二歳

〔士族〕

米貳拾七俵八升六合

一嘉永六丑六月 願之上長剣為修行江戸表へ出立

一明治三年七月十二日父貢治家督、幼年ニ付御規則之通米貳拾七俵八升六
 合被下、修業列被仰付候事

一同年八月廿日思召を以調練致修行候様被仰付、御扶持方三人扶持被下置
 候

但席渋谷均次

一同月廿四日滝沢喜平太次男仁之助江代勤為致度旨願之通被仰付、依之給

一同七寅三月廿三日御殿山へ出張ニ付、御下緒壹掛ケ被下置候

禄米四拾五俵壹斗四升四合高二被成下候事

一同年閏七月廿九日江戸表方帰着

米四拾五俵壹斗四升四合

一安政元寅十二月廿八日謙之助と名替

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役卜唱

一同年同月十八日鑪太鼓役被仰付候

一同二卯年江戸表修行詰、同三辰五月五日帰着

一同三辰五月廿二日長剣修行之儀ニ付、江戸表江被遣修行被仰付置候処、

格別致出精候趣ニ付、御紋御上下一具銀五枚被下置候

一同年九月十六日小普請方多田彦左衛門跡被仰付候

一同四巳四月廿二日此度明道館内へ武芸稽古所御集被成、長劍稽古所も出来二相成筈ニ候間、右場所へ罷越同所へ罷出候面々厚致研究候様被仰付候

一同五午五月三日長劍術ニ派ニ相成候而ハ如何ニ付、此度長劍所へ罷出候面々鰐淵三郎太夫江附属被仰付引受致世話候様被仰付候ニ付、右稽古所詰被仰付候

一万延元申十月十一日御役御免被成候

一同年十二月廿八日惣右衛門与改

一文久元酉十月五日御法も有之候処、随意ニ他国へ罷越候段相聞不届至極候、急度相慎可罷在旨、跡目之儀ハ拾五石三人扶持被下置、新番組へ被入候間、親類共申談相願可申旨

一文久三亥四月五日先年蟄居被仰付置候処、実母及老年多病ニ而介抱等指支難洪ニ付、老母為介抱御咎御免被成下候様相願候、右ハ無拋趣ニも相聞候ニ付、出格之御慈評を以於家内親類対面御免被成候

一同四子二月五日実母老年其上多病ニ而介抱等も指支難義ニ付、願之上昨年於家内親類対面御免被成候処、実母次第老衰且旧冬方中症相煩段々大病ニ相運ひ、養子甚之助相手ニ而介抱等不行届ニ付、御咎御免被成下候様親類共相願候、右ハ無拋趣ニも相聞候ニ付、出格之御慈評を以願之通御免被成候

一同年六月十六日休息之御取扱ニ被成下

一元治と改元、十一月十六日御含御用有之ニ付致出府候様被仰付

但出府中御扶持方三人扶持被下置、外ニ為失却月々金貳百疋被下

置候事

一同二丑正月廿一日探索方被仰付失却も有之難洪之趣ニ付、為御手当月々壹兩ツ、被下置候、且又御用透之間ハ武芸所江罷出致世話候様被仰付候、但是迄月々被下置候失却金も其儘被下置候

一同年三月六日御趣意ニ付探索方之名目被相止候、御用透之節ハ武芸所世話致し候儀ハ是迄之通被仰付候、但御含御用之儀ハ是迄之通相心得候様被仰付候

一慶応ト改元、四月廿四日御国表へ御用有之候ニ付早急致出立候様被仰付、且又御含御用中格別入費も多難洪之趣内達も有之ニ付、為失却金五兩被下置候

但御含御用之儀ハ御免被成、最早此表へ罷越ニハ不及候

一同年四月廿九日江戸表方大早駆御用ニ而帰

市村庸義 甚之助 実竹沢佐野右衛門次男

拾五石三人

〔士族〕

一文久元酉十月八日市村惣右衛門親類共願之通惣右衛門家督相統被仰付、

御充行拾五石三人扶持被下置、新番組へ被入候、同日伺之上遠慮

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月三日帰

一慶応元丑八月廿四日外塾所手伝同様被仰付

一同二寅五月廿八日此度分塾ニ付御用透ニ相成御免

一同年十一月十二日京都詰出立

一同三卯四月四日御上京御供振替り帰

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一 同年十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之処、御模様ニ付途中方引返帰

一 同四辰正月九日急々上京、四月廿日帰

一 同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一 明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾五俵四斗五升被下

一 同三年二月廿八日小学授読試補被仰付、修業隊江被入候事

一 同年四月十三日小学授読試補被免候事

但元遊撃隊江被入候事

一 同年六月廿二日第一大隊二番小隊江被入候事

一 同年十月三日是迄居住罷在候持地拜地ニ被成下候

一 同年十二月八日常備二番隊 月給六俵 未六月廿日御取消

一 同四未四月三日東京増詰出立

一 同年十月十三日解隊、十一月帰

一 同五申二月晦日捕亡方申付候事

一 同年四月十五日依病氣願捕亡方指免候事

一 同年 修行願東京

一 同年七月甚之助事庸義卜名替

井上¹

井上半太夫

三百七拾五石

延宝八申四月廿五日父三太夫跡知式百五拾石無相違被下

貞享三一統半知

元禄四未八月九日五拾石御加増、御使番被仰付

同八亥六月廿一日御持弓頭

同十四巳九月九日五拾石御加増、同日御目付役

正徳五未八月廿一日五拾石御加増、都合式百七拾五石

享保二酉六月十九日席御奉行次

同五子七月廿一日御目付御免、御預ヶ所切支丹奉行、同御目付被仰付

同八卯二月七日御役料百石本知へ御結都合三百七拾五石

享保十四酉四月五日金津郡代

井上半太夫 隠居

三百廿五石

享保十五戌九月廿九日養父半太夫為跡目新知三百七拾五石之内如是被下

置、大番入、養父八三百七拾五石也

寛延四未九月廿九日御使番千本長右衛門跡

宝曆十辰三月五日御先物頭中村太郎左衛門跡

井上半太夫

三百廿五石

明和元申八月廿五日父半太夫隠居、家督無相違、大番入

安永五申正月十六日御使番松田市左衛門跡

天明二寅正月十六日御先物頭今村段右衛門跡

同九酉正月十四日御持弓頭西尾十左衛門跡

井上小膳

三百廿五石

寛政三亥六月廿七日御部屋附御小姓二被召出、御合力銀拾五枚被下

同四子七月十一日養父半太夫跡知無相違被下置、其儘右同御小姓二被仰付

井上半太夫

三百廿五石

寛政七卯六月五日養父小膳跡知無相違、大番入

文化五辰三月廿三日御使番村上郡太夫跡

文化九壬申七月三日御杉鎗奉行武田平太夫跡被仰付候

文政三辰十月十九日御先物頭村田十太夫跡

文政五年六月廿四日御持弓頭小林金兵衛跡

同十三寅十二月十日溝口郷右衛門跡御側物頭

天保二卯十二月十六日御泉水預り被仰付

天保六未ノ十二月五日先達而江戸表を金子御用副使相勤候節、不参届趣

二付遠慮

天保八酉七月廿日御武具支配忍之者預り被仰付候

同十一子八月五日御奉行役被仰付

天保十二丑年三月十二日御役御免被成、御先物頭次席被仰付

同年同月十六日新番頭河合四郎左衛門跡被仰付

弘化三年七月九日隠居

井上小膳 三太郎事 半太夫

三百廿五石

一 弘化三年七月九日父半太夫隠居、家督無相違、大御番組へ被入

一 安政五年五月十八日江戸詰出立

一 同年十二月神奈川御警衛場御人数出張被仰出、御物頭代り出張

一 同六未十二月三日御使番役山田次郎太夫跡被仰付候

一 文久三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日御供二而帰着

一 同年十月十三日中将様御供二而上京

一 同四子正月十六日於京都御先物頭葛巻庄兵衛跡被仰付候

一 元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之

御酒被下置候

一 同年六月廿九日早速上京被仰付、七月四日出立、八月廿七日帰着

一 同年十一月十六日京都堺町御固場所へ組之者召連出張、騒乱中致差配候

段御褒詞

一 同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀壹貫匁被下置候

一 慶応元丑閏五月十八日京都詰被仰付、廿三日出立、翌寅四月十四日帰

一 同二寅四月廿四日堺町戦争二付、公儀方被下配当金千弍百疋戦功二付五

百疋被下置候

一 同年六月五日在京中不行状之趣相聞、依之御役御免被成、御使番次席被

仰付御叱被成候、伺之上遠慮、同十五日御免

一 同年十一月三日今度御軍制御変革之御趣意二付、御広間当番勤被仰付候

一 同三卯四月廿日御広間当番勤御免被成、夜廻り勤被仰付候

一 同四辰七月廿四日当分三ノ丸御台所御門御預ケ当番被仰付、右勤中夜廻

勤之儀ハ御免被成候

一 明治二巳五月廿五日御門所御警衛之義ハ被免

一 同年六月廿一日半太夫事小膳と改

一同年九月廿九日多年精勤之处、御藩制御改革ニ付、為御慰勞式十五兩被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百五拾壹俵三斗八升壹合被下

一同四未五月十三日病死

井上敏雄^{トシヲ} 彦九郎 実小膳弟平六実子
〔士族〕

米百五拾壹俵三斗八升壹合

一明治四未七月三日父小膳家督被仰付、給禄米如此従前之通被下候事

一同五申五月彦九郎事敏雄

井上²

井上孫左衛門

百石

元禄十一寅六月五日養父孫三郎為跡目被下

正徳六申正月十六日表御納戸服部三郎兵衛跡

享保十一午十二月廿九日奥御納戸被仰付

同十二未六月廿一日新知

同十七子十二月五日郡奉行皆川平右衛門跡、御役料五拾石

元文元辰十月五日郡奉行御免、大番入

延享元子十一月三日御次詰

寛延三年二月十一日御次詰御免、大番入

井上孫左衛門 弥一郎 隠居

百石 役料百石 五十石御足

寛延四未四月廿五日養父孫左衛門休息、家督無相違、大番入

宝曆十一巳十一月廿九日御金奉行門野九右衛門跡

明和五子七月二日郡奉行三岡次郎左衛門跡役料五十石

安永元辰六月十一日支配下之内不参届取扱有之二付遠慮

同六酉三月四日御足高五十石

同七戌六月廿二日思召在之席御簾奉行次被仰付

同十丑正月十五日御預所郡奉行波々伯部八太夫跡、御役料百石

天明二寅正月九日御簾奉行笹川治兵衛跡

井上孫左衛門

百石

天明九酉正月十四日父孫左衛門隠居、家督無相違、大御番入

寛政二戌五月廿八日御小性見習

同三亥二月四日御小性本役

同六寅五月廿二日御腰物方并御数寄方奉行御部屋兼帯、御書院番組へ被入

入

文化七午十月十七日御徒頭中村庄左衛門跡、御役料五十石

文化十一戌ノ十一月十二日御大番高村藤兵衛跡、御役料百五拾石ニ被成

下候

文化十三子ノ四月病死

井上平太郎

百石

文化十三子五月廿五日父孫左衛門跡知無相違、無役御留守番入

文政元寅九月四日大御番入

文政十二丑十月九日御小姓

天保六未九月五日今度御代替二付御小性御免被成、御側支配御近習二被

指置候、勤方之儀者追而可被仰付候、御用筋之儀先是迄之通可申談候

同年同月廿四日御小性二被仰付

天保九戌二月廿九日御小性頭取周防甚兵衛跡被仰付

天保九戌七月十日病身二付内願之通御小性頭取御免被成、御書院番組へ

被入御近習二被指置候

天保九戌十月朔日病死

井上徹トヲル 弥一郎 小右衛門 実波々伯部八太夫

〔士族〕

百石

一天保九戌十一月廿日井上平太郎病中願之通養子被仰付、家督百石無相違被下置、大御番組江被入候

一同十五辰七月九日御近習番松波弥次郎跡被仰付候

一弘化四未江戸詰被仰付、三月十九日出立

一嘉永元申急御出府御供二而六月 出立、同年七月五日御供二而帰着、

右二付十二月七日御褒詞

一同年九月十五日御小姓上月久右衛門跡被仰付候

一同二酉江戸詰被仰付、三月廿三日出立

一同四亥八月三日御小姓頭取桑山十兵衛跡被仰付候

一同年江戸御供詰

一同六丑三月廿二日御供出立

一同七寅年三月廿三日内願之趣も有之候得共病氣之義二候へハ、御国表へ

罷歸り厚致養生候様被仰付、四月八日着

一同年閏七月廿九日病氣二付内願之通御小性頭取御免被成、御書院番組へ

被入候

一安政二卯正月十五日御小性頭取萩原金兵衛跡被仰付候

一同年三月十九日御供二而出立

一同年十一月七日痛所之義二付内達之趣無拗訳柄二付、御小性頭取御免被

成、御書院番組へ被入、御近習二被指置明道館詰被仰付候、且又当分江

戸表二罷在、両御屋敷学塾生徒引立方被仰付候

一同四巳三月十二日御近習番頭取御書院番二番之筆頭役被仰付候

安政四巳閏五月十一日御目付役大井弥十郎跡被仰付候、役料百五拾石被

下置候

同五午正月廿五日御徒頭吉田茂左衛門跡被仰付、御役料五拾石被下置候

一安政六未二月十一日御側向頭取見習被仰付、御水主頭次席二被成下、当

春江戸詰被仰付候

一同二月廿四日出立

一同七申正月十八日中将様御附御側向頭取見習被仰付、来酉春迄詰越被仰

付候

一同年二月廿六日御役料五拾石御増、都合百石被下置候

一万延与改元、七月廿一日中将様御附御側向頭取本役同様被仰付、御役料

五拾石御増都合百五拾石被下置候

一同年十一月十日老母病氣二付対面願之上帰着

一同二酉正月十八日御側向頭取被仰付候

一文久与改元、三月御供詰

一同三亥二月十日殿様御上京御供ニ而出立、三月六日御供ニ而着
一同年五月七日当亥御参府御供被仰付、八月十七日出立

一同年五月十九日遠慮伺之上指扣被仰付置候処、御免被成候

一同年十二月江戸方御上京御供、子二月京方御帰国御供

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰

一同年十二月小右衛門卜名替

一慶応三卯二月廿七日今般殿様御立帰御上京御供被仰付、三月十日出立、

四月四日帰

一同年十月廿五日殿様御上京被遊候節、御供被仰付候

一同四辰正月十日御手許方加州様江為御使被遣同日出立、十六日帰

一同年九月十七日御含御用有之二付立帰上京被仰付、同廿日出立、十月二

日帰

一明治卜改元、十二月七日殿様御上京御供被仰付、同十三日出立

一同二巳二月十五日御役名近習頭卜被仰付

但月給米一年分七十俵

一是迄被下候御役料ハ不被下

一同年六月十六日小右衛門事徹卜改 年給役五十俵

一同年七月廿一日西京并中国筋へ御用ニ付罷越候様被仰付、八月三日出立、

十月四日帰

一同年十一月七日御家従頭取被仰付候事 未四月五日年給十一級五拾八俵

老斗八升式合四勺

但庶務并御裏取締兼

一等級月給是迄之通

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下候

一同三年十月十四日御手許之儀今一層御簡易ニ被遊度ニ付、御用掛被仰付
候事

一同年十二月十四日多年精勤ニ付、為慰労働中金五拾兩年々被下候

但益暮廿五金ツ、

一同四未 知事様御供ニ而出立、同十月折返シ帰

一同年十月廿二日御前様信次郎様御供ニ而再出立引越

一同五申八月晦日御書下ケニ而免職

一同日准家扶申付候事 月給三十五兩

會計掛り

外ニ多年之功勞ヲ以一ケ年六拾円之積ニ而月々割合セ被下候事

井上³

井上八兵衛

式拾石三人

正徳二辰三月御取立新番入被仰付、豊姫様御附

井上清兵衛 清左衛門

廿石四人

正徳四年八月十六日於江戸父八兵衛跡目無相違、新番

享保二酉六月廿六日御貝役、同日一人扶持増被下、御書院へ入

同十五戌七月廿五日御貝役御免

同十七寅冬御番割之節相身体末

同十八丑七月十一日御簾本武具奉行萩原猪太夫跡

延享三寅八月廿五日順席被仰付

井上弥太夫 休息

廿石四人

宝曆二申十一月廿二日父清兵衛休息、家督無相違、大番入、其身只今迄

御徒也

明和元申九月十一日御籙本武具奉行西村勘五兵衛跡、御書院番入

天明二寅七月廿日御代官川村五左衛門跡、御留守番入

同八申七月廿九日役義御免、大番入

井上織之丞

廿五石五人

寛政二戌三月十六日養父弥太夫休息、家督無相違、大番入

同四子九月廿五日御右筆受込手伝、御書院番入

同九巳正月十一日於江戸五石老人扶持御足

文化六巳十二月十六日於江戸是迄之御足五石一人扶持御加増

同七十一月十一日御右筆受込御帳付支配米岡次右衛門跡

同十一戌御右筆受込御免、御取扱是迄之通

文政三辰八月五日格式末番外御宛行拾七人扶持御直被下ル

同三辰ノ十一月病死

井上弥太夫 左太郎

拾七人扶持

文政三辰十二月廿七日父織之丞家督無相違、大御番入

文政十三庚寅六月五日御勘定吟味役小野庄助跡

天保五年五月廿九日御広敷御用達被仰付候

同九戌五月十一日御台所頭高嶋仁右衛門跡

天保十一子六月十六日御代官役厚治丈左衛門跡

嘉永二酉正月廿日休息

井上剛 ツヨシ 金次郎 剛介

拾七人扶持

一嘉永二酉正月廿日親弥太夫休息被仰付、家督無相違被下置、無役御留守

番組江被入候

一同七寅九月御番割之節大御番組へ被入候

一安政元寅十二月廿八日剛介卜改

一同二卯年四月三日学問所詰被仰付候

一同年五月廿九日学問所詰被仰付候二付、御講究師被仰付候

一安政三辰四月廿一日兼而文学心掛宜、且明道館御端立二付役掛り被仰付

候処、出精二付美濃紙一束御袴地一被下置候

一同年五月朔日支度出来次第江戸詰被仰付、詰中両御屋敷学塾致世話候様

被仰付

一同四巳二月廿三日江戸着、学文所教職度々相替候而ハ授受共便利不宜候

二付、来年年迄詰越致教導候様被仰付候

一同年右詰越被仰付置候処、明道館御用多相成候二付支度出来次第御国表

江罷帰候様被仰付、十一月四日帰着

一同五年正月十六日助訓導師被仰付候

一同年十二月五日助講被仰付、御番御供御免被成候

一同六未十一月十六日明道館訓導師被仰付御趣意厚相心得候様被仰付、右勤中御扶持方三人扶持被下置候

一文久三亥十一月廿一日助教役被仰付、御書院番役被入、御足三人ふち其儘被下置候

一元治元子十月十六日長征出立、丑二月三日帰

一慶応元丑十一月四日明道館外塾共生徒教育筋重二世話致心配候様被仰付

一同四辰閏四月十六日明道館館督被仰付、席末之番外格二被仰付候

一明治二巳六月十六日剛介事剛下改

一同月廿一日学校承事試補教授方之義も可相勤旨被仰出候事 御足三口ハ被廢

但月給米一年分三拾五俵被下候事

一同年九月九日病死

井上^{フカシ} 剛太郎

〔士族〕

一元治元子十月十六日長征出立、丑二月三日帰

一慶応二寅三月十一日二番之補兵隊へ附属被仰付候

一同三卯四月十一日宰相様御上京御供出立、八月九日帰

一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同年十二月廿六日支度出来次第上京被仰付、廿九日出立

一同四辰正月六日在京中参与附属并軍事方手伝之儀も相心得、大谷儀左衛門申談候様被仰付

一同年四月十一日右之通被仰付置候処御免、勝手次第罷帰候様、同十七日帰

一同年四月廿五日遊撃隊へ被召出五人扶持被下置候、但當春以来格別骨折

二付御褒詞

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張二付十三兩被下候、外二三千疋

一明治下改元、十二月十六日明道館居寮生被仰付

一同二巳六月五日明新館生長被仰付

一同月廿四日西京并中国筋へ御用二付罷越候様被仰付、八月三日出立、十月十九日帰

一同年十一月廿五日給禄御改革

米五拾貳俵三斗六升

一同年十二月四日父剛家督米五拾貳俵三斗六升被下、遊撃隊江可被入候処、解隊中二付修業隊江被入候、後適宜引直シ米五十三俵老年八升貳合

一同三年二月十日小学生長被仰付候事

一同年四月廿八日取調為御用東京江罷越候様被仰付候事、五月朔日出立、六月廿日帰

但小笠原大参事出立之節隨從可致事

一同月廿五日戊辰北越出張各所戦争拔群尽力二付、御賞典之内永世十石令領授候事

一同年七月九日ル七一御雇入途中致心配候二付、金貳千疋被下候事

一同月廿三日為修行ル七一江寄宿被仰付候事

但賄料被下候事

一同年十月十二日任權少属、但御雇教師 一掌政堂管轄

一同年閏十月十五日昨夕ル七一鉄砲洗磨取扱候節、雷管相用素試致候処、玉込有之相発誤而御馬二中り斃候段不念至極二付、伺之上馬代償之上謹

慎、同廿五日被免

一同年十一月八日御雇教師ルセー横浜江罷越候節附添可罷越事、十二月六日出立

一同四未正月十七日学校出仕

但御雇教師警衛勤且又勤向之儀ハ佐々木権六江可申談事

一同月廿日横浜方ルセー附添着

一同年二月廿二日御雇教師附添相勤候ニ付金貳千疋被下候事

一同年六月朔日御改正ニ付免職

一同年十二月八日英学修行東京 御雇米人グループヒス同道

一同五申三月七日建築掛附属

一同年五月剛太郎事穆

一同年八月帰

一同十七日新潟県へ採用ニ付早々可致出頭事



井上茂右衛門 病死

廿石四人

延享五辰四月十五日小役人方御取立、新番入、御勝手役

宝曆十一巳十一月廿九日役義御免

明和三成五月廿九日御勝手役

同四亥十二月十九日於江戸御留守番入

同六丑五月廿五日俸出奔致候処、兼而取扱不参届趣ニ付、新番組へ被入

同八卯九月廿日御留守番入

安永六酉正月廿日二石彦人扶持御加増、都合廿石四人

同九子九月五日病氣ニ付役義御免、大番入

井上茂右衛門

廿三石四人

天明元丑六月廿日養父茂右衛門跡目無相違、大番入

同四辰十一月十五日御広式御用達成瀬惣右衛門跡、御留守番入

同七未五月十一日御形合被相改御省略ニ付御用達御免、大番入

同八申八月廿八日御広式御用達米岡次太夫跡、御留守番入

寛政二戌六月四日致姫様御附御広式御用達

寛政八辰九月四日御定年数相満候ニ付相身躰末

同十年五月十二日於江戸御足擬作三石被下置

文化元子四月廿八日年来出精相勤候ニ付御足擬作御結被下、都合廿三石

四人扶持

同五辰四月十一日御持武具奉行原田伝太夫跡、御書院番入

文化七午正月十六日年寄内願休息

井上茂右衛門 次郎八

貳拾三石四人

文化七午正月十六日父茂右衛門年寄内願休息、家督無相違、大御番入

文政五年二月廿九日御広式御用達

文政七申八月十一日産物掛り被仰付

文政十三寅三月十六日御作事方改役吉田八太夫跡被仰付

天保四巳六月十六日御代官役笹倉郡左衛門跡被仰付候

同十三寅二月廿九日表御納戸役被仰付、当秋江戸詰被仰付

天保十四卯年十二月十六日御預り御代官、栗原作太夫跡被仰付

井上次郎八 隱居後淡水

廿三石四人

一弘化二巳十月十六日親茂右衛門年寄候ニ付、跡目廿三石四人ふち無相違

被下置、御留守番組江被入候

一同三年八月廿九日年数相満候ニ付順席ニ被仰付候

一嘉永二酉九月十六日御家譜方御右筆見習被仰付、大御番組江被入候

一同四亥三月十七日御世譜書繼御用出精相勤太儀ニ思召候、依之御目録金

百疋被下置候

一同五子六月十六日御世譜方御右筆本役御書院番組へ被入、御足宛行式石

老人扶持被下置候

一同六丑二月十四日御右筆長崎藤四郎跡被仰付候

一同七寅五月三日内達之趣も有之二付御右筆御免被成、大御番組へ被入、

是迄被下置候足宛行式石老人扶持之義者以後不被下候

一安政四巳十月三日御持武具奉行被仰付、御書院番組へ被入候

一同六未九月廿五日用奉行円乗記右衛門跡被仰付、御留守番組へ被入候

一元治元子十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下

一慶応三卯二月十六日御代官役大内猪左衛門跡被仰付

一同四辰四月十一日用奉行被仰付、元席江被入候

一明治卜改元、十月十五日御用有之二付、奥州会津表江早速出張被仰付、

尚委細之儀ハ於彼表村田巳三郎江可承合旨被仰付、同廿日出立

但出張中用水奉行之儀ハ御免被成候

一同二巳五月四日元御書院番組ニ被仰付

一同年七月廿日御広間当番勤被仰付候事

一同年九月廿九日多年精勤之処、御藩制御改革ニ付、為御慰勞式十五両被

下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四十八俵式斗七升四合被下、優

待列

一同三年十月三日是迄居住罷在候持地押地ニ被成下候

一同年閏十月廿五日優待列名目被廢非役卜唱

一同四未三月二日老年ニ付願之通隱居、同九日次郎八事淡水卜改

井上孫作 次郎八碎 明治四未廿二歳

〔士族〕

一慶応三卯八月十六日衆道之儀ニ付風儀不宜趣相聞、年若之者文武修行之

時ニも相成候間、以来相慎候様、此上心得違之儀有之候得ハ急度可被及

御沙汰旨御番頭へ移りを以御諭

一同四辰七月七日今度越後表へ御出陣被仰出候ニ付、補兵隊被仰付出張被

仰付、難渋之訳も有之二付為御手当銀七百匁被下置候

一同年八月御備入被仰付、巳八月十四日予備隊卜可唱、十一月廿八日修業

隊卜可唱事

一明治三年五月十五日、去ル十日夜行之節永見數馬儀町人体之者卜突当り

組合候節、大勢ニ而打擲候次第心得方不宜、已来右体心得違無之様支配

頭江御移りを以御異見被成候、但父子伺指出候得共不及其儀旨

一同年六月二日子弟修業隊解隊被仰付候事

一同四未三月二日父次郎八老年ニ付願之通隱居、家督被仰付、給禄米四十

八俵式斗七升四合従前之通被下候事

米四十八俵式斗七升四合

井上⁵

井上小左衛門 応助 病死 同廿四年

廿石三人

元文六酉二月九日五石御加増、御徒方御取立、新番入

宝曆六子四月五日御普請場吟味役中野惣左衛門跡

同十一巳七月廿二日役義御免

井上応助 病死

廿石三人

安永三年七月十一日父小左衛門跡目無相違、新番入

同九子十二月十一日年数相満、大番入

井上小左衛門 熊吉 安太夫 源太夫

廿石三人

享和元酉九月五日父応助跡目無相違、大御番入

文化元子八月廿九日年数相満候二付相身代末

天保八酉五月廿九日玉葉奉行中村惣右衛門跡

同十亥三月十六日実子格五郎及離縁候始末、病身与八乍申其方儀取扱方

不参届之趣相聞候二付遠慮

井上定右衛門 助市

廿石三人

一天保十一子九月五日養父小左衛門年寄候二付休息被仰付、家督廿石三人

扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一嘉永七寅九月四日御番割之節順席二被仰付

一安政六未八月十八日病死

一万延元申六月廿六日勤中御番御供皆勤二付金壺兩被下置候段、倅鍊吉へ

被仰付候

井上鍊吉

廿石三人

安政六未十月八日親定右衛門家督廿石三人扶持無相違被下置、大御番無

役組へ被入候

一文久二戌閏八月八日御番割二付大御番入

井上加多志^{カタシ} 与三吉

廿石三人

〔士族〕

文久三亥二月十六日兄鍊吉病中願之通養子二被仰付、家督廿石三人扶持

無相違被下置、大御番組へ被入、御番御供之儀ハ御免被成候

一元治元子七月四日京都へ出立、八月

一慶応三卯十月廿三日御趣意二付御留守番組へ被入候

一同四辰五月十一日今般御趣意二付無役組二被仰付

一明治二巳八月十四日予備隊被仰付

一同年十月廿一日一番遊撃隊江被入候事、但席宮下巳三郎次

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾貳俵六升被下

一同三年五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事

- 一 同年十二月 予備一番隊 年給式俵
- 一 同月十八日与三吉事加多志卜改
- 一 同四未四月七日予備隊解隊被仰出候事

井上⁶

井上勘右衛門 十次郎 休息 同二十一年
拾五石三人

明和元申九月廿五日小役人格^方御取立、新番入、二石御加増御塩梅

井上勘右衛門

拾七石三人

明和九辰九月廿四日親勘右衛門休息、家督無相違、新番入、御料理方

寛政十年十二月九日役義出精二付御紋御上下被下置

文化元子八月廿九日年数相満候二付大御番入

同七年十月十一日御年男被仰付

同十四丑年三月五日倅御咎二付伺遠慮

文政十亥六月十八日年来出精相勤候二付御宛行式石御加増、都合十七石

三人扶持被成下

井上市郎太夫 市左衛門 勘左衛門 勘右衛門

拾七石三人

一文政十二丑十二月廿九日養父勘右衛門休息被仰付、家督無相違被下置、

大御番組へ被入、御料理方被仰付

一天保八酉江戸詰、三月廿八日出立
一 弘化四未江戸詰、三月十九日出立

一 同年九月十二日公方様神田橋御屋敷へ御立寄、御用掛り出精二付御褒詞
一 同年十月四日娘出奔之始末不締り二付、於江戸表遠慮被仰付

一 嘉永二酉六月五日養子直之助先年も御咎被仰付候処、亦々不届至極之趣
相聞候二付、侍御削被成御国拾三り四方追放被仰付、且又勘左衛門儀も
兼取扱方不参届趣相聞候二付遠慮被仰付候

一 同五子七月十二日塩辛役被仰付

一 同年八月廿八日御番割之節年数相満候二付相身躰末席被仰付候

一 同七寅十月廿一日御趣意二付御料理方并塩辛役御免被成、無役御留守番組へ被入候、且又是迄出精相勤太儀之段御褒詞

一文久元酉三月十一日休息

井上喜代志 他三郎 市左衛門

拾七石三人

〔士族〕

文久元酉三月十一日親市郎太夫儀足痛二付内願之通休息被仰付、家督拾七石三人扶持無相違被下置、大御番組被入候

一 同二戌十一月廿六日来春殿様御上京被遊候二付為御待請出立

一 同年十二月廿八日市左衛門与名替

一 同三亥三月六日御供二而京都^方帰

一 同年五月十二日本多飛驒手御物頭差添扣被仰付

一 同年六月四日御番頭引纏上京、九月五日帰

一 同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷^方為御褒美式

百五十疋被下置候

一元治元子七月廿一日京都表へ出立、夫方長征、十二月帰

一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰

(慶応) 一同三卯十一月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、同廿九日出立、

辰四月十日帰

一同四辰閏四月五日上京、九月十五日帰

一同年八月 兄直之介御叱二付伺之上指扣、同廿八日御免

一同治下改元、九月廿九日厄介直之介此度出奔二付、遠慮伺之上指扣、十

月三日御免

一同年十二月十三日殿様御上京御供出立、巳三月六日中納言様御供帰

一同二巳六月廿日市左衛門事喜代志下改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾八俵壹斗壹升五合被下

一同年十二月七日兄直之介重キ御咎二付伺遠慮、同十二日被免

一同三年五月廿四日第一大隊三番小隊後絶被仰付候事

一同年十二月八日常備三番隊押絶、三番軍曹下改 年給十一俵

一同四未四月十九日東京区兵増詰被仰付、五月朔日出立

一同年十月十三日解隊之処東京府御用二而居残り、ポリス兵小頭

井上 7

井上修三 元武生家来 午三十七

〔士族〕

一安政二卯十二月

一明治二巳十一月廿五日今般御改革之処、物頭已上二付士族二被仰付、給

禄之義ハ適宜御改正之上更ニ被下候事

一十二月廿八日当分武生表士卒取締被仰付候事

一同三年正月廿三日米百五俵式斗八升五合被下

一同年正月廿三日武生表士族卒族取締被免候事

一同年九月三日御不審之筋有之出福被仰付候処、夫々御調之上御分り相成

候二付帰宅可致事、但伺之上指扣、同八日被免

一同月十日日本多興之輔返上屋敷中二而三百十七坪坪地被下候事

一同日此度福井引越被仰付候二付、是迄之建物被下候間取払可申事

但家作之義ハ建被下候事

一家作中寓居御貸渡被成候事 百日限り御貸渡

一同年十月十二日第一大隊式番小隊江被入候事

一同年十二月 予備一番隊

米六拾五俵式斗八升五合 合禄

一同四未正月十七日依願倅喜代太へ給禄之内四十俵分禄被仰付候事

一同年四月七日予備隊解隊被仰出候事

一同年十二月五日合禄願之通

一同五申七月武生へ送籍

一同年九月廿五日病身二付隠居、弟廉介へ

井上廉介

〔士族〕

米四拾八石壹斗六升五合

井上喜代太 元武生 修三倅

〔士族〕

一明治三年正月廿三日、一昨秋越後表へ出張之訳も有之二付、兵隊御雇被

仰付、米十壹俵四斗壹合被下候事

一同年五月廿日武生小学所柔術世話役手伝被仰付候事

一 同月廿五日本多興之輔願之儀二付強願申立心得違二付謹慎、六月十日被免

一 同年八月廿八日柔術世話役手伝指免候事

一 同年九月二日去月七日武生動搖之節、猥ニ鐘樓へ登り不法之所業ニ及ビ

候始末、心得違ニ付御雇被免謹慎、十月廿二日被免候事

米四拾俵

一 同四未正月十七日被召出、同姓修三給禄之内四十俵被下候事

一 同日非役江被入候事

一 同年十二月合禄願之通

岩上

岩上楯太夫

百五拾石 外役料百石

貞享元子六月十六日百五拾石御加増、都合三百石ニ被成下、御使番被仰付

同三一等半知

元禄十六未六月四日御簾奉行被仰付

岩上楯太夫

貳百石 外役料百石

享保二西六月十九日父楯太夫年寄隠居、家督無相違被下

同四亥五月十六日御腰物役周防七平跡

同七寅十二月十八日御書院番筆頭

同十巳八月十六日御使番中村八太夫跡、御役料百石被下

同十七子正月十六日於江戸御水主頭林又左衛門跡

同十九寅六月六日御先物頭荻野四郎右衛門跡

元文元辰六月十五日御目付高村四郎左衛門跡

寛保二戌六月十八日御奉行彦坂又兵衛跡

同三亥正月十九日町奉行平本但見跡、御役料五拾石増被下

延享三寅八月十八日御役料之内五拾石本知ニ御直シ被下

宝曆五亥十月十一日金津奉行平本但見跡

同七丑六月廿八日金津奉行御免、此節遠慮被仰付

岩上五郎八 病死 同十九年

二百石

宝曆七丑七月廿二日父楯太夫隠居、家督無相違、大番入

同十一巳十月廿二日御手廻、御書院番入

明和五子八月十三日御手廻御免、御近習番格、席是迄之通

同七寅五月廿八日御近習番

岩上楯太夫

貳百石

安永七戌四月十一日父五郎八跡知無相違、大番入

天明元丑十二月十一日若殿様御小性

同七未五月十一日御形合被相改御省略ニ付御小性御免、大番入

寛政三亥十月廿九日不都合之義有之二付閉門被仰付

同十二月十八日弟忠太夫御咎ニ付伺、遠慮

岩上梶太夫 音五郎 荒次郎

式百石

文化五辰七月廿九日養父梶太夫家督無相違、大御番入

文化十三子三月廿九日閉門、但シ養父梶太夫不慎ニ付大工町揚座敷江被

入候節、荒次郎も取斗も不参届ニ付閉門

文政十三寅三月廿九日大御番筆頭役被仰付

天保四巳九月廿九日御使番被仰付、御役料百石被下置候

天保八丁酉七月十一日杉形御鐘奉行小栗助七跡被仰付候

同十二丑六月廿九日御先物頭井原源兵衛跡

同十四卯年八月十七日御持弓頭土屋十郎右衛門跡、屋鋪奉行兼被仰付

嘉永元申十二月三日鱒江善右衛門跡、御側物頭被仰付

嘉永元申十二月十日御座所預被仰付候

同二酉閏四月五日御泉水預り被仰付候

同三戌六月三日年寄ニ付隠居被仰付

岩上五郎治 錠五郎 梶太夫 隠居後一雨

式百石

一嘉永三戌年六月三日親梶太夫年寄候ニ付隠居被仰付、家督無相違被下置、

大御番組江被入

一同五子十二月廿八日梶太夫与名替

一同二卯年 江戸詰御供

一安政三辰九月廿日兼而御法通りも有之候処、先達而舟川ニ罷越候節、猥

ニ鉄砲致所持、心得違之趣相聞不調法之事ニ候、依之閉門被仰付、十一

月九日御免

一安政七申二月八日江戸詰出立

一万延与改元、九月廿六日大御番一番之筆頭役大関石太郎跡被仰付候

一同年十月十四日帰着

一文久二戌四月廿九日御留守番筆頭役被仰付、御留守番組へ被入候

一元治元子十二月賊徒一件之節御留守御用相勤候ニ付、御手当式百匁被下

一慶応二寅二月十六日大馬印奉行被仰付候

一明治元辰九月廿五日御使番役被仰付御役料廿五石被下置、席御使番格ニ被仰付

一同二巳二月十六日御広間当番頭取被仰付、但席其儘

月給廿俵、御役料ハ不被下候

一同年六月十六日梶太夫事五郎治卜改

一同年十一月九日今般御改革ニ付、御広間当番被廢候、依之役儀被免候事

但席市橋隈蔵次

一同年同月廿五日今般御改革、更給禄米百五俵式斗八升五合被下

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同四未正月九日老年ニ付願之通隠居

同年三月九日五郎治事一雨卜改

岩上岩三郎 相沢岩三郎 五郎治養子 実相沢八郎右衛門次男

〔士族〕

一文久三亥五月十二日松平主馬手御物頭差添扣被仰付

一同年十月十三日中将様御上京御供被仰付出立

一元治元子四月廿三日右御供ニ而帰京

一 同年六月廿五日宰相様御上京中格別骨折相勤候二付、銀壹枚被下置候
 一 同年六月廿六日御舍御用有之早速上京被仰付、五人ふち被下置、同廿八日
 日 出立、八月廿三日帰

一 同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相
 勤候段達御聴格別之事二被思召候、依之為御賞御扶持方三人扶持被下置、
 家督之節御加増被成下候

一 同年十一月二日京都詰、早速出立被仰付、同五日出立、同十二月賊徒騷
 乱二付立帰罷越

一 同年十二月右同断一件出張、御手当式百匁被下

一 同二丑正月再出立、五月六日帰

一 慶応下改元、閏五月十八日二番之補兵隊被仰付

一 同二寅三月十一日同伍長被仰付候

一 同年四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋、且又戦功二
 付三千五百疋被下置候

一 同年十二月廿六日御持第二小队指添被仰付

一 同三卯十月廿二日第一遊撃隊御雇被仰付候

一 同年十一月二日宰相様御上京二付速見迄御見送り出立、同七日帰

一 同月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、同廿九日出立、辰四月十
 日 帰

一 同四辰四月廿五日遊撃隊江被召出式人扶持御足、都合五人扶持被下置候

一 同年閏四月七日上京、九月十八日帰

一 明治下改元、十一月十六日岩上梶太夫養子願之通被仰付、依之遊撃隊被
 召出候儀ハ御免被成候

一 同月廿五日遊撃隊江被召出式人扶持御足、都合五人ふち被下置候 午四

月三日十六俵高成

一 明治二巳正月廿日御舍御用有之二付早速上京被仰付、同廿二日出立、二
 月 廿八日帰

一 同年四月九日中納言様御供東京江出立、六月十二日御人減二付帰、但同
 廿六日徴士参与附属被仰付

一 同年十二月十二日劍術世話役被仰付候事、身支配是迄之通八等之事

一 同月十七日役中給禄式拾俵高二被成下候事

一 同三午五月廿四日第一大隊六番小队後絶被仰付候事

一 同日劍術世話役被免候事

一 同日役配中出精之段御褒詞被成下候事

一 同年十二月八日常備二番隊押絶四軍曹下改 年給十俵

一 同四未正月九日養父五郎治老年二付願之通隠居、家督被仰付給禄米百拾

三 俵壹斗九升四合従前之通被下候事

米百拾三俵壹斗九升四合

一 同日常備第二小队軍曹 四 年給十俵

一 同年十月十二日解隊

飯沼

飯沼官兵衛

式百石 外役料百石

元禄十六未八月十三日表御小姓被召出、御扶持切米被下

享保二酉六月十九日父官兵衛隠居、家督無相違被下、自分御擬作ハ上ル

同四亥五月十六日御腰物役被仰付小林又右衛門跡

同六丑五月十五日御使番大関五郎右衛門跡

同十三申五月廿一日江戸御聞番被仰付、但シ席其儘大谷市右衛門跡

飯沼官兵衛

貳百石

延宝四辰十月廿一日養父官兵衛跡知四百石無相違被下

貞享三二等半知

宝永四亥八月百石ニ被仰付

正徳二辰五月七日百石御加増、奉行職被仰付役料被下

同四年十一月五日奉行役御免、此席へ被仰付

飯沼十郎太夫 太郎九郎 隠居 同四十五年

百九拾石 役料百石

享保十六亥十月廿九日父官兵衛跡、就幼年廿人扶持被下、御留守番入

同十八丑正月廿八日新知百九十石被下、大番入

宝曆十辰十月廿二日大番筆頭今村段右衛門跡

明和四亥閏九月十六日御使番彦坂又兵衛跡、御役料百石

安永五申正月十六日御長柄奉行蜷川林左衛門跡

飯沼三藏

百九拾石

安永七戌六月廿二日養父十郎太夫隠居、家督無相違、大番入

同年十一月十九日表御小姓見習

同九子八月四日病身ニ付右見習御免、大番入

飯沼勘平 病死

百九拾石

寛政五丑十月廿九日親三藏家督無相違、大番入

享和二戌二月病死

飯沼源左衛門 鉄三郎 源左衛門 官兵衛

百九拾石

享和二戌年四月廿九日養父勘平病中願之通跡知無相違被下、大番入

文政三辰七月五日大御番二番筆頭役秋田三五左衛門跡

文政十三寅二月廿九日御使番河合八郎左衛門跡

天保八酉二月廿五日御先物頭有賀忠兵衛跡

天保十二丑三月十一日隠居

飯沼源左衛門 槌三郎

百九拾石

一天保十二丑年三月十一日親源左衛門年寄候ニ付隠居被仰付、家督百九拾

石無相違被下置、大御番組江被入

一弘化三年江戸詰被仰付、四月十日出立

一同四未年十月廿七日遠慮伺之上指扣候処御免

一嘉永三戌年四月十日出立

一同年十一月十九日大御番四番之筆頭役中川平太左衛門跡被仰付、来夏交

代迄ハ其儘詰居是迄之通相勤候様被仰付候

一同四亥年 来子年迄詰越被仰付

一同年七月七日遠慮伺之上差扣之處御免

一安政四巳四月廿五日江戸御供詰出立

一同五年十一月五日御使番役被仰付、御役料百石被下置候

一同六未八月三日病死

一万延元申六月廿六日勤中御留守番皆勤ニ付金壹両被下候段、倅官平へ被仰付候

飯沼官平

百九拾石

安政二卯三月十六日於昨寒稽古中劍術數多之支合玉附ニ而御覽被遊御褒詞

一同三辰五月廿二日久野累年皆勤之趣ニ付、御持御扇子式本銀七匁被下置候

一同年十一月廿六日御含有之来巳年江戸江被遣、右詰中御扶持方三人扶持被下置候

一同四巳四月廿五日江戸出立

一同年五月十三日詰中砲術并劍槍柔術之内致修行候様被仰付候

一同六未九月廿三日親源左衛門家督百九拾石無相違被下置、大御番組へ被

入候

万延元申九月廿日中将様御附御近習被仰付候

一万延二酉正月廿九日江戸詰出立

同年八月三日江戸表ニ而病死

百九拾石

文久元酉十月三日兄官平病中願之通養子ニ被仰付、家督百九拾石被下置、

大御番無役組へ被入候

一同二戌九月八日大御番無役組以来被相止候ニ付、大御番組へ被入、御番御供御免被成候

一同年十一月七日此度上京御用捨相願候ニ付他番へ被入候

一元治元子九月廿一日宰相様御附御小姓被仰付候

一元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑五月廿五日御小姓御免被成、大御番組へ被入候

一同年十一月晦日大坂表江出張

一同二寅九月十八日帰

一同年十二月廿六日嚮導被仰付

一同三卯十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之處、御模様ニ付途中

方引返シ帰

一同廿六日先達而今庄宿陣中心得違之趣相聞遠慮、正月七日今般非常之儀ニ付御免被成候

一同四辰正月八日又々急々出立上京、閏四月十二日帰

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張ニ付、十

三兩被下、外二千五百疋

一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米百式俵三斗壹合被下

一同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵ニ付、御賞典之内十石廿ケ

年令頒授候事

一同年五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備一番隊 年給六俵

飯沼^{シツフ}静夫

鍬次郎

〔士族〕

一同四未四月朔日東京詰出立

一同年七月十一日歛次郎事静夫卜改名

一同年十月十三日解隊、十一月帰



今村段右衛門 伝右衛門

百七拾五石

寛文九酉七月四日父段右衛門跡知無相違、三百石被下、大御番入

同十一亥年御書院番入

延宝三卯六月廿三日御作事奉行

天和二戌十月廿一日御先弓頭

貞享二丑六月六日五拾石御加増、御普請奉行

同三寅六月十一日一統之通半知被下、此通

宝永二酉年七月十三日隠居

今村段右衛門

百七拾五石

元禄四未五月廿五日御手廻被召出

宝永二酉七月十三日父段右衛門家督

同五子三月十三日御徒頭

正徳五未五月廿五日御使番葛卷治部右衛門跡

享保四亥十二月十五日御先物頭三沢勘左衛門跡

同十二未十一月十六日御普請奉行築田太郎大夫跡

同十九寅六月六日病氣二付御役御免、席末之番外

今村段右衛門 病死 同四十六年

百七拾五石 役料百石

享保十九寅八月九日父段右衛門隠居、家督無相違、大番入

宝暦六子六月廿九日筆頭荻野弥三左衛門跡

同十辰七月廿五日大御番役料百石奈良助右衛門跡

同十三未九月五日御目付鱈江善右衛門跡

明和五子七月朔日当夏江戸表へ罷出候節、役柄不参届義在之二付御役御

免、御先物頭次席

安永二巳八月十一日御先物頭中川平太左衛門跡、役料百石

今村段右衛門

百七拾五石

天明二寅正月廿五日父段右衛門跡知無相違、大番入

文化五辰五月廿日休息

今村五兵衛 百之助

百七拾五石

文化五辰五月廿日親段右衛門休息、家督無相違被下、大御番入

同年六月十八日御近習番御書院番入

文政元寅十月十日御裏役川村文平跡被仰付

文政五午五月廿五日奥御納戸榊原濟作跡

文政九戌二月廿四日威徳院様御逝去二付御役御免、大御番入

文政十二己丑八月十三日末ノ番外御時宜役

天保三辰五月十五日御徒頭井原源兵衛跡被仰付、御役料五拾石被下置

天保四巳十一月廿九日御使番役大関新五左衛門跡、御役料都合百石被下置候

置候

同十亥十月十六日御長柄奉行堤長太夫跡被仰付候

天保十一子十二月五日御近習岡三郎右衛門跡被仰付

弘化三年十月朔日隠居

今村小一郎

百七拾五石

一弘化三年年十月朔日父五兵衛家督無相違被下置、大御番組江被入

一嘉永元申年八月廿日妻儀当春不慎之趣相聞候ニ付慎被仰付、弟藤之助儀

も右同様ニ付遠慮被仰付、小一郎儀も締り方不参届ニ付遠慮被仰付

一安政五午五月十一日病身ニ付内願之通休息

今村五平 藤之助 五兵衛 実小一郎弟

〔士族〕

百七拾五石

一安政五午五月十一日養父小一郎儀病身ニ付内願之通休息被仰付、家督百

七十五石無相違被下置、大御番組江被入候

一文久元酉三月十八日御宿割ニ而出立

一同二戌四月三日横浜表江臨時致出張候ニ付御褒詞

一同年十二月廿八日名替

一同三亥二月八日年始御規式中表御小姓御雇致精勤候ニ付、金百疋被下置

候

一同年八月十六日御参府宿割ニ而出立、同十二月江戸方御上京御供

一同年九月廿三日家屋敷波々伯部熊太郎家屋鋪江替被下候、同十二月江戸

方御上京御供、子二月御帰国御供

一元治元子二月十三日宿割御用ニ而京都方着

一同年七月三日京都へ出立、八月廿四日帰着

一同年十二月賊徒一件ニ付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一同二丑三月十一日波々伯部熊太郎家屋敷江替被下候

一慶応与改元、四月廿九日京都詰出立、翌寅四月十七日帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年七月五日御番出精ニ付御褒詞

一同年十二月廿六日仕長被仰付

一同三卯八月廿九日第一級ニ相進候ニ付、花葵御紋御印被下置候

一同年十月十八日御警衛詰引揚上京、辰二月廿九日帰

一同四辰三月十六日御金奉行加藤武右衛門跡被仰付、役御番組江被入候

一同年六月廿六日当秋京都詰被仰付、高屋丈太夫卜致交代候様被仰付、八

月九日出立、巳三月四日帰

一明治二巳四月廿日今般御改革ニ付、役儀被免御広間当番勤被仰付

一同年五月四日元御書院番組席ニ被仰付

一同年六月廿一日五兵衛事五平卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米九拾五俵四斗四升六合被下

一 予備隊

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同四未六月五日依願給禄之内三拾五俵次男外次郎へ分禄申付候事

右被廢

今村²

今村伝兵衛

百五拾石 外役料百石

寛文中被召出、御手廻り銀式十枚五人扶持

延宝五巳十一月廿五日新知百五拾石被下処

延宝七八月九日御徒頭小川藤右衛門跡

貞享三一統之通御減シ百石二成

元禄四未閏八月十五日五拾石御加増、御使番

同十丑六月十九日御先弓頭

今村伝兵衛

百五拾石 外役料百石

宝永六丑八月廿五日御手廻り被召出

宝永七寅六月廿一日養父伝兵衛跡知無相違被下

正徳四年正月廿八日御徒頭

同五未五月廿五日新規二役料被下向後御側へも罷出

享保四亥五月十六日御先物頭根来清太夫跡

今村伝兵衛 倅伝九郎

百五十石 外役料百石

享保五子十二月廿八日養父伝兵衛跡目無相違

同六丑十月十五日御手廻

同十一年十一月六日中奥御小姓

同十五戌八月六日御腰物方

同十七子七月五日御膳番

享保廿一辰五月十一日御書院番筆頭

同廿一辰五月十三日御使番役料被下田辺五太夫跡

元文三年七月廿九日御徒頭田辺五太夫跡

延享元子三月十六日御先物頭本多十郎兵衛跡

宝曆六子十月五日御旗奉行津田源之丞跡

同十三未二月六日新番頭長谷部小右衛門跡

今村伝九郎 病死 同七年

百五拾石

明和元申十一月五日父伝兵衛跡知無相違、大番入

今村伝兵衛

百五拾石 役料百石

安永三年六月十一日父伝九郎跡幼年二付拾五人扶持被下、御留守番組へ

被入

同五申八月五日御小性見習

同六酉十月廿五日十五歳ニ罷成候二付新知百石二御直

同九子八月四日表御小性見習

天明六年十月廿四日表御小性本役

寛政元酉六月十九日於江戸御小性

同二戌十月廿九日御近習番山本太左衛門跡、御書院番

同六寅六月十六日御小性

同八辰四月十五日御小性頭取

同九巳正月廿二日於江戸御近習番頭取格、奥御納戸御書院番入

同年六月十六日頭取格其儘御膳番林直次郎跡

同十年二月廿三日御近習頭取御膳番

同十一年未五月廿九日格式末ノ番外御時宜役

同十三酉二月廿二日御目付榊原七郎右衛門跡、役料百五拾石

文化九申七月廿八日出精相勤候ニ付御役料之内五拾石御加増

文化十三子六月廿四日出精ニ付長袴格御奉行次席

同年十一月廿四日御奉行役村田十太夫跡被仰付、席梶川半兵衛次

文政七申正月廿五日思召有之ニ付御役御免、末ノ番外遠慮被仰付

文政九戌十一月十六日御札所目付被仰付、御役料五拾石被下、御水主頭

次席ニ被仰付

文政十二丑七月廿日隠居

今村伝兵衛 新助 次郎太夫

百五拾石

文政十二丑七月廿日親伝兵衛年寄候ニ付隠居被仰付、家督無相違被下置、

大御番組へ被入候

今村重太郎

百五拾石

一弘化元辰十月五日父伝兵衛病身内願ニ付休息、家督無相違被下置、大御

番組へ被入

一嘉永二酉二月十三日御近習番川村乙三郎跡被仰付

一同四亥年江戸御供詰

一同五子六月九日御書物方荒川小三郎跡被仰付候

一同六丑七月廿六日江戸表へ出立

一同年九月十八日御裏役被仰付候

一同七寅年十月九日奥御納戸役高田三郎左衛門跡被仰付候

一安政四巳四月廿五日江戸御供詰出立

一同五年七月六日殿様奥御納戸役中將様御用兼被仰付候

一同六未年

一同七申正月十八日御近習番頭取御膳番奥御納戸役兼帯被仰付候

一同年三月十五日御供二而帰着

一同年七月廿一日病死

今村坦 ヒロシ 謙吉 実河合次郎左衛門次男

百五拾石

万延元申九月十三日今村重太郎病中願之通養子ニ被仰付、家督百五拾石

無相違被下置、大御番無役組江被入候

一文久元酉三月廿五日大御番組へ被入候

一同二戌十一月廿六日来春殿様御上京被遊候ニ付為御待請出立

一同三亥五月六日当亥御参府御供被仰付候処

一同年六月四日御番頭引纏メ上京、九月五日帰

一同年十二月廿四日先達而京都表動揺之節、為御守衛出張ニ付、為御褒美

朝廷方金壹両被下置候

〔士族〕

一元治元子四月廿五日江戸詰出立

一同年十月三日来丑ノ春迄詰越被仰付候、丑四月七日帰

一慶応二寅十二月坦ヒロシ与名替

一同月廿六日仕長被仰付

一同三卯三月十日御上京御供出立直ニ御警衛詰、七月十九日帰

一同年十月十八日小隊之分隊長被仰付、御書院番組へ被入候

一同年十一月廿六日支度出来次第堺町御警衛詰被仰付、十二月朔日出立、

辰四月十一日帰

一同四辰四月四日昨冬已来格別骨折相勤候ニ付御褒詞

一同廿五日遊撃隊分隊長被仰付、勤中其隊之上席被成下候

一同年閏四月七日上京、九月十八日帰

一同年九月朔日四番之遊撃隊半隊長築田八十郎跡被仰付、役儀ニ付席末ノ

番外格ニ被成下候

一明治二己三月三日東京江出立之處、御呼戻ニ付同五日帰

一同年四月九日中納言様御供東京江出立、六月十八日御人減ニ付帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八十二俵壹斗式升壹合被下

一同三年五月廿四日第一大隊九番半隊長被仰付候事

一同年十月二日東京江出立

一同年十二月八日任少尉 但常備第七小队 年給三十六俵

一同月九日伺之上謹慎被仰付候事、同十一日被免

一同四未四月廿八日從東京歸着

一同年十月十三日解隊

井原¹

井原源兵衛

貳百石 外役料百石

元禄四未十二月廿一日父源兵衛為名跡被下

宝永五子八月十一日御使番被仰付

同六丑七月五日忍之者支配被仰付

井原源助

貳百石

享保二酉四月十六日養父源兵衛跡知無相違被下

同四亥五月十六日御手廻り被仰付

井原番右衛門 源兵衛 頼仲

百五拾石

享保十一午六月廿一日養父源助拝知無相違、大番入

同十六亥二月五日大番五番筆頭大野三左衛門跡

元文三年五月廿一日御咎之品有之筆頭御取上ケ

延享元子四月十一日六番筆頭真田源太左衛門跡

同三寅六月廿八日御貝役共稽古私宅ニ而可承旨被仰出

寛延元辰八月十六日御水主頭鈴木源兵衛跡

宝曆四戌二月十六日御先物頭小川次兵衛跡

同十一巳五月廿九日御咎ニ付御役御取上、拝知之内五十石被召上、大番

入、遠慮

井原兵左衛門

百五拾石 外役料百石

明和三戌三月十一日養父番右衛門跡知無相違、大番入

安永五申七月十五日御供方御近習番格、御書院番入

同九子十二月十六日御具役世話

天明元丑十二月五日御近習番御供頭伊東六郎兵衛跡

同二寅六月十四日若殿様御附御小道具格、御近習番是迄之通ニ而御供頭

同七未御形合被相改万端御省ニ付御供頭御免、大番入

寛政四子正月廿日御書院番入

同七卯二月十五日年来相勤候ニ付末ノ番外松尾左内次

享和元酉六月廿九日御使番大谷市右衛門跡、御役料百石被下置

文化六巳ノ二月十八日隠居

井原源兵衛

百五拾石

一文化六巳二月十八日親兵左衛門隠居、家督百五拾石無相違被下置、大御

番組へ被入、兵学并御具役之者共致世話候様被仰付候

一文政二卯二月五日御書院番組へ被入

一同六未年江戸詰被仰付候

一同年五月廿八日若殿様御具足御召初御用掛り出精ニ付、御召染帷子一被

下之

一同十一子六月三日御徒頭榊原吉八跡被仰付、御役料五拾石被下置候

一同十三寅七月廿五日塩硝蔵隈物改之節、不参届趣有之二付遠慮

一天保三辰五月十五日御使番林次郎七跡被仰付、御役料都合百石被下置候
一同十亥正月廿五日御先物頭飯嶋四郎右衛門跡被仰付候

一同十一子御具足御召初二付江戸詰被仰付、八月十日出立

一同年九月廿五日右御用掛り出精ニ付、御召御小袖一被下之

一同十二丑六月廿九日御側物頭次席被仰付、御先物頭御免被成候、御近習

ニ被差置銀拾枚ツ、年々被下置候

一同十五辰正月及老年候処、昨年方出精ニ付格別之思召を以御脇差一腰被

下之

一嘉永元申十二月十日老年ニ至家業筋出精ニ付、思召を以忍之者御預ケ被

成、御役料五拾石被下置、是迄之通御近習ニ被差置候、且又御役料被下

置候ニ付、是迄年々被下置候銀拾枚以後不被下候

一同三戌十一月廿日御武具御修覆御用出精ニ付、金式百疋被下置候

一同五子八月五日耳遠之趣ニ付忍之者御預ケ之義御免被成候

一同七寅九月廿二日御軍制御改正ニ付、御備組調練之儀掛り被仰付、同司

馬助義も同様被仰付候

一安政二卯三月十四日御軍制御改正御用掛り格別骨折相勤ニ付御褒詞、依

之御目録御紋御上下一具被下置候

一同年七月朔日病死

井原司馬助

百五拾石

一安政二卯八月廿三日祖父源兵衛家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ

被入、兵学并御具役之面々御具預り之者共是迄之通致世話候様被仰付候

一安政三辰十一月二日兵科掛り被仰付、明道館へ相詰専ら致修行候様被仰

付候

一 同年同月十四日御軍制之儀ニ付御書院番組へ被入候

一 同四巳四月十九日兵科教導掛り被仰付候

一 安政五年十二月廿七日当春相願致出府候処、今度為修行出府被仰付候者

同様、逗留中御扶持方三人フチ被下置候

一 同七申三月十五日御供二而帰着

一 文久二戌十一月廿一日病死

一 慶応元丑四月十一日、一昨年御武具御改正之節出精ニ付金貳百疋被下

井原立二ナリカズ 五郎三郎 実波々伯部源右衛門次男

〔士族〕

一 安政五年十一月廿三日制産方御用取調方、支度出来次第江戸表江罷越洋

学致修行候様被仰付、滞留中御扶持方三人扶持被下置候

一 同六未十一月十日内達之儀も有之二付漢学修行被仰付、制産方御雇并洋

学修業之儀ハ御免被成候

一 同七申二月廿一日帰着

一 同年閏三月十二日他国修行被仰付、太儀ニ付銀壹枚被下置候

一 万延与改元、十一月廿五日軍艦操練為修行江戸表江罷出候様被仰付、右

詰中御扶持方三人扶持被下置候、十二月十一日出立

一 文久元酉六月廿三日今般御趣意ニ付、航海術修行中御扶持方式人扶持御

増、都合五人扶持被下置候

一 同二戌四月三日横浜表江臨時出張ニ付、御褒詞之上金百疋被下置候

一 同年閏八月七日先達而航海術為修行無人島ニ罷越候ニ付、銀三枚被下置

候

一 同年十月九日航海術修行被仰付、長詰ニも相成候ニ付、為失却御手当金

式両被下置候

一 同三亥正月十八日井原司馬助病中願之通養子ニ被仰付、家督百五拾石無

相違被下置、大御番組江可被入候、御軍制之儀ニ付御書院番組へ被入、

兵学并御貝役之面々御貝預り之者共是迄之通致世話候様被仰付候

但右立二儀ハ嘉永五子閏二月廿九日井原次郎右衛門養子ニ罷越、其後

耳遠罷成候ニ付無抛退身相願候処、追々致全快前件之通夫々御用も

相勤、当年も江戸表ニ詰罷在候を呼返し候事

一 同廿日縁女ちよ儀兼而行状不宜趣相聞候ニ付慎被仰付候、急度為相慎可

指置旨

一 同年二月六日先達而航海術修行被仰付候面々佐々木権六へ申談、致世話

候様被仰付候

一 同年三月廿七日今度蒸氣船御出来ニ付長崎表江罷越候様被仰付候、四月

三日出帆、五月晦日着

一 同年六月五日測量方被仰付長崎へ出立、九月八日帰

一 同年九月十七日兵庫表江罷越、勝麟太郎殿へ相手寄航海術致修行候様被

仰付候、同十八日出立

一 同年十二月十日黒竜丸御船乗組ニ而兵庫表出帆、同十二日夕江戸表江着

船、同月廿三日公迎蒸氣船江乗組京都表へ出帆

一 同四子正月五日黒竜丸運用方悉皆為御任被成、船中締方等申談取扱候様

被仰付、右ニ付万端司計局へ厚可申談旨被仰付候、且又右ニ付船中壹ヶ

月金五兩ツ、被下置候

一 元治与改元、四月六日兵庫方帰着

一 同十三日黒竜丸運用方之儀ハ御免被成候

一 同年七月上京、夫方長征、丑二月七日帰

- 一 同年十月廿一日航海術其儘応接方兼被仰付
月四日帰
- 一 慶応元丑五月廿五日征長御供別段心配二付銀式被下候
一 同日月給米一年分五十俵被下候事
- 一 同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀被下配当金千疋被下置候
一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八拾式俵壹斗式升壹合下賜
- 一 同年五月七日堂形兵学所御預被成同所頭取被仰付候、且又近来西洋諸州
一 同月廿七日御改革二付、当役被免
- 戦争実験之上三兵を始築城造管学等精練二付、掛り役輩申談流儀二不拘、
一 同月廿八日武学所教授学監兼被仰付候事
- 広く致研究引立方致心配候様被仰付候
一 同日流儀之兵学世話之儀已来被免候事
- 一 同年十一月十日近来格別御用多相勤候二付、年々銀式拾枚ツ、被下置候
一 同三午二月十日武学教授専ら可相勤二付、学監之儀ハ当分被免候事
- 一 同年十一月十四日真田信濃守殿藩中赤松小三郎儀兵学巧者之趣二候処、
一 同年四月廿五日戊辰北越出張各所戦争拔群尽力二付、御賞典之内永世十
五石令頒授候事
- 一 当時は京二付右兵学厚取調候様思召候、依之早速上京被仰付、同十九日
一 同年九月晦日為取調御用東京并沼津表へ可罷越事、十月五日東京江出立
上京
一 同年十月二日以本官軍務寮出仕被仰付候事
- 一 同三卯正月九日兵学所頭取其儘軍事方被仰付候
一 同年十一月十二日東京ヨリ帰
- 一 同年四月八日江戸表方帰着
一 同年十二月十日任大属 但軍務寮勤仕 年給七十三俵
- 一 同年十二月十二日急々上京被仰付出立、辰閏四月二日帰
一 同日以本官学校出仕被仰付候事
- 一 同四辰六月十七日出精相勤候二付末之番外格二被仰付候
一 同日以本官学校出仕被仰付候事
- 一 同年七月十六日越後高田表へ早駆出立、夫方仙台辺探索為御用罷越、十
一 同四未正月廿八日副官勤向之儀相心得可申事
- 月十六日若松江帰着、同十七日江戸表探索為御用酒井孫四郎方同道罷越
一 同年三月十八日御用有之二付大坂迄被遣候事、翌十九日出立、四月七日
候様被仰付、同十八日若松表出立、江戸表江罷越、御屋鋪神々守護二而
帰
- 十一月十四日御国江帰
一 同年四月九日御用有之二付大坂兵部省へ出頭候様御達二付出頭可致事、
同十七日出立
- 一 明治二巳二月十六日兵学所司事被仰付 月給三十五俵
一 同年四月廿三日任陸軍兵学少助教之段申来ル
- 一 同月廿二日越後国小松村戦闘之際、鋭進拔群之挙動不浅御感賞之段御感
一 同年五月十七日今般陸軍省全国地理図誌編輯御用二付、管内明細地図其
状被成下候 被免帰
- 一 同日長々出張太儀思召仍十三金被下、外御三所物被下
一 同省達書之廉々取調掛り
- 一 同日六月廿一日兵学教長兼被仰付
一 同年七月十七日御用有之出坂申付候事
- 一 同月廿四日西京并中国筋江御用二付罷越候様被仰付、八月三日出立、十

井原²

井原丞助

百五拾石

御先代百石

元禄八亥六月廿一日五拾石御加増

宝永六丑七月四日物頭御免

井原丞助

百五拾石 外役料百石

宝永七寅二月廿二日父丞助家督

享保四亥十月十五日御勘定拝借奉行江口次郎兵衛跡、御留守番入

同六丑五月十五日郡奉行須崎三郎右衛門跡

同九辰十一月廿五日御先物頭役料百石、市村勘右衛門跡

同十一午四月十六日御貝役世話私宅ニ而折々稽古聞候様被仰出

同十二未十一月十六日御持弓頭市村勘右衛門跡

同十三申九月方江戸御側物頭中村太郎左衛門跡、同日忍之者支配

同十四酉閏八月十一日武器方支配被仰付

同廿卯二月十三日番外御役料其儘御武器并忍之者支配可相勤旨

延享三寅六月廿八日隠居

井原丞助

百五拾石 役料百石

五郎三郎 頼見 隠居 同三十四年

延享三寅六月廿八日養父丞助隠居家督無相違、大番入

明和三戌四月廿九日御貝役之者共世話仕、折々私宅ニおゐて稽古承り可
申旨

明和四亥閏九月十六日御留守物頭吉田喜右衛門跡

同五子十一月十四日御役御免、格式是迄之通ニ而御近習被仰付

安永六酉六月廿五日御先物頭、御役料百石三沢勘左衛門跡

井原丞助 初五郎三郎 頼覚 隠居

百五拾石 役料五拾石

安永九子十一月廿一日養父丞助隠居家督無相違、大番入

寛政六寅閏十一月廿八日郡奉行高松新兵衛跡、御役料五拾石

同八辰八月三日御預所郡奉行岡半右衛門跡

寛政十二庚申七月十七日御役御免、御留守武頭次席前田彦次郎次

享和二戌正月十六日隠居

井原丞助 助之進

百五拾石

享和二戌年正月十六日実父丞助内願ニ付隠居被仰付、家督無相違被下置、

大御番入

文化十四十二月病死

井原丞助 常之助

百五拾石

文化十一戌二月廿日養父丞助病中願之通養子ニ被仰付、家督無相違、大

御番入

文政二卯正月廿六日若殿様御小性恒五郎様兼帯被仰付候

文政五年六月十九日若殿様御附奥御納戸役被仰付、御書院番入被仰付

同十亥十一月二日数寄方御腰物数寄方兼

文政十三寅八月廿八日若殿様御腰物数寄方御用兼帯

天保五年九月廿七日末ノ番外御時宜役

天保九戌十一月十一日御纏奉行稲田八右衛門跡被仰付

天保十二辛丑正月廿日御留守物頭御鷹方兼松波甚左衛門跡被仰付、御鷹

部屋御役屋敷へ替被下

同十四卯七月朔日御先物頭波々伯部八太夫跡、御役料百石被下置、家屋敷三寺与右衛門家屋敷へ替被下

井原次郎右衛門 次郎助 隠居後悠廉と名替 実今立

百五拾石

一弘化四未二月十二日養父丞助家督無相違被下置、大御番組江被入

一嘉永元申九月十五日御近習番被仰付、御書院番組へ被入

一同二酉江戸詰、三月廿一日出立

一同三戌八月十二日御書物方林作助跡被仰付

一同五子六月九日御裏役川村藤市郎跡被仰付候

一同年十一月十八日郡奉行出淵伝之丞跡、御役料五拾石被下置候

一安政元寅十二月廿八日次郎右衛門与名替

一同二卯三月十四日御役御免被成、御使番次席被仰付候

一同年四月八日御改正御軍帳御用手伝被仰付候

同年八月三日右二付海岸御備向之儀も同様相心得、御用掛り申談相勤候

様被仰付候

一同年九月廿三日席其儘御纏奉行高橋十郎兵衛跡被仰付

一安政五年正月十六日御軍御用手伝并海岸御備向之儀も同様被仰付候処、

出精相勤太儀二思召候

一安政五年十一月五日役儀其儘、御役料之趣を以廿五石被下置候

一万延元申六月廿一日御役料其儘、御留守物頭長谷部作内跡被仰付候、且

又家屋敷石原甚十郎家屋敷へ替被下候

一文久二戌四月十一日御水主頭加藤半左衛門跡被仰付、御役料百石被下置

候、且又家屋敷是迄半左衛門罷在候御役屋敷へ替被下候、且又是迄罷在

候屋敷之内取払不苦間所之分、相当之払直段二而御買揚二相成、右間所其儘半左衛門へ被下候段被仰出候

一同三亥八月廿九日御趣意二付家内共三国宿浦へ引越被仰付候、且又組之者共之儀も同所江引越候様可申渡候

一同年九月十四日御水主頭并組共已来三国宿浦江致交代候様被仰付

元治元子二月廿日隠居悠廉与名替

一元治元子八月廿一日井原立二留守中流儀引請致世話候様被仰付、右引請

中銀拾枚ツ、年々被下置候

一同二丑正月八日思召を以折々御機嫌伺罷出、其節々中ノ口致往来候様被

仰付

井原多頼タノモ 権之助 実梶川沢之丞弟

百五拾石

一安政四巳四月十四日高島引続出精二付御褒詞

一文久元酉八月廿日太田御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持

〔士族〕

被下置、支度出来次第出立被仰付、廿八日出立、戌十月二日帰着

一同二戌四月三日太田御陣屋詰中横浜表江出張ニ付御褒詞

一同年十二月十四日中将様御上京御供御用ニ付江戸出立之処、御都合ニ付

途中方京都江

一同三亥三月廿五日中将様御供ニ而帰着、亥十二月江戸方御上京御供、子

二月十三日御供ニ而帰

一同年七月八日上京被仰付相止

一同年八月五日御参府御供被仰付、詰中御扶持方五人ふち被下置候、八月

十七日出立

一元治元子二月廿日養父次郎右衛門年寄候ニ付隠居被仰付、家督百五拾石

無相違被下置、大御番組へ被入候、且又家屋敷加藤半左衛門家屋敷江替

被下候

一同年三月廿九日、一昨戌十二月江戸表江罷出中将様御供ニ而京都表へ可

罷越筈ニ而此表致致出立候処、俄ニ御船行相成候ニ付途中方京都江罷出、

夫方大坂へ為御迎罷越御供ニ而京都江到着之処、失却も有之趣ニ付金壹

両被下置候

一元治元子六月廿五日宰相様御上京中格別骨折相勤太儀ニ思召候、依之銀

壹枚被下置候

一同年七月廿一日京都表へ出立、夫方長征、丑正月帰

一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀へ出張、同九日帰

一慶応二寅十一月三日二番之補兵隊筆頭役被仰付、御書院番組江被入

一同三卯四月六日役義御免被成、大御番組江被入候

一同年十月十八日小隊之分隊長被仰付、御書院番組へ被入候

一同年十一月廿六日支度出来次第境町御警衛詰被仰付、十二月二日出立

一同四辰四月四日昨卯已来格別骨折相勤候ニ付御褒詞

一同月十二日京方帰

一同年七月六日上京、十一月十八日帰

一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下

一同三午五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日予備一番隊押絶 第二 年給六俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

一同五申五月權之助事多頼タノモ

出淵

出淵平兵衛

貳百五拾石

延宝五巳十一月廿五日御持組物頭被仰付、屋敷奉行兼、御役料百石被下

宝永六丑七月四日物頭御免

同七寅二月廿二日隠居

出淵平兵衛

貳百五拾石

貞享三御減少之節御暇被下候処

元禄六酉正月十六日被召出、御扶持切米被下

宝永七寅三月六日養父平兵衛家督無相違、於江戸被下

同閏八月廿一日御使番役於江戸被仰付

享保二酉六月十九日病身ニ付御使番御免、大番入、師役ハ其儘可相勤旨

被仰付

百五拾石

天明七未三月十一日父金兵衛跡知無相違、大番入、師役

出淵平兵衛

貳百五拾石

出淵平兵衛 鉄三郎

百五拾石

享保七寅二月十六日養父平兵衛跡知無相違被下、大番入
同年四月五日劍術役被仰付

寛政六寅二月廿九日養父平兵衛病中願之通養子被仰付、家督無相違、大番入、師役被仰付、思召を以平兵衛弟勇次郎を鉄三郎養子二被仰付

出淵平兵衛 隠居 同五十三年

百五拾石 役料百石

出淵彦兵衛 病死

百五拾石

享保十二未七月廿一日養父平兵衛嫡子幼年二付、流義之兵法断絶為無之
平兵衛跡知貳百五拾石之内(一衍)内百五拾石跡目被仰付、尤平兵衛倅養育可

寛政八辰十二月十一日養父平兵衛病中願之通養子被仰付、家督無相違、大番入、後見附被仰付

仕旨

延享二丑四月廿二日師役

同十二申十二月十日師役

明和七寅閏六月十九日御書院番入

安永三年六月十四日若殿様御腰物方長谷部半右衛門跡

出淵平兵衛 勇次郎 平兵衛

同七戌六月廿二日御長柄奉行飯沼十郎太夫跡、役料百石

百五拾石 外役料百石

同九子十一月廿一日御先物頭大関彦兵衛跡

文化二乙丑年七月廿五日養父彦兵衛跡知無相違、大御番入
同十一戌十二月三日御書院番組へ被入

出淵金兵衛 金太夫 病死

百五拾石

来酉年江戸詰被仰付

天明二寅七月八日養父平兵衛隠居、家督無相違、大番入、同日師役被仰付

文政十二己丑八月廿七日御使番御供頭兼西村仙右衛門跡被仰付、役料百石被下置候

天保四巳年九月九日遠慮伺之上差扣被仰付

出淵平兵衛

天保八酉二月十六日於江戸表出精相勤候二付御先物頭次席

天保九戌正月四日於江戸病死

出淵伝之丞 勇次郎 実西尾五右衛門次男

〔士族〕

百五拾石

一天保九戌三月五日養父平兵衛家督百五拾石無相違被下置、大御番組江被入、流儀之兵法師役被仰付候

一同十一子年江戸詰、四月十四日出立

一同十五辰年正月十三日江戸表へ御供二而出立、同年五月御供二而帰着

一弘化四未年江戸詰、三月十九日出立

一嘉永二酉五月廿五日御書院番組江被入

一同四亥年江戸詰、三月御供二而出立、同九月六日帰着

一同年八月十六日於江戸表郡奉行本多十郎兵衛跡被仰付、御役料五拾石被下置候

一同五子十一月十八日御目付役皆川平右衛門跡、御役料都合百石被下置候

一同六丑六月十五日江戸表方早御飛脚着、今度異国船浦賀表へ渡来二付急

出府被仰付、同日出立

一同年七月三日去月十二日京町方出火之節、出精二付御褒詞

一同年六月廿八日此度出府之処、御用多二付当分御指留被成候

一同年九月十七日当夏急出府被仰付候処遠路早速致出立、殊二大暑之時分

太儀思召候、此段申聞候様被仰出候

一同年九月廿五日来寅年迄詰被仰付候

一同七寅六月五日御領分久喜津村堤之儀二付、公料片粕村方故障筋申立争論二相成、昨年公訴相願候、依之松波甚左衛門へ掛り被仰付置候処、甚

左衛門江戸詰罷越候二付、留守中右掛り被仰付候

一同年六月十七日去ル十三日浜町方出火之処、及大火出精二付御褒詞

一同年八月朔日御番制御用掛り被仰付候

一同年九月廿二日御軍制御改正二付、御備組調練被仰出候処、御役前之事

二候間掛り同様相心得、御内調之通御軍帳掛り申談候様被仰付候

一安政三辰七月朔日除痘館掛り被仰付候

一同年九月十日今度軍馬実要之使用被仰出候二付、厚相心得取調候様被仰付候

一同四巳四月廿二日武事掛り被仰付

一同日家業宜其上数代師役相勤、別而近來出精太儀二思召候、依之御目錄

銀五枚被下置候

一安政四巳四月廿五日江戸御供二而出立

一同年九月廿一日今度神田橋御屋敷被指上、巢鳴ニおゐて御代地御拝領被成候二付右御用掛り被仰付

一同五午六月十一日昨年御参府御道中一人ニ而御供相勤候二付、御目錄銀

壹枚被下置候

一同六未十二月三日文武掛り之儀同役江被仰付置候処、武芸所之儀ハ重二

取扱候様被仰付候

一万延元申七月廿五日内達之訳も有之二付、除痘館掛り并軍馬掛り御免被成候

一同二酉正月廿日御国馬御端立二付、是迄之通相心得申談可取扱旨被仰付

候

一同年二月七日出精相勤候二付長袴格御奉行次席被仰付候

一文久二戌九月七日御目付役其儘御奉行兼帯被仰付、御奉行順席ニ被成下候

一 同年十月廿八日來春御上洛之節殿様為御待請御上京被遊候二付、御供被仰付候

一 同年十一月四日御先為御用近々致出立候様被仰付、同十五日出立

一 同三亥三月廿八日御用有之大早驅二而帰着

一 同年五月六日当亥年御參府御供被仰付候

一 同年同月廿二日御軍帳御變革二付掛り被仰付

一 文久三亥六月十六日支度出來次第上京被仰付、同十九日出立

一 同年八月四日御奉行役被仰付、御目付之義ハ御免被成、在京中ハ御目付

役兼帶相勤候様被仰付、九月六日帰

一 同年九月九日今般在京中不容易形勢之処致心配候二付、御褒詞之上手助

一 被下置候

一 同廿三日御用有之二付、乍太儀支度出來次第立帰上京被仰付、廿四日出

立

一 同年十一月六日於京都表御用之処、指扣被仰付置候処、御免

一 同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美六

百疋被下置候

一 同四子正月九日御都合も有之二付御国表江罷帰候様被仰付、且又在京中

格別御用多之処出精相勤候二付、御召御綿入被下置候、八月廿二日帰着

一 同廿五日在京中役儀二も不似合不埒至極之趣相聞不調法之事二候、依之

御役御取揚末之番外二被仰付、閉門、三月十七日御免

一 元治と改元、八月十四日御先物頭被仰付、御役料百石被下置候

一 同年十月十四日長征出立、翌二丑正月晦日帰着

一 慶応元丑閏五月廿一日御側物頭皆川平右衛門跡被仰付候

一 同年九月廿二日席御役料其儘、郡奉行吉田作太夫跡被仰付、御役人並被

仰付候

一 同年十月廿日種馬掛り被仰付候

一 同二寅十月十三日御趣意二付以來評議席江罷出、御用申談候様被仰付

一 同四辰二月廿九日郡奉行頭取并御取締地御預所郡奉行兼被仰付候、且又

御取締地を始今般被仰出候趣も有之候間、入念取扱候様被仰付候

一 同年三月十五日御内用有之二付立帰上京被仰付、同十八日出立、四月十

二日帰

一 同年五月四日評定役町郡会所頭取被仰付

一 同月廿日産業頭取被仰付

一 同年七月六日御内用有之二付立帰上京被仰付早速致出立候様、同八日出

立、八月朔日帰

一 明治二巳二月十四日參政職被仰出、以當職民政局幹事被仰出候

但月給百式十俵御役料相止

一 同年十月十四日任福井藩少參事宣下之事 未正月百四十二俵

一 同月廿四日民政局幹事更二被仰出候事、但月給米当分是迄之通

同日今般少參事宣下二付御取扱左之通

一 五節旬朔望登城之節於御座之間權大參事、畢而御逢之事

但各員一同罷出候事

一 詰所是迄之通參政職詰所之事

一 御門々々下座之事

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給祿米八拾式俵壹斗式升壹合下賜

一 同月廿八日流儀之師役被免候、且又年來流儀致世話、仍而勤勞金式千五

百疋被下候

但御師範之儀も被免候事

一同年十二月廿四日総会所御改正已後日夜苦心、且時日も無之処略趣向も

相見候条、勤勞不淺、依之金六万疋被下、此上精勤及成功候様被仰出候事

一同三午正月十三日民政之義年来格別精勤、且又宿駅治水開田等其功不尠依之年々米三十俵被下候事

一明治四未六月朔日今般官員減省御窺可相成二付不及出仕候事

一同年八月朔日本官被免候事

一同五申十一月廿五日老年二付隠居

出淵

文太郎 伝之丞 明治三午三十五歳

〔士族〕

安政四巳四月廿二日此度三ノ丸惣武芸所御集被成候二付、師役同様相心得引立方致心配候様被仰付候

一同五午三月廿日家業厚心掛候二付猶以広く致修行可然候間、江戸并会津常陸辺へも罷越厚致精練候様被仰付、右修行在江戸中三人扶持被下置候

一同年九月廿五日今般他国修行被仰付太儀二付銀杓被下置候

一文久元酉八月廿日当節柄御人少二付、支度出来次第修行旁江戸詰被仰付候、御扶持方五人扶持被下置候、九月四日出立

一同二戌十月廿九日帰着

一同年十二月十四日中将様御上京御供御用二付江戸出立之処、御都合二付途中方京都へ

一同三亥三月廿五日中午中将様御供二而帰着

一同年六月十九日親同道京都表江出立、九月六日帰

一同年十月十三日中将様御上京御供被仰付出立

一同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美式

百五十疋被下置候

一同四子正月廿八日御都合も有之二付御国表へ罷帰候様被仰付二月四日帰一元治と改元、三月十七日滞京中不行状之趣相聞候二付移りを以御叱、慎

一同月廿九日、一昨戌十二月江戸表江罷出、中将様御供二而京都表江可罷越筈二而此表致出立候処、俄二御船行相成候二付途中方京都江罷出、夫

方大坂江為御迎罷越御供二而京都江到着之処、失却も有之趣二付金杓兩為御手当被下置候

一同年六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、依之銀式被下置候

一同年同月廿六日御含有之早速上京被仰付御扶持方五人フち被下置、同廿八日出立、八月帰着

一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同年十二月肇卜名替

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張、同二月廿四日帰

一慶応元丑閏五月十八日二番之補兵隊伍長被仰付

一同年十一月廿九日弟子引立方致心配候二付銀拾五枚被下置候

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年十二月廿六日御持第三小队指添被仰付

一慶応三卯二月十一日当春京都御警衛詰被仰付

一同廿七日今般殿様御立帰御上京被遊候二付御供被仰付直二御警衛詰被仰付候、三月十日出立、七月十五日帰

一同年十月廿二日第一遊撃隊御雇被仰付、御雇中銀三拾枚ツ、被下置候

一同年十一月二日宰相様御上京二付速見迄御見送り出立、同七日帰

一同月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、同廿九日出立、辰四月十

日帰

一同四辰四月廿五日遊撃隊江被召出五人扶持被下置候、午四月三日十六俵

高二成

一同日二番後拒役被仰付、役中分隊長次席二被成下候

一同年九月二日戰地為斥候早急越後表へ致出立候様被仰付、早驅出立、同

廿六日帰

一明治卜改元、十月三日御警衛詰上京、巳二月六日帰

一同二巳三月九日後拒第一二被仰付

一同三年六月廿二日第一大隊五番分隊長被仰付候事

一同年十二月八日軍務寮出仕、但予備分隊長勤向 年給十二俵高 十三俵

一同四未四月七日予備隊解隊被仰出候二付右出仕被免候事

一同月十日常備第三小隊被仰付候事 年給六俵 十式俵高

一同年十月十三日解隊

一同五申十一月廿五日父伝之丞老年二付隠居

一給禄米三拾七石五斗壹升三合従前之通被下候



今立助左衛門

百五拾石

延宝元丑十二月廿九日御右筆被召出御切米被下

宝永二酉九月十八日新知被下、即日御右筆御用請込被仰付

正徳三巳七月廿三日五拾石御加増被下

享保三戌七月六日御番組御免、御纏並ミ席江被仰付

今立權左衛門 五郎左衛門

百五拾石 外五拾石

享保八卯六月十六日父助左衛門跡知無相違、大番入

同十五戌正月十六日御勘定拜借奉行仙石庄右衛門跡

同十六亥十月十一日郡奉行仙石庄右衛門跡

今立六右衛門 隠居 同三十一年

百五拾石 役料百石

享保十九寅九月廿一日養父權左衛門跡知無相違、大番入

宝曆十辰三月五日京都御留守居御目付兼、席御使番並役料百石家内引越

候様、八木郡右衛門跡

明和五子十月廿日御先物頭格順席

同七寅八月七日御先物頭渡辺佐五右衛門跡

今立助左衛門 權右衛門

百五拾石 役料百石

安永弍巳閏三月十四日養父六右衛門思召有之二付隠居、家督無相違被下、

大番入

同四未二月十四日若殿様御近習番鱸半五郎跡、御書院番入

天明二寅六月廿六日御近習番是迄之通二而若殿様御供頭

同四辰四月廿九日御部屋御小道具方

同年十月廿一日於江戸若殿様附奥御納戸

寛政三亥九月廿八日於江戸御部屋附御近習番頭取御膳番福山藤右衛門跡

同七卯四月廿七日於江戸若殿様御側締り役見習席御徒頭次席

同八辰八月三日御奉行役御役料百石

文化六巳正月廿八日病死

今立五郎太夫

百五拾石

文化六巳ノ三月十六日親助左衛門跡知無相違、大御番入

文政二卯年六月十六日郡奉行桑山十蔵跡、御役料五十石被下置

同六未三月四日御目付役高村新五太夫跡、御役料都合百石被下置

文政十亥六月廿三日御奉行本多九太夫跡

天保三辰五月十三日御留主御用之節無念之義ニ付伺之上遠慮

天保七申二月廿日次男他之助心得違之趣有之遠慮被仰付候ニ付、遠慮伺

之上指扣被仰付

天保八酉五月廿四日御役御免、御先物頭次席伺之上遠慮、六月朔日御免

同九戌七月十日松栄院様御附御広敷御用人、御役料百石被下置支度出来

次第江戸詰被仰付候

天保十一子十二月五日父子共先達十月廿一日御日柄致忘却川狩罷越不調

法ニ付、父子共遠慮被仰付、同廿四日御免

今立五郎太夫 源太郎

百五拾石

一天保十三寅十月廿九日親五郎太夫家督百五拾石無相違被下置、大御番組

へ被入

一弘化四未年江戸詰、三月十八日出立

一嘉永四亥年江戸詰

一同七寅五月三日大御番五番之筆頭役高田孫左衛門跡被仰付候

一同年七月廿五日江戸詰出立

一安政二卯年三月廿四日御留守詰侍中罷歸候節、道中仮目付被仰付候

一万延元申六月廿六日御番両度皆勤ニ付御紋御帷子被下

一同年十一月十一日來酉年太田御陣屋詰被仰付、且又御都合も有之二付詰

引揚、十二月十一日出立

一文久元酉九月十日横浜運上所出張之節陣場目付指揮役兼被仰付候

一同年十二月廿七日大砲方頭取被仰付、且又二ヶ所御台場御筒并御附属小

道具彈藥等教授方申談取扱候様被仰付候

一同二戌四月廿五日歸、同月三日太田御陣屋詰中長々横浜表江致出張候ニ

付、御褒詞之上銀式枚被下置候

一同年閏八月四日御使番役林勘十郎跡被仰付御役料百石被下置候

一同四子二月七日支度出来次第上京被仰付、同十二日出立

一元治与改元、四月十四日中将様御官位御昇進ニ付御使与して帰着

一同年六月廿五日昨冬以來宰相様御上京中格別繁多太儀思召候、依之御酒

被下置候

一同八月廿日今度尾州様へ御伺御用有之二付、大宮藤馬為御使被指越候ニ

付副使被仰付、翌廿一日出立、同廿七日歸

一同年同月廿七日御先物頭大河原助之進跡被仰付候

一同年十月十五日長征出立、同二丑正月十一日歸

一慶応二寅十月廿六日席其儘予備組支配被仰付御役料五拾石被下置候

一同三卯二月七日御広敷御用人被仰付御役料都合百石被下置候

一同年八月十二日今般殿様御縁談御用掛り被仰付候

一同四辰四月廿五日年寄候ニ付隠居

今立雄平 乙八 五郎太夫 五郎太夫養子 実加藤清十郎弟 〔士族〕

百五拾石

安政二卯三月十六日横山引続年々支合皆勤ニ付、御持御扇子二本被下置候

一同四巳四月十四日久野累年皆勤ニ付御持御扇子二本銀七匁被下置候

一万延二酉三月朔日太田御陣屋表へ出立、文久与改元

一同年六月三日今度横濱運上会所江御人数昼夜出張被仰出候ニ付御番士御雇詰同様被仰付、御扶持方三人扶持被下置候

一同年十二月廿日御台場御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、御扶持方式人扶持御増、都合五人扶持被下置候

一同廿七日大砲方頭取被仰付、且又二ヶ所御台場御筒を始教授方申談取扱候様被仰付候

文久二戌四月廿五日帰着、同三日太田御陣屋詰中横濱表江致出張候ニ付御褒詞之上銀壹枚被下置候

一文久二戌十月六日今度農兵御端立ニ付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候

一同年十二月十五日中将様御上京御供御用ニ付江戸表江出立之處、御都合ニ付途中方京都へ

一同三亥三月廿五日右御供ニ而京都方帰着

一同年六月廿六日砲術所世話役被仰付

一同年七月八日上京被仰付相止

一同年十月十三日中将様御上京御供被仰付出立

一同四子三月二日在京中無息伍長被仰付候

一元治元子三月廿九日、一昨戌十二月江戸表江罷出中将様御供ニ而京都表

へ可罷越筈ニ而此表致出立候處、俄御船行相成候ニ付途中方京都江罷出、夫方大坂へ為御迎罷越御供ニ而京都江到着之處、失却も有之趣ニ付金壹兩為御手当被下置候

一同年四月廿三日宰相様御供ニ而帰京

一同年六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀ニ思召候、依之銀式枚被下置候

一同廿六日御含御用有之早速上京被仰付五人ふち被下置、同廿八日出立、九月四日帰着

一同年七月十五日在京中農兵教授方手伝被仰付、夫方長征、丑二月二日帰一慶応元丑五月廿八日四番之大砲方被仰付

一同二寅正月廿九日京都詰被仰付、四月五日出立、十一月廿六日帰一同年四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一慶応三卯三月廿四日砲術所頭取介并軍事方兼被仰付、是迄之通年々銀拾枚ツ、被下置、大砲方之儀ハ御免被成候

一同年十月廿五日砲術教授方被仰付、勤中年々銀三拾五枚ツ、被下置候一同四辰四月廿五日養父五郎太夫年寄候ニ付隠居被仰付、養子乙八江家督

百五拾石無相違被下置、砲術教授方其儘被仰付役御番組へ被入、年々銀十五枚ツ、被下置候

一同年七月三日養父五郎太夫御精進日殺生罷越候ニ付恐入伺之上指扣、同五日御免

一同年七月十六日越後高田表江早かけ出立、十一月十五日帰

一同明治与改元、十二月廿八日乙八事五郎太夫与改

一同二巳二月十七日郡長試補被仰付 月給十俵

一同月廿二日会征出張二付千五百疋被下、外二十三両被下候

一同年六月廿一日五郎太夫事雄平卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八拾貳俵壹斗貳升壹合被下

一同年十二月二日砲兵佐教被仰付候事

一同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵二付、御賞典之内十五石十

ケ年令頒授候事

一同年十二月八日任少尉兼三等教授 年給三十六俵

但常備砲隊砲兵掛り

一同四未十月十三日今般解隊被仰出候二付職務被免候事



今立治太夫 隠居

百石

宝永七寅閏八月十一日養父三左衛門跡知

元文二巳正月十六日御金奉行渋谷与五左衛門跡

宝曆五亥十一月廿九日札所奉行有賀清右衛門跡

同九卯六月十六日御纏奉行生駒弥五右衛門跡

今立三左衛門 病死 同四年

百石

宝曆十一巳二月廿二日養父治太夫隠居、家督無相違、大番入

今立次太夫 休息

百石

明和八卯八月廿五日養父三左衛門跡知無相違、大番入

天明九酉正月十四日与内檢地奉行妹尾与左衛門跡、御留守番入

享和元酉七月廿日休息

今立六右衛門 隠居

百石

享和元辛酉七月廿日養父次太夫休息、家督無相違、大御番入

享和二戌十一月廿九日御広式御用達

文化七年六月十日御金奉行佐野弥三郎跡大御番入

同十三子八月廿日御役御免、遠慮

文政元寅十月十五日御広式御用達被仰付候

文政八酉十一月三日山奉行津田源之丞跡被仰付

天保二卯二月十五日末ノ番外御時宜役被仰付

天保四巳十一月廿九日大馬印奉行毛利六郎右衛門跡被仰付候

天保九戌十一月十一日御留守物頭織田仁兵衛跡被仰付

同十一子三月八日御長柄奉行矢野権平跡被仰付御役料百五拾石被下置

天保十二辛丑正月廿日御先物頭高江友右衛門跡被仰付

同十三壬寅十月五日隠居

今立治太夫 四郎兵衛 一十郎

百石

一天保十三寅十月五日親六右衛門家督百石無相違被下置、大御番組江被入

一 嘉永四亥江戸詰
一 安政二卯江戸詰

一 同年五月四日伺之上遠慮被仰付置候処御免
一 同三辰十二月廿一日病氣ニ付内願之通休息

今立権之丞

〔士族〕

百石

一 安政三辰十二月十一日親治太夫病氣ニ付内願之通休息被仰付、家督百石
無相違被下置、大御番組へ被入候

一文久元酉八月廿日当節柄御人少ニ付支度出来次第修行旁江戸詰被仰付候
一同二戌年江戸詰

一同年十二月廿三日来春中将様御船ニ而御上京被仰出候ニ付、陸廻り御先へ出立

一同三亥三月廿五日右御供ニ而京都方着

一同廿七日他番へ被入候

一同年六月四日御番頭引纏上京、九月六日帰

一同年十二月廿四日先達而京都動揺之節為御守衛出張ニ付、朝廷方為御褒美式百五十疋被下置候

一元治元子七月廿一日京都表へ出立、九月十一日帰

一同年十月十三日長征出立、同二丑正月晦日帰着

一 慶応元丑五月廿八日大砲方御免被成候

一同二寅七月五日御番出精ニ付御褒詞

一同三卯七月廿二日新撰隊教授方并指揮役兼被仰付、役御番組へ被入候

一同年十月十八日小隊之分隊長被仰付、御書院番組へ被入候

一同四辰正月廿四日今般勅使御下向ニ付御國中附廻シ被仰付

一同年五月廿八日半小隊長秋田城太郎跡被仰付、役義ニ付席末ノ番外格ニ被仰付

一同年六月廿五日会征出立、十一月十五日帰、巳二月廿二日出張ニ付十五兩被下、外二千五百疋

一 明治二巳五月廿一日支度出来次第東京詰被仰付、然処同廿七日被免

一同年十月朔日東京詰出立

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三午四月廿五日戊辰北越出張攻撃勉励ニ付、御賞典之内廿石廿ヶ年令

領授候事

一同月廿八日從東京帰

一同年六月廿二日修業列被仰付候事

一同月廿八日第二大隊六番分隊長被仰付候事

一同年十二月八日職務被免非役江被入候事

一同四未正月朔日学校出仕

但御雇教師警衛勤、且又勤向之儀ハ佐々木権六江可申談事

一同日御用有之大坂迄可罷越事、同四日出立、十四日帰

一同年六月朔日御改正ニ付免職

一 壬申六月廿五日合禄

今立熊五郎 権之丞弟

〔士族〕

一文久三亥六月三日御番頭引纏上京、九月六日帰

一同年十二月廿二日京都表動揺之節為御守衛出張ニ付、朝廷方為御褒美式

百五十疋被下置候

一同四子正月廿日当春芝御陣屋詰被仰付右詰中五人ふち被下置候 相止

一元治元子二月廿三日支度出来次第上京被仰付、滞京中五人ふち被下置候、

三月四日立、四月十七日帰着

一元治元子五月十九日芝御陣屋未夕御引渡無之二付、右引渡相濟候迄同所

詰被仰付詰中御扶持方五人扶持被下置、支度出来次第早速立候様被仰

付廿九日立、九月九日帰着

一同年六月廿五日当春宰相様御職被為蒙候二付、早速上京取調等致心配太

儀之段御褒詞

一同年十月十四日長征立、丑正月帰

一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰

一慶応二寅三月十一日二番之補兵隊へ附属被仰付候

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供立、八月九日帰

一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同四辰七月七日今度越後表江御出陣被仰出候二付、補兵隊被仰付出張被

仰付候処、難渋之訊も有之二付為御手当銀七百匁被下置候

一辰八月御備入被仰付八月十四日予備隊卜改、十一月廿八日修業隊卜改

一同年九月六日補兵隊二而会征立、巳二月六日帰

一明治卜改元、十月廿日臨時民政鎮撫方被仰付

一巳二月廿二日会征出張二付御手当五両被下

一同三年六月二日子弟修業隊解隊被仰付候事

米拾式俵

一同年閏十月廿八日被召出同姓權之丞給禄之内十式俵被下小隊江被入候事

但第一大隊六番

一同年十二月八日常備一番隊 年給六俵

一同四未四月二日東京詰立

一同年十月十三日解隊、十一月帰

一同年十二月廿八日伍長、申正月被免

分営常備

壬申六月廿五日合禄

石原

石原平右衛門

百五拾石

宝永二酉七月廿一日父平右衛門跡目無相違被下

石原治五平 初平右衛門

百五拾石

享保十三申三月十一日養父平右衛門跡知無相違被下、大番へ入

同十七子六月五日御手廻り被仰付

元文五申五月十八日御手廻り御免、大番入

石原鉄弥 病死

百五拾石

宝曆七丑五月十七日父治五平跡知無相違被下、大番入

石原九郎左衛門 拾五郎

百五拾石 役料百石

宝曆十二年七月五日養父鉄弥跡知無相違、大番入

明和三戌七月朔日御小姓

同五月七月九日若殿様御小姓

安永三年八月十四日御附御小姓頭取

同七戌二月七日於江戸同御附御側締り指添、末ノ番外席波々伯部又四郎

次

同八亥七月廿日御目付村田十太夫跡、御役料百石

天明元丑十二月十一日御奉行村田十太夫跡

石原喜左衛門 浅五郎 九郎左衛門

百五拾石 役料百石

寛政三亥十月十六日親九郎左衛門跡知無相違、大番入、同日親九郎左衛門義去年以來詰中至而御用筋出精相勤候二付、当秋罷帰候節ハ御褒詞も可被成下処、先達而令病死御残念思召候、依之御褒詞被成下御目録金貳百疋被下置

同年十一月五日親九郎左衛門御用筋出精相勤候二付、格別之思召を以御

近習番林熊次郎跡被仰付

同六寅六月十六日御小姓

同九巳御近習番

同十一未九月十八日中将様御附御用人支配

同十二申十二月御裏役

同年同日江戸定府家内引越被仰付

享和元酉六月十六日御附御小姓頭取

文化四卯勤向其儘末ノ番外

文化六巳八月廿一日此度隆徳院様御逝去二付御役御免被成、席其儘、但

去月廿八日御国元へ家内共引越被仰付候

同年十月廿日家屋敷被下

文化七年十一月十七日御時宜役、御徒頭仮役

同十一戌十一月七日御使番小栗源藏跡、御役料百石

同十三子六月廿九日御水主頭猪子六左衛門跡

文政三十一月十五日御先物頭小川次兵衛跡被仰付

文政六未四月病死

石原甚十郎 平右衛門事 左金太事

百五拾石

一文政六未六月五日父喜左衛門家督百五拾石無相違被下置、無役御留守番組へ被入、同十亥九月大御番組江被入

一同十三寅六月六日御小姓被仰付

一天保二卯江戸詰被仰付候

一同四巳江戸詰被仰付

一同六未江戸詰被仰付、八月天梁院様御棺御供二而帰着、直二同月廿三日

詰罷越、同九戌年迄詰越、五月御供二而帰着

一同年九月五日今度御代替二付御小姓御免被成御側支配御近習二被差置、

勤方之儀ハ追而可被仰付御用筋之義ハ先是迄之通可申談旨

一同年同月十五日御小姓被仰付

一同九戌江戸詰被仰付、九月十八日出立

一同年十月廿五日今度御代替二付御小姓御免被成御側支配御近習二被差置、

勤方之儀ハ追而可被仰付御用筋之義ハ先是迄之通可申談旨

- 一 同年同月廿九日御小姓被仰付候
- 一 同十一子江戸詰被仰付、八月廿五日出立
- 一 同十三寅五月廿日御小姓頭取浅見七十郎跡被仰付
- 一 同十四卯年迄詰越
- 一 同十五辰正月御供二而出立、同年三月十九日帰着、病氣内願二付
- 一 同十五辰五月廿九日弟友之助不埒至極之趣相聞候二付侍御削御国拾三リ
- 一 四方追放被仰付候処、兼而締り方不参届趣二付御小姓頭取御免被成、遠慮、大御番組へ被入
- 一 弘化三年十月朔日御小姓頭取近藤雄藏跡被仰付、席最前相勤候席へ被入
- 一 日比彦之丞上
- 一 同年十二月廿一日御目付加賀九郎右衛門跡被仰付、御役料百石被下置候
- 一 嘉永元申六月急御出府御供二付江戸表江出立、同七月御供二而帰着、右
- 一 二付十二月七日御褒詞
- 一 同二酉御供詰被仰付、三月廿三日出立
- 一 同二酉十月十九日御上屋敷大奥向御普請御用掛り出精二付銀壹枚被下之
- 一 同三戌五月廿日御帰国御道中御供壹人二而相勤候二付銀壹枚被下之
- 一 同年十二月十五日今般御婚姻御用掛り出精二付御召御上下一銀壹枚被下之
- 一 同四亥七月三日斎藤民部同姓数馬儀御不審之儀有之一家共江御預ケ被成候二付、数馬始掛り合之者共右吟味懸り被仰付候
- 一 同年八月廿三日種痘接続之儀二付右掛り被仰付候
- 一 同年十一月三日泥原新保浦丸岡領川崎村与出入出訴一件二付御褒詞
- 一 同五子六月九日御広敷御用人被仰付候
- 一 同年七月廿四日支度出来次第江戸詰被仰付、同廿五日右同様被仰付置候
- 一 同六丑年正月六日慎姫様御縁組二付御用懸り被仰付候
- 一 同年七月十九日来寅春迄詰越被仰付候
- 一 同年十二月廿五日謚姫様御婚姻被為濟、右御用掛り出精二付御召御上下一具被下置候
- 一 同七寅四月十四日此度思召を以大奥向御人減御趣法替被仰出候二付、右御用掛り被仰付候
- 一 同年同日今度大奥向非常之御省略被仰出候二付、右御趣意被仰付此表二罷在候様被仰付候
- 一 同年八月十三日帰着
- 一 安政三辰五月九日御広敷御用人其儘御奉行役雨森儀右衛門跡被仰付、同日御奉行役被仰付候得共、当秋江戸詰之儀ハ其儘二而本多十郎兵衛共可致旨被仰付候
- 一 同年七月廿六日江戸詰出立
- 一 安政四巳六月十三日来午ノ春迄詰越被仰付候
- 一 同年九月廿三日家屋敷明道館御用地二被仰付、加藤郷八家屋敷へ替被下候
- 一 同年九月廿一日今度神田橋御屋敷被指上巢鴨ニおゐて御代地御拝領被成候二付、右御用掛り被仰付候
- 一 同年同月廿三日於御国表家屋敷御用屋敷二被仰付加藤郷八家屋敷へ遣被下候
- 一 同年十月廿一日御内用有之御国表立帰被遣候、十一月七日着、同十二日出立

- 一 安政五年七月七日今般御家督御相統御用掛り被仰付候
- 一 同年九月十四日殿様御一字御拝領可被遊二付、取調御用掛り被仰付候
- 一 同年十一月七日此度中将様御前様靈岸島御中屋敷へ御引移二付、御同所大奥向居合候迄右御屋敷江引越御用向申談候様被仰付候
- 一 同月廿一日今般殿様御一字御拝領御用懸り等出精相勤候二付御召御上下一具被下置候
- 一 同日御家督御相統御引移御用懸り出精二付、御召御小袖被下置候
- 一 同年十二月廿八日近来御用多之処格別出精相勤候二付、年々銀拾枚ツ、被下置候
- 一 同日来々申ノ春迄詰越被仰付候
- 一 同日靈岸島御屋敷御建継御普請二付、出精之段御褒詞之上銀三枚被下置候
- 一 同六月末二月十一日御内御用有之御国表江立帰被仰付、七日出立、十七日着、同廿六日折返シ出立
- 一 同年十一月十日来々酉之春迄詰越被仰付候
- 一 同年十二月廿五日兼勤被仰付置候処、日々通勤御用多二付為失却銀式拾枚被下置候
- 一 同七申正月十四日御本丸御普請二付、鳥子紙御献上被成候二付御用掛り被仰付候
- 一 同年二月廿六日太田御陣屋御普請御用掛り出精二付銀三枚被下置候
- 一 万延与改元、四月三日長詰ニも相成候二付林作右衛門与致交代候様被仰付、六月十一日帰着
- 一 同年四月廿一日先達而御判物御朱印郷村高辻帳御改二付、御用掛り出精二付御褒詞
- 一 同年六月廿日靈岸島御屋敷御建継御普請二付、江戸詰中出精二付御褒詞之上銀三枚被下置候
- 一 同廿一日家屋敷加藤半左衛門家屋敷へ替被下候
- 一 同年十月十六日近来格別出精相勤候二付御足高三拾石被下置候、但是迄年々被下置候銀拾枚之儀ハ以後不被下候
- 一 同年十二月十六日来酉年江戸詰被仰付置候処、御參勤御道中御目付代り御供被仰付候
- 一 文久元酉三月九日当春御道中御目付役被仰付候二付、為失却金五兩被下置候
- 一 同三月十九日出立
- 一 同年四月十五日今度御參勤御道中御目付代り御供相勤候二付、御褒詞之上銀壹枚被下置候
- 一 同年十二月十六日和宮様御下向御道固二付、御用掛り出精之段御褒詞
- 一 同二戌四月七日先達而御持場替一件御用掛り出精之段御褒詞之上銀式枚被下置候、五月二日江戸表方帰着
- 一 同十九日席其儘御預所元締役渥美新右衛門跡被仰付候
- 一 同年十二月廿五日御奉行飯兼帯被仰付候
- 一 同三亥十二月十日病死
- 石原虎雄 万千次郎 甚十郎 実渡辺蓬太郎弟 [士族]
- 百五拾石
- 文久三亥正月十六日外塾師手伝被仰付、大平勘次郎致世話候生徒申談可致世話□□
- 一 同年十月十三日中将様御上京御供被仰付出立、十二月五日養父甚十郎大

病二付願之上婦

一同四子正月廿九日養父甚十郎家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同年二月廿日家屋敷円乘彦藏家屋敷江替被下候

一元治与改元、同廿六日右二付三ノ丸元屋敷地ニ有之候長屋被下置、右長

屋引料并家為造作料銀六貫匁被下置候

一同年三月十一日中将様御近習番被仰付、支度出来次第上京被仰付、十七日出立

一同年四月廿三日御供ニ而帰

一同年五月二日宰相様御附御小姓被仰付候

一同年七月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤太儀ニ思召候、依之銀壹枚被下置候

一同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑閏五月十七日御含御用有之二付早速上京被仰付、右御用中御小姓勤御用捨被成下候、廿八日出立、同年十一月九日帰

一同二寅六月廿三日今度豊前表江御出張之諸侯方之内、御陣中へ御見廻且御含御用も有之二付、鰐淵三郎太夫同道罷越申談相勤候様被仰付、同廿五日宰相様御供ニ而出立、十月同断帰

一同年十月廿六日御附御馬廻被仰付

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰着

一同年十一月二日右同断出立、辰三月廿一日帰

一同四辰五月廿八日上京、十月十二日帰

一同年八月三日御附御膳番奥御納戸役兼被仰付、御裏役御書物方儀も相心得候様被仰付

一明治卜改元、十二月四日上京、巳三月六日中納言様御供ニ而帰

一同月廿八日万次郎事甚十郎卜改 月給十俵

一同二巳四月九日中納言様御供東京江出立、八月廿五日帰

一同年十月四日從二位様御近習被仰付候事

但月給米一年分六俵被下候事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八拾貳俵壹斗貳升壹合被下

一同年十二月朔日東京江出立

一同月廿八日甚十郎事虎雄卜改

一同三年九月三日東京ヨリ帰

一同年十月廿三日庶務主事御近習肝煎振退勤被仰付候事

但十三級 席大谷千熊次御坂札一本

一同四未二月十六日正二位様御近習被仰付候事

但等級之儀從前之通ニ候事

一同年四月五日当分年給十三級貳拾八俵三斗六升四合八匁

一同年五月八日御家從被免候事

石原²

石原健藏 元武生家来 午廿三

〔士族〕

一嘉永五子九月

一明治二巳十一月廿五日今般御改革之処、物頭以上三付士族ニ被仰付、給

禄之儀ハ適宜御改正之上更被下候事

一同三年正月廿三日米四拾六俵四斗貳升被下候

一同年八月廿二日福井江引越被仰付候

一同年九月十日御花畑二而百九十六坪坪地被下候事

一 福井引越被仰付候二付、是迄之通建物被下候間取払可申事

一家作之義八建被下候

一家作中寓居御貸渡被成候事、但百日限り

一同年十月十二日第一大隊三番小隊江被入候事

一同年十二月八日常備三番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊



生田六左衛門

百五拾石

正徳三巳七月廿三日御右筆被召出、廿五石五人被下

同五未六月十六日御役御免、一兩年見習可相勤旨被仰出

享保二酉十月十三日御右筆被仰付、御番も相勤筈被仰出

同十六亥八月廿五日新知被成下、御右筆部屋請込役并御帳付支配被仰付

元文三年八月廿四日役義に付奥役次席御上ケ被下

寛保二戌十二月十五日御加増被仰付

生田八郎右衛門

百五拾石 外役料百石

宝暦五亥四月廿九日父六左衛門跡知無相違被下、大番入

同十三未三月廿五日御手廻御書院番入

明和五子八月十三日御手廻御免、御近習番格、席是迄之通

同六丑正月十六日若殿様御近習

同八卯正月十六日同奥御納戸

安永二巳閏三月十五日御鶴方築兵右衛門跡

天明四辰正月十六日役義出精相勤候二付末ノ番外

同八申八月廿八日御使番下山清左衛門跡、御役料百石

生田十左衛門

百五拾石

寛政四壬子年十二月十一日父八郎右衛門隠居被仰付、家督無相違、大番入

文化五辰ノ四月十六日大御番三番筆頭役味岡甚左衛門跡

同十四丑三月四日御使番金子十郎平跡被仰付、御役料百石

文政三辰十月十日御先物頭上月武左衛門跡

文政七申十月病死

生田十左衛門 六左衛門

百五拾石

文政七申十一月廿九日父十左衛門家督無相違、大番入

天保十四卯正月廿五日養子熊太郎儀致死去、始末取扱方不参届二付閉門

被仰付、妻儀も取扱方不届二付蟄居被仰付、娘義も慎被仰付候

嘉永元申十一月十六日病身内願之上休息

生田準内 小右衛門 祐三郎 源藏 実妹尾平八養方弟

百五拾石

〔士族〕

一嘉永元申十一月十六日養父十左衛門病身二付内願之通休息被仰付、家督無相違被下置、大御番組江被入

一同三戌八月廿三日表御小姓被仰付

一文久二戌十二月十三日中将様御上京被遊候二付、御供為御用江戸表へ出立、翌亥年三月廿五日京都方御供二而帰着

一同三亥十月廿四日表御小姓筆頭役八木郡右衛門跡被仰付

一元治元子八月廿八日御上京御供、夫方長征、丑三月帰

一慶応二寅十月廿六日御先副物頭席末之番外二被仰付、御役料廿五石被下置候

一同三卯十月十八日半小隊長被仰付候

一同四辰正月廿四日今般勅使御下向二付、御國中附廻シ被仰付候

一同年閏四月廿六日今度切支丹宗信仰之者百五十人御預ケ二付為警衛出坂被仰付、五月朔日出立、同月廿六日帰

一同年五月廿八日養子市郎御咎二付伺之上指扣、六月三日御免

一同年六月廿五日会征出立、十一月十五日帰、巳二月廿二日出張二付十五兩被下候、外二三千疋

一明治二巳二月十六日御広間当番頭取被仰付、但席其儘

但月給廿俵、御役料ハ不被下候

一同年六月十二日小右衛門事準内卜改

一同年十一月九日今般御改革二付、御広間当番被廢候、依之役儀被免候事

但席高村長作次

予備隊

一同年同月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下

一同三年四月廿五日戌辰北越出張各所戦争拔群尽力二付、御賞典之内永世

十五石式拾ヶ年五石、都合式十石令頒授候事

一同年閏十月廿五日予備隊名目被廢非役卜唱

一同四未十月廿三日給禄之内廿俵次男章介へ分禄

一同年十一月廿三日右合禄之上、更二八俵分禄此度願濟之事

岩城

此前代の二出、但野本与号

岩城仙太郎

百五拾石 外役料百石

安永二巳三月十六日父猪右衛門跡知無相違、大番入

同三年八月十四日若殿様御小姓

同五申七月十五日御表御小姓

天明元丑年十二月十一日御小姓頭取

同五巳十月廿六日於江戸御部屋附御小姓頭取被仰付

寛政二戌十一月十五日勤方其儘二而格式末ノ番外川村文平次

同四子九月十四日御使番格御時宜役、席吉田茂左衛門次

文化元子六月十九日御使番東郷吉藏跡、役料百石

同三寅十一月廿二日病身二付御役御免、末之番外勝木与兵衛次

同七年三月十六日病身内願隠居

岩城藤左衛門 庄三郎事

百五拾石

一文化七年三月十六日父仙太郎病身内願之通隠居被仰付、家督百五拾石無

相違、大御番組へ被入

一同十四丑正月廿一日御附御小姓被仰付、恒五郎様御附兼帯

一 同年江戸詰被仰付、文政二卯年帰着
 一文政四巳江戸詰被仰付、同六未年帰着
 一文政四巳九月四日於江戸表若殿様御附奥御納戸役被仰付、御書院番組へ
 被入

一同七申江戸詰被仰付候

一同九戌江戸詰被仰付、二月三日出立

一同十二丑江戸詰被仰付、三月廿八日出立

一同十三寅六月六日御膳番茂呂喜六跡被仰付候

一同年八月廿八日御膳番其儘御近習番頭取彦坂又兵衛跡被仰付候

一天保六未江戸詰被仰付

一天保六未九月五日今度御代替二付御役御免被成、御書院番其儘御近習二
 被差置、御用筋之儀ハ先是迄之通可申談旨

一同年九月十六日御近習番頭取御膳番被仰付候

一同七申二月廿日御近習番頭取御膳番其儘、御書院番二番之筆頭片山平七

跡被仰付

一同年秋江戸詰被仰付、八月廿五日出立

一同九戌秋江戸詰被仰付、九月十二日出立

一同年十月廿日今度御代替二付御役御免被成、御書院番其儘御近習二被差
 置、勤方之儀ハ追而被仰付、御用筋之儀ハ先是迄之通可申談候

一同年同月廿九日御書院番二番之筆頭御近習番頭取御膳番被仰付候

一同十一子三月八日御使番役御供頭兼帶稻葉源右衛門跡被仰付、御役料百

石被下置

一同年秋江戸詰被仰付、八月十七日出立

一弘化二巳江戸詰被仰付、三月廿一日出立

一同三年十月朔日御先物頭堀勘左衛門跡被仰付
 一嘉永三戌六月三日御側物頭岩上梶太夫跡被仰付
 一同年十一月廿八日御座所預り被仰付候
 一同五子六月十七日隱居被仰付

岩城源太郎

百五拾石

一嘉永五子六月十七日親藤左衛門年寄候二付隱居被仰付、家督百五拾石被

下置、大御番組へ被入候

一同六丑六月十七日病死

但六月十五日今度浦賀表へ異国船渡来二付急出府被仰付、同日致
 出立候処、板取辺方病氣二付罷帰、十七日病死

岩城豊太

百五拾石

一嘉永六丑八月十一日兄源太郎病中願之通養子二被仰、家督百五拾石無相

違被下置、大御番組へ被入候

一安政四巳四月廿二日御製造方見習被仰付候

一同年四月廿七日松岡於合葉所不慮之死失、依之翌廿八日為御手当銀五枚
 被下置候

岩城恕平 外次郎 実皆崎次右衛門弟

百五拾石

一安政四巳閏五月廿日岩城豊太於御用先不慮之儀二付致死亡候段、達御聽

御不便二思召候、依之親類願之通私儀豊太遺跡相統被仰付、家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同日明道館助蒙養師之儀ハ其儘被仰付、定詰之義ハ御免被成候、但是迄被下置候御扶持方式人扶持以後不被下候事

一安政四巳八月廿二日明道館之儀二付伺之上遠慮、同廿六日御免被成候

一同年十月三日明道館助蒙養師御免被成、御製造方見習被仰付候

一同五年三月十一日御世譜方見習被仰付候

一同六未十二月十三日御近習番被仰付、御書院番組へ被入候

一万延元申十二月廿八日恕平与名替

一文久元酉三月十九日江戸御供詰出立

同二戌五月御供二而帰着、同七月十日病死

岩城乾輔 皆崎徳次郎 寛之助 重九郎 貫之助 実皆崎次右衛門次男

百五拾石

〔士族〕

安政三辰正月廿日衆道之儀二付風儀不宜御移り

一同年五月廿二日横山累年皆勤二付、御持御扇子式本銀七匁被下置候

一同五年三月廿日横山鍊蔵他邦修行被仰付候二付、為致同道指越度旨師役

方内達二付罷越候様御移りを以被仰付候

一同年九月廿九日今般他国修行被仰付太儀二付、銀壹枚被下置候

一万延元申十一月十一日御趣意有之来酉年太田御陣屋御番士御雇詰被仰付、

御扶持方五人扶持被下置候、且又御都合も有之二付詰引揚、十二月十一

日出立

一文久二戌四月廿一日帰着、同三日太田御陣屋詰中長々横浜表江致出張候

二付、御褒詞之上銀式枚被下置候

一文久二戌閏四月二日岩城恕平病中願之通養子二被仰付、家督百五拾石無相違被下置、大御番組江被入候

一同年十一月廿五日來春殿様御上京被遊候二付、為御侍請出立

一同廿九日武芸修行中被下置候銀式枚之儀ハ已後不被下候、但当年ハ被下

置候

一同三亥三月廿五日中午將様御供二而京都方帰着

一同二月廿九日中午將様御附近習被仰付候、於京都

同廿七日今度蒸氣船御出来二付為運用長崎表江罷越候様被仰付、四月三

日出帆、五月十四日帰

一同年五月廿五日御内移有之、寛之介事重九郎与名替

一文久三亥八月朔日表御小姓被仰付、役席之義林藤五郎次へ被入候

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、同二丑十一月朔日帰

一同年十二月貫之介卜名替

一慶応二寅十月廿六日御附御馬廻り被仰付

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰着

一同年十月十八日小隊之分隊長被仰付、御書院番組へ被入候

一同年十一月廿七日貫之介事乾輔卜改

一同四辰正月七日急出立、二ツ屋御警衛、同廿六日帰

一同年二月廿七日支度出来次第京都御警衛詰被仰付、三月二日出立、閏四

月十六日帰

一慶応四辰八月廿九日半小隊長平岡十三郎跡被仰付、役儀二付席末ノ番外

格二被仰付

一明治卜改元、九月廿六日会津口へ戦地為斥候被遣出立、十月十七日帰

一同年十一月六日上京、巳二月七日帰

一 同月廿三日堺町御門当番之節不念之儀有之二付伺之上指扣、同廿五日御免

元禄十丑六月十九日被仰付(マ、)

一 同二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下

岩村門右衛門

一 同三年五月廿四日第二大隊三番半隊長被仰付候事

百五拾石 外百石役料

一 同年十二月八日軍務寮出仕

正徳元卯十一月七日父伝右衛門隠居、家督無相違

但予備半隊長勤向 年給廿壹俵

享保五子七月廿一日大番三番俵筆頭

一 同四未四月七日右解隊被仰出候二付出仕被免候事

同七寅十二月十八日筆頭

一 同月十日常備第二兵隊被入候 年給六俵

同十三申十一月廿九日御供番役料被下、渥美新右衛門跡

一 同年十月十三日解隊

元文元辰十一月七日御長柄奉行小栗八兵衛跡

岩村

岩村七兵衛

百石

岩村佐左衛門

文化十一戊五月十六日父門右衛門隠居家督無相違、大御番入、御留守番入

百五拾石

入

寛政二戊十月十八日札所奉行磯野将吉跡、大御番入

宝曆二申十一月廿二日父門右衛門隠居、家督無相違、大御番入
同四戌閏二月十一日病氣願二付休息

文化四卯四月廿五日御留守物頭前波忠兵衛跡

文化七年八月廿二日御先物頭前波忠兵衛跡、役料百五十石

岩村門右衛門

文化十一戊五月十六日隠居

百石

岩村伝右衛門

百五拾石 外役料百石

宝曆四戌閏二月十一日父佐左衛門病氣二付、願二付休息、跡目幼年二付御定之通扶持方被下、御留守番入

同八寅十月十一日新知御直シ被下、大番入

貞享三御減少之節御暇被下候処、同四卯六月十八日被召出、御先物頭

安永七戌十月十六日与内立合松永郷左衛門跡

天明元丑十二月十六日山奉行岡田喜右衛門跡

岩村他三郎

百石

- 一文政五年十月五日養父七兵衛家督無相違被下置、大御番組江被入
- 一同七申九月十九日御小姓小栗鉄吉跡被仰付
- 一同八酉江戸詰

岩村善十郎 六藏

百石

- 一同年二月廿九日内達之趣有之ニ付、航海術為修行長崎表江罷越候様被仰付候
- 一同年八月十一日帰着
- 一同年閏八月二日病死

- 一同九戌二月廿四日威徳院様御逝去ニ付御小姓御免、大御番組江被入
- 一天保八酉十二月十一日不慎之趣相聞候ニ付遠慮

一弘化二巳十月十六日与内立合野治七郎右衛門跡被仰付

一嘉永四亥二月廿五日与内検地奉行横井三郎右衛門跡被仰付

一同子六月十六日格式末之番外ニ被仰付、役義之義ハ御免被成候

一安政五年九月十九日病死

岩村新六

百石

- 一安政五年十一月十一日親他三郎家督百石無相違被下置、大御番組無役組へ被入候

一万延元申四月二日大御番組へ被入候

一同二酉二月廿四日内達之趣も有之ニ付、長谷部協千本弥三郎青山小三郎

致同道箱館表江罷越候様被仰付、同晦日出立

一文久与改元、七月廿日帰着

一同年十一月六日航海術修業之儀ニ付願之上長崎表江出立

一同二戌正月晦日一旦帰着

- 一文久二戌二月廿九日内達之趣も有之ニ付、英学為修行長崎表江罷越候様被仰付候、三月十六日出立
- 一同九月廿三日兄新六病中願之通養子ニ被仰付、家督百石無相違被下置、大御番組へ被入、御番御供御免被成候

一同三亥正月廿九日長崎へ帰着

一同年三月廿七日今度蒸気船御出来ニ付、為運用長崎表江罷越候様被仰付候、四月三日出帆、五月十四日帰

一元治元子七月四日京都表江出立

一同年十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑十一月二日兼而御法通も有之候処、猥ニ鉄砲持参野先江罷越船中方致放発候段、心得違不調法ニ付閉門被仰付、十二月十七日御免

一同二寅六月九日砲術所世話役被仰付候

一同年十二月廿二日砲術所世話役格別致出精候ニ付、銀拾枚被下置候

一同廿八日善十郎与名替

一同三卯三月十日御上京御供出立、直ニ御警衛詰、七月十九日帰

一同四辰四月三日京都御警衛詰出立、九月十八日帰

一明治下改元、十月廿日兵学所江罷出厚致修行候様被仰付

一 同年十二月廿一日軍事方被仰付、役御番組江被入候
一 同二巳六月十九日六番遊擊隊江被入軍事方之儀ハ被免候事、席石川尚一郎次

飯嶋新左衛門



百石

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一 同三年三月晦日踏級生中修業隊江被入候事、但席松永秀太郎次

一 同年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

元禄十五年六月廿一日養父新左衛門跡知被下
正徳二辰三月十九日師役

一 同四未六月十二日病身願隠居

享保十巳十月廿五日御金奉行榎並佐次右衛門跡

岩村繁介 留吉 善十郎弟 明治三年廿歳

〔士族〕

一 慶応三卯八月十六日衆道之儀ニ付風儀不宜趣相聞、年若之上文武修行之

妨ニも相成候間以來相慎候様、此上心得違之儀有之候得ハ急度可被及御

沙汰ニ候、御番頭へ移りを以御諭

百石
享保二十卯九月十五日養父新左衛門跡知無相違被下、大番入、師役も被仰付

一 明治元辰十二月十六日御備入被仰付、巳八月十四日予備隊卜唱、十一月

宝曆七丑四月廿二日大馬印奉行野村彦左衛門跡

廿八日修業隊卜唱

一 同三年五月廿四日第一大隊六番小隊御雇被仰付、給禄米十俵被下候事、

飯嶋三五左衛門

但年給三俵

百石 役料百五十石

一 同年七月十七日留吉事繁介卜改

明和元申八月廿五日養父新左衛門隠居、家督無相違、大番入、師役

一 同年十二月八日常備二番隊 十式俵高 年給六俵

同七寅閏六月十九日御書院番入

一 同四未六月十二日兄善十郎仍病身願隠居、家督従前之通被下候事

安永五申八月四日若殿様御腰物方有賀六郎右衛門跡

米六拾俵四斗三升六合

同九子八月四日御役御免、格式御長柄奉行席立岩三郎右衛門次

一 同日家督被仰付候処、常備第二小隊従前之通

天明七未四月三日形合被相改万端御省略ニ付末ノ番外被仰付、但於江戸

一 同年十月十三日解隊

寛政元酉六月十一日御先物頭石川忠左衛門跡、御役料百五拾石

飯嶋四郎右衛門

百石

寛政十年二月廿三日親三五左衛門年寄候二付隠居被仰付、家督無相違被

下置、大御番組へ被入、師役被仰付

文化八未閏二月廿五日御書院番入

文政七申七月三日末之番外御時宜役被仰付

文政十二丑三月十九日大馬印奉行一柳新九郎跡

同十三寅閏三月廿九日御使番一柳新九郎跡

同年十一月二日御長柄奉行明石甚左衛門跡被仰付

天保四巳九月廿九日御先物頭高橋吉兵衛跡被仰付候

同十亥正月廿九日隠居

飯嶋三五左衛門 新左衛門事 四郎右衛門事

百石

一天保十亥正月廿九日親四郎右衛門年寄候二付隠居被仰付、家督百石無相

違、大御番組江被入候

一弘化四未江戸詰被仰付、三月十四日出立

一嘉永二酉五月廿五日御書院番組江被入候

一安政二卯七月廿五日当春不慎之儀相聞候二付遠慮被仰付、同八月廿五日

御免被成候

一同四巳四月廿二日数代師役相勤別而近来出精太儀二思召候、依之御目録

銀五枚被下置候

一文久三亥二月十日殿様御上京被遊候二付御供、三月六日御供二而着

一元治元子十二月賊徒一件出張二付、御手当銀六百匁被下

一慶応元丑閏五月廿一日格式末ノ番外被仰付候

一同晦日兼而弓師役一統歎達之趣も有之二付、今度夫々御指図有之候処、

三五左衛門家之儀者御師範家ニも候得者思召も被為在候二付、是迄之通

相心得罷在候様被仰付候

一同三卯十二月廿二日年寄内願二付隠居

飯嶋源橘 三五左衛門倅

百石

文久三亥二月十日殿様御上京被遊候二付御供、三月六日御供二而帰着

一同年十月十三日中将様御供二而上京

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤候二付、銀壹

枚被下置候

一同年十月長征出陣、丑二月三日帰

一慶応二寅三月十一日一番之補兵隊へ附属被仰付候

一同年六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月同断帰

一同三卯九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同年十二月廿二日親三五左衛門年寄内願二付隠居被仰付、家督百石無相

違被下置、第一遊撃隊へ被入候

但家督被下置候処、弓術役之儀ハ御免被成、暮目御用之義ハ是迄

之通被仰付、且数代御師範家相勤候段太儀ニ被思召候、依之銀

五枚之御目ろく被下置候

一同四辰正月八日急々出立

一同年三月四日御附御馬廻被仰付

一同年四月十一日京方帰、五月晦日又々出立、八月八日帰、十月二日上京、
巳二月九日帰

一明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立、八月廿五日帰 年給式俵上
京中六俵

一同年十月四日奥詰被仰付、但年給当分是迄之通

一同年十一月廿五日今般御改革二付、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同年十二月二日東京江出立、午九月朔日帰

一同四未四月五日当分年給十四級式十式俵壹斗八升式合四勺

一同年五月八日御家従被免候事

伊東

伊藤平次左衛門

百石

貞享元子年被召出、御切米被下、其後新知百石被下、次筆頭

伊東平次左衛門

初十之丞 休

百石

享保十四酉六月五日養父平次左衛門休息、跡無相違被下、大番

伊東六郎兵衛

百石

宝曆十四申三月廿二日養父平次左衛門休息、家督無相違、大番入

明和二酉正月廿五日御手廻御書院番入

同五子八月十二日御次詰

安永三年八月六日御供頭役、御近習番是迄之通

同十丑正月十五日御近習番頭取格

同年十二月五日御近習番頭取山口長十郎跡

天明四辰九月廿四日御書院番一番筆頭御膳番堤新三郎跡

同六年十一月十四日役義御免、格式御近習頭取次席、勤向平御近習番之

通

同七年正月十五日御使番大久保助十郎跡、御役料百五拾石

寛政二戌八月十五日御目付助堤新三郎跡

享和二戌九月二日年寄候二付御役御免被成、席其儘御近習二被指置

伊東六郎兵衛 三次郎

百石

文化五辰四月廿九日父六郎兵衛家督無相違、大御番入

文政六未四月三日御預所御金奉行生駒藤兵衛跡、御留守組へ被入

天保三壬辰八月五日御札所奉行横井宗右衛門跡被仰付

天保九戌二月十六日役儀其儘末ノ番外被仰付候

天保十一子五月廿九日御留守物頭福田八郎右衛門跡

天保十四癸卯年十一月四日御先物頭荻野利右衛門跡被仰付、役料百五拾

石被下置候

弘化二巳十一月十六日御時節柄心得違之趣二付遠慮被仰付

伊東權平 安太郎 六郎兵衛

百石

〔士族〕

一弘化四未二月十二日親六郎兵衛隱居、家督無相違、大御番組江被入

一嘉永三戌六月九日表御小姓被仰付

- 一同年八月十九日御近習番被仰付
- 一同六丑年江戸詰、三月御供二而出立
- 一同年九月十八日御書物方被仰付候
- 一安政二卯正月十五日御裏役菅沼平兵衛跡被仰付候
- 一同四巳四月廿五日江戸御供詰出立
- 一同年六月廿日奥御納戸役被仰付候、但当詰中者是迄之通相勤候様被仰付候
- 一同五午七月六日殿様奥御納戸役、中将様御用兼被仰付候、但御次詰之義ハ是迄之通
- 一同年九月廿七日帰着
- 一同六未三月廿日江戸詰出立
- 一同七申三月十五日御供二而帰着
- 一万延与改元、九月十日六郎兵衛与名替
- 一同年十月五日御膳番奥御納戸役兼帯、菅沼平兵衛跡被仰付候
- 一文久二戌九月五日御近習番頭取被仰付候
- 一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、御都合二付居残り
- 一文久三亥五月七日当亥御参府御供被仰付、八月十七日出立、同年十二月江戸方御上京御供
- 一同年十二月廿八日御人馬相残候二付、奥御納戸役兼勤之義ハ御免被成候、子二月御帰国御供
- 一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰
- 一慶応二寅二月五日末之番外御時宜役被仰付
- 一同年十一月三日今度御軍制御変革之御趣意二付、御広間当番勤被仰付候
- 一同月廿九日御趣意二付席其儘、御時宜役之儀ハ御免被成候

- 一同三卯五月廿日小馬印奉行津田源之丞跡被仰付候
- 一同年十二月十五日支度出来次第上京被仰付
- 一明治元辰九月廿五日御使番役被仰付、御役料廿五石被下置、席御使番格二被仰付
- 一同二巳二月十六日今般御改革二付、御役儀御免被成、御広間当番勤被仰付、無程当番御用捨
- 一同年六月廿一日六郎兵衛事権平卜改
- 一同年九月廿九日多年精勤之处御藩制御改革二付、為御慰勞式十五両被下置候
- 一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下
- 一同年十二月九日元長屋借常蔵於長屋会宿不慎二付遠慮伺之上指扣、同十三日被免
- 一 優待列
- 一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱



伊藤助十郎 休息

百石

正徳三巳二月九日父六郎左衛門跡目無相違

寛延二巳九月十五日新知被下

同三年十二月十一日師役

伊藤助十郎 小太郎

百石

宝曆十辰二月廿九日父助十郎休息、家督無相違、大番入、師役

伊藤助十郎

百石

寛政五丑三月十六日養父助十郎跡知無相違、大御番入、流儀之弓師役被

仰付

文化四卯六月五日与内立合大崎七太夫跡

同七年十月五日与内檢地奉行門野九右衛門跡、御留守番入

文政元寅十月二日御留守作事奉行青木七郎右衛門跡被仰付候

文政二卯十月三日郡奉行森田伝右衛門跡、御役料五拾石

文政七申十一月九日御普請奉行平岡六郎兵衛跡、御役料都合百五拾石被

下

伊藤掃部兵衛 実松原弁之助 助十郎

百石

一文政十二丑十一月十六日養父年寄候二付隠居、家督無相違被下置、弓師

役被仰付、大御番組へ被入

一天保七申年江戸詰、四月十六日出立

一嘉永二酉年江戸詰、三月廿日出立

一同五子三月十六日御書院番組へ被入候

一安政元寅十二月廿八日掃部兵衛与改

一安政三辰十月十一日格式末之番外被仰付候

一同四巳四月廿二日数代師役相勤別而近来出精太儀思召候、依之御目録銀

五枚被下置候

一文久元酉三月十五日小馬印奉行榊原仁右衛門跡被仰付候

一同年十二月十六日御使番次席御役料五拾石被下置、役儀之儀ハ御免被成

候

一同二戌十月十八日御役料其儘、御留守物頭岡部半兵衛跡被仰付

一同三亥四月五日養子九郎右衛門逼塞被仰付候二付伺之上指扣、同十日御

免

一元治元子八月廿三日年寄候二付隠居

伊藤イホリ庵 実富田円四郎 九郎人 覚左衛門

百石

〔士族〕

一文久元酉十二月廿三日来戌年芝御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、詰中御扶

持方五人扶持被下置候

一同二戌三月晦日出立

一同三亥正月廿三日芝御陣屋致亡名大坂表江罷出、中将様御着船之御待受

罷出、二月廿二日於京都御国表江御返シ被成相愼罷在候様被仰付候

一同年四月五日御時態を存詰候とハ乍申、御陣屋御警衛詰中当務を不弁強

而及上京候始末不束二付急度も可被仰付処、格別之御憐愍を以逼塞被仰

付候、五月廿五日御免

一同年七月八日上京被仰付相止

一同年八月十日御参府之節為御警衛垂井辺迄御供被仰付候、同月廿日大坂

御泊り方京都江罷越

一元治元子四月廿三日宰相様御供二而帰着

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤候二付、銀壹枚被

下置候

一同年六月廿七日御含有之早速上京被仰付、御扶持方五人フち被下置、同月九日出立、八月廿四日帰着

一同年七月十四日御含御用有之二付振退勤被仰付候

一同年八月廿三日養父掃部兵衛年寄二付隠居被仰付、養子九郎人へ家督百石無相違被下置、大御番組へ被入候、家督被下置候二付、流儀之弓師役被仰付候

一元治元子八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相働候段達御聴、御褒詞

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一同年十二月覺左衛門卜名替

一同二丑四月七日山階宮様御附人被仰付、為失却月々金三両ツ、被下置候

一同月十五日御都合も有之二付右御附人御免被成候

一慶応与改元、閏五月晦日弓術之儀、当節之形勢修行致候向も無之稽古之儀も不立行躰二付、内願之通弓師役御免被成候、但稽古所躰小屋勝手次第取払可申事

一同年八月五日先達而弓師役御免被成候処、従来師役致心配太儀思召、銀三枚被下置候

一同年九月廿二日新撰農兵隊御旗奉行被仰付、役御番組江被入候

一慶応元丑十月五日御含御用有之京坂へ被指出、早速致出立候様被仰付、七日出立

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候、且又戦功二付五百疋被下置候

一同年六月朔日大坂方早駆二而着、同四日折返シ出立、十月十日帰

一同十七日在坂中御練合も有之二付、当分御聞番御用儀も相心得候様被仰付、右御用中月々銀拾枚ツ、被下置候

一同年十月廿六日軍事方被仰付候

一同三卯九月廿九日御軍事局調役被仰付候

一同四辰二月廿七日当春京都御警衛詰被仰付、三月五日出立、九月廿一日帰

一同年六月二日出精相勤候二付年々銀拾枚ツ、被下置候

一明治ト改元、十月廿日御勘定元締役見習被仰付、役儀二付席末ノ番外格二被成下、役中年年銀廿枚之当りを以被下置、奥州会津表江早速出張被仰付

但是迄年々被下置候銀拾枚之儀ハ已後不被下候

一同二巳二月十五日司計局承事試補被仰付、月給米廿俵、是迄被下候銀以後不被下候

同日庶務方造営方之儀、専務二取扱候様被仰付

一同年六月廿日覺左衛門事庵ト改

一同年十月二日東京詰早速出立、川崎平三郎ト致交代候様被仰付、同六日出立

一同年十一月朔日今般御改革二付、役儀被免御広間当番勤被仰付候事

但交代迄ハ是迄之通可相心得候事

一席高村新造次

一同月四日御金方被仰付候事

但席中村唯七郎次

一月給米一年分八俵被下候事

一同日東京詰更ニ被仰付、詰中出納方兼被仰付候事

一同月廿一日司計局小属被仰付候事

一同年十一月廿三日詰中監察飯并御邸内諸事取扱兼相心得候様被仰付候事

一同年同月廿五日今般御改革二付、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一同年十二月十三日監察寮飯被仰付置候処被免候事

但御邸内諸事取扱之儀ハ是迄之通可相心得之事

一同三年二月七日民政寮少属被仰付候事

但詰中勤方従前之通可相心得之事

一同年九月十日来未春迄詰延被仰付候事、未正月廿日從東京帰

一同年十二月十二日権少属心得勤 年給十九俵

但民政寮出仕

一同月五日於東京不念之儀二付謹慎、同十九日被免

一同四未二月十三日職務被免、非役江被入候事

但東京詰中出精二付金五千疋被下候事

一同年十一月二日第三区戸長申付候事

一同五申正月廿七日右同断

一同年七月十九日右同断

伊藤²

伊藤竜州 宜齋

五拾人扶持

宝永四亥七月五日宗恕為次男被召出、別二御扶持被下大番組之処

同六丑七月廿九日伊藤平庵依願養子被仰付、平庵跡御扶持無相違被下

寛延二巳二月廿一日勤御免、跡惣次へ被仰付

伊藤惣治 病死

五拾人扶持

元文三年八月十五日被召出、御擬作並之通被下、御書院番入

寛保元酉四月十九日奥役

寛延二巳二月廿一日父竜州家督無相違被下、奥役其儘席知行取次、惣治

御擬作ハ弟文洲へ家督被下

同四未十月十一日末番外小寺次左衛門次

明和四亥閏九月廿八日御留守物頭順席井原丞助次

伊藤栄吉郎 文四郎

五拾人 外五人

明和九辰六月五日養父惣治跡目無相違、儒者、大番入

安永五申十一月五日於江戸御書院番入

同九子四月二日御近習番格

天明六年閏十月十六日末番外、前々京都御留守居取扱候御用向当分兼帯、

為失却五人扶持被下

寛政五丑九月十六日京都御留守居御免、五人扶持不被下

伊藤松三郎 休息

五拾人

寛政八辰七月廿五日父栄吉郎跡目無相違、大御番入、儒者

伊藤雄之進

五拾人扶持

寛政十二申十月廿日伊藤松三郎儀病身ニ付家業之修行不任存、依之休息被仰付、為相統家督無相違被下置、大御番江被入、御儒者被仰付候
文化九申七月十一日御書院番入
文政五年十一月廿日末ノ番外

伊藤登美三郎

五拾人扶持

天保二卯年四月廿九日親雄之進跡目無相違被下置、大御番組へ被入、家業之義厚致出精候様被仰付
嘉永二酉二月病死

伊藤友四郎 輔

〔士族〕

五拾人扶持

一 嘉永二酉四月五日兄登美三郎病中願之通養子被仰付、家督五十人ふち無相違被下置、無役御留守番組へ被入、御趣意ニ付家内とも御国引越被仰付、且又辻十郎右衛門家屋敷被下置、御儒者之儀者不被仰付候
一同五子六月十七日中村庄左衛門家屋敷へ替被下
一 安政二卯年四月三日学問所定詰被仰付候
一同年五月廿九日右ニ付講究師兼句読師被仰付候
一同三辰四月廿一日兼而文学心懸宜且明道館御端立ニ付、役懸り被仰付候
一 出精ニ付美濃紙壹束御袴地一被下置候
一同年九月十六日大御番組へ被入候、且又御番御供御免被成候事
一同年十月十七日野治小兵衛家屋敷江替被下候

一同四巳七月十一日明道館助幹事被仰付候

一同年九月廿三日家屋敷鷹冷場御用地被下置、建物之儀ハ取調之上建被下候間、猶委細之儀ハ御奉行御目付共へ申談候様被仰付候

一同五年十二月五日助訓導師被仰付、但明道館并外塾諸御用向之儀取扱可申旨

一同六未十一月十六日明道館訓導師被仰付、御趣意厚相心得候様被仰付候

一文久二戌十一月五日來春殿様御上京被遊候ニ付、右為御用支度出来次第京都江罷越候様被仰付、十五日出立

一同三亥詰越

一同年十月七日先達而京都表不容易形勢之处、致心配候段御褒詞之上御袴地被下置候

一同月十二日京都御聞番役被仰付格式末ノ番外ニ被成下、御役料五十石被下置家内も引越被仰付候、家内之儀ハ子五月十四日引越

一同年十一月十六日於京都表御内用取扱被仰付候

一同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張ニ付、朝廷方為御褒美五百疋被下置候

一元治元子二月廿二日昨年来不埒之趣相聞不調法之事ニ候、依之遠慮被仰付

一同廿六日御用向御指支之儀も有之ニ付致出勤候様、尤御用之外ハ是迄之通相慎罷在候様被仰付、三月廿三日御免

一同年四月四日御内用取扱被仰付置失却も有之ニ付、年々金五拾兩ツ、被下置候

一同年五月廿五日昨年来格別御用多相勤御満足思召候、依之御目録御召御上下一具御二所物被下置候

- 一 同年九月九日御使番順席ニ被成下、御役料都合百石被下置候、右ニ付是迄為失却被下候金五拾兩之儀ハ以後不被下候事
- 一 元治元子十月十四日此表不容易御時態ニ有之候処格別致心配候ニ付、銀式枚被下置候
- 一 慶応元丑閏五月五日役中御扶持方拾七人半扶持被成下、外ニ失却金五拾兩々々被下置候
- 一 同年九月十三日御用向有之御国表へ早速罷越候様被仰付、同十五日御国江罷越其後帰京
- 一 同二寅二月廿五日京都方御国表へ罷越、三月廿一日帰京
- 一 同年三月十七日此度願之上立帰罷越候処、御含御用之儀も有之ニ付、為失却金七兩被下置候
- 一 同年四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千弍百疋被下置候
- 一 同年十二月廿日格別御用多相勤候ニ付失却金弍拾兩御増、都合七拾兩ツ、年々被下置候
- 一 同三卯十一月廿四日出精相勤候ニ付席上ケ被仰付候、但松原十郎次
- 一 同年十二月七日御勤役之儀も兼帯被仰付候
- 一 同四辰二月五日日本多修理方御内用有之出府ニ付同道罷越候様被仰付、同七日中早出立、十六日江戸着、廿二日折返シ出立、同廿八日早驅ニ而帰京
- 一 同年閏四月七日御聞番役其儘御勤役頭取被仰付、物頭嫡席ニ被成下、御用人勤向之儀も相心得、且御右筆部屋向御用之儀引受取扱候様被仰付
- 但失却金御増、都合百兩ツ、年々被下置候
- 一 九月九日御勤役之御役名公務方ト御改、御役御聞番役公用人と被仰付
- 一 明治ト改元、九月廿二日年々百兩ツ、失却被下候処、今般惣与内割替御
- 手当相増候ニ付已後不被下候
- 一 同年十月十九日今般幸姫様御引移御用調中御番御供御用捨被成下候
- 一 同二巳二月十二日今般御東幸中納言様供奉被遊候ニ付、御供被仰付西京方東京江
- 一 同月廿二日昨冬御前様御引移、已来彼是御用多相勤ニ付御慰勞金三十円被下候事
- 一 同月廿四日御当職当分行事御用取扱被仰付候事
- 一 同年二月 月給米七拾俵 御役料ハ已後不被下候
- 一 同年四月十一日公務局幹事被仰付候
- 一 公務局幹事明道館幹事可為上席候
- 一 同年五月十六日今般民政部官知事被仰出ニ付、同官方御用向トシテ罷出、或拜謁願応接ヲ始総而御用取扱可申事
- 一 同年十月八日東京江家内引越被仰出
- 一 同月廿三日御家扶被仰出候事
- 但同日公務之儀是迄之通相心得候様被仰出候事
- 一 同年十一月十六日今般御家扶江被仰出候ニ付、追而御規則相立候迄之処香西成同様之御取扱ニ被仰付候事
- 一 同月廿五日今般御改革、更ニ給禄米百弍拾六俵弍斗五升被下
- 一 同年十二月廿八日家族引越被仰付候ニ付、已後月俸弍十三口被下候事
- 一 同三午正月廿九日外接御用繁ニ付年々百五拾金ツ、被下候事
- 一 同年五月七日丁卯之冬、已来御多端之折柄日夜奔走尽力、仍慰其勤勞御賞典之内永世五十石修身弍十石都合七十石令頒授候事
- 一 同年六月廿八日御藩邸御人少ニ付公務之儀厚申談候様被仰付候事
- 但為失却金百兩被下候事

一同三午十二月四日不正之証書二不心付致調印候儀不念二付、謹慎被仰付候事

一同四未四月五日当分年給 九級 年給百拾三俵式斗七升三合六勺

一同五申八月晦日御書下ケニ而免職

一同日家扶申付候事、月給四拾兩

伊藤³

伊藤織右衛門

廿人扶持

元文三年七月廿九日養父惣八家督無相違被下、御馬方、大番入被仰付

伊藤惣八

廿人扶持

宝永六丑九月十三日御取立

享保七寅相身体末被仰付

享保十一午正月廿六日御馬方御免

伊藤惣八 休息

拾五人扶持

延享四卯十一月廿一日養父織右衛門跡目廿人扶持被下、大番入、御馬方

宝曆三酉四月五日御咎二仍而十人扶持御取上、十人扶持被下、新番組へ

被入

明和元申十月十六日家芸出精二付大番入

明和三戌九月十六日五人扶持御加増被成下
天明八申十一月十一日御定之年数相満候二付順席

伊藤宗八

十五人

寛政元酉三月廿九日父宗八休息、家督無相違、大番入、御馬方

文化元子八月九日御厩别当、御書院番入

文化十酉七月於江戸病死

伊藤利藤太 喜三郎

拾七人扶持

文化十酉八月廿九日於江戸表父惣八跡目無相違、大御番入、御馬方

天保三壬辰五月廿五日御厩别当役町田後藤次跡

天保十四卯十二月十六日式人扶持御加増

嘉永三戌九月十六日大酒之上不心得之趣二付御暇被下

伊藤甚藏

拾五石三人

一嘉永三戌九月十六日同苗利藤太御暇被下候候処、其方儀是迄家業之御用

向も見習候二付、格別之御憐愍を以新御番組へ被召出、御充行拾五石三

人扶持被下置、御馬方被仰付、遠慮被仰付

一同五子年江戸詰、同六丑四月十九日帰着

一安政二卯十二月廿三日病死

一同三辰^(マ、)

伊藤乙之助 音之助 実甚蔵養弟 故利藤太実子
拾五石三人

一安政三辰二月十三日養父甚蔵家督拾五石三人扶持無相違被下置、新番組
へ被人、御馬方被仰付候

一同年十一月廿七日御含有之来巳年江戸表へ被遣、右詰中御扶持方三人扶
持被下置候

一同四巳五月十三日詰中用方之馬術厚穿鑿致修行、砲術之儀も心掛ケ候様
被仰付候

一同五年十一月六日安西安太郎靈岸島江振退勤被仰付候間、詰中右跡御雇
被仰付御扶持方三人扶持被下置候

一万延元申八月廿九日心得違之趣相聞遠慮、九月四日恐悦之折柄二付御免
一文久元酉四月廿日帰着

一元治元子四月廿五日江戸詰出立、丑四月十七日帰
一慶応二寅八月廿日去月廿二日夜於途中吉池南兵衛与不図及取合候節、酒
狂下ハ乍申心得方も可有之処無其儀同人江切付手疵為負候始末、不法至

極之趣相聞不調法之事二候、依之急度も可被仰付候処御憐愍を以蟄居被
仰付候、急度相慎可罷在候、跡目之儀ハ拾五石三人ふち被下置御徒被仰
付候間、親類共申談相願可申候旨被仰付

但此以後御侍以下御記録江書載候

拾八石三人

享保八卯十一月十六日御取立新番二被仰付、此節三石御加増、勝姫様御
附被仰付、其後浅草御屋敷奉行

同十巳十一月七日御役御免、表御番仕候様被仰付

伊藤文左衛門

拾八石三人

享保十三申九月廿一日親喜右衛門休息、為家督無相違被下候、新番入、
是迄自分御徒相勤

伊藤周右衛門 休息 同卅四年

拾八石三人

享保十六亥四月廿一日養父文左衛門跡目被下、新番入

宝曆十一巳十月廿九日御定之年数一年不足候へ共、御了簡を以大番入被
仰付

明和五子七月廿三日御土蔵番、御留守番入

伊藤喜右衛門

拾八石三人

明和九辰九月廿四日養父周右衛門休息、家督無相違、大番入

天明六年十一月十一日御定之年数相満候二付相身躰末

伊藤

4

伊藤喜右衛門

伊藤鉄三郎 病死

拾八石三人

寛政七卯十二月十一日父喜右衛門休息、家督無相違、大番組へ被入候、相身体末

伊藤安右衛門 安次郎

拾八石三人

享和元酉六月廿九日養父鉄三郎跡目無相違被下、大御番入

文化七年八月廿九日御定之年数相満候ニ付順席

文政八酉二月廿九日御勘定吟味役被仰付

同十年亥九月廿五日御台所頭

文政十三寅十月十六日御旗本御武具奉行服部弥右衛門跡

天保八酉ノ三月十九日病死

伊藤三弥太

七人扶持

天保八酉五月廿五日親安右衛門病死、無間も兄安三郎令病死家及断絶候

処、格別之御憐愍を以嫡子ニ被仰付、為跡目御扶持方七人扶持被下置、

無役御留守番組へ被入

同十一子八月五日休息

伊藤啓次郎 実三弥太弟

七人扶持

〔士族〕

一天保十一子八月五日養父三弥太未夕年若之処家督無間茂内願、病身とハ

乍申兼而心得方不宜趣相聞候得共、御憐愍を以内願之通休息被仰付、家

督御扶持方七人扶持被下置、新御番組へ被入

一同年同月 遠慮伺之上差扣被仰付、同九日御免

一嘉永五子二月十一日御忌日之処日限繰違川狩罷出於途中心付、遠慮伺之

上指扣、同十五日御免

一文久三亥十月十三日中将様御供ニ而上京、子四月廿三日同断帰

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ思召候、依

之御酒被下置候

一同年十月十六日長征出立、丑二月二日帰、子八月廿日御軍事之節鏞鼓役

被仰付

一慶応二寅正月十六日小普請方戸田弥太郎跡被仰付候

一同年十月廿二日役新番組ニ被仰付候

一同三卯七月廿六日今度於御座所御建継御普請被仰出候ニ付、御用掛り被

仰付

一同四辰五月十一日今般御趣意ニ付役中御留守番組江被入候

一明治二巳四月廿日今般御改革ニ付、役儀被免御広間当番勤被仰付

一同年九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革ニ付、為御慰勞金三十五兩被

下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米式拾六俵式斗七升四合被下

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱



伊藤作右衛門 御暇

式拾五石

享保四亥十二月五日小役人方御取立新番入被仰付、御勝手請込役相勤長
岡六右衛門跡

同十一月七月廿一日御留守番入

同十六亥五月十六日式石老人扶持御加増、御所務方請込

同十八丑六月廿一日御切米式石御加増被下

寛保二戌六月十六日御暇、父子共坂上清蔵方二塾居被仰付、後倅七郎兵衛御徒被召出

衛御徒被召出

伊藤七郎兵衛 百次郎

拾八石三人

明和二酉二月廿九日御徒目付方御取立、御留守番入、郡方役所目付并御

預所目付兼中山拾兵衛跡

明和四亥正月十六日御留守武具奉行平井三左衛門跡

安永六酉三月十六日御代官原田惣太夫跡

天明八申七月廿九日役義御免、大番入

寛政二戌九月廿日御定之年数相満候二付相身躰末

伊藤十左衛門 病死

拾八石三人

寛政六寅五月廿五日父七郎兵衛跡目無相違被下置、大番組へ被入候

伊藤与一郎

拾八石三人

享和二戌年十月廿日養父十左衛門家督無相違被下置、大御番入

文政卯年七月病死

伊藤武兵衛 孫之丞事

式拾石三人

一文政二卯八月廿五日兄与一郎病中養子願之通被仰付、家督拾八石三人扶

持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一同七申閏八月廿三日大御番組へ被入

一天保十亥十二月四日御定之年数相満候二付順席被仰付

一嘉永元申八月十一日御掃除奉行桜井定右衛門跡被仰付

一同二酉正月十六日上水奉行高木庄右衛門跡被仰付

一同三戌十月廿日御勘定吟味役川地権内跡被仰付

一同四亥六月廿九日上水奉行小野太郎太夫跡被仰付、大御番組被入

一同五子四月三日往還道奉行被仰付、御留守番組へ被入

一安政六未二月五日道奉行数賀山彦右衛門跡被仰付候

一同月十一日先役中道普請格別行届相勤候二付、金式百疋被下置候

一万延二酉三月五日御代官役被仰付、御留守番組へ被入候

一文久与改元、十二月十六日年来出精相勤候二付御充行式石御加増、都合

廿石三人扶持二被成下候

一元治元子十一月十三日病身内願之通休息、且又先役以来格別精勤之訳合

も有之二付、銀三枚被下置候

伊藤七郎平 鍋太郎

式拾石三人

安政五年二月十六日物産学心掛候様被仰付候

〔士族〕

- 一 同年八月五日御製造方御雇被仰付候
- 一文久四子二月八日砲術所世話役被仰付候二付、製造方御雇之儀ハ御免被成候
- 一元治元子二月廿三日支度出来次第上京被仰付、滞京中五人ふち被下置、三月四日出立、四月十七日帰着
- 一 同年五月九日芝御陣屋未夕御引渡無之二付、右引渡相濟候迄同所詰被仰付、詰中御扶持方五人扶持被下置、支度出来次第早速致出立候様被仰付、廿八日出立
- 一元治元子六月廿五日当春宰相様御職被為蒙候二付早速上京、取調等致心配候段太儀二思召候、此段申渡候様被仰出候
- 一 同年九月十三日御陣屋方帰着
- 一 同年十一月十三日親武兵衛病身二付内願之通休息被仰付、家督廿石三人扶持無相違被下置、大御番組へ被入候、且又砲術所世話役之儀ハ是迄之通被仰付候
- 一 同年十二月賊徒一件出張、御手当三百疋被下置候
- 一 慶応元丑四月廿八日上京、翌寅四月十七日帰
- 一 同二寅六月五日在京中不埒之趣相聞不調法之事二候、依之遠慮被仰付、同廿四日御免
- 一 同年十一月三日大砲方被仰付、役御番組江被入、支度出来次第京都詰被仰付、十三日出立、卯三月廿一日帰
- 一 同三卯六月廿日大砲奉行被仰付、大砲支配申談候様被仰付
- 一 同年十一月 伺之上指扣、二十四日御免
- 一 同年十二月廿八日鍋太郎事七郎平卜改
- 一 同四辰閏四月十六日大砲方被仰付、製造局へ附属被仰付候

- 一 明治二巳二月十七日砲長被仰付 月給十俵 同十八日大砲铸造掛被仰付
- 一 同月廿二日奥羽越御人数出張中格別勤勞二付金貳両被下
- 一 同年三月廿七日大砲铸造掛り被免
- 一 同年十一月廿五日今般御改革二付、更給禄米四拾貳俵六升被下
- 一 同廿七日軍務寮権小属被仰付候事
- 一 同三年十月九日今度铸造二相成候大砲之内一門製式不参届二付、伺之通謹慎、同十九日被免
- 一 同年十二月十二日権小属心得勤 年給十九俵
- 但軍務寮出仕 製作場大砲器械彈藥硝石樂器
- 一 明治四未六月朔日今般御改正二付免職
- 一 同五申二月三日足羽県下第一区戸長
- 一 同十日依願戸長被免候事

伊藤⁶

但御取立以前御記録不用綴二有之

※君屋槌之助の後にあり

伊藤清八郎

拾八石三人

- 一 弘化元辰十二月十六日新番格二御取立被成下候
- 一 嘉永二酉江戸詰、閏四月廿四日出立
- 一 同年十二月十五日御前様御引移御用掛り出精相勤候二付、桐御紋御上下沓被下置候
- 一 同三戌正月十六日新御番組へ被入候
- 一 同年 御家譜方御右筆認手伝被仰付、御帳附勤方之儀者御免被成候
- 一 同四亥三月十七日御世譜書繼御用出精相勤太儀二思召候、依之御目錄金

百疋被下置候

一安政四巳四月廿一日御世譜方御右筆見習被仰付候

一同六未三月廿日年来出精相勤候二付、役儀其儘大御番へ被入候

一文久二戊四月十一日出精相勤候二付、御足御充行三石被下置候

一元治元子二月廿九日出精相勤候二付御足充行三石御加増、都合拾八石三人扶持二被成下候

伊藤喜代平 新八郎 条右衛門

〔士族〕

拾八石三人

一文久二戊十月六日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候

一元治元子二月廿三日支度出来次第上京被仰付、滞京中五人ふち被下置三月五日出立、四月朔日親対面願之上帰着

一同年五月廿七日親清八郎家督拾八石三人扶持無相違被下置、大御番組へ被入候

一同年六月廿五日当春宰相様御職被為蒙候二付、早速上京取調等致心配候段太儀二思召候、依之御褒詞

一同年七月四日京都表へ出立、八月廿三日帰着

一同年十月十六日長征出陣、丑正月廿九日帰

一慶応元丑五月廿八日大砲方御免被成候

一同年八月五日御堀致殺生移りを以御叱被成候、但過料銀三拾匁

但右二付遠慮伺之上指扣、同八日方御免

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方配当金千疋被下置候

一同年十二月条右衛門与名替

一同三卯三月十日御上京御供出立、直二御警衛詰、七月十九日帰

一同四辰四月三日京都御警衛詰出立、閏四月十二日帰

一同年五月十六日御趣意二付他番江被入候

一同年八月廿九日彈藥預り小銃取扱方兼被仰付、役御番組江被入、二番大隊之四番小隊江附属被仰付

一明治卜改元、十二月廿一日其隊之器械并彈藥差配方江被仰付、製造局江附属被仰付候

但大隊江附属之儀ハ是迄之通相心得可申事

一同年十一月朔日若松表江出立、巳三月四日帰

一同二巳六月廿八日階級打調方被仰付候事

一同年十一月廿五日今般御改革二付、更給禄米三拾九俵四斗三合被下、予備隊

一同三年二月五日宿浦安嶋浦辺御用地之内江土着開墾仕度、就而八右地所之内二而五千坪御渡被下候様願之上被仰付候事、但三月廿六日方家内引纏引移

但地所之儀ハ民政寮江可申談事

一同年閏十月廿五日予備隊名目被廢非役卜唱

一同五申十月廿五日病身二付隠居

伊藤外八郎 実取持松田久次男

〔士族〕

一米拾八石壹斗八升七合

石川¹

石川忠右衛門

百廿五石

正保元申七月親甚左衛門拜知百石被下置

万治三子二月御加増百石

寛文六十二月御加増五拾石、都合貳百五拾石被成下

貞享三一統半知

宝永六丑十一月廿六日御番組二候得共、隆芳院様御代方相勤訳合有之隠居被仰付候事

石川八左衛門

百廿五石

宝永六丑十一月廿六日父忠右衛門家督無相違被下

石川忠右衛門

百廿五石

正徳元卯十一月五日養父忠右衛門跡知無相違被下

石川八左衛門

廿五石五人

初金太夫 病死

享保七寅六月十一日養父忠右衛門跡、幼年二付十二人半扶持被下、御留

守番

同十三申五月大番

同十五戌十一月廿一日表御小姓御切米御直シ被下
元文二巳四月十五日表御小姓御免、大番入

石川平十郎 隠

百石

宝曆十二年十二月廿二日父八左衛門跡目無相違、大番入

明和元申九月十六日表御小姓

安永五申八月十四日新知百石表御小姓筆頭役被仰付

寛政二戌七月七日末ノ番外勤方は迄之通

同五丑正月廿五日家内不締り二付、表御小姓御免被成、大御番組へ被入、遠慮

同七卯二月十五日御裏役河合八郎左衛門跡、御書院番入

同八辰三月十一日奥御納戸役坂部十右衛門跡

同八辰四月晦日御金掛リ

同十年二月廿三日格式末ノ番外二被仰付表御小姓筆頭帰役被仰付、最前之席へ被入候

同十三酉二月二日御使番格御時宜役

文化三寅六月五日隠居

石川平八

百石

文化三寅六月五日父平十郎隠居、家督無相違、大御番入

同六月十日御小姓

同七年十二月三日御小姓御免、大御番入

一同十四二月廿九日与内立合高坂金石衛門跡

同十四丑六月廿日山奉行粕谷彦太夫跡、御留守番入

文政六未三月四日郡奉行今立五郎太夫跡、御役料五拾石被下置

文政十一子三月十六日領替、上領支配被仰付

一同年六月廿六日病死

石川彌 定之助

百石

石川瀨左衛門 瀨六

百石

一弘化三年五月廿二日親平八家督無相違被下置、大御番組江被入

一嘉永四亥二月十三日佐野雄藏家屋敷へ替被下

一同六丑七月廿日今度思召を以支度出来次第江戸表へ罷出、砲術訓練致修行候様被仰付、御扶持方三人フチ被下置、同廿七日出立、同七寅四月十九日帰着

一同七寅三月廿三日御殿山へ出張二付、御下緒耆掛ケ被下置候

一安政元寅十二月廿八日瀨左衛門与改

一万延元申五月廿五日与内檢地奉行毛利又右衛門跡、御留守番組へ被入候
一文久二戌八月廿五日津田源之丞芝御陣屋詰留守中、砲術所肝煎始頭取申談相勤候義、引立方厚致心配候様被仰付候

一元治元子二月廿九日御書院番組へ被入、役義之儀ハ御免被成候

一同年九月廿五日津田源之丞上京留守中、稽古所引受致世話候様被仰付候

一同年十二月賊徒一件出張二付、御手当銀六百匁被下

一慶応元丑五月廿八日倅弼縁組願不調法之有之二付伺之上遠慮、閏五月六日御免

一同年閏五月廿日倅弼義不行状之趣不調法二付遠慮被仰付、急度為相慎可指置旨、右二付瀨左衛門遠慮伺之上指扣、廿七日御免

安政六未六月十四日横浜御警衛二付御雇詰支度出来次第出立被仰付、詰中三人扶持被下置候、翌申四月十九日帰

一万延元申七月十一日右御雇詰被仰付候二付銀式枚被下置、且又詰中臨時横浜出張二付御褒詞

一文久二戌二月廿九日内達之趣も有之二付、航海術為修行長崎表江罷越候様被仰付候、三月十六日出立、同年六月晦日帰着

一同年十一月十日農兵教授手伝被仰付候
一同年十二月十四日中将様御上京御供御用二付江戸出立之处、御都合二付途中方京都へ

一同三亥三月廿五日右御供二而京都方帰着

一同廿七日今度蒸気船御出来二付為運用長崎表江罷越候様被仰付、四月三日出帆、六月十一日帰

一同年四月二日農兵教授手伝御免被成候
一同年八月五日運用方被仰付長崎表江出立、九月八日帰

一同年十月七日兵庫表江罷越、勝麟太郎殿へ相手寄航海術致修行候様被仰付候、同月十三日出立

一同年十二月十日黒竜丸御船二乗組兵庫表出帆、同十二日夕江戸表江着船、同月廿三日公刃蒸気船江乗組京都表へ出帆

一同四子正月十三日立帰御用二而帰着、同廿一日折返し出立
一同年三月廿九日、一昨戌十二月江戸表江罷出、中将様御供二而京都表江

可罷越筈二而此表致出立候処、俄御船行相成候二付途中方京都へ罷出、夫方大坂江為御迎罷越御供二而京都江到着之処、失却も有之趣二付金壹兩被下置候

一元治元子六月廿五日宰相様御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、依之銀壹枚被下置候

一同年十一月他国方征長出陣、丑二月四日帰

一同十月廿二日於大坂補兵隊へ被入候

一同年十二月彌卜名替

一慶応元丑閏五月廿日不行状二付遠慮被仰付、六月十日御免

一同日航海術修行御免被成候

一同年八月十六日親瀬左衛門家督百石無相違被下置、大御番組江被入候

一同年十一月廿九日大坂表江出張、夫方神戸江、寅九月十五日帰

一慶応三卯四月五日病身二付銃隊勤致兼候旨内達も有之二付、快気迄御留守番組江被入置、御広間当番勤被仰付

一同四辰閏四月十九日心得違之儀有之二付遠慮、五月十日御免

一同年五月十一日今般御趣意二付無役組二被仰付

一同年七月廿六日大砲隊被仰付、役御番組江被入候

一同治卜改元、十月廿二日大砲隊御免被成、御留守番組へ被入、御広間当番勤被仰付

一同二巳十月五日今度篆刻指上候二付、金五百疋被下候事

一同月廿日正二位様御手許記録方被仰付候事、但席国枝太平次

一月給米一年分四俵被下候事

一同日支度出来次第東京詰被仰付候事、十一月朔日出立

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗二升六合被下

一同三午五月十日帰藩被仰付候二付勝手次第出立可致候事、六月二日帰着

一同年八月三日御家從被免修業列へ被入候事

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役卜唱

一同四未十二月十五日病身願隠居

石川輔一 長次 彌弟 明治三年廿貳歳

〔士族〕

一慶応元丑十一月廿九日大坂表江出張、夫方神戸江、寅九月十五日帰

一同三卯二月廿一日一番之補兵隊江被入候

一同年九月廿七日御趣意二付右御免被成候

一辰八月御備入被仰付

一同四辰九月六日補兵隊二而会征出立、巳二月六日帰、同廿二日出張二付

御手当五兩被下候

一同治卜改元、十月廿九日長次事輔一卜改

一同三午五月廿四日第一大隊六番小隊御雇被仰付、給禄米十俵被下候事、

但年給三俵

一同年十二月八日常備三番隊 十式俵高 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

一同年十二月十五日兄彌病身二付家督

一米六拾俵四斗三升六合



石川甚左衛門

百五拾石 外役料百石

御先代式百石

貞享三年一統半知

宝永四亥八月十三日五拾石御加増、御持筒頭被仰付

正徳四年四月御側物頭御免

石川弥五右衛門

百五拾石

享保二酉六月十九日父甚左衛門隠居、家督無相違

寛保二戌九月十六日休息

石川忠左衛門 隠居

百石 役料百五拾石

寛保二戌九月十六日父弥五右衛門休息、家督之内五拾石被減、如此被下

大番

宝曆六子十月十六日与内立合役堀武左衛門跡

明和五子七月三日郡奉行八田金右衛門跡、役料五十石

同年十一月十四日御留守物頭井原丞助跡

安永八亥七月廿五日御先物頭小栗八郎兵衛跡、役料百五拾石被下

石川甚左衛門

百石

寛政元酉六月十一日養父忠左衛門隠居、家督無相違被下、大御番入

同十年七月廿九日御広式御用達御留守番入

同十年十一月十一日表御小性

同十一未八月五日御近習番御書院番入

同九月十八日御用人支配

同十二申二月廿九日中将様御附御不用二付大番入

享和二戌年二月三日於江戸表御金奉行金子六右衛門跡被仰付、直二亥ノ

秋迄詰越被仰付

同三月十九日立帰御用二而罷越

文化五辰閏六月五日御勘定拝借奉行金子六右衛門跡、御留守番入

同七年六月十日病身二付休息

文政十二丑四月廿日去ル十四日京町出火之節、中仕切御門通行之義二付

伺遠慮

文政十二己丑八月十三日御先武頭築左衛門跡被仰付、御役料都合百五拾

石被下置

文政十三庚寅六月二日御番割心得違二而伺之上遠慮被仰付、同三日加賀

口役屋敷榊原助左衛門跡へ被遣、助左衛門組中御預被成

天保八酉十月廿九日御普請奉行粕谷彦太夫跡被仰付候

天保十二丑九月五日坂井権左衛門家屋敷へ替被下候

同十四卯七月朔日御側物頭中村市右衛門跡被仰付候

弘化二己二月十九日御泉水預り

石川弥五太夫 甚之助事

百石

一文政七年六月十日父甚左衛門病身二付休息、家督百石無相違被下置、大

御番組へ被入

一文政七申正月廿九日御腰物数寄方奉行若殿様御用兼帯河崎三郎助跡被仰

付、御書院番組へ被入

一同十三寅八月廿八日若殿様御腰物数寄方奉行御用兼被仰付

一天保五年九月廿七日役義其儘格式末之番外被仰付候

一同六未江戸詰被仰付、八月廿日出生

一同年十一月七日今般御家督無御滞被為濟、右御用掛り出精二付御帶壹筋被下之

一同十二丑九月五日御使番役坂井権左衛門跡被仰付、御役料百五拾石被下置候

一弘化四未二月十二日御先物頭伊東六郎兵衛跡被仰付候

一嘉永四亥七月五日年寄候二付隠居被仰付

石川尚一郎 猪太郎 欽哉
百石

〔士族〕

一嘉永四亥七月五日親弥五太夫年寄候二付隠居被仰付、家督百石無相違被

下置、無役御留守番組江被入

一同六未八月廿五日大御番組へ被入候

一文久元酉八月廿三日江戸詰出生、戌九月十八日帰着

一同二戌十二月廿八日欽哉与名替

一同三亥正月十六日農兵教授手伝被仰付候

一同年二月八日年始御規式中表御小姓御雇精勤二付、金百疋被下置候

一同年六月長崎表へ出帆、九月八日帰

一同年十月七日兵庫表江罷越、勝麟太郎殿へ相手寄航海術致修行候様被仰

付、十月十三日出生

一同年十二月十日黒竜丸御船二乗組兵庫表出帆、同十二日夕江戸表江着船、

同月廿三日公邊蒸気船江乗組京都表へ出帆

一元治元子

一 六月三日撰州兵庫へ出生

一同年十月廿二日航海術其儘補兵隊江被入候、長征御供、丑二月五日帰

一同年十二月尚一郎卜名替

一慶応元丑閏五月廿日航海術修行被仰付、六月十日江戸表江出生

一同二寅十一月三日他国修行中御留守番組江被入候

一同三卯七月三日江戸表方帰

一同年八月廿九日航海術取調方被仰付、役御番組江被入候

一同年十二月廿二日大砲方被仰付

一同四辰正月十日急々出張

一同年三月廿五日支度出来次第京都御警衛詰被仰付、四月七日出生、六月

六日御都合二付御国表江御返シ被成候、同十一日帰

一同年八月八日会征二付越後表江出生、夫方東京江

一明治二巳二月廿七日大砲分隊長被免、遊撃隊江被入

一同月晦日兵庫軍務官方至急御用有之、急速出頭有之候様御達有之二付、

東京方直二出頭致候処、海軍御用掛り被仰付

一同月昨秋会征出張二付六両式歩被下候

一同月 富士艦乗組被仰付

一同年四月 富士艦副將代被仰付

一同年七月 富士艦副將被仰付

一同年九月 千代田形船長代被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下候

一同三年三月 以本官武庫司出仕被仰付

一 同年四月廿五日戊辰北越出張軍事精勵二付、御賞典之内金貳拾兩被下候事

一 同四未三月廿二日東京ヨリ帰着之處、四月十日亦々東京江飛脚御用相勤出立

一 同年五月十日任武庫司大佑

一 同年八月十四日免本官、更ニ武庫司大令史



石川市郎左衛門 葎猪太郎

拾八石四人

享和三亥十二月廿日小役人格御広式添役方新番組へ御取立、役其儘

文化六巳八月廿九日役儀御免

文政二卯八月浅姫君様御附御広式添役

石川市郎左衛門 吉次郎

拾八石四人

一文政十亥七月二日父市郎左衛門休息被仰付、家督拾八石三人扶持無相違被下置、新御番組へ被入

一天保五年六月十四日浅姫君様御附御広敷添役被仰付

一同十亥十二月廿二日靈岸島御屋敷奉行飯御武具奉行飯兼帯被仰付

一 嘉永三戌五月病死

拾八石四人

一 嘉永三戌七月十七日親市郎左衛門跡目拾八石四人扶持無相違被下置、新

番組へ被入候

一文久元酉四月四日病死

石川宗次郎 実江川常三郎養家之弟

拾八石四人

一文久元酉五月廿四日石川吉次郎病中願之通養子被仰付、家督拾八石四人扶持無相違被下置候、新番組へ被入候

一 同年九月六日靈岸島御屋敷稽古所定詰被仰付候

一同二戌四月三日横浜表江臨時致出張、御褒詞金三百疋被下置候

一 同年八月十六日病死

石川久次郎 実小役人三沢為吉弟

拾八石四人

一 安政五年七月廿日大鼓打方為伝習江戸表方御国表罷越候二付、右逗留中

三人ふち被下置候、小役人為吉弟三沢久次郎

一文久二戌九月八日宗次郎病中願之通養子被仰付、家督拾八石四人ふち無相違被下置、新番組へ被入候

一同三亥三月廿八日靈岸島御屋敷飯御台場大砲打方被仰付、当分御番御使

者御用捨被成候

一 同年四月五日右打方御免被成候

一 同年六月十二日今度御国表江引越被仰付、着

一 同年六月廿六日太鼓役頭取被仰付

石川吉次郎 猪太郎

- 一同年十月十三日中將御供二而上京、子四月廿三日同断帰
- 一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀二思召候、依之御酒被下置候
- 一同年七月八日病死

石川キヨシ 潔 吉樹幾次郎 石川幾次郎

〔士族〕

拾八石四人

- 万延元申十月十六日御旗本太鼓役御雇改而被仰付、右御雇中銀五枚ツ、年々被下置候

一同十二月十日右七百疋ニ御直シ被下候段被仰付候

一文久三亥正月十六日太鼓役頭取被仰付、白銀七枚ツ、年々被下置候、是迄被下候金七百疋之儀ハ以後不被下候

一同年五月廿五日当亥年御参府之節農兵隊被召連候ニ付御供被仰付、逗留中御扶持方五人扶持被下置候旨

一同年十二月十八日支度出来次第上京被仰付候、同廿五日出立、同子四月廿三日御供二而帰

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、依之銀壹枚被下置候

一同年八月廿七日石川久次郎病中願之通養子ニ被仰付、家督拾八石四人扶持無相違被下置、新番組へ被人候

一同年九月廿一日家屋敷於御舟町新規出来之家屋敷被下置候

一同年十月十六日長征出立、丑二月二日帰

一慶応二寅十一月十一日京都詰出立

一同三卯四月四日御上京御供振替り帰

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付候

一同年十月廿五日当冬京都御警衛詰早速致出立候様

一同日後拒役被仰付、役中分隊長次席ニ被仰付候

一同月廿九日御警衛詰罷越候処、宰相様御上京御道中御供被仰付、十一月

二日出立

一同四辰二月晦日帰

一同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一同年閏四月五日上京、九月十五日帰

一明治与改元、十二月廿八日潔卜名替

一同月十三日殿様御上京御供出立、巳三月六日中納言様御供二而帰

一同二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾貳俵六升六合被下

一同三年五月廿四日第一大隊二番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊



猪子三郎左衛門

百石

元禄十五年新知被下

猪子權太夫 段七

百石

享保八卯二月十九日御手廻被召出、御扶持切米被下

同九辰七月廿九日父三郎左衛門拜知無相違、御手廻其儘

同十二未六月五日於江戸表小姓

同十五戌七月十三日中奥御小姓

同十一月二日表御小姓

同十七子六月廿五日中奥御小姓

同十九寅六月七日御小姓御免、大番

同廿一辰五月廿二日御手廻被仰付

元文五申五月十八日御駕付中村第藏跡

延享四卯九月十六日御部屋付御駕頭

寛延二巳十二月十九日於江戸死

猪子十兵衛 休息

百石 役料百五拾石

寛延三年二月廿日父権太夫跡知被下、大番

宝曆五亥八月廿二日表御小姓

明和五子七月廿日御次詰御書院番入

同七寅九月十四日奥御納戸吉田弥八郎跡

同九辰九月廿四日御近習番頭取

安永三年六月廿六日御膳番御近習番頭取其儘吉田弥八郎跡

同七戌正月十六日郡奉行味岡彦太夫跡、役料五十石

同年六月廿二日席御上被下御簾奉行次席被仰付候、御役人並

同十丑正月十五日御役料百五十石被成下

天明四辰五月廿四日御奉行浅見七十郎跡

同七未三月四日不調法有之拜知御取上休息、倅孫次郎へ貳拾五石五人被

下

猪子太郎右衛門

百石

天明七未三月四日父十兵衛不調法有之拜知御取上休息被仰付、孫次郎へ廿五石五人扶持被下、大番入

同八申十月十五日御小性下山惣三郎跡、格別之思召を以御擬作知行百石

二御直被下

寛政二戌五月廿八日御近習番御書院番入

同六寅七月十日御近習番御供頭林直次郎跡

同八辰三月十一日御裏役石川平十郎跡

同十年三月廿日役席其儘二而御裏役御免被成、御近習番勤被仰付

同十一未八月四日御膳番

同九月十八日御附御用人支配

同十二申二月廿九日御附御不用二付大御番入

同三月廿五日御附御膳番再勤被仰付

享和三亥十一月廿日御腰物数寄方奉行小栗次右衛門跡

文化五辰閏六月二日末ノ番外御時宜役

同七年八月廿二日御組頭林忠太夫跡、役料五十石武曾権太夫次席

文化十三子六月廿九日御使番石原喜左衛門跡、御趣意二付御供頭兼帶、

役料百五拾石

文政三辰六月廿三日御先物頭津田四郎左衛門跡

同九戌十月倅元八出奔二付伺之上指扣、五月六日同御免

文政十亥九月廿四日隠居

猪子丈右衛門 孫次郎事

百石

一文政十亥九月廿四日養父太郎右衛門年寄候二付隠居被仰付、家督百石無相違被下置、大御番組江被入

一天保二卯十月十一日若殿様御附近習番被仰付、御書院番組へ被入

一同三辰江戸詰被仰付、三月廿八日出立

一同四巳十月十六日表御小姓河津善太夫跡被仰付

一同九戌江戸詰被仰付、御奉書差添二而九月九日出立

一嘉永二酉閏四月廿九日御目付役横田作太夫跡被仰付、御役料百五拾石被

下置候

一同三戌七月廿八日御役御免被成、末ノ番外二被仰付、席西川八左衛門跡

御徒頭次江被仰付、但右ニ付遠慮伺無之

一同五子五月十五日御徒頭松波甚右衛門跡、御役料五拾石被下置候

一同六丑五月廿九日御使番役野村拾太夫跡被仰付、御役料百五拾石被下置

候

一安政三辰十月十七日御先添物頭野治小兵衛跡被仰付候

一同四巳六月廿三日御先物頭野村拾太夫跡被仰付候

一万延元申九月三日太田御陣屋詰出立

一同十二日右詰中御殿御預ケ被成、且又御目付取扱候御用向并御徒頭取扱

仮被仰付候

一文久元酉四月十日詰中表御門預り并御目付取扱候御用向取扱被仰付、且

又出火之節御用火消出馬被仰付候

一同年五月廿四日御目付取扱候御用向取扱御免被成候

一同年九月朔日横浜表江長々出張太儀之段御褒詞之上御手綱三被下置候、十月七日帰着

一文久三亥二月十日殿様御上京御供組二而召連出立、三月廿六日御供二而

帰着

一元治元子八月廿三日御旗奉行浅見七郎右衛門跡被仰付候

一同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀八百匁被下置候

一慶応三卯五月廿日席其儘御留守組支配被仰付、御役料之内百石被下置候

一同四辰閏四月五日年寄候二付隠居

猪子兵助 根来彦一 猪子彦一 丈右衛門養子

百石

〔士族〕

一文久三亥二月十日殿様御上京御供、三月六日御供二而着

一同年八月十三日当秋芝御陣屋御番士御雇詰被仰付、詰中御扶持方五人ふ

ち被下置候、廿九日出立

一元治元子五月廿日猪子丈右衛門養子願之通被仰付候

一同年七月十七日御陣屋方帰着

一同年十二月賊徒一件出張、御手当式百匁被下

一同二丑正月廿五日彦一事兵助と改

一慶応与改元、六月廿四日新撰農兵差配役助被仰付候

一同三卯正月廿九日新撰隊教授方并指揮役兼助被仰付、勤中年々銀拾枚ツ

、被下置候

一同年五月二日三番之輔兵隊江被入、新撰隊教授方指揮役兼助之義ハ御免

被成候

但是迄被下置候銀拾枚之儀ハ已後不被下候事

- 一同年七月十二日京都御警衛詰出立、十月十五日帰
- 一同年九月廿七日御趣意ニ付補兵隊御免被成候
- 一同年十二月十五日補兵隊被仰付、今度御上京御供被仰付相止
- 一同四辰閏四月五日養父丈右衛門儀年寄候ニ付隠居被仰付、家督百石無相違被下置、遊撃隊江被入候
- 一同年九月十日御警衛詰上京、巳二月六日帰
- 一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下
- 一同三年五月廿四日第一大隊一番小隊入被仰付候事
- 一同年十二月八日常備一番隊 年給六俵
- 一同四未四月朔日東京詰出立
- 一同年十月十三日解隊、十一月帰

猪子²

猪子小六

貳拾石五人

於松岡二御小性

猪子六左衛門 愛蔵 隠居

百石

- 享保七寅十一月十六日養父小六跡目、七人扶持被下、御留守番入
- 元文五申五月廿一日並之通貳拾石五人被下、御手廻
- 延享五辰七月十九日御供目付
- 宝曆十辰八月十六日御供目付御免、大番入

猪子六左衛門

百石

- 同十四申四月十六日御次詰御書院番入
- 明和元申九月十一日奥御納戸
- 同五子七月九日御膳番浅見七十郎跡、御納戸兼帯
- 同年十一月十四日御納戸兼帯御免
- 同七寅九月十四日役義御免、筆頭頭取格
- 同九辰九月廿四日新知百石、同日御近習番頭取
- 安永四未二月十四日御膳番
- 同五申正月十六日小馬印奉行中村第藏跡
- 天明四辰四月廿九日養父六左衛門隠居、家督無相違、大番入
- 同五巳正月十五日御小性
- 同年五月廿一日於江戸御部屋附近習番杉山市左衛門跡、御書院番入
- 同七未三月十四日御形合被相改候ニ付役義御免、大御番入
- 同八申六月十四日表御小性見習
- 同年七月廿日御近習番御書院番入
- 寛政二戌五月廿八日御部屋附近習番武部伝右衛門跡
- 同四子三月廿五日於江戸御部屋附近習番御供頭
- 同八辰三月五日御部屋附奥御納戸役三寺与右衛門跡
- 享和二戌年四月廿五日御近習番頭取御膳番丹羽市左衛門跡被仰付
- 文化元子七月廿八日御時宜役、格式末ノ番外
- 同六巳ノ二月十八日格式其儘御札所奉行斎藤門右衛門跡
- 文化九壬申七月三日鱸左衛門跡郡奉行被仰付、御役料五十石被下置、但

中領

同十酉二月七日御役御免、郡奉行次席

同年八月五日御水主頭沢木彦左衛門跡、御役料百五十石

文化十三年六月廿九日御先物頭西尾五右衛門跡

文政元寅十月二日隱居被仰付候

猪子六左衛門 鉄五郎

百石

文政元寅十月二日父六左衛門隱居被仰付、家督無相違被下置、大御番被

入

文政元寅十月十五日御広式御用達被仰付候

同八酉三月十四日御近習番大藤助藏跡

文政八酉三月十四日御裏役大藤助藏跡被仰付、御書院番組へ被入

文政九戌二月廿四日威徳院様御逝去二付御役御免、大御番入

同十三寅年正月廿九日若殿様御附近習番被仰付、支度出来次第江戸詰

被仰付候

同十三寅四月十一日同御附奥納戸役被仰付

天保三辰六月十一日奥御納戸役周防喜三郎跡、役席中村久藏次

天保六未九月五日今度御代替二付御役御免被成、御書院番組其儘御近習

二被差置候、勤方之儀者追而被仰付候、御用筋之義ハ先是迄之通可申

談旨

同年同月十四日奥御納戸役被仰付候

天保八酉四月十五日御近習番頭取御徒番被仰付、来戌年迄詰越

天保九戌十月廿五日今度御代替二付御徒御免被成、御書院番組其儘御近

習二被指置候、勤方之儀者追而被仰付候、御用筋之儀先是迄之通可申談候

同月廿九日御近習番頭取御膳番被仰付候

同十一月十日廿五日御近習番頭取御徒番其儘、御書院番一番之筆頭役武

曾權左衛門跡被仰付

同十五辰五月廿三日御水主頭鈴木百助跡被仰付、御役料百五十拾石被下置

弘化四未二月十二日御先物頭福田八郎右衛門跡

嘉永元申ノ九月十五日年寄候二付隱居

猪子九十九 善十郎 平左衛門 権左衛門

百石

〔士族〕

一 嘉永元申九月十五日親六左衛門家督無相違被下置、大御番組江被入

一 同年同月廿九日表御小姓金子十郎平跡被仰付

一 同三戌六月三日御近習番林作助跡被仰付、御書院番組江被入

一 同六丑年江戸詰、三月御供二而出立

一 同年九月十八日御書物方被仰付候

一 同七寅年十月九日御裏役今村重太郎跡被仰付候

一 安政二卯九月廿三日奥御納戸役被仰付候

一 同四巳四月廿五日江戸御供詰出立

一 安政五年七月六日殿様奥御納戸役中將様御用兼被仰付候

一 同六未四月十七日帰着

一 同七申閏三月十一日御膳番奥御納戸役兼帯被仰付候

一 万延与改元、十二月廿八日平左衛門与名替

一 文久元酉三月十九日御供二而出立

一 同年七月廿五日役儀其儘御近習番頭取被仰付候

一 同三亥二月十日殿様御上京被遊候二付御供、三月六日御供二而帰着

一 同年八月十七日御参府御供二而出立、同十二月京方御上京御供、子二月

御帰国御供

一 同年十二月廿八日御人馬相殘候二付奥御納戸役兼勤之義者御免被成候

一 元治元子八月廿七日役儀其儘御役料五拾石被下置、格式末之番外二被仰

付候

一 同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑正月廿七日帰、二月十五

日折返シ出立、三月帰

一 慶応元丑四月廿九日御役料其儘御徒頭荻野左十郎跡被仰付

一 同年八月晦日席御役料其儘御供頭見習被仰付候

一 同年九月廿五日山川内膳家屋敷卜相对替願之通被仰付

一 同二寅十一月廿九日席御役料其儘御附御馬廻頭取被仰付、御附御供頭兼

勤被仰付

一 同三卯三月九日平左衛門事権左衛門卜改

一 同月廿九日御役料五拾石御増都合百石被下置、御使番順席二被仰付

一 同日今般御模様二方宰相様御上京可被遊義も可有之二付、御供被仰付、

四月十二日出立、八月八日帰

一 同年十月廿一日今般宰相様御上京御供被仰付候、十一月二日出立

一 慶応四辰二月廿六日御出殿御供相欠候二付遠慮伺之上御用外指扣、同廿

八日御免

一 同年四月十一日京都方帰、五月晦日出立

一 明治二巳二月二日上京、巳三月六日中納言様御供二而帰

一 同二巳二月十七日御供頭其儘御馬廻頭取之儀ハ御免被成候、月給五十俵

御役料ハ不被下候

一 同年四月九日中納言様御供二而東京江出立、八月廿六日帰

一 同年六月権左衛門事九十九卜改

一 同年十月四日役儀被免候事、但席山形九十九次

同日従二位様近年毎々之他国御往復御用多之処出精相勤二付、思召を以目之通被下候事

御紋御上下一具

一 同年十一月廿五日今般御改革二付、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一 優待列

一 同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱



生駒弥五右衛門

百石

宝永六丑十月十八日祖父弥五右衛門跡目、嫡子三郎兵衛へ貳百石被下、

三郎兵衛へ取来り之百五拾石被下候処、正徳二拝知被召上廿五石五人扶

持被下

同五未秋三郎兵衛依願死後新知百石

享保九辰五月十九日御小姓御免、大番入

同十巳八月廿八日表御小姓

同十三申十月十一日御書物奉行

同十七子九月十九日御腰物役

元文三年五月十九日御役御免、大番入

延享元子十一月三日御次詰

寛延三年二月十一日御次詰御免、大番入

宝曆三酉三月廿五日御纏奉行香西弥右衛門跡

生駒藤兵衛 隠居

百石

宝曆九卯六月廿二日父弥五右衛門跡知無相違、大番入

安永五申十月十九日若殿様御近習番御書院番入

天明六年三月十六日御部屋附御供頭福田甚太郎跡

寛政元酉閏六月五日格式末ノ番外ニ被仰付御時宜役

同十三酉二月二日御纏奉行横井惣十郎跡

生駒藤兵衛 兵右衛門 弥五右衛門

百石

文化元甲子六月十九日養父藤兵衛隠居被仰付、家督無相違、大御番入

文政二卯閏四月五日御金奉行藺田藤左衛門跡役

同六未二月廿五日御預所御金奉行内田佐兵衛跡被仰付、御留守番組へ被

入

同年三月廿九日役義取扱不宜不埒之趣有之二付、急度御咎被仰付候筈ニ

候処、御憐愍之上役儀御取上閉門被仰付

生駒藤兵衛 弥五右衛門

百石

一文政七申七月廿日養父藤兵衛休息、跡知無相違被下置、大御番組へ被入

一同年閏八月十九日御近習番林忠次郎跡被仰付、御書院番組へ被入

一同九戌二月廿四日威徳院様御逝去ニ付御役御免被成、大御番組へ被入

一同十一子十一月三日謙五郎様御近習番被仰付、御書院番組へ被入

一同年江戸詰被仰付、十一月十五日出立

一天保二卯六月十六日若殿様御附御近習番被仰付候

一同年六月廿八日江戸詰出立

一同四巳江戸詰被仰付、八月廿八日出立

一同六未六月五日超倫院様御逝去ニ付御役御免、大御番組へ被入

一同年十月十六日楷五郎様御附御納戸格御近習番被仰付、御書院番組へ

被入

一同八酉十月廿九日楷五郎様御附御納戸役被仰付候

一同九戌三月廿日弟大藏宇都宮茂左衛門養子、去冬及離縁候始末、病身ト

ハ乍申行状不宜候ニ付蟄居被仰付候、藤次郎義異見等不参届ニ付、遠慮

被仰付

一同十一子五月廿九日御鵜方門野太郎右衛門跡御膳番格被仰付

一同十二丑二月五日倅吉次郎御鷹場ニ而鳥殺生致、心得違ニ付伺之上差扣

一弘化三年十月朔日末ノ番外御時宜役被仰付候

一嘉永四亥二月十三日御留守物頭御鷹方兼帯小栗仁右衛門跡被仰付、家屋

敷是迄仁右衛門罷在候御役屋敷江替被下候

一同五子十一月十八日御長柄奉行高坂武右衛門跡被仰付、御役料百五拾石

被下置、家屋敷三岡助右衛門家屋敷へ替被下候

一同年十二月廿八日藤兵衛与名替

一同六丑七月三日去月十二日京町方出火之節出精ニ付御褒詞

一同七寅六月十九日御先物頭東郷平太夫跡

- 一 同年六月十七日去ル十三日塩町方出火之節及大火出精ニ付御褒詞
- 一 安政三辰四月十五日家屋敷相沢八郎右衛門家屋敷へ替被下候
- 一 同五年八月十六日遠慮伺之上指扣被仰付置候処御免
- 一 同年十二月九日神奈川御警衛御人数出張被仰付候二付、組之者召連支度出来次第詰被仰付候
- 但病氣ニ付御免被成
- 一 同六未正月十日病死
- 一 同年二月十六日右跡家屋敷佐野金吉家屋敷へ替被下候間、為引移候様被仰付候

生駒三郎 吉次郎 三郎兵衛

百石

〔士族〕

- 安政六未二月廿九日親藤兵衛家督百石無相違被下置、大御番組へ被入候
- 一 同年五月十六日勝手向必至難渋ニ付、吉次郎并親類且番頭願ニ付御仕送り被仰付候
- 一文久三亥二月十二日番頭引纏上京、三月廿五日中将様御供二而(マ、)
- 一 同年八月廿六日早速上京被仰付、同廿九日出立
- 一 同年十一月廿八日於京都表製造方合薬方被仰付、御留守番組へ被入候、十二月十七日帰着
- 一元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀六百匁被下置候
- 一元治二丑正月三郎兵衛卜名替
- 一 慶応元丑五月廿八日御趣意ニ付役御番組江被入候
- 一 同三卯二月十一日出精相勤候ニ付年々銀七枚ツ、被下置候
- 一 明治二巳二月十七日御武具金方被仰付 月給十俵

但六月廿八日御武具金方月給米八俵被下、是迄之俵数ハ不被下候

- 一 同年六月廿六日三郎兵衛事三郎卜改
- 一 同年七月六日合薬方被仰付
- 但月給米一年分更ニ拾俵被下候事
- 一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下
- 一 同月廿七日御改革ニ付、製造局被廢候、依之役義被免候
- 一 予備隊江被入候
- 一 同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

生駒²

生駒五左衛門 隠居

百石 役料百五十石

- 寛延元辰十二月十一日児御小性被召出御切米並之通被下、式拾五石五人フチ
- 同三午二月十一日御小性御免、大番入
- 宝曆十四申四月十六日御次詰御書院番入
- 明和五子七月九日若殿様御部屋附御近習
- 安永五申八月十四日御附奥御納戸
- 同八亥七月廿五日新知百石
- 天明四辰十二月十四日於江戸御近習番頭取格
- 同八申四月廿日年来相勤候ニ付格式末ノ番外、御部屋附奥御納戸ハ御免被成
- 同年五月廿八日御時宜役

寛政八辰五月十一日御長柄奉行樋口喜左衛門跡、御役料百五拾石
同十年六月廿四日御先物頭杉田孫一郎跡被仰付

生駒五左衛門 金五郎

百石

文化四卯二月六日養父五左衛門隠居、家督無相違、大御番入
文化十酉七月死

生駒五左衛門 熊吉事

百石

一文化十酉八月廿五日五左衛門病中願之通養子二被仰付、家督百石無相違
被下置、大御番組へ被入

一文政九戌江戸詰被仰付、四月十六日出立

一同十二丑江戸詰被仰付、四月十六日出立

一天保二卯十月廿五日御預所御金奉行岡田喜右衛門跡被仰付

一同三辰三月十一日御金奉行東郷平太夫跡被仰付候

一同年江戸詰被仰付、七月十日出立

一同七申五月廿五日御勘定拝借奉行御趣意金取扱松永次郎左衛門跡被仰付、
御留守番組へ被入

一同十一子五月廿九日御札所奉行伊藤三次郎跡被仰付

一同十三寅十月五日御留守作事奉行高間文四郎跡被仰付

一同十五辰正月十六日新組出来之節先役中出精二付、御紋御上一被下之

一弘化二巳十月廿九日御長柄奉行高屋伊喜右衛門跡被仰付、御役料百五拾

石被下置候

一嘉永元申九月十五日御先物頭猪子六左衛門跡被仰付候
一同四亥年十月十九日病死

生駒五左衛門 彦太郎

百石

一嘉永四亥十二月十一日養父五左衛門家督百石無相違被下置、大御番組へ
被入候

一同五子六月九日御近習番被仰付、御書院番組被入候

一同六丑七月廿六日江戸表江出立

一安政元寅十二月廿八日五左衛門与改

一同二卯江戸御供詰

一同三辰六月十四日御書物方被仰付候

一同四巳六月廿日御裏役被仰付候

一同五午八月廿七日江戸詰出立、然ル処於今庄馱病氣二付願之上帰着、廿

九日病死

生駒彦太郎

〔士族〕

百石

一安政五年十月十八日親五左衛門家督百石無相違被下置、大御番無役組へ
被入候

一文久元酉三月廿五日大御番組へ被入候

一同二戌六月十日中将様御附御近習被仰付、支度出来次第江戸詰被仰付、

同廿二日出立

一同三亥三月廿五日中午将様御供二而京都方着

一 同年八月三日御近習番被仰付、御書院番組へ被入、御参府御供被仰付候、且又役席之義ハ渋谷定次郎次へ被入候

同月十七日御供二而出立、同十二月江戸方御上京御供、子二月御帰国御供着

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰

一慶応二寅二月五日御馬廻被仰付

一同三卯三月十日御上京御供出立、四月四日帰

一同四辰四月二日上京、五月廿七日帰

一同年六月四日御馬廻其儘御供頭指添被仰付

一同年八月廿四日戦地為斥候越後表へ被遣候、彼地到着之上遊撃隊中へ組合場所見分之上早々罷帰申上候様被仰付、同廿二日出立、十月十七日帰

但一仕寄二而罷帰可申事

一六番遊撃隊へ組合可申事

一明治卜改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日帰

一同二巳十一月七日今般御改革二付、役義被免予備隊江被入候事、席津田

八郎次

一同月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗二升六合被下

一同三午五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日軍務寮出仕、但予備分隊長勤向 年給十三俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候二付右出仕被免候事 年給六俵

一同月十日常備第貳小隊江被入候

一同年十月十三日解隊

稲生

稲生八郎右衛門

百石 外役料五十石

正徳四午三月五日養父八郎右衛門病身、家督無相違

享保三戌三月廿五日御代官鱸九郎右衛門跡

同五子七月廿一日御預所御代官

同八卯八月六日御勘定奉行皆川三左衛門跡

同十一年四月十六日郡奉行、御役料五十石松原源右衛門跡

同十四酉十二月十三日右御役被召揚、大番入

稲生八郎右衛門

百石

寛文十二子四月十一日父高柳仁太夫為跡目被下、隆芳院様御代御取立子

孫二付先御代席御上被下、猶以被為重思召□当御代

正徳三巳八月十五日順座江被仰付

稲生与一郎

百石 外役料百五拾石

享保廿卯閏三月廿五日父八郎右衛門百石之處、為跡目廿石三人扶持被下、

大番入

延享三寅十一月朔日表御小姓五石二人御加増

同四卯十二月五日中奥

寛延三年二月十一日中奥御免、大番入、同月十六日表御小姓

同四未八月十六日中奥御小姓

宝曆四戌六月廿九日御小道具方服部多吉跡

同十辰六月二日奥御納戸

明和元申八月廿九日不宜品有之役義御免遠慮、大番入

同七寅閏六月十四日御近習番御書院番

安永八亥九月廿日御裏役

天明二寅十月十四日新知百石

同四辰九月廿四日御裏役其儘御近習番頭取格

同七未正月十五日役義是迄之通格式末之番外

同年三月十四日御書物奉行兼帶

同八申六月十一日家内之者不締り之趣二付遠慮

九酉正月十四日御水主頭尾高次郎左衛門跡役料百五拾石

稲生八郎右衛門 岩次郎

百石

寛政八辰十月四日父与一郎隠居、家督無相違、大番入

同九巳十月十四日御小性被仰付

同十年正月十九日於江戸心得違之趣有之指扣

同十一未年九月十六日御近習番御書院番入

同九月十八日御用人支配

享和元酉八月三日御附御小性被仰付

享和二戌十二月十五日御附御近習奥之番格

同三亥十一月十六日御趣意二付御免

文化五辰ノ九月二日靈岸島御附御近習番

同六巳八月廿五日靈岸島御附御免、大御番入、是迄出精相勤大儀思召候

段御家老中方被渡

文化十酉四月十一日不埒之義二付遠慮

文化十四丑八月廿日道奉行吉田吉之丞跡被仰付

文政十二丑四月廿九日不慎之趣有之御役御免、遠慮

天保二辛卯九月十六日兼而心得方不宜趣二閉門、倅二太夫義も不行状二

而逼塞

稲生二太夫

百石

天保四巳九月廿日親八郎右衛門家督無相違、大御番組へ被入候

天保十一子九月十六日当春不慎二付遠慮

稲生千里 与一郎 忠之助 二太夫

百石

一嘉永二酉二月廿九日養父二太夫家督無相違被下置、大御番組江被入

一同三戌六月四日御小姓被仰付

一同四亥正月廿一日御近習番波々伯部弥六跡被仰付、御書院番組江入

一同六丑年江戸詰、三月御供二而出立

一同七寅年十月九日御書物方猪子善十郎跡被仰付候

一安政三辰正月廿日病身二付内願之通御役御免被成、大御番組へ被入候

一同年六月廿五日多部五郎右衛門於牢内御仕置被仰付候、依之母方之叔父

二付伺之上遠慮被仰付、同晦日御免

一同四巳十月十三日御家流砲術所詰被仰付候

一同七申三月廿九日御書院番組へ被入候

一文久二戌六月十六日御腰物数寄方奉行菅沼平兵衛跡被仰付候、依之砲術

所世話役之儀者御免被成候

一元治元子十月十六日長征出立、丑二月三日帰

一同年十二月二太夫卜名替

一慶応二寅四月廿五日役儀其儘役御持筒指揮役被仰付候、依之末之番外格

二被成下、御軍事二付而者訓練を始引受致差配候様被仰付候

一同年十月廿六日御持副物頭御役料廿五石被下置候、且又末之番外順席二被仰付

一同三卯八月五日金津定番大河原助之進跡被仰付、右二付御使番格二被成下、家屋敷之儀者助之進罷在候御役屋敷へ替被下候、且又支配組之者共放発訓練等之儀野村彦大夫申談、厚引立致世話候様被仰付候

一明治二己二月廿四日月給米三拾五俵御役料相止

一同年六月十九日一番小隊長被仰付候事、月給七十俵被下候事、一三等官

本多門左衛門次

一同日荻野左十郎家屋敷被下候

一同月廿一日二太夫事千里卜改

一同年十一月廿五日今般御改革二付、更給禄米六十俵四斗式升六合下賜

一同月廿七日今般御改革二付、解隊被仰出当役被免候

一同三年六月廿二日第二大隊九番小隊長被仰付候事

一同年十二月八日職務被免、非役江被入候事

一同四未二月十四日族長被仰付候事

但役給十式俵被下候事

一同年六月十五日右被免候事

一同年十月隱居

稻生震也 与一郎 千里倅 明治三年廿一歳

〔士族〕

一文久二戌十一月十六日航海術修行被仰付、御扶持方七人扶持被下置、支度出来次第江戸表へ罷越候様被仰付、右修行二付諸失却之義も悉皆被下置候

一同三亥五月廿七日此度御模様替二付右修行御免被成、是迄被下置候御扶持方七人ふち之儀已後不被下候

一慶応三卯四月十一日兼而瓜生三寅江相手寄英学修行仕居候処、今度三寅義上京被仰付罷越候二付、同道罷越厚修行仕度旨願之通被仰付、同十三日出立、五月廿日帰

一同年英学助句読師被仰付

一明治二己二月十八日砲長試補御雇被仰付、月俸三口被下置候

一同年十二月二日砲兵訓導被仰付候事

一同月十七日役中米式拾俵被下候事

一同三年十二月八日任少尉兼四等教授 年俸三十六俵 十式俵高

但常備砲隊砲兵掛り

一同四未七月十二日御用有之大坂表へ可罷越事

一同月 改名与一郎事稻生震也

一同年十月十三日今般解隊被仰出候二付職務被免候事

一同 東京へ修行願出立

一同廿三日家督

一米六拾俵四斗三升六合

一同五申正月十七日兵部省砲術生徒水兵部

今枝

今枝甚五兵衛

百石

元禄六酉十二月廿六日養父源助跡知無相違被下

正徳五未六月十六日道奉行被仰付、此節迄御取立二代之席ニ罷在処、近

日順席ニ被仰付

享保十六亥四月廿一日道奉行御免

此後代は二出、但林与改

市橋¹

此前代た二出、但団野与号

市橋万右衛門 初団野軍蔵

百石

明和八卯二月廿五日父軍兵衛跡知無相違、大番入、同日師役

安永四未二月十四日御書院番入

寛政二戌五月廿九日御腰物数寄方奉行御部屋付兼帯其儘、御書院番組表

役ニ被仰付

同七卯二月六日役義御取揚、大御番へ被入、閉門被仰付

同十二申十二月十日御書院番入

享和三亥九月病死

百石

享和三亥十月廿五日養父万右衛門家督無相違被下置、大御番入、師役

文化八未閏二月廿五日御書院番入

文政三辰十一月十五日御使番御供頭兼、御役料百五十石被下置、三岡孫

右衛門跡被仰付

文政十亥六月六日御先物頭青木七郎右衛門跡

文政十三庚寅六月二日御番割心得違二付伺之上遠慮

天保六未十月病死

此後代又団野与号

市橋²

此前代た二出、但団野与号

市橋文太夫 初団野平次郎 休息

廿五石五人 初五人扶持

宝暦二申七月廿五日養父四郎太夫跡目五人フチ被下、御留守番入

同十三未十月十一日御右筆見習

明和四亥三月廿九日御切米廿五石被下、都合廿五石五人扶持被成下、御

右筆本役、御書院番入

寛政九巳九月十一日御簾本武具奉行成瀬嘉右衛門跡

市橋四郎太夫

廿五石五人

寛政十二庚申八月十一日養父文太夫休息、家督無相違被下置、大御番入

市橋文太夫

廿五石五人

一文政十一子二月廿五日親四郎太夫家督無相違、廿五石五人扶持、無役御

留守番入

一天保二卯六月廿五日大御番入

一同十一子十一月廿日父休山不宜趣相聞候二付、遠慮被仰付候二付、伺之

上指扣

一嘉永三戌三月十六日家内不締二付遠慮

一同四亥八月廿七日病死

此後代又団野与号



市橋宗助

百石

元禄八亥五月廿一日小役人方御取立、新番入被仰付

宝永六丑十一月廿六日新知被下

正徳元卯十二月廿四日大番江被入

市橋条右衛門 次郎兵衛

百石

享保二酉八月廿六日養父惣助年寄二付家督無相違

同七寅冬御番割之節順席

同十五戌八月五日御金奉行三岡助右衛門跡

元文四未九月五日御役御免年寄二付

延享元子十一月七日休息

市橋条右衛門 惣助 病

百石

延享元子十一月七日父条右衛門休息、家督無相違、大番入

同四卯六月廿一日御預所御金奉行粕谷彦左衛門跡、御留守番入

寛延三年六月廿五日御役御免、大番

同四未六月五日与内檢地奉行高田三郎左衛門跡、御留守番入

宝曆三酉六月十一日山奉行妹尾次郎左衛門跡

市橋新之丞 病死

百石

宝曆十二年二月十六日父条右衛門跡知無相違、大番入

明和三戌七月七日表御小姓

安永三年六月廿九日表御小性御免、大番入

同五申八月十四日玉薬奉行笹倉群右衛門跡

天明三卯九月十一日御預所御金奉行小倉平左衛門跡、御留守番入

寛政八辰十一月五日御札所奉行吉田茂左衛門跡、大御番入

市橋新之丞 多喜五郎

百石

享和二戌十一月十一日父新之丞家督無相違、大御番入

市橋環藏 実野中清作弟

〔士族〕

百石

一弘化二巳八月五日養父新之丞年寄病身二付内願之通休息、家督無相違被下置、大御番組へ被入

一同三年十二月廿二日御近習番三寺虎太郎跡被仰付、御書院番組へ被入

一嘉永二酉江戸詰、三月廿三日御供二而出立

一同三戌八月十二日御書物方川村乙三郎跡被仰付

一同四亥九月廿日御裏役林作助跡被仰付

一同五子六月九日奥御納戸役井戸治兵衛跡被仰付候

一同六丑二月十六日遠慮伺之上指扣被仰付、同十八日御免、但大野三左衛門養子權之助御答二付

一同年七月廿六日江戸表江出立

一安政二卯江戸御供詰

一同五年九月廿五日御書院番其儘、御鶴方野中重左衛門跡被仰付候

一同六未四月廿五日御鶴方其儘、御膳番格二被仰付候

一文久三亥二月十日殿様御上京被遊候二付御供、三月六日御供二而帰着

一同年十二月二日昨朔日御精日之処、御坂江罷越恐入遠慮伺之上指扣被仰付、同五日御免

一元治元子二月廿日格式末ノ番外御時宜役被仰付候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征 丑^(マ、) 婦

一慶応元丑六月廿九日御先手御旗奉行被仰付、御使番格二被成下、御役料 廿五石被下置候

一同三卯正月廿四日席御役料其儘、御先副物頭武曾權左衛門跡被仰付候

一同年五月廿日席御役料其儘、御旗奉行被仰付候

一同年八月三日調練出勤日取違不調法二付遠慮伺之上指扣、五日御免
一同年十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之処、御模様二付途中方引返し帰

一同四辰正月八日又々急々出立上京之処、四月十三日帰

一明治二巳二月十六日今般御改革二付、御役儀御免被成、御広間当番勤被仰付

一同年九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革二付、為御慰勞廿五兩被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱



井戸市左衛門

式拾五石五人

元禄七戌十一月十一日養父久兵衛跡目御扶持方被下

宝永四亥十一月十八日御切米被下

井戸久兵衛

式拾石三人

正徳二辰七月廿五日養父市左衛門為跡目被下

享和五子七月廿一日番改被仰付柳下勘七跡

宝曆四戌閏二月十六日御役御免、此節年来相勤候二付銀式枚被下置候

井戸平左衛門

百石 外御足高五十石

宝曆六子八月廿九日養父久兵衛休息、家督無相違、大番入

同十二年閏四月廿九日御右筆御書院番入、五石式人御足擬作

明和元申十一月九日於江戸御足擬作御加増

安永八亥八月拾八日新知百石被下置、請込金子次右衛門跡

寛政元酉十二月廿三日江戸格式末ノ番外

同十年正月十六日江戸詰之節御足高五拾石被下充

享和元酉三月廿二日於江戸御足高以後年々被下置候旨被仰付

文化五辰十月病死

井戸次兵衛 惣三郎

百石

文化五辰ノ十一月廿九日親平左衛門家督無相違、大御番入

同年十二月三日御小姓

文政元寅六月廿四日御小性頭取津田弥太六跡

天保八酉七月廿日御泉水預り被仰付候

同十亥十月廿四日遠慮伺之処指扣

文政九戌二月十六日末ノ番外御時宣役

文政九戌五月三日御徒頭西村仙右衛門跡被仰付、役料五拾石被下置

文政九戌十二月廿三日御使番御供頭兼被仰付、御役料百石被下都合百五

拾石被下置候

文政十三寅十一月七日御役義其儘御先物頭次席被仰付

天保四巳年九月九日遠慮伺之上差扣被仰付候

天保五年五月廿四日御側物頭辻十郎右衛門跡被仰付候

同十亥十月廿四日遠慮伺之上差扣

同十二丑八月五日御武具支配被仰付候

同十二丑六月廿九日御旗奉行粕谷彦彦太夫跡

天保十二丑八月親(マ)

井戸治兵衛 庄右衛門

百石

一天保十二丑九月廿五日養父次兵衛無相違被下置、大御番組江被入

一同十三寅四月十六日御近習番林勘十郎跡被仰付、御書院番組江被入、当

秋江戸詰被仰付

一同年江戸詰、八月十一日出立

一弘化二巳江戸詰、三月廿一日御供二而出立

一同三年六月廿五日御書物方真田五郎兵衛跡被仰付

一嘉永元申九月十五日御裏役真田五郎兵衛跡被仰付

一同二酉二月十三日奥御納戸林勘十郎跡被仰付

一同四亥年江戸御供詰、病氣二付願之上同年十一月帰着

一同年十二月廿日病死

井戸惣三郎 勘藏

百石

一嘉永五子二月十一日親治兵衛家督百石無相違被下置、大御番組へ被入

一安政四巳五月廿九日御製造方見習被仰付、火薬製法振退相勤候様被仰付

〔士族〕

候

一同五午七月五日御製造方当分御用簿二付、勤向御用捨被成候

一文久元酉三月十九日御供二而出立

一同年十二月廿八日左之通名替、勘藏事惣三郎

一同二戌四月三日横浜表江臨時致出張太儀之段御褒詞、五月十日帰着

一同年十月朔日御近習番梶川沢之丞跡被仰付、御書院番組へ被入候

一同三亥二月十日殿様御上京被遊候二付御供、三月六日帰着

一同年八月十三日御参府御供二而出立、同十二月江戸方御上京御供、子二月御帰国御供着

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月三日帰

一慶応二寅二月五日御馬廻り被仰付

一同年六月五日御小姓鈴木拾五郎跡被仰付候、右二付席久世外士上へ被入候

一同年十月廿六日御馬廻り被仰付候

一同三卯三月十日御上京御供出立、四月四日帰

一同年十月十八日予備小隊之分隊長被仰付、御書院番組へ被入候

一同年閏四月廿八日四番大隊一番小隊之分隊長高間文四郎跡被仰付早速出坂被仰付、五月朔日出立、御引渡相延候二付廿六日帰

但今度切支丹宗信仰之者百五十人御預ケ二付警衛也

一同年六月廿五日会征出立、十一月十五日帰、巳二月廿二日出張二付十三両被下候、外二三千疋

一明治二巳二月十六日十三番小隊半隊長被仰付、月給廿俵、番外二被仰付、

席青木作太夫次

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗二升六合被下

一同三午四月廿五日戌辰北越二出張、各所戦争拔群尽力二付、御賞典之内

永世十石廿ヶ年五石都合十五石令領授候事

一同年六月廿二日第二大隊七番半隊長被仰付候事

一同年十二月八日軍務寮出仕、但予備半隊長勤向 年給廿壹俵

一同四未四月七日右解隊被仰付候二付、右出仕被免候事

伊黒

伊黒与太夫

貳拾五石五人

寛文十二子七月跡目被下置

天和二戌二月五日御右筆被仰付

正徳五未九月十三日御右筆御免、大番入

伊黒弥五太夫 休息

廿五石五人

享保十二未十一月五日父与太夫跡目

同十六亥十一月五日用水奉行

同十八丑六月廿一日御役御免

同十九寅九月五日番改

伊黒弥三右衛門

廿五石五人

宝曆十辰年二月廿九日父弥五太夫家督無相違、大番入

天明三卯九月十一日山奉行萩野利右衛門跡、御留守番入

同五巳六月十一日御代官吉倉茂右衛門跡

寛政十年十二月十一日御預所御代官中村久兵衛跡

文化六巳正月廿日休息

伊黒源五右衛門

貳拾五石五人

文化六巳正月廿日親弥三右衛門休息、家督無相違、大御番人

文政十三庚寅六月五日御番改、上坂八郎左衛門跡

天保三辰七月五日御留守武具奉行笠原平八跡

天保八酉七月五日御代官役安川弥三右衛門跡被仰付候

天保九戌十二月五日次男鉄之丞武沢長右衛門養子罷越及離縁候始末、病

身与八乍申心得違二付逼塞、其方儀取扱不参届二付遠慮

天保十二丑七月廿日御預所御代官役跡部又八跡被仰付

同十三寅五月十一日休息

伊黒弥三左衛門 弥三郎事

廿五石五人

一天保十三寅五月十六日親源五右衛門休息被仰付、家督廿五石五人扶持無

相違被下置、無役御留守番組へ被入

一万延元申六月廿六日御番御供皆勤二付御紋御帷子被下

一文久三亥四月五日御先武具奉行黒沢源左衛門跡被仰付候

一同年五月廿二日御留守武具奉行田辺讓右衛門跡被仰付、御留守番組江被

入候

一元治元子十月十二日彈藥方兼帯被仰付

一同年十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下

一慶応元丑閏五月十二日昨年来非常之御用繁相勤候二付銀式枚被下置候

一同二寅正月十六日御花畠繪奉行皆崎次右衛門跡仰付

一同年七月五日御番両度皆勤二付御紋御帷子被下置候

一同年十一月廿五日先役中御武具御修復御改正中出精相勤候二付、金式百

疋被下置候

一同年十二月十六日当分御泉水飯預り被仰付候

一同四辰四月廿九日年寄候二付休息

伊黒仙之助

弥三左衛門養子 実黒沢源左衛門養家之弟

〔士族〕

文久二戌十二月十五日中将様御上京御供御用二付江戸表へ出立之処、御

都合二付途中江京都江

一同三亥三月廿五日右御供二而京江帰着

一同年八月十日御参府之節為御警衛垂井辺迄御供被仰付也

同月廿日大坂御泊江京都江罷越

一元治元子三月廿九日、一昨戌十二月江戸表へ罷出中将様御供二而京都表

へ可罷越筈二而此表致出立候処、俄御船行相成候二付途中江京都江罷出、

夫江大坂江為御迎罷越御供二而京都江到着之処、失却も有之趣二付金壹

兩為御手当被下置候

一同年四月廿三日宰相様御供二而京江帰

一同年六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、依之

銀式枚被下置候

一同年十月十一日御用有之二付早速大坂表江罷出候様被仰付出立、夫江長

征、丑二月四日帰

一同廿三日補兵隊へ被入候

一慶応元丑閏五月十八日一番之補兵隊被仰付候

一同年十月朔日宰相様御出坂御供二而出立、同三日今庄方御引戻二付帰

一同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月同断帰

一同年十月十六日加藤良右衛門差添被仰付

一同年十二月廿六日御先第五小队指添被仰付

一同三卯三月廿四日三番之補兵隊へ被入、差添之儀ハ御免被成候

一同年七月十一日御警衛詰上京、十月十三日帰

一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同四辰四月廿九日養父弥三左衛門義年寄候二付休息被仰付、家督廿五石

五人扶持被下置、製造方白焰方被仰付、役御番組江被入候

一明治二巳二月十八日月給十二俵

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合被下

一同月廿七日御改革二付、役儀被免

一同年十二月九日御本丸預り被仰付候事 六俵

一同四辛未六月朔日御改正二付右被免候事



雪吹牛兵衛

式拾石三人

元禄十四巳二月十六日父牛兵衛跡目無相違被下

宝永七寅三月十八日番改

享保三戌六月廿五日用永奉行

同七寅冬御番割之節順席

同十一年三月十六日御代官福田八郎右衛門跡

同十九寅八月十六日御代官御免、大御番入

延享三寅十二月廿一日休息、但休息被仰付候様子も有之候間猥二他行不

致候様、尤父子共同之上遠慮、探源院様御代父牛兵衛御取立吉江参

雪吹半助 鉄三郎

廿石三人

延享三寅十二月廿一日親牛兵衛休息、家督無相違被下、大番入

雪吹文次郎

廿石三人

寛延三午二月廿日養父半助跡目無相違被下

雪吹牛兵衛 病死 同二十一年
拾八石三人

寛延三午四月廿九日養父文次郎跡目、二石被減十八石三人扶持被下、大番入

番入

明和五子十月五日番改吉樹多内跡

雪吹牛兵衛

廿石三人

明和八卯七月廿日父牛兵衛跡目無相違、大番入

天明八申八月廿日番改有賀市右衛門跡
寬政二戌五月廿八日用水奉行御留守番入、古石百右衛門跡

同九巳九月廿五日御代官役松尾安太夫跡

文化十三子ノ十二月十一日年来出精相勤候二付、二石御加増被仰付候

文政十亥四月廿日内願休息、年来出精相勤候二付金三百疋被下置候

雪吹牛兵衛 又六 牛兵衛 八郎左衛門

廿石三人

文政十丁亥四月廿日父牛兵衛内願之通休息、家督無相違廿石三人扶持被

下、無役御留守番入、石沢忠太郎次

同十二丑大御番入

同十三寅十二月五日御祐筆見習

天保四巳四月廿日御右筆本役、御足充行五石式人扶持被下置候

同十亥正月廿九日御先武具奉行中野郡兵衛跡、大御番組へ被入候、是迄

被下置候御足充行以後不被下候

天保十一子五月十一日御掃除奉行大谷武兵衛跡

同十四卯二月十六日御代官役中村惣右衛門跡被仰付

嘉永三戌十一月廿九日休息

雪吹亘 弥太郎 牛兵衛

〔士族〕

廿石三人

一嘉永三戌十一月廿九日父牛兵衛年寄候二付休息、家督廿石三人扶持無相

違被下置、無役御留守番組江被入

一安政二卯九月十一日御世譜方御右筆見習被仰付候

同三辰四月廿一日兼而文学心懸生徒も有之二付、昨年明道館御端立之折柄外塾之趣被仰付候処、引立方出精二付御袴地衣被下置候

一同四巳七月廿日、一昨年外塾之趣を以当分素読致世話候様被仰付置候処、内願之趣も有之二付願之通御免被成候

一同五午九月廿五日御右筆被仰付、御書院番組江被入候、右二付五石式人扶持御足充行被下置候

一同六未十一月廿九日弟鎌藏儀御咎二付遠慮伺之上指扣、十二月四日御免

一文久二戌四月十二日江戸詰出立、翌亥五月七日帰着

一元治元子七月九日江戸詰出立、丑四月七日帰

一慶応三卯二月十一日御趣意二付御役御免被成、御右筆年来相勤候二付御足充行之内三石被下置、御書院番組二其儘被指置候

一同年十二月廿二日御書院番其儘、御武具奉行弾薬方兼被仰付

一同年十二月廿八日弥太郎事牛兵衛卜改

一同四辰六月廿五日会征出立、十一月十三日帰、巳二月廿二日出張二付十

三両被下候

一同年八月五日弾薬預り小銃取扱方兼被仰付、六番之遊撃隊へ附属被仰付

一明治卜改元、十二月廿一日其隊之器械并弾薬差配方江被仰付、製造局江

附属被仰付

但遊撃隊江附属之儀ハ是迄之通相心得可申事

一同年六月廿一日牛兵衛事亘卜改

一同二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾貳俵六升被下

一同月廿七日御改革二付、当役被免 予備隊

一同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵二付、御賞典之内十石十ヶ

年令領授候事

一同年閏十月廿五日予備隊名目被廢非役卜唱

市嶋

市嶋源右衛門

式拾石三人

寛保三亥二月廿九日御徒目付^ら御取立、用水奉行瀬尾権八跡、御留守番

入、役料五俵被下置

宝曆四戌三月廿九日式石御加増、御代官萩原猪太夫跡

市嶋伝右衛門 熊之助

廿石三人

宝曆五亥十二月廿六日父源右衛門跡目無相違、大番入

明和五子九月廿二日相身躰末

同六丑十二月五日御土蔵番、御留守番入

天明八申七月廿五日御土蔵番相止^り候二付役義御免、大番入

寛政二戌八月三日御先武具奉行坂部熊之助跡

同四子八月廿五日御定之年数相満候二付順席

市嶋伝右衛門 百助

廿石三人

寛政五丑九月朔日父伝右衛門年寄候二付休息被仰付、家督無相違被下置、

大御番組へ被入、病身内願二付

文政五年六月廿五日休息被仰付

市嶋百助

二拾石三人

文政五年六月廿五日父伝右衛門病身内願二付休息、家督無相違被下置、

無役御留守番組へ被入

同十三寅五月廿五日大御番入

市嶋左太右衛門 源右衛門

二拾石三人

天保二辛卯八月五日兄百助養子被仰付、家督廿石三人扶持無相違、無役

御留守番へ被入

天保六未三月十六日大御番組入

市嶋百助

廿石三人

一弘化四未五月廿九日養父左太右衛門家督廿石三人ふち無相違被下置、無

役御留守番入

一嘉永七寅八月十六日心得違之趣相聞、不調法二付休息之上遠慮

市嶋立吉 実百助養家之弟 故源右衛門倅

廿石三人

一嘉永七寅八月十六日養父百助心得違之趣相聞不調法二付、休息之上遠慮

被仰付、家督廿石三人扶持被下置、無役御留守番組へ被入候、且又百助

妻きさ義も心得方不宜趣相聞候二付御叱、將又百助養父故左太右衛門妾

き七義も右同断、依之立吉伺之上指扣、同廿三日御免

一安政二卯二月廿日遠慮伺之上差扣被仰付、同廿四日御免、但養父百助出奔二付

一安政二卯三月十六日昨寒稽古中数多立合玉附二而御覽被遊、出精之段御沙汰二候

一同三辰五月廿二日右同断

一同四巳四月十四日年来剣術出精二付、此段御沙汰二候

一万延元申九月廿七日病死

市嶋源五郎 佐野内源五郎 実佐野内半右衛門弟

廿石三人

一安政二卯三月十六日横山昨寅年中も支合皆勤二付御褒詞

一同三辰五月廿二日同断二付御持御扇子二本被下置候

一同四巳四月十四日横山引続年々皆勤二付御褒詞

一同六未六月十四日横濱御警衛二付御雇詰被仰付、詰中三人扶持被下置候、

翌申四月十九日帰

一万延元申七月十一日右御雇詰被仰付候二付銀式枚被下置、且又右詰中臨時横濱へ出張二付御褒詞

一同年十一月十八日市嶋立吉病中願之通養子二被仰付、家督廿石三人扶持

無相違被下置、大御番無役組へ被入候

一文久二戌八月廿六日病死

市嶋半平 本多市次郎 百介 百左衛門 本多平五郎弟

〔士族〕

廿石三人

安政三辰五月廿二日昨年中出淵皆勤、就中寒稽古出精免状席二而出精之事二付、御持御扇子二本銀七匁被下置候、且又久野累年皆勤二付御持御扇子二本被下置候、銀七匁

一同四巳四月十四日出淵累年皆勤、殊二昨寒稽古数多之支合免状席二而出精二付、御持御扇子二本銀十匁被下置候

一万延元申十月十一日来酉年太田御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置候

一同二酉二月廿一日都合も有之二付支度出来次第出立被仰付、廿八日出立一文久与改元、九月二日太田御陣屋詰御免被成、且又是迄御移りを以慎被

仰付置候得共、道中并支度之儀も有之二付当分慎御免被成、御国表江罷帰候上是迄之通相心得候様被仰付候、同廿三日帰着、廿七日慎御免

一同二戌正月十六日当秋芝御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、右詰中御扶持方五人扶持被下置候

一同年四月三日太田御陣屋詰中横濱表江出張、失却も有之二付金百疋被下置候

一同年九月十六日市橋源五郎病中願之通養子二被仰付、家督廿石三人扶持無相違被下置、大御番組江被入候、同日兄平五郎願之上御陣屋詰御免被

成候

一同年十二月廿八日百介事百左衛門与名替

一元治元子四月十五日上京、八月廿二日帰着

一同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相働候段達御聴、御褒詞

一同年十一月十六日京都騒乱之節手負候二付、為御手当金五両被下置候

一同年十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下置候

一慶応元丑十一月廿九日大坂表へ出張、夫方神戸江、寅九月十五日帰

一同二寅四月廿二日堺町戦争一件二付、公儀を被下配当金千疋、且又手負

二付式両式歩被下置候

一同三卯十一月二日宰相様御上京二付、速見村迄御見送り出立之処、病氣

二付府中の方婦

一同月廿七日病身二付御留守番組江被入候

一慶応四辰五月十一日今般御趣意二付無役組二被仰付

一明治二己六月廿一日百左衛門事半平卜改

一同年八月十四日御広間当番勤被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾貳俵六升被下 予備隊

一同三年閏十月廿五日予備列名目被廢非役卜唱



石井甚平

貳拾石三人

貞享元子十月廿五日御大工頭方御取立、新番入、御破損奉行

正徳三己八月廿一日御普請方御作事吟味役被仰付

享保三戌五月廿八日御破損奉行被仰付

石井治左衛門 休息

廿石三人

享保十五戌八月十一日養父甚平休息、家督無相違、破損奉行其儘席甚平

跡新番入

寛延元辰八月廿九日大番入

石井甚平 病死

廿石三人

宝曆十辰二月廿九日父治左衛門休息、家督無相違、大番入破損奉行其儘

明和九辰十一月廿九日相身躰末

天明八申七月廿日御作事奉行御儉約懸り被仰付、破損奉行ハ御免被成

寛政七卯十二月十六日御台所頭長崎平兵衛跡、御留守番入

同八辰九月四日御定之年数相満候二付順席

石井甚平 岩太郎

廿石三人

享和三亥六月十一日父甚平跡目無相違、大御番入

文化十四丑年御番改勝山七右衛門跡

文政十亥十月廿五日用水奉行伴五郎左衛門跡

天保二卯六月廿五日御代官安本佐治兵衛跡

石井藤太郎

廿石三人

天保七申四月十一日親甚平家督廿石三人扶持無相違、無役御留守番組へ

被入

同八酉十二月十一日不慎之趣相聞候二付遠慮

同十二丑十月病死

石井治平 熊吉 次左衛門 治左衛門
廿石三人

〔士族〕

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一天保十二丑十二月十一日兄藤太郎病中願之通養子被仰付、家督廿石三人
ふち無相違被下置、御留守番組へ被入、御趣意ニ付相身躰末席被仰付候
一嘉永元申十二月廿八日御趣意ニ付先年相身躰末席江御下ケ被成候処、此
度思召を以以前之順席ニ被成下候

飯尾惣太夫 五郎助 初長野 病死
拾七石四人

飯尾¹ 此前代な二出、但長野与号

一万延元申六月廿六日御番精出御供皆勤ニ付羽織被下
一文久二戌十二月廿八日次左衛門与名替

元文四未九月廿九日父徳右衛門跡目被下、大番入
安永八亥七月廿五日番改野本喜三右衛門跡

一同三亥正月廿五日当亥年芝御陣屋詰被仰付候
一同年二月廿二日早速出立被仰付、廿五日出立

天明三卯八月五日家内取扱不参届ニ付役義御免被成、倅五郎助義同日御
国立退被仰付

一同年十二月 於江戸表治左衛門卜改

一元治元子三月十三日番改役吉倉鉄五郎跡、四月二日帰着

飯尾惣太夫

一同年十月十五日長征出立、丑二月二日帰

拾七石四人

一慶応二寅四月八日京都詰出立、十一月廿五日帰

天明八申三月五日養父惣太夫跡目無相違、大番入

一同年十一月三日御趣意ニ付役儀御免被成候

文政二卯九月廿九日養子鉄太郎義離縁、兼而取扱不宜ニ付遠慮

一同三卯十月廿一日新撰隊教授方被仰付、役御番組へ被入候

天保五年六月十六日御留守武具奉行荒川三郎太夫跡

一同四辰七月廿二日番改役本多平五郎跡被仰付、御留守番組江被入候

天保八酉五月廿九日休息

一明治卜改元、十月廿二日已来服忌令掛り同様相心得相勤候様被仰付

一同年十二月廿日為失却当年限銀壹枚之当りを以被下置候

飯尾惣太夫 鍋四郎事

一明治二己六月廿一日治左衛門事治平卜改

拾七石四人

一同年十一月九日今般御改革ニ付、御広間当番被廢候、依之役儀被免候事

一天保八酉五月廿九日養父惣太夫年寄候ニ付休息被仰付、家督拾七石四人

但席滝勘蔵次

扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一同月廿五日今般御改革、更給禄米四拾貳俵六升被下

一安政四己十月三日御持武具奉行被仰付、御書院番組へ被入候

一 優待列

一万延元申六月廿六日御番皆勤ニ付時服被下

一文久元酉三月十一日休息

飯尾静 金右衛門 金衛

〔士族〕

拾七石四人

一文久元酉三月十一日親惣太夫儀年寄候二付休息被仰付、家督拾七石四人扶持被下置、大御番組へ被入候

一同三亥九月十三日御右筆見習被仰付候

一元治元子九月廿八日江戸詰出立、丑四月七日帰

一同年十二月十二日当年江戸詰二付、本役同様相勤候様被仰付候

一慶応元丑三月廿一日詰中本役同様相勤候様被仰付置候二付、失却被下置候割合を以廿五石五人ふち同様二被成下候

但詰中失却割合之義ハ無減被下置候事

一同年閏五月十一日御趣意二付役御番組江被入候

一同年九月十一日御右筆本役被仰付、御足充行八石一人扶持被下置、御書院番組江被入候

一同三卯二月十一日御趣意二付御役御免被成、大御番組江被入候

但御役御免被成候二付、是迄被下置候御足充行之儀ハ已後不被下

候

一同年三月十日御上京御供出立、直二御警衛詰、七月十九日帰

一同四辰四月三日京都御警衛詰出立

一同年九月五日弾薬預り、小銃取扱方兼被仰付役御番組江被入、三番遊撃

隊江附属被仰付

一明治卜改元、同月十五日京都方帰

一同年十二月八日御上京御供被仰付、同十三日出立、巳三月六日中納言様

御供二而帰

一同月廿一日其隊之器械并弾薬差配方江被仰付、製造局へ附属被仰付

但遊撃隊へ附属之儀ハ是迄之通相心得可申事

一同二巳六月廿一日金右衛門事金衛卜改

一同月廿八日御広間当番勤被仰付、役義之義ハ被免候事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾壹俵三斗四升三合被下

予備隊

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同四未正月廿八日四等教授手伝

但数学掛り小学校勤

一十六等心得 年給六俵

一同年四月廿七日准十六等 同 九俵

一同年九月二日御改正二付右被免候事

一同五申五月金衛事静

飯尾²

※「剗札」末にあり

飯尾左八郎 金右衛門弟

万延元申十一月十一日御趣意通りも有之二付、来酉年太田御陣屋詰御番

士御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置候

一同二酉二月廿一日御都合も有之二付支度出来次第出立被仰付、廿九日出

立

一文久二戌四月廿四日帰、同三日太田御陣屋詰中横浜表江致出張候二付、

御褒詞之上銀壹枚被下置候

一同年十二月廿二日今般思召を以三人扶持御扶助被成下候、当戌廿六歳子
八月廿七日相止

一同四子正月廿日当春芝御陣屋詰被仰付、右詰中式人ふち御増都合五人ふ
ち被下置候、相止

一元治元子二月廿三日支度出来次第上京被仰付、滞京中式人ふち御増、都
合五人ふち被下置、三月四日出立

一同年四月十日当分滞京被仰付、五月廿二日帰着

一同年同月廿二日御番士御雇詰被仰付、右詰中式人扶持御増、都合五人ふ
ち被下置候

一同年十一月十六日京都騒乱之節相働候義一段之事ニ被思召、且手負候ニ
付為御手当金三百疋被下置候

一同二丑四月六日病死

一同年十二月賊徒一件出張、御手当式百匁被下

岩屋¹

御取立以前御記録ニ有之

岩屋源兵衛

拾八石三人

一万延元申十二月十六日出精相勤候ニ付御取立被成、役義其儘新番組へ被
入候

一文久元酉十二月十日御徒目付頭取被仰付、役中御役料式石被下置候

一同二戌九月二日役番其儘向御屋敷奉行仮兼帯被仰付候

一同年十二月廿三日来春中将様御船ニ而御上京被仰出候ニ付、陸通り御先

江出立

一同三亥三月十七日京方振りニ而江戸へ出立
同年六月十二日江戸表方引越着

一同年六月十二日今度御国表へ引越被仰付着

一同年十月十日今般中将様御上京被遊候ニ付、御道中御先為調鳥居本駅迄
罷越、十五日帰

一同年十一月廿九日御台所目付被仰付、但是迄被下候役料二石之儀ハ已後
不被下候事

一元治元子二月廿五日御泉水番被仰付候

一同年五月廿六日病死

岩屋槌之助

拾八石三人

一元治元子七月十七日親源兵衛家督拾八石三人扶持無相違被下置候、新番
組へ被入候

但右槌之助文久元酉五月朔日御徒へ被召出、御充行拾七俵三人扶
持被下置、右勤書御記録録揚帳ニ綴之

一同年八月九日於清源寺町大橋金兵衛罷在候元地所へ新規出来之家屋敷被
下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、其方長征、丑二月八日帰

一慶応元丑五月三日病死

岩屋政夫^{マサラ}

開平 織六 実小役人三沢為吉弟

〔士族〕

一拾八石三人

慶応元丑六月廿三日岩屋槌之助病中願之通養子ニ被仰付、家督拾八石三

人扶持無相違被下置、新番組へ被入候

但三沢為吉弟二付、無息中文久三亥六月廿六日太鼓役頭取被仰付

候二付、銀三百五拾匁ツ、年々被下置候、但是迄被下候失却金

之儀ハ以後不被下候事

同二寅三月十六日昨冬稽古納之節致大醉、心得違不調法二付遠慮被仰付候、四月六日御免

一同年十一月十一日京都詰出立

一同三卯四月四日御上京御供振替り帰

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付候

一同廿五日新番組二被仰付候

一同年十二月廿六日兄御徒組後拒役三沢為吉儀、先達而府中宿陣中不埒至極之儀有之、重キ御咎被仰付候二付遠慮伺之上差扣、廿九日御免

一同四辰正月廿五日山階宮様御附人被仰付支度出来次第上京、同廿九日出立

一同年三月六日右御附人御免被成、勝手次第罷帰候様被仰付、同十二日帰

一同年四月廿五日遊撃隊へ被入候

一同年九月十日御警衛詰上京、十一月十六日帰

一同治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同三年五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備二番隊

一同月十八日織六事開平卜改

一同四未十月十三日解隊

一同五申五月開平事政夫

岩屋²

※岩佐七九郎の後にあり

岩屋滝五郎

拾五石三人 外二式石役中御足

一弘化三年正月十五日小役人御台所目付同頭兼御扶持方兼方新番格江御取立被成下候

一同四未九月十二日公方様神田橋江御立寄御用掛り被仰付候二付御褒詞

一嘉永二酉十二月十五日今般御前様御引移御用掛り二付、桐御紋御上下一被下置候

一安政二卯六月廿二日松栄院様御広敷添役被仰付候

同年十一月廿九日病死

石沢

石沢沖右衛門

拾五石四人

享保六丑三月於松岡御取立

同七寅新番被仰付

石沢軍太夫 小八 繁作

拾五石四人

享保十五戌八月十一日養父仲右衛門休息、跡目無相違、新番入、病氣引休息

石沢忠右衛門

拾五石四人

寛延四未二月廿九日養父軍太夫病氣二付休息、跡目被下、新番入

宝曆十一巳十月廿九日御定之年数相満候二付大番入

明和四亥六月十六日家内取扱不宜二付御呵遠慮

天明六年十一月十一日御定之年数相満候二付相身躰末

石沢忠左衛門

拾五石四人

寛政三亥正月廿九日養父忠右衛門家督無相違、大番入

文化七年八月廿九日御定之年数相満候二付順席

文政元寅年九月四日玉葉奉行中村儀右衛門跡被仰付

文政四九月十六日御代官山田与五右衛門跡被仰付

文政九戌十二月十六日年寄候二付休息被仰付

石沢忠右衛門 忠太郎 仲右衛門

拾五石三人

一文政九戌十二月十六日父忠左衛門休息被仰付、家督拾五石四人扶持無相

違被下置、無役御留守番組へ被入

一天保八酉九月十一日他領へ罷越鳥殺生致し心得違二付、忝人扶持御取上

新御番組へ御下ケ閉門被仰付

一安政元寅十二月廿八日忠右衛門と名替

一文久二戌九月廿五日養子万太郎義不埒之仕業有之趣相聞候二付蟄居被仰

付候、且又其方儀も締り方不参届趣相聞候、不調法之事二候、依之遠慮

被仰付、十月十五日御免

一同年十一月廿日眼病二付内願之通休息

石沢友十郎 久吾郎

拾五石三人

文久二戌十一月廿日親忠右衛門眼病二付内願之通休息被仰付、家督拾五

石三人扶持無相違被下置、新御番組へ被入候

一同三亥十月十三日中将様御供二而上京

一子四月廿三日同断帰

一元治と改元、六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、

依之御酒被下置候

一同年十月十六日京詰出立、十二月帰

一元治元子十二月賊徒一件二付出張、御手当銀三百匁被下置候

一同二丑正月廿五日上京、五月七日帰

一慶応二寅十一月十一日京都詰出立

一同年十二月友十郎与名替

一同三卯四月四日御上京御供振替り帰

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同年十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之处、御模様二付途中方

引返帰

一同四辰正月九日急々上京、四月廿日帰

一同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一同年九月十日御警衛詰上京、十一月十六日帰

一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾五俵四斗五升被下

一同三年六月廿二日第一大隊三番小隊江被入候事
一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵
一同四未十月十三日解隊

岩佐¹

岩佐六郎左衛門

拾五石三人

寛延元辰八月十一日御取立、新番入、荒子頭御免

岩佐長左衛門

貳拾五石五人

寛延三年六月五日父六郎左衛門休息、為家督其身へ被下候、御徒目付御
擬作其儘被下新番入、尤親へ被下候御擬作ハ上ル

同年六月廿五日御留守番入、四石御加増、都合廿二石三人、江戸御屋敷
奉行大久保利助跡、江戸詰中外二三人フチ被下、詰中ハ御目付方御用も

可相勤旨

宝曆五亥四月七日三石二人御加増、定府被仰付

同十二年正月廿八日役義御免、大番入御国引越

同十四申三月廿九日御掃除奉行都筑三郎左衛門跡、御留守番入

明和三戌五月廿三日御代官高間六郎跡

安永三年六月十四日御預所御代官高間九兵衛跡

同年十月十七日相身躰末

岩佐六左衛門 病死

廿五石五人

安永九子十一月廿一日養父長左衛門休息、家督無相違、大番入相身体末
天明四辰五月廿四日御右筆御書院番入順席

岩佐弁藏 弁助

拾八石三人

天明八申十一月五日父六左衛門跡目幼年二付七人扶持被下、御留守番入
寛政二戌二月十六日十五歳罷成候二付、御定之通御擬作廿石五人扶持御
直被下大番入

文化三寅六月十六日二石貳人扶持御取上、遠慮

同七年六月三日病死

岩佐玄珪 源助事

百石

一文化七年七月廿五日岩佐弁藏病中願之通養子被仰付、跡目無相違被下置、
是迄医師心懸候趣二付表御医師并御針醫師兼帯被仰付、尤以後家業二被

仰付候

一文政十亥江戸詰被仰付、四月十二日出立

一同八酉正月十六日奥御医師被仰付候

一同十二丑十月九日御匙医師被仰付候

一同年江戸詰被仰付、十月十九日出立

一天保三辰十二月十六日貳石壹人扶持御足充行被下置候

一同七申江戸詰被仰付、八月廿三日出立

一 同年十一月廿日江戸詰中御国渡りニ而五人ふち被下置候
 一同九戌年江戸詰被仰付

一同十亥五月九日出精相勤候ニ付御足充行式石老入ふち御加増、都合廿石
 四人ふち被成下候

一同十三寅秋詰被仰付、八月三日出立

一 弘化三年江戸詰被仰付

一 嘉永元申九月十五日出精相勤候ニ付、新知百石被下置候

一同二酉江戸詰被仰付、九月廿二日出立

一同五子十二月廿四日種痘御端立以来心配行届候趣相聞候ニ付、帯地一被
 下置候

一同六丑朧月五日眼病ニ付江戸詰并步行御供願取次御免被成候

一 安政三辰四月十五日眼病相煩其上老年ニ罷成候ニ付、内願之通隠居被仰
 付、且又年来相勤候ニ付御目録御召御羽織一被下置候、同日隠居被仰付
 候ニ付折々伺御機嫌罷出候様被仰付候

岩佐玄珪 又玄

〔士族〕

百石

一 安政三辰四月十五日親玄珪内願之通隠居被仰付、家督百石無相違被下置、
 表御医師被仰付候

一同年十二月廿八日玄珪与名替

一同四巳四月廿一日為修行詰江戸表江出立

一同七申三月廿八日帰着

一同年閏三月五日奥御医師被仰付候

一万延与改元、七月廿九日此度長崎表へホンヘン与申蘭医罷越候ニ付、為

修行罷越候様被仰付出立

一文久二戌四月十七日帰着

一同年五月廿八日御匙医師被仰付候

一同三亥正月五日江戸詰出立

一同年三月廿三日御前様御供ニ而帰着

一同年九月三日長崎表ニボードイン与申者蘭医在留ニ付為修行被遣候

一元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一 慶応元丑五月朔日長崎表へ罷越医術厚致修行候様被仰付、同十二日出立、
 十一月廿八日帰

一同二寅四月六日医業格別宜、且又先年来他国修行等専致精励候ニ付、御
 足高五十石被下置候

一同年十二月十一日先年拝領屋敷指上候処、内達之趣も有之二付、浜町裏
 於地所式百坪余被下置候

一同三卯十一月二日宰相様御上京御供出立、巳三月三日為立帰着

一同四辰三月十二日長詰被仰付候ニ付勝手次第家内引越被仰付

一 明治ト改元、九月十七日医業格別宜其上出精相勤候ニ付、出精之訳を以
 御広敷御用人次席ニ被仰付

一 巳正月廿四日以御雇医学校取調御用掛被仰付、急々下坂、蘭医ホーテイ
 ンへ引合可申事

一同二巳三月二日浜町裏抱屋敷当分御用ニ被仰付

一同月十二日東京江出立

一同年五月四日徴士学校権判事被仰付、但医学所御用可為専務之事、御執匙
 六月十九日医学館掛り也

一同年七月十九日弁官伝達所ニおゐて左之通

任大学校少丞

右宣下候事

一同年八月廿七日浜町裏屋敷当分御用ニ被仰付候事

一同年十一月廿七日願之上御国江罷越十二月五日大坂江出立、夫ヨリ東京

一同月 御改革ニ付、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同年十二月十八日今度医学所被定候ニ付、是迄御用ニ相成候家屋敷御返

シ被成候

但医学所出来迄ハ是迄之通可相心得事

一同三年二月廿三日浜町裏屋敷昨年来養病院御用相成候ニ付金七千疋被下

候事

一同年三月廿二日治水ノ為浜町裏屋敷御用地ニ被仰付候事

但代り地之儀ハ追而可被下候事

一同月十九日於東京左之通被仰付 大学権大丞

叙正六位 右宣下之事

一同年四月十八日大安寺返上之里坊地所屋敷地ニ被下候事

一同月十九日建物為引料御国札百貫匁被下候事

一同年七月廿日大坂方着、其後東京江出立

一同年九月廿六日家内不残東京江出立

一同未正月十四日 任大丞 叙従五位 右宣下之事

一同年三月廿七日拜地之内建物当分御用ニ相成候事

一同年七月廿九日任文部大丞兼文部中教授

一同五申正月廿七日任大侍医兼文部少丞

岩佐²

岩佐弥五太夫 休息

拾七石三人

明和九辰八月十日御徒組頭方御取立、御留守番入、御土蔵番小野勘兵衛
跡

岩佐弥五太夫

拾七石三人

安永四未九月廿九日父弥五太夫休息、家督無相違、大番入

天明八申七月廿五日御台所頭、御留守番入

寛政五丑九月朔日、用水奉行上坂利左衛門跡

同八辰九月四日御定年数相満候ニ付相身躰末

同九巳九月廿五日御役御免、大御番入

文化六巳十月廿日御花畑絵奉行都筑三郎左衛門跡、御留守番入

同十酉正月廿五日休息

荒木源兵衛 岩佐助七 弥五太夫

拾七石三人

文化十酉正月廿五日養父弥五太夫年寄ニ付休息、家督無相違、無役御留

守番入

文化十二乙亥三月五日大御番入

天保十亥三月十六日倅源蔵行状不宜ニ付、昨年願之上御国為立退候所、
其方儀兼而締り方不参届趣相聞候ニ付遠慮被仰付

荒木密太郎

拾七石三人

弘化二巳年正月廿五日父源兵衛家督無相違、無役御留守番入

同年八月廿九日不埒至極之趣有之二付御暇被下、弟栄蔵五人扶持御徒江被召出候

岩佐³

御取立以前御記録ニ有之

岩佐五郎右衛門

拾八石三人

一安政三辰十月十三日御取立被成新番組へ被入、役儀之儀ハ御免被成候

一同年同月十七日病死

岩佐努力^{ツトメ} 十助

拾八石三人

一安政三辰十二月八日親五郎右衛門家督拾八石三人扶持無相違被下置、新

番組江被入候

一文久元酉三月廿五日元席へ被入候

一同三亥十月十三日中将様御供ニ而上京、子四月廿三日同断帰

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ思召候、依之御酒被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月二日帰

一慶応二寅十一月十二日京都詰出立

一同三卯四月四日御上京御供振替り帰

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同年十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之処、御模様ニ付途中方引返帰

一同四辰正月九日急々上京、四月廿日帰

一同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張ニ付十三

兩被下候、外ニ三千疋

一明治二巳十一月十二日十助事努力ト改

一同年同月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗五升被下

一同三午四月廿五日戊辰北越出張各所戦争拔群尽力ニ付、御賞典之内永世

十石令頒授候事

一同年五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

一同年十月三日任権少属、但監正寮勤

一同月九日是迄居住罷在候屋敷地坪地ニ被成下候事

一同年十二月十二日権少属心得勤 年給十九俵

但監正寮出仕

一同四未二月十二日藩庁一集相成候ニ付、御改正中不及出仕候事

一同年六月朔日御改正ニ付免職

岩佐⁴

岩佐平太夫

拾八石三人

天保八酉七月五日新御番組へ御取立被成、御広敷添役
同十亥五月十一日御泉水番大谷武兵衛跡

岩佐七九郎 小平太事

拾八石三人

一天保十二丑四月五日親平太夫年寄候ニ付休息被仰付、家督拾八石三人ふ
ち無相違被下置、新御番組江被入候

一嘉永五子六月廿九日御供勤被仰付候

一文久二戌閏八月廿日御台所目付被仰付候

一元治元子二月廿五日御借米方渡辺庄助跡

一同年十二月賊徒一件御留守御用、御手当百匁被下

一同二丑四月十一日御台所目付并幼儀師介兼帯被仰付、年々銀三枚ツ、被

下置候

一慶応二寅七月十九日病死

岩佐平造 溪藏

拾八石三人

〔士族〕

慶応二寅九月九日親七九郎家督、拾五歳未滿ニ付、御定之通五人扶持被
下置、新番組江被入候

一同三卯正月十六日拾五歳罷成候ニ付、御充行拾八石三人ニ御直シ被下候

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付候

一同廿五日新番組ニ被仰付候

一同四辰五月十一日今般御趣意ニ付無役組ニ被仰付

一同月廿日無役新番組江被入候

一明治二己八月十四日予備隊被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同三年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年十月三日是迄居住罷在候屋敷地拜地ニ被成下候

一同年十一月十日拜地四十一坪ニ而狭地ニ付、坪数相当之拜地振替願指出

候処、榎並彦作屋敷前埋立更百八十式坪被下候事

一同年十二月 予備一番隊 年給式俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

一同五申七月溪藏事平造



石田一栄 一恵 隱居後梅翁

拾式人扶持

一万延元申五月十四日大奥御用可被仰付儀も可有之ニ付出府被仰付候、依

之出府中御医師同様之御取扱被成下、詰中御扶持方五人扶持、外ニ留守

扶持三人扶持被下置候、但失却金拾兩被下置、道中諸渡り物御医師同様

被成下、且又御貸人壺人御渡被成候、廿六日出立

一同年八月廿五日祖父一恵御用向相勤候、以来家業厚相心得今般大奥御用

ニ而出府被仰付候処、格別御用弁宜敷相勤候ニ付、別段之御評議を以其

身一代被召出、御扶持方七人扶持被下置、御産科被仰付、惣御医師末席

ニ被成下候、御用之節ハ奥御医師同様之御取扱ニ被成下候

一同年九月廿日大奥為御用出府被仰付、今度罷帰候ニ付為御手当金七兩被

下置

一十月十一日帰着

一同年十二月廿五日其身一代御医師二被召出、惣御医師末席二被仰付候処、御絵師次席二被仰付候

一元治元子十二月賊徒一件御留守御用、御手当銀百匁被下

一慶応元丑十二月廿八日近年度々格別御用弁相勤候二付、奥御外科格次席

二被仰付御扶持方五人ふち御増、都合拾式人扶持被下置候

但今度御増被下候五人ふち之儀ハ其身一生被下置候

一明治元辰十二月七日一惠事一栄ト改

一同二巳五月四日内務局幹事可為取扱旨

一同年九月廿一日及老年候二付隠居被仰付、勤功有之二付俸一策被召出、月俸五口被下候

一同年十月十日一栄事梅翁ト改、未正月四日病死

石田一策 一也

〔士族〕

五口

一明治二巳九月廿一日父一栄及老年候二付隠居被仰付、同人勤功有之二付

被召出月俸五口被下、内務局幹事取扱被仰付候事

但分科ヲ以産科可相勤候事

一席榎並彦作次

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米十九俵三斗六升五合

一同三年六月四日医学所病院詰被仰付、役義之儀ハ被免候事

但十五等

一年給ハ無之事

一同年七月三日宿浦安嶋浦辺御用地内二而菓園相端立度二付、右地所之内

一万坪御渡願之通被仰付

一同年十二月十七日病院詰被免候事

但支配之儀ハ従前之通

一同四未三月廿三日昨年相願候菓園地返上仕度願之通被仰付候

一同年六月廿二日其身一代之名目被指除候事

一同年十月七日御家従御雇被仰付、右御雇中三人口被下、東京滞在中八五

級之御取扱被成下候事、廿二日出立

一同五申八月晦日御書下ケニ而免職

石田²

石田平次 病死

百石

延享三寅七月九日於江戸被召出新知百石被下、大番入、如此御番御使者

可相勤旨、定府

宝曆十辰於江戸出奔 此義相糺候処曾而無之事

石田藤五郎 病死

百石

宝曆十一巳九月八日養父平次跡知無相違被下、大番入

此後代ふニ出、但福山与改

岩崎

岩崎巖 与一右衛門

廿三石五人

一天保九月十九日かとか

慶応二寅十月廿二日今度御趣意ニ付被召出、新番並組ニ被仰付、御充行之儀ハ廿三石五人扶持被下置、寺社町役所調役被仰付、且又席之儀ハ家督順ニ被仰付候

一同三卯十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同月廿五日新番並組被仰付

一同四辰五月十一日御趣意ニ付役中御留守番組江被入候

一明治卜改元、十二月五日近來役所向御用多ニ付小者給被下置候

一同二巳二月十七日社寺局庶務方江被仰付、月給十式俵小者給ハ不被下候

一同年六月廿日与一右衛門事巖卜改

一同年十月七日引立方被仰付候事

一同年十一月廿一日今般御改革ニ付、役義被免

但付送り之義ハ追而御指図相待可申事

一同日民政局権少属被仰付候事

一同月廿五日今般御改革、更給禄米五十俵壹斗五升被下

一同三年正月十七日民政寮権小属被免、優待列ニ被仰付候事

一同月十九日民政寮権少属被仰付候事、但金館方

一同年十二月十二日権少属心得 年給十九俵

但民政寮出仕

一同四未四月廿四日病死

一慶応四辰七月七日今度越後表へ御出陣被仰出候ニ付、補兵隊被仰出張

被仰付候処、難渋之訳も有之ニ付為御手当銀七百匁被下置候

一同年八月御備入被仰付

已八月十四日予備隊卜唱、十一月廿八日修業隊卜唱

一明治三年六月二日子弟修業隊解隊被仰付候事

一同四未六月十三日父巖家督被仰付、給禄従前之通被下候事

米五拾俵壹斗五升

一同年十二月五日病身ニ付隠居

岩崎但藏 岩路維平弟 明治三年廿四歳

〔士族〕

一慶応元丑十月廿九日大平勘次郎塾手伝同様

一同四辰七月七日今度越後表へ御出陣被仰出候ニ付、補兵隊被仰出張被

仰付候処、難渋之訳も有之ニ付為御手当銀七百匁被下置候

一同年八月御備入被仰付、已八月十四日名目予備隊卜唱、十一月廿八日修

業隊卜唱

一明治三年二月廿二日小学授講被仰付、役中米拾式俵ツ、被下候事

但四月三日方十俵高二被定、但修業隊其儘

一同年六月二日子弟修業隊解隊被仰付

一同四未九月二日御改革ニ付、免職

一同年十二月五日養父慎一郎病身願隠居立替 岩路維平弟養子願濟

一米五拾俵壹斗五升

岩崎

岩崎慎一郎 巖俸 明治三年廿三歳

今川

今川七左衛門 病死
拾五石三人

明和五子四月五日荒子頭方御取立、年来相勤候二付御取立新番入

今川左次右衛門 休息

拾五石三人

明和六丑正月廿日父七左衛門跡目無相違、新番入

今川吉兵衛

拾五石三人

天明二寅十二月十六日養父佐次右衛門休息、家督無相違、新番入

今川源助

拾五石三人

文化三寅五月五日養父吉兵衛休息、家督無相違、新番入

同五辰八月廿九日御定之年数相満、大御番入

文政二卯七月病死

今川七左衛門 与三吉 猪太夫

拾五石三人

一文政二卯九月十一日養父源助跡目無相違、無役御留守番組へ被入

一同五年十月二日大御番組へ被入

一文政二卯正月廿八日御留守武具奉行星野織之助跡被仰付、御留守番組へ

被入候

一同六未二月廿九日御定之年数相満候二付、相身躰末席二被仰付候

一万延元申十一月廿日御祈祷奉行宮下平四郎跡被仰付、大御番組へ被入候

一文久二戌十一月七日此度上京御用捨相願候二付他番へ被入候

一同年十二月十六日年寄候二付休息

今川益太郎

拾五石三人

〔士族〕

安政六未六月十四日横浜御警衛二付御雇詰、支度出来次第出立被仰付、

詰中三人扶持被下置候、翌申四月十九日帰

一万延元申七月十一日右御雇詰被仰付候二付銀式枚被下置、且又詰中臨時

横浜へ出張二付御褒詞

一文久二戌十二月十六日親七左衛門年寄候二付休息被仰付、家督十五石三

人ふち無相違被下置、大御番組江被入候

一同三亥正月廿五日当春芝御陣屋詰被仰付、四月六日出立

一元治元子六月廿九日帰着

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一慶応元丑六月十一日家屋敷無之二付近來小道具地面借地致し居候処、度

々出水二而居宅大破等相成居住難義二付、百軒長屋之内年賦上納二而被

下置候様相願候、依之憐愍を以御長屋式軒分拝借被仰付、来ル巳年御趣

意銀上納相済候上、家銀九貫三百拾九匁八分三厘之分、翌午年方卯年迄

拾年賦上納二而被下置候

一同年十一月晦日大坂表江出張

一同二寅九月十八日帰、同月朔日於御国表弟源重郎御咎被仰付候二付遠慮

伺差扣、四日御免

一同三卯十月十九日御警衛増詰上京

一同年十一月十六日於御国表弟源重郎御咎二付遠慮伺之上指扣、十八日御免

一同四辰二月廿九日京_方帰

一同年閏四月七日上京、九月十八日帰

一明治二巳三月四日東京江出立之處、御呼戻二付同日帰

一同年四月九日中納言様御供東京江出立、六月十二日御人減二付帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾五俵四斗五升被下

一同三年五月廿三日弟源十郎不束之所業二付退身被仰付、遠慮伺之上指扣、

同廿八日被免

一同年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年十月三日下馬御門内ニ而百七十四坪拜地被下候

一同年十二月 予備二番隊 年給式俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

岩路

岩路彦太夫 元与力也

廿三石五人

一文政十三寅十月二日かとか

一慶応二寅十月廿二日今度御趣意ニ付被召出、新番並組ニ被仰付、御充行

之儀ハ廿三石五人扶持被下置候、且又席之儀ハ家督順ニ被仰付候

一同月廿六日御城代方御改正掛り被仰付候

一同年十一月廿九日御城代方調役被仰付

一同三卯十月廿六日年寄其上病身ニ付内願之通休息被仰付、且又年来出精

相勤候二付銀三枚被下置候

岩路維平

〔士族〕

廿三石五人

一 慶増安太夫稽古所年来致皆勤候二付金百疋被下置候

一 嘉永五子十一月十四日御城代与力御雇勤被仰付、五人扶持被下置候

一元治元子十月二日御先与力江御入替被仰付候

一同年同日小倉表江御出陣ニ付酒井与三左衛門手ニ而出張、翌正月七日帰

一慶応二寅二月朔日浪士一件ニ付右同人手ニ而敦賀江出張、同月九日帰

一同年十月廿二日御趣意ニ付御雇勤御免、但与力新番並組卜成

一同三卯七月十二日第一級ニ相進候ニ付、花葵御紋御印被下置候

一同年十月廿六日親彦太夫年寄、其上病身ニ付内願之通休息被仰付、家督

廿三石五人扶持無相違被下置、第二遊撃隊へ被入候、且又当冬京都御警

衛詰早速出立被仰付

一同月廿九日御警衛詰罷越候処宰相様御上京御道中御供被仰付、十一月二

日出立

一同四辰二月晦日帰

一同年四月廿五日遊撃隊へ被入候

一同年閏四月七日上京、九月十五日帰

一明治二巳二月廿九日上京、三月六日中納言様御供帰

一同年四月九日中納言様御供東京江出立、六月十二日御人減二付帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾俵壹斗五升被下

一同三年三月廿三日宿浦辺江土着開墾仕度、同所御用地之内五千坪斗御渡

願之通被仰付

但地所之儀ハ民政寮江可相達事

一同年五月廿四日第一大隊一番小隊入被仰付候事

一同年九月二日檜原村江土着仕候ニ付拝地返上、家作之儀ハ富田亭次郎江

相對ヲ以相讓申度願之通被仰付

一同年十二月 予備一番隊 年給式俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

出浦¹

出浦宮内左衛門

百五拾石

於松岡物頭御相統後仮被仰付

享保七寅十一月九日御先物頭、役料百石被下

同八卯二月二日御役御取上、大番入

但シ寛文十三丑年家督之節百五拾石、其以後元禄十五午六月五拾石御

加増、都合本知式百石也

同十巳十月不調法有之、拜知之内五拾石被召上

出浦右近右衛門 戸右衛門

百石

享保十五戌六月廿五日父宮内左衛門思召有之休息、家督無相違

寛保二戌八月十三日五拾石被召上逼塞

延享四卯十月八日死

此後代ニ出、但小宮山与改

出浦²

出浦市郎兵衛 長太夫 病死

拾八石三人

天明五巳九月廿三日御徒目付方御取立、御留守番入、靈岸島御屋敷奉行

御武具奉行兼帯、草尾庄兵衛跡

同七未十二月四日於江戸定姫様附御広式御用達

寛政元酉五月廿九日靈岸島御屋敷奉行御武具奉行兼帯

出浦久三郎 病死

拾八石三人

寛政元酉七月廿五日於江戸養父一郎兵衛跡目無相違被下、大番入

同三亥三月四日遠慮

同四子三月廿五日御台所頭并御台所目付兼帯、御留守番入

文化六巳八月廿三日靈岸島御屋敷奉行御武具奉行兼帯柳下小十郎跡

同七年六月廿七日病死

出浦市郎兵衛 熊次郎

拾八石三人

文化七年八月十八日出浦久三郎病中養子願之通跡目、拾八石三人無相違、

大御番入

文化九申御定之年数相満候ニ付相身代末

文政十三寅十一月十九日御広敷御用達針谷権九郎跡

天保二卯五月廿八日靈岸島御屋敷奉行御武具奉行兼草尾荒次郎跡

出浦源八郎

拾八石三人

一天保十一子二月十一日養父市郎兵衛病中願之通養子被仰付、家督無相違被下置、大御番組へ被入

一弘化元辰四月廿二日御広敷御用達小林又兵衛跡

一嘉永二酉四月廿一日中ノ郷御屋敷奉行被仰付

一同年十月十九日御上屋敷大奥向御普請御用掛り出精ニ付金百疋被下之、但先役中(マ、)

一嘉永三戌正月廿九日御書院番入、松栄様御附御広敷御用達西川八左衛門跡

一同四亥四月九日今般両御丸様神田橋御住居江御立寄之節、御用懸り出精

ニ付御褒詞

一同五子四月廿五日御住居御普請宜出来、御用掛り出精之段達御聴大儀思

召候、依之金式百疋被下置候

一同六丑二月九日松栄院様花之頃浜御庭へ被為入候御沙汰被仰出候ニ付、御用掛り被仰付候

一同年四月廿四日御書院番其儘、御内御右筆見習被仰付候

一同年十月七日御書院番其儘、御武具奉行被仰付候

一同七寅年三月廿三日御殿山御固御人数被差出候節、始末心配相勤候ニ付、御下緒壺掛金式百疋被下置候

一同年十一月廿二日御書院番其儘、松栄院様御附御広敷御用達并御勘定吟

味役兼被仰付候

一安政四巳九月十四日松栄院様御逝去ニ付、御附御広敷御用達并御勘定吟味役御免被成、御書院番組ニ其儘被指置候、且又是迄出精ニ付御褒詞

一万延元申七月四日御書院番組其儘、御屋敷奉行御作事奉行兼帯被仰付、且又御作事兼帯被仰付候ニ付、御役扶持三人扶持前々之通被下置候

一同年十一月十八日巢鴨御屋敷御普請出精ニ付、金三百疋別段百疋被下置候

一文久二戌四月七日先達而御持場替一件御用掛り出精之段御褒詞之上、銀壹枚別段金三百疋被下置候

一同年八月十三日御書院番其儘、靈岸島御屋敷奉行御武具奉行兼帯被仰付役中銀五枚ツ、年々被下置候

一同年 順席ニ被成下候

一元治元子七月廿九日御武具金長々致世話出精ニ付、金三百疋被下置候
一慶応四辰正月廿五日御趣意ニ付家内共御国表江引越被仰付、二月廿七日着

一同年四月七日御武具奉行彈藥方兼被仰付候
一慶応四辰四月廿九日家屋敷中ノ馬場元御花畑ニ於て、東ノ二番新規之家屋鋪被下置候

一同年八月五日御趣意ニ付御役御免被成、御広間当番被仰付候

一明治二巳九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革ニ付、為御慰勞金三十五兩被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給祿米三十九俵四斗三合被下

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

優待列

一同四未九月五日隠居

出浦力雄

銑之助 源八郎 碎 明治三年廿一歳

〔士族〕

元治元子二月十一日先年来英学修行被仰付候二付、修行中為失却月々金百五十疋ツ、被下置候

慶応元丑八月廿七日兼而英学修行被仰付、右修行中月々金壹歩式朱ツ、被下置候処、当節柄難渋之趣内達有之、依而御慈評之上月々三朱ツ、御増、都合式歩一朱ツ、被下置候

一慶応四辰五月廿五日洋学所句読師被仰付

一明治二巳三月十日三ノ丸御近習御雇被仰付、月俸三口被入候

一同月十五日銑之助事力雄ト改

一同年四月九日中納言様御供ニ而東京江出立、十二月廿八日帰

一同年九月廿四日從二位様御近習御雇被仰付候事

一同三年正月廿四日休暇中武学所小訓導勤被仰付候事

一同年二月七日東京江出立

一同年三月廿日御雇中給禄米十式俵ツ、被下置候事

但当月方御家禄之内方被下置候事

一是迄被下候三口自今不被下置候事

一同年五月十日休暇期月中ハ御近習勤之儀ハ被免候、寄宿内達之儀ハ御取

揚難被成候事

一同月廿四日大得業生申付候事

一同年十二月廿六日免本官、更大学出仕申付候事

但少助教准席

一同四未四月七日任大学少助教 但当事人方如此相達候

一同年七月廿五日任文部中助教

一同年九月五日家督

米三拾九俵四斗三合

一同年十一月九日文部省十等出仕

家所

家所惣左衛門

式拾石四人

享保二酉九月父宇右衛門跡目

此後代に二出、但新海与改

市川

市川齋宮 文昌弟 松平安芸守殿医師

拾五人扶持

一嘉永三戌十一月廿八日其身一代被召抱、御扶持方拾人扶持被下置、蘭学

方被仰付、御用人支配被仰付、外ニ翻譯御用も有之二付、為失却金式拾

五両ツ、年々被下置候

一同六丑九月十六日出精相勤候二付御扶持方五人扶持御増、都合拾五人扶

持被成下、其身一代之名目被相除候

一同年十月廿三日御用向之透二天文方山路弥左衛門殿御役所へ罷出、御同

人手ニ附蛮書和解御用相勤候様可被仰付旨、昨廿二日阿部伊勢守様方御

書付を以被仰付、為右御用相勤候内、公辺方為御手当一ヶ年銀廿枚ツ、

※「剝札」末にあり

被下置旨二候、尚又厚相心得相勤候様被仰付候

一同七寅年三月廿三日御殿山へ出張二付御下緒壹掛被下置候

一同年六月二日此表へ罷越、同八月九日御用洛二付出立

一安政三辰十二月晦日蕃書調所出役教授手伝被仰付候段、昨廿九日阿部伊

勢守様方御書付を以被仰出候、右相勤候内公辺方為御手当拾五人扶持并

壹ヶ年金拾両ツ、被下置候

一文久三亥十二月廿九日板倉周防守殿へ御聞番御呼出二而、開成所教授職

被仰付、勤中三拾人扶持御手当金式拾両被下置候、尤林大学頭林式部少

輔開成所頭取可談旨被仰付候

一元治元子六月廿七日江戸表方着、八月廿三日出立

一同二丑 公辺江被召出、二月廿五日今度公辺江被召出候二付、是迄被

下置候拾五人扶持失却金廿五両以後不被下候、依之剝切

儀谷

儀谷要助 要右衛門

〔士族〕

式拾三石五人

一天保十一子正月廿四日かく

慶応二寅十月廿二日今度御趣意二付被召出、新番並組二被仰付、御充行

之儀ハ廿三石五人扶持被下置候、且又席之儀ハ家督順二被仰付候

一同三卯正月九日什長被仰付候

一同年九月廿七日当冬京都御警衛詰被仰付、詰引揚支度出来次第致出立候

様被仰付、十月六日出立

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同年十一月十七日先般堺町御警衛向心配相勤候二付、御酒被下置候

一同年十二月十一日山階宮様為御警衛御附人被仰付

一同四辰二月晦日帰

一同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一同年八月廿九日彈藥預り小銃取扱方兼被仰付役御番組江被入、三番大隊

之三番小隊江附属被仰付

一明治卜改元、十二月廿一日其隊之器械并彈藥差配方江被仰付、製造局へ

附属被仰付候

但大隊江附属之儀ハ是迄之通相心得可申事

一同二巳四月五日東京江出立

一同年六月要右衛門事要助卜改

一同年八月七日今般器械方御改革二付、勝手次第罷帰候様被仰付、同月廿

三日帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五十俵壹斗五升被下

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

儀松

儀松修也 信太郎 儀兵衛

〔士族〕

廿三石五人

一嘉永七寅四月廿五日かく

慶応二寅十月廿二日今度御趣意二付被召出新番並組二被仰付、御充行之

儀ハ廿三石五人扶持被下置候、且又席之儀ハ家督順二被仰付候

一同三卯二月廿日信太郎事儀兵衛改
 一同年九月廿七日当冬京都御警衛詰被仰付、詰引揚支度出来次第致出立候様被仰付、十月七日出立

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同年十一月十七日先般堺町御警衛向心配相勤候二付、御酒被下置候

一同年十二月十一日山階宮様為御警衛御附人被仰付

一同四辰二月晦日帰

一同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一同年閏四月五日上京、九月十五日帰

一明治下改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳三月六日中納言様御

供帰

一同二巳六月廿日儀兵衛事修也下改

一同十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾俵壹斗五升被下

一同三年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

伊庭

伊庭藤次郎

廿三石五人

一元治元子五月廿日かとか

慶応二寅十月廿二日今度御趣意二付被召出新番並組二被仰付、御充行之

儀八廿三石五人扶持被下置候、且又席之儀八家督順二被仰付候

〔士族〕

一同三卯九月廿七日当冬、京都御警衛詰被仰付、詰引揚支度出来次第致出立候様被仰付、十月六日出立

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同廿五日新番並組二被仰付詰御免、十一月廿二日帰着

一同年十一月十七日先般堺町御警衛向心配相勤候二付、御酒被下置候

一同四辰五月十一日遊撃隊江被入候

一同年九月八日御警衛詰上京、十一月十六日帰

一明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立、十月十二日帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾俵壹斗五升被下

一同三年六月廿八日第一大隊四番小隊江被入候事

一同年十二月 予備一番隊 年給式俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

池村

御取立以前御記録二有之

池村啓十郎 半兵衛

拾八石三人

〔士族〕

文久二戌十二月十八日出精相勤候二付御取立被成、役儀其儘新番組へ被入候

一同三亥六月十三日今度御国表へ引越被仰付着

一同年九月廿七日中野文次郎家屋敷被下置候

一同年十二月十四日会所預り古物方記録方兼野村治右衛門跡被仰付、御勘

定所御長屋江被指越候

一元治二丑四月十一日御泉水番能勢角太夫跡被仰付、依之同所御長屋へ引

移候様被仰付候

一慶応二寅十月廿二日役新番組二被仰付候

一同年十二月五日会所預り古物方記録方兼渡辺藤太夫跡被仰付

一同三卯三月十六日荒子頭徳山三左衛門跡被仰付

一同日家屋敷是迄小十人組江上金之助罷在候家屋敷被下置候

但相当之修復料被下置候事

一同年五月十一日今般御趣意二付役中役御番組江被入候

一同四辰六月廿日財木奉行炭薪奉行兼被仰付、御留守番組江被入候

一明治二巳四月廿日今般御改革二付、役儀被免御広間当番勤被仰付

一同年五月廿七日御裏添役被仰付

一同年六月廿日半兵衛事啓十郎卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同三午正月十三日今般御改革二付、役儀被免候事

一同日御家従被仰付候事 但御裏添役勤

一同年七月二日御改正二付役義被免、優待列被仰付候事

一同年閏十月廿五日優待列名目被廢非役卜唱



伊笠仙衛 中山三郎助 仙助

〔士族〕

拾三人半扶持

一嘉永六丑正月廿九日親仙右衛門年寄候二付隠居被仰付、家督拾三人半扶

持無相違被下置、大御番組へ被入候

一安政四巳十一月廿日御製造方見習被仰付

一同五年十一月十六日出精相勤候二付銀貳百匁被下置候

一同六未五月廿九日家屋敷無之二付、当時御花畑御茶園地二家作致し罷居

候処、坂井権左衛門家屋敷地と御振替被下候様、家作建物之儀ハ相對二

致度、尤地子米之儀ハ御定之通年々上納致度願之通被仰付候

一万延元申十月廿日制産方へ被仰付候

一文久元酉七月五日御都合も有之二付制産方役所御預ケ被成候間、同所江

引越候様被仰付候

一同二戌九月十一日制産方吟味役御勘定吟味役打込勤被仰付候

一元治元子六月廿日製造局勘定方被仰付、是迄出精相勤候二付銀七枚ツ、

年々被下置候

一同年同月同日製造局中火之元之儀嚴重致取締候様被仰付候

一同年十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下

一慶応元丑九月廿八日御趣意二付役御番組二被仰付候

一同年閏五月廿日製造局勘定掛り彈藥方兼被仰付候

一同三卯八月廿五日御代官役上坂治部左衛門跡、御留守番組江被入

但軫役被仰付候二付、是迄年々被下置候銀七枚之儀ハ已後不被下

候

一同四辰四月廿九日大瀬御館預り松山理左衛門跡被仰付候

但小者給老入扶持銀三百匁ツ、被下置候

一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾五俵四斗壹升被下

一同年十二月九日三郎助事仙衛卜改

一同三午二月廿四日役儀被免、優待列二被仰付候事

但跡役被仰付候迄ハ従前之通可相心得候事、席羽中田鉄五郎次

一同日安本佐太郎元屋敷家作共被下置候事

- 一 同年閏十月廿五日優待列名目被廢非役卜唱
- 一 同四未十二月十五日元御口和田捨吉卜祿振替
- 一 米拾七俵七升壹合
- 一 同五申 伊笠卜改姓

三 福井藩士履歴
う

宇都宮

1

宇都宮勘解由

百人扶持

元祿三年五月十日於江戸被召出、五拾人扶持

正徳二辰九月廿六日新知五百石、御奏者、定江戸御留守御用、座不定

享保七寅四月十八日於江戸百五拾石御加増、都合六百五拾石

同十四酉十二月五日御用人

同十七子六月廿五日御役御免、席浦上岩次郎次

同年十二月十九日年寄其上病身二付当番御役御免、百人扶持被下、先規

之通年頭独礼、倅藤一郎儀も御流被下筈

宇都宮治部左衛門

六百五拾石

享保十八丑九月廿五日父勤ケ由跡無相違、百人扶持被下、座配父之通

寛延二巳正月十一日御留守居役磯野多宮跡

同年九月十五日如此御直シ被下

宝曆八寅十一月十六日御留守居御免

宇都宮弥三郎

六百五拾石

宝曆九卯三月廿二日父治部左衛門跡無相違、座配父之通

同十二年四月十六日御側御小姓支配

明和二酉十二月十五日御小姓支配御免

同三戌五月晦日御書院番頭御用人御奏者兼、笹治権右衛門跡

同五子七月六日御留守居雨森伝左衛門跡

安永九子五月廿七日御近習御勝手掛リ

天明四辰五月廿四日御勝手掛リ御免、御近習

同七未三月十四日御形合被相改万端御省略被成候二付、表へ被指出

宇都宮勘解由 弥三郎

七百石

寛政六寅四月五日父弥三郎家督無相違被下置、座配親之通被仰付

同八辰四月十一日御側役并御用人見習、惣御小姓支配

同九巳七月十一日御用人御奏者本役毛受伝三郎跡

同十二申年十月十五日御中老見習

享和三亥六月於江戸表御中老本役被仰付、御役席佐野内膳次

文化十三子正月十六日若殿様御傳役兼帯

文政六未八月五日年来出精相勤候二付、御足高五十石被下置

同九年戌七月十九日於江戸御足高五拾石御加増

文政十二己丑六月三日於江戸表御役御免被成、御国へ御返被成候

宇都宮弥三郎 弥三郎 東一

七百石

文政十二己丑十一月十六日親勘ケ由隠居被仰付、家督七百石無相違被下置、座配是迄之通り被仰付

弘化三年六月十六日身分をも不弁心得違之趣、依之蟄居被仰付、且又家柄を被思召倅綱太郎へ家督七百石被下置、座配是迄之通り被仰付、遠慮

被仰付

宇都宮務 ツトメ 綱太郎 勘解由 務 正

〔士族〕

七百石

- 一 弘化三年六月十六日親弥三郎心得違之趣有之蟄居被仰付、家柄を被思召
- 一 家督七百石被下置、座配是迄之通被仰付、遠慮被仰付候
- 一 嘉永元申九月十五日御側役并御用人見習被仰付
- 一 同三戌六月廿五日御小姓表御小姓支配并御用人、月番打込相勤候様被仰付候
- 一 同五子六月十八日江戸詰出立、同六丑八月十五日帰着
- 一 同七寅八月十四日御用人御そう者兼被仰付候
- 一 安政元寅十二月廿八日勘解由与名替
- 一 同年同月同日御備組調練懸り同様被仰付、為御用掛り申談候様被仰付候
- 一 同二卯七月三日御鵜支配被仰付候
- 一 安政三辰四月廿日此度黄門様御遠忌ニ付、於運正寺御廟御造営被仰出候
- 一 処、纒之日数ニ而宜出来ニ付太儀ニ思召候段被仰出候
- 一 同年五月六日御鷹支配被仰付、御鵜支配之儀ハ御免被成候
- 一 同四巳三月十二日調練懸り被仰付候
- 一 安政五年三月十八日永見多門地境ニ而四拾三坪余振替地被仰付候
- 一 同六未二月十四日江戸詰出立、同七申三月十五日御供ニ而帰着
- 一 一万延元申四月十一日御判物御朱印郷村高辻帳御改ニ付、昨年於江戸表御用掛り出精ニ付御褒詞
- 一 同年五月十四日御軍制御用掛り被仰付、海岸御備向之儀も同様相心得候様被仰付候
- 一 同年六月廿九日昨年江戸表御本丸炎上之節御人数被指出候処、出精ニ付銀壹枚被下置候
- 一 同年八月朔日御番割御軍帳御用掛り被仰付候
- 一 一文久元酉十二月十一日御書院番頭御用人御奏者兼御馬支配、嶋田近江跡被仰付候
- 一 同二戌三月廿日御軍帳定掛り被仰付候
- 一 同三亥二月十日殿様御上京御供、三月六日御供ニ而帰着
- 一 同年五月六日当亥年御參府御供被仰付候、八月十七日出立
- 一 同年同月廿二日御軍帳御変革ニ付掛り被仰付候
- 一 同年十二月江戸方御上京御供、子二月御供ニ而帰
- 一 元治元子五月十一日在京中身分不似合之趣相聞遠慮、六月朔日御免
- 一 同年六月十三日御番割御用掛り被仰付
- 一 同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰
- 一 慶応元丑七月廿四日御調御用有之ニ付右掛り被仰付候
- 一 同二寅八月六日御軍制掛り被仰付、尚又厚取調候様被仰付
- 一 同三卯正月廿二日今般御趣意ニ付御書院番頭御役名被廢候、依之御書院番頭之儀ハ御免被成候
- 一 同日当御時勢ニ付追々被仰出候義も可有之ニ付御趣意通相心得、御右筆部屋向之儀引受厚致心配候様被仰付、依之月番之儀ハ御用捨被成候、且又御軍帳定掛御免被成候
- 一 同年四月廿五日御趣意ニ付御馬支配之儀ハ御免被成候
- 一 同年七月廿六日今度於御座所御建繼御普請被仰出候ニ付、御用掛り被仰付
- 一 同年八月十二日殿様御縁談之儀久我三位中将殿御妹御縁組被仰合候ニ付、

御願御指出ニ付右御用掛り被仰付候

一同年十月廿一日今般宰相様御上京御供被仰付、十一月二日出立

一同年十一月十六日御書院番組并役御番組之内在京之面々仮支配被仰付候

一同年十二月十四日御在京中御側御用人勤被仰付候

一同四辰三月廿日京都方帰

一明治ト改元、十月五日今度幸姫様御簾中様御手許江御引取ニ付、御用掛り被仰付

一同月廿二日今般御趣意ニ付御右筆部屋被相止、依之御役義御免被成、御近習ニ被指置候、且又年来出精相勤候ニ付御取扱向是迄之通被仰付候

一同二巳六月勤解由事務ト改

一同年九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革ニ付、為御慰勞丸御紋奉書御綿入一ツ被下置候

一同年十一月十日長屋出火ニ付伺遠慮、同十七日被免

一同月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米式百四拾壹俵三斗式升七合下賜

一同月廿九日是迄之勤功ヲ以優待之列ニ被仰付候事

一同三年七月五日屋敷地東ノ方御用地被仰付候事

但坪数之儀ハ監正寮江可承合事

一同月十七日務事正ト改、然ル処伺直シ候様御移有之候処、務ト又々改

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役ト唱

一同日非役上席被仰付候

一同四未正月十七日非役上席触支配被仰付候事

一同年二月十四日触支配被免候事

宇都宮²

宇都宮九郎右衛門

百石

元文元辰十二月十一日狛市右衛門与力方被召出、拜知百石被下、大番入、席相身躰末与被仰出

同月十四日本名ニ相改候様被仰出

宝曆三酉六月十一日順席被仰付

宇都宮恒右衛門

百石

宝曆六子七月五日父九郎右衛門跡知無相違被下、大番入、九郎右衛門方相伝之家芸之儀無油断心掛候様被仰出候

宇都宮茂左衛門

百石

宝曆十辰八月十六日養父恒右衛門跡目無相違、大番入、相伝之家業無油断相心掛候様被仰付

宇都宮五郎助

百石

明和四亥十月廿日養父茂左衛門跡幼年ニ付拾人扶持被下、御留守番入、家芸可致出精旨

同五子九月大番入

同年十月十六日拾五歳罷成候二付、新知百石被下

宇都宮又左衛門 又左衛門 又右衛門 恒右衛門 死

百石

安永七戌七月十一日養父五郎助跡知無相違、大番入、家伝之鉄砲相心懸可致出精候

寛政六寅八月廿八日山奉行、御留守番組へ被入、筒井仁右衛門跡

同十年正月十六日御代官松山藤助跡

同十二申八月十一日家伝出精二付指南

享和二戌年七月四日御預所御金奉行、御留守番入、多喜田弥左衛門跡

文化元子三月廿日役義御免、大番入

宇都宮茂左衛門 勝太郎

百石

文化二丑年七月廿五日父又左衛門跡知無相違、大御番入、指南被仰付候
文政十二丑四月廿九日不慎之義有之、遠慮

天保五年六月十六日与内檢地奉行堀武左衛門跡

天保九戌三月廿日養子大蔵刀討合候始末、取扱方不参届趣二付遠慮

天保九戌ノ十月十二日病死

宇都宮五郎助 実太田三郎兵衛弟

百石

〔士族〕

一天保九戌十二月五日養父茂左衛門家督百石無相違被下置、大御番組江被入、流儀之鉄砲指南被仰付候

一安政二卯三月十四日御家流炮術之義追々被仰出有之候処、弟子引立厚致世話候二付御褒詞、依之御目録御紋御上下一具被下置候

一安政四巳四月廿二日数代指南相勤別而近来出精太儀二思召候、依之御目録銀五枚被下置候

一万延元申六月廿六日御番皆勤二付時服被下

一同年九月朔日此度御番割有之候処御番士人少二付、当分当務繰合七御番相勤候様被仰付候

一文久二戌正月十六日御書院番組へ被入候

一同九月廿九日農兵御端立二付、西尾十左衛門申談致教授候様被仰付、尤砲術所頭取之義ハ是迄之通被仰付候

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日御供二而帰

一同年三月廿日支度出来次第芝御陣屋詰被仰付、廿六日出立

一同年五月十一日公儀御役方御台場見廻等有之節、万端御不都合之儀無之様相心得応答致し候様被仰付

一同年同月廿八日取調御用も有之二付、右応答之義ハ御免被成候

一元治元子七月四日御陣屋方帰着

一同年十二月賊徒一件出張二付、御手当銀六百匁被下

一慶応二寅二月五日格式末之番外被仰付

一同年九月朔日諸物頭指添并農兵掛り、役配無息之面々階級打被仰出候二付、万端引請致世話様被仰付

一同年十二月十一日近来格別御用多相勤候二付、年々銀拾五枚ツ、被下置候

一同三卯十月廿一日御趣意二付流儀之師役御免被成候、且又同断二付砲術所頭取御免被成候、将又年来出精相勤候二付、席其儘銀拾五枚之儀も是

一同三卯十月廿一日御趣意二付流儀之師役御免被成候、且又同断二付砲術所頭取御免被成候、将又年来出精相勤候二付、席其儘銀拾五枚之儀も是

一同三卯十月廿一日御趣意二付流儀之師役御免被成候、且又同断二付砲術所頭取御免被成候、将又年来出精相勤候二付、席其儘銀拾五枚之儀も是

一同三卯十月廿一日御趣意二付流儀之師役御免被成候、且又同断二付砲術所頭取御免被成候、将又年来出精相勤候二付、席其儘銀拾五枚之儀も是

候

一同三卯十月廿一日御趣意二付流儀之師役御免被成候、且又同断二付砲術所頭取御免被成候、将又年来出精相勤候二付、席其儘銀拾五枚之儀も是

迄之通被下置候

一 同年十二月十五日御纏奉行被仰付

一 明治二己二月十六日今般御改革二付御役儀御免被成、御広間当番勤被仰付候、無程当番御用捨

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一 優待列

一 同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一 同五申正月廿五日給禄之内三拾俵九八分禄願之通

上坂¹

上坂与七

式拾五石五人

元禄十二卯正月養父為跡目被下

享保七寅年於江戸御腰物役被仰付、御書院番入

同年三月九日御切米五石御加増、都合廿五石五人扶持被成下

同年順席被仰付

同九辰八月廿六日御役御免、大番被入

同十一年四月十四日番改被仰付

同十三申三月廿一日山奉行被仰付、上三川太兵衛跡

上坂藤太夫

百石

享保十六亥四月五日養父与七跡目被下、大番入

宝曆三酉七月廿一日御旗本武具奉行杉山市右衛門跡、御書院番入

同九卯正月十六日御代官中村庄左衛門跡、御留守番入

安永十うし正月十五日新知百石

上坂与三右衛門

百石 役料百五十石

天明四辰八月廿日養父藤太夫休息、家督無相違、大御番入

寛政十年二月十六日山奉行宇都宮茂左衛門跡、御留守番入

文化二丑十二月五日御勘定所拝借奉行小木藤右衛門跡

文化六巳正月廿七日中領郡奉行武田平太夫跡、御役料五十石

同年八月廿日御奉行浅見忠右衛門跡、御役料都合百五十石

文化十酉八月死

上坂藤太夫 藤助事 小金吾事

百石

一 文化十酉十月十一日父与三右衛門跡目、家督無相違百石被下置、大御番

組へ被入

一 同十三子七月七日御附御小姓恒五郎様兼帯、若殿様御附御小姓頭取松田

善四郎跡被仰付候

一 同十四丑江戸詰罷越、文政二卯年帰着

一 同三辰年江戸詰、同五年年帰着

一 同六未年江戸詰

一 文政八酉江戸詰被仰付、三月廿八日出立

一 同十一子年江戸詰、同十三寅年帰着

一天保二卯年江戸詰被仰付

一天保三辰五月廿三日末之番外御時宜役被仰付

一同五午江戸詰被仰付

一同六未八月十二日江戸表^方帰着、同月十九日折返シ江戸表へ出立

一同八酉二月廿五日御使番役飯沼源左衛門跡被仰付、御役料百五拾石被下

置候

一同九戌二月五日御使番其儘御供頭兼被仰付候

一同年八月廿四日五日振り早駆ニ而江戸表へ出立、直ニ詰被仰付、同十二

丑年九月帰着

一同十三寅江戸詰被仰付、八月廿一日出立

一同十五辰江戸御供詰被仰付、正月十四日出立、同五月御供ニ而帰着

一同年七月十九日役義其儘御先物頭次席被仰付候

一弘化二巳江戸詰被仰付、三月廿一日出立

一同三年十月朔日御普請奉行川村文平跡被仰付

一嘉永元申五月廿八日御側物頭河村文平跡被仰付

一同年十二月三日御座所預リ被仰付

一同年十二月十日御泉水預リ被仰付

一同二酉閏四月五日御武具預リ被仰付候

一同三戌十一月廿日御武具御修復御用出精二付、御紋御上下一被下之

一同年十一月廿八日御旗奉行吉田五左衛門跡被仰付候

一安政三辰六月廿八日新番頭高村藤兵衛跡被仰付候

一同四巳二月十五日年寄候ニ付隠居被仰付候

百石

一安政四巳二月十五日養父藤太夫年寄候ニ付隠居被仰付、家督百石無相違

被下置、大御番組へ被入候

一同年四月廿五日遠慮伺之上指扣被仰付候処、御免被成候

一同年六月廿日御近習番被仰付、御書院番組へ被入候

一同五午八月廿九日詰出立

一同六未二月三日中将様御附御近習与被仰付候

一万延元申八月廿一日江戸詰出立

一同二酉正月廿二日御附御近習頭取定助被仰付候

一文久与改元、十月二日病氣ニ付願之上帰着

一同二戌閏八月朔日江戸詰出立

一同年閏八月十七日御附御近習頭取定介其儘御部屋附定介被仰付、詰中為

失却銀拾枚被下置、御供之義ハ御免被成候

一同三亥正月廿日中将様御附御近習頭取本役御部屋附兼被仰付、詰中為失

却銀拾枚被下置候

一同廿三日中将様御船ニ而御上京被遊候ニ付御供、三月廿五日右御供ニ而

着

一同年二月十九日去ル十七日於御使者先油小路殿へ行逢下馬可致之処、致

心得違候ニ付遠慮伺之上指扣、廿一日御免

一同年十月十三日中将様御供ニ而上京

一同四子正月九日御附御小姓頭取被仰付候

一元治元子四月廿三日宰相様御供ニ而帰京

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ思召候、依之御

- 一元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀六百匁被下置候
- 一同二丑正月高与名替
- 一同年二月十六日御出雲様御名ニ差合ニ付藤太夫与名替
- 一慶応元丑十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日今庄方引戻ニ付帰着
- 一同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月同断帰
- 一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰着
- 一同年八月廿五日御附御側向頭取見習被仰付、席末之番外格ニ被成下、御役料廿五石被下置候
- 一同年十月廿一日今般宰相様御上京御供被仰付、十一月二日出立、辰閏四月十六日帰
- 一慶応四辰六月九日上京、十月廿日為休暇帰
- 一明治卜改元、九月十七日御使番次席ニ被成下、御役料御増都合五拾石被下置候
- 一同年十二月十一日上京、巳三月六日中納言様御供ニ而帰着
- 一同二巳四月九日中納言様御供ニ而東京江出立、八月廿五日帰
- 一同年六月藤太夫事上下改
- 一同年十月四日從二位様内務局頭取被仰付候事
- 但等級月給当分是迄之通
- 同日当役ヲ以庶務取締被仰付候事
- 一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下
- 一同年十二月朔日東京江出立
- 一同三年二月朔日内務局頭取其儘庶務取締被仰付候事
- 一同日当職を以中奥御用取扱被仰付候事
- 一同年五月七日数年勤仕格別励精ニ付十式級俸給被成下候事、席御執匙次

一同年八月十五日内務局頭取被免、庶務主事被仰付候事

但内務局ニ而取扱来候御用向、從前之通可相心得事

一同年九月四日東京より帰

一同四未二月十六日執事被仰付候事

一同年四月五日当分年給 十式級四十三俵九升壹合式勺

一同年五月八日御家從被免候事

上坂²

上坂才右衛門

式拾石三人

正徳三巳七月廿八日御徒目付方御取立、御留守番入、此節御切米式石御

加増、御土蔵番被仰付、但築弥八郎跡

同五未四月廿一日御武具奉行被仰付、瀬尾彦兵衛跡

上坂甚五右衛門

廿石三人

最前御徒ニ被召出、其後御徒小頭

享保十一年四月五日於江戸父才右衛門年寄休息、跡目無相違被下、尤自

分御擬作上ル

同十四西七月十一日用水奉行牧与次兵衛跡

同十五戌十月廿五日御役御免、大番入

同十八丑三月十一日番改松永郷左衛門跡

同十九寅九月十五日与内檢地役山口作右衛門跡被仰付、御留守番入

元文元辰七月五日御預所御代官

上坂登右衛門

廿石三人

寛保三亥三月十一日養父甚五右衛門跡日被下、大番入

寛延元辰八月廿九日相身躰末

明和九辰十一月廿九日順席

上坂五右衛門 甚五右衛門 隠居

百石

天明四辰二月十六日養父戸右衛門跡目無相違、大番入

寛政二戌九月廿九日御右筆御書院番、御足擬作五石二人扶持

文化三寅七月廿五日御足擬作御加増

同五辰ノ十月十六日御右筆受込、御帳附支配井戸平左衛門跡

文化十一戌七月廿日出精ニ付新知百石

文政二卯四月七日於江戸表末ノ番外、御右筆受込諸事は迄之通

文政九戌五月十五日於江戸表御長柄奉行真杉小平次跡被仰付、御役料百

五拾石被下置

文政十三寅六月三日隠居

上坂五右衛門

百石

一文政十三寅六月三日親五右衛門隠居被仰付、家督百石無相違被下置、大

御番組へ被入

一同年七月廿九日御広敷御用達被仰付

一天保十二丑十二月五日山奉行吉田茂左衛門跡被仰付

一嘉永元申四月廿日御札所奉行岡谷弥右衛門跡被仰付

一弘化四未二月十四日御勘定拝借奉行御趣意金取扱、八田金右衛門跡被仰

付

一嘉永二酉五月廿五日役義其儘格式末ノ番外被仰付候

一同四亥九月廿日年寄候ニ付隠居被仰付候

上坂登也 五郎助

百石

一嘉永四亥九月廿日親五右衛門年寄候ニ付隠居被仰付、家督百石無相違被

下置、大御番組へ被入

一同五十一月五日御広敷御用達高橋吉兵衛跡被仰付、御留守番組へ被入候

一安政五午四月廿八日江戸詰出立

一同年十一月廿一日今般御家督御相統御引移御用相勤、御褒詞

一同六未六月八日津田条五郎留守中炮術所肝煎始頭取共申談相、弟子引立

方厚申談候様被仰付候

一万延元申五月廿五日御金奉行被仰付候

一文久二戌三月十一日道奉行林鉄之進跡被仰付候

一同三亥二月十二日番頭引纏上京、三月廿五日中午將様御供二而帰着

一元治元子七月三日京都へ出立、八月廿四日帰着

一同年九月廿二日京都詰被仰付、詰中堺町御門御固大炮方被仰付、早速致

出立候様被仰付、十月上京、十二月帰

一元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀六百匁被下置候

一同二丑正月廿五日大砲方御免、敦賀表江出張被仰付、同廿七日出立、三月朔日帰

一同年三月五日御書院番組江被入、役儀之義ハ御免被成候

一慶応卜改元、五月廿九日御書院番其儘、御広敷御用達被仰付

一同年閏五月十八日御広敷御用達元席ニ被仰付

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同四辰四月十日大奥女中引纏上京、九月廿二日帰

一明治卜改元、十一月十日幸姫様為御迎上京、同廿九日帰

一同二巳二月十七日御役名御裏庶務方執事ト被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同年十二月七日五郎助事登也ト改

一同三午正月十三日今般御改革ニ付、役儀被免候事

一同年 優待列

一同年閏十月廿五日右名目被廢非役ト唱

一同五申二月廿五日老年ニ付倅廉哉へ家督

上坂廉哉

一

上坂確^{カタシ} 金三郎 廉之介 廉哉 明治三年廿三歳

文久三亥二月十二日荒川十右衛門引纏上京

一元治元子 上京出立、八月廿三日帰着

一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張、三月朔日帰

〔士族〕

一慶応与改元、十二月廿八日廉之介与名替

一同二寅三月十一日二番之補兵隊へ附属被仰付候

一同年四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰

一同年九月廿七日御趣意ニ付補兵隊御免被成候

一同四辰八月廿二日越後表へ早速出張被仰付候、勤向之儀ハ於出張先軍事

惣奉行へ相伺候様被仰付、同廿六日出立、巳二月六日帰、同廿二日右出張ニ付御手当五兩被下候

張二付御手当五兩被下候

一明治二巳二月廿四日中納言様供奉御供被仰付、詰中一番遊撃隊御雇被仰付、御雇中月俸三口被下置候

付、御雇中月俸三口被下置候

一同年四月九日中納言様御供東京江出立

一同年九月廿四日滞在中奥詰御雇被仰付候事、但遊撃隊御雇之儀ハ被免

一同年十月廿三日帰藩申付候事、十一月十三日帰

一同年十二月五日廉之介事廉哉ト改

一同三午五月廿四日第一大隊六番小隊御雇被仰付、給禄米十俵被下候事、但年給三俵

但年給三俵

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵 十式俵高

一同四未十月十三日解隊

一米六拾表四斗三升六合

一同五申二月廿五日親登也老年ニ付隠居家督

一同五申五月廉哉事確

上坂³

上坂利左衛門 松岡

貳拾五石五人

正徳三巳九月廿六日御取立

享保七寅年別段之趣有之順席被仰付

同年十月十六日御切米拾石貳人扶持御加増、都合廿五石五人扶持被成下

上坂利左衛門 権九郎

廿五石五人

享保十一午三月廿一日父利左衛門カトク被下

同十三未六月十五日表御小姓

同十五戌七月十三日中奥御小姓

同十九寅六月九日中奥御小姓御免、大番入

上坂忠蔵 米松

廿石五人

延享元子十月十一日父利左衛門跡、幼年二付七人扶持、御留守番入

同四卯二月廿五日十五歳罷成二付、御切米如是御直し、大番入

上坂利左衛門 病死

廿石五人

宝曆八寅十月廿九日養父忠蔵跡目無相違、大御番入

天明五巳二月十一日用水奉行竹内与五太夫跡、御留守番入

同年七月十一日役義御免、大番入

寛政三亥三月廿九日用水奉行西村勘五兵衛跡、御留守番入

同五丑九月朔日玉葉奉行、大番入

上坂八郎左衛門 直之助

廿石五人

寛政十一己未四月五日父利左衛門跡目無相違、大番入

文政十三庚寅六月五日御代官役川地権内跡

文政二卯二月廿日御番改木内甚兵衛跡

同三辰三月五日弟忠蔵不埒二付御国追放、兼而取扱不宜二付遠慮

上坂治部左衛門 平六 利平太事 八郎左衛門

廿石五人

一文政十三寅九月廿五日親八郎左衛門家督無相違、無役御留守番組入

一天保六未三月十六日大御番組入

一嘉永五子閏二月廿九日番改役三上孫太夫跡

一安政七申三月廿九日御台所頭中村半太夫跡被仰付、御留守番組へ被入候

一万延元申六月廿六日御番両度皆勤二付、御紋御帷子被下

一文久二戌三月十一日御代官役土屋市兵衛跡被仰付候

一同年十二月廿八日次部左衛門与名替

一元治元子十二月賊徒一件御留守御用、御手当百匁被下

一慶応三卯八月廿五日年寄候二付休息

上坂多賀之助 実坂上彦八郎次男也

貳拾石五人

一文久二戌十一月十六日航海術修行被仰付、御扶持方七人ふち被下置、支

〔士族〕

度出来次第江戸表へ罷越候様被仰付候、右修行二付諸失却之義も悉皆被下置候

一同三亥五月廿七日右修行御模様替二付御免、是迄被下候御扶持方七人ふち已後不被下候

一元治二丑三月廿日上坂治部左衛門養子願之通被仰付

一慶応三卯八月廿五日養父治部左衛門年寄二付休息被仰付、家督式拾石五人ふち無相違被下置、大御番組江被入候

一同年十一月廿六日宰相様御滞京中為御帰上京被仰付、同廿九日出立、辰四月十日帰

一同四辰六月廿五日会征出立可致処延引、八月十五日出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張二付十三兩被下、外二百疋被下候

一明治卜改元、十二月十六日数学寮御道具預り被仰付

一同二巳七月四日数学寮教授方試補被仰付候事、但年給式俵被下候事、席加藤所次

一同年十一月七日海軍操練所修行生被仰付候事、同十二日出立

但支度出来次第東京江罷出、永田儀平江諸事可申談候事

一同年八月廿五日今般御改革、更給禄米四拾七俵壹斗式升九合被下

一同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵二付、御賞典之内十石十ヶ

年令頒授候事

一同年八月廿四日願之上一ヶ月御手当壹歩式朱之外二三兩ツ、被下候事

但是迄御渡相成候筆紙之儀ハ自今不被下候

一同四未二月廿二日今般為海軍修行英国江被指遣候事、廿六日拜命

但出帆日限且委細之儀ハ追而可相達事

一明治六子一月病死 病氣二付帰

一同十八日養子治部之助へ家督

上坂治部之助

一式拾壹石五斗六升壹合



上坂拙士 元武生家来 午二十三

一万延元申七月

一明治二巳十一月廿五日今般御改革之処物頭已上二付士族二被仰付、給禄之儀ハ適宜御改正之上更二被下候事

一同三年正月廿三日米六拾俵四斗三升六合被下

一同年五月廿五日日本多興之輔願之儀二付押而強願申立、心得違二付謹慎、六月十日被免

一同年九月三日御不審之筋有之出福被仰付候処、夫々御調之上御分り相成候二付帰宅可致事

一同月十日日本多斐雄返上下屋敷内二而式百廿五坪坪地被仰付候

一同日此度福井引越被仰付候二付、是迄之建物被下候間取払可申事

一家作之儀ハ建被下候

一家作中寓居御貸渡之事 百日限り御貸渡之事

一同年十月十二日修業列へ被入候事

一同年閏十月十七日小隊江被入候事 但第一大隊式番

一同年十二月八日常備一番隊 年給六俵

一同四未四月朔日東京詰出立

〔士族〕

〔士族〕

一同年十月十三日解隊、十一月帰

内田¹

内田七郎右衛門 庄左衛門

廿五石五人

享保十一年四月十六日御徒目付方御取立、二石御加増、二ノ丸御花畑并

繪奉行、御留守番入、竹田平右衛門跡

延享三寅八月廿一日表御納戸、松永郷左衛門跡被仰付

寛延元辰九月十六日役義二付御吟味之上順席

同年閏十月廿一日五石式人扶持御加増、都合式拾五石五人

内田惣左衛門

廿五石五人

宝曆二申十月十一日父七郎右衛門休息、家督無相違、大番入、此節迄其

身御徒小頭也

同三酉七月廿二日表払納戸、香西六太夫跡

同十辰正月廿五日御役御取揚、閉門

明和七寅閏六月廿五日江戸屋敷奉行、御留守番入

安永二巳十月廿五日御簾本武具奉行本儀長藏跡、御書院番入

内田七郎右衛門

廿五石五人

安永七戌閏七月廿五日養父惣左衛門休息、家督無相違、大番入

内田惣左衛門

廿五石五人

寛政九巳七月廿日養父七郎右衛門病身二付内願有之休息被仰付、家督無

相違、大御番組へ被入

文政三辰八月廿五日御番改成瀬平左衛門跡

同四巳年八月廿九日病身二付内願之通御番改役御免

内田唯作

廿五石五人

一天保三辰五月十六日親惣左衛門病身二付内願之通休息被仰付、家督廿五

石五人扶持無相違被下置、無役御留守番組江被入

一同九戌四月廿日大御番組入

一同十一子八月五日先達而矢野孫太夫七ツ藏於御番所不埒之節、取斗方不

宜二付遠慮被仰付候

一安政七申二月八日江戸詰出立

一万延与改元、七月九日御供皆勤二付御褒詞

一文久元酉四月十四日帰着

一同二戌三月十一日御旗本武具奉行安原理左衛門跡被仰付、御書院番組へ

被入候

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日御供二而帰着

一同年四月五日弟衛馬藏儀逼塞被仰付候二付、伺之上指扣、同十日御免

一 七月十九日京都表江着

一元治元子十月十二日弾薬方兼帯被仰付

一 同年 長征、同二丑正月晦日帰着

一 慶応元丑閏五月十二日昨年来非常之御用繁相勤候二付、銀式枚被下置候

一 同年七月十二日御留守武具奉行弾薬方兼帯練替被仰付、御留守番組へ被入候

一 同二寅七月五日御番出精二付御褒詞

一 同廿日御書院番組へ被入、役儀之儀ハ御免被成候

一 同年十一月三日今度御軍制御変革之御趣意二付、御広間当番勤被仰付候

一 同年十一月廿五日勤役中御武具御修復御改正中出精相勤候二付、金式百疋被下置候

一 明治二巳二月十六日年寄二付休息

内田衛馬藏 唯作弟

安政二卯三月十六日山田鎗術引続年々支合皆勤二付、御持御扇子二本被

下置候

一 同三辰五月廿二日右同断二付御褒詞

一 同四巳四月十四日右同断免状席二而出精二付、御持御扇子二本銀拾五匁被下置候

一 文久元酉八月廿日太田御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置、支度出来次第出立被仰付、廿九日出立

一 同二戌四月三日太田御陣屋詰中横浜表江出張、失脚も有之二付金百疋被下置候

一 同閏八月二日内達も有之二付、来亥ノ秋迄詰越被仰付候

一 同年十二月廿二日今般思召を以三人扶持御扶助被成下候、当戌三十二歳、子八月廿七日相止

一 同三亥正月廿三日御陣屋致亡名大坂表江罷出、中将様御待請申上、二月廿二日於京都御国表江御返シ被成、相慎罷在候様被仰付候

一 同年四月五日御時体を存詰候とハ乍申、御陣屋御警衛詰中当務を不弁、強而及上京候始末、不束二付急度も可被仰付処、格別之御憐愍を以逼塞被仰付候、五月廿五日御免

一 同年十月十三日中将様御供二而上京、子四月廿三日同断二而帰

一 元治元子五月十九日芝御陣屋未夕御引渡無之二付、右引渡相濟候迄同所詰被仰付、詰中御扶持方五人フち被下置、支度出来次第早速致出立候様被仰付、廿九日出立、九月九日帰着

一 同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤候二付、銀壹枚被下置候

一 同年十月十六日長征出立、丑二月帰

一 慶応二寅三月十一日三番之補兵隊へ附属被仰付候

一 同三卯五月二日新撰隊教授方并指揮役兼助被仰付、勤中年々銀拾枚ツ、被下置候

一 同年十月廿一日御趣意二付右役配御免被成候、依之右役銀も不被下

一 同四辰正月八日二番之補兵隊被仰付、今度御上京之節御供被仰付候、相止

一 同年六月十七日遊撃隊へ被召出、五人扶持被下置候

一 同年同月廿五日会征出立

一 明治卜改元、十月朔日新潟病院方馱送り之処、於寺泊駅病死

一 同二巳二月廿二日右出張二付金千五百疋被下候、外二六両式步被下

一 同三年四月廿五日戊辰北越出張各所戦争拔群尽力二付、御賞典之内永世十石令頒授候事

内田恒太郎 常太郎 唯作倅

〔士族〕

廿五石五人

一文久三亥二月十日殿様御上京被遊候二付御供、三月六日御供二而帰着

一同年十月十三日中将様御供二而上京

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤候二付、銀壹枚被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月帰

一慶応二寅三月十二日二番補兵隊へ附属被仰付候

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰

一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同年十二月十五日補兵隊被仰付、今度御上京之筋御供被仰付相止

一同四辰四月廿五日遊撃隊へ被召出、五人扶持被下置候

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張二付十三両被下候、外二三千疋

一明治二巳二月十六日親唯作年寄二付休息被仰付、家督廿五石五人扶持無相違被下置、遊撃隊江被入候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合被下

一同三年四月廿五日戊辰北越出張各所戦争拔群尽力二付、永世十石令頒授候事

一同日伯父故衛馬蔵へも右同断

一同年五月廿四日第一大隊二番小队入被仰付候事

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

内田

2

内田安右衛門

貳拾五石三人

元禄七戌八月廿一日於江戸父小左衛門為跡目御切米被下、此節迄自分御徒勤、吉江二而父小左衛門御取立

同十丑十二月十六日御擬作御加増、御簾揚被仰付

宝永五子閏正月十四日御簾揚御免、大番入

同七寅二月廿二日御代官

享保六丑八月十一日御代官御免

同七寅冬順席被仰付

同八卯五月廿九日御普請御作事方吟味役、但大番其儘

同十一年四月十六日病身二付御役御免

内田作野右衛門

廿五石三人

享保十三申十一月廿一日養父安右衛門跡目無相違、大番

宝曆十一巳六月十一日御土蔵番中村利兵衛跡、御留守番入

内田安右衛門 死

百石

宝曆十四申三月廿二日父作野右衛門休息、家督無相違、大番入

安永六酉三月廿日番改、市村三右衛門跡

同十丑正月十五日評定所留役并御附御内用御右筆兼帶、多部三左衛門跡

天明二寅二月十一日御内御用御右筆多部三左衛門跡、二人扶持御足

同年七月廿五日御旗本武具奉行、御書院番入、是迄被下置候二人扶持上ル

同三卯八月十六日御内御右筆沢田助左衛門跡、大番入、二人扶持御足扶持被下

寛政四子正月十六日二人扶持御加増、廿五石五人扶持二被成下

同六寅八月廿八日新知百石

享和元酉三月十六日出精相勤候二付格式末之番外

(文化)
同二丑四月病死

内田小左衛門 大吉 伝兵衛 作兵衛

百石

文化二丑六月十六日養父安右衛門跡目無相違被下置、大御番入

同十五寅ノ三月於江戸表御預ケ所御金奉行被仰付候

文政六未二月廿五日御金奉行生駒藤兵衛跡被仰付、大御番組へ被入

文政八酉正月廿二日御勘定拝借奉行林惣兵衛跡

天保三辰八月七日御札所奉行荻野利右衛門跡、大御番組江被入、役席伊

東三次郎上

同七申五月廿五日御留守作事奉行矢野権平跡

同十亥正月廿九日御水主頭毛利六郎右衛門跡、御役料百五拾石被下置候

同十二丑六月廿九日御先物頭大谷儀左衛門跡

同十五辰五月十四日下馬当番日之処不念之趣有之、伺之上差扣

天保十五辰八月隠居

内田作兵衛

百石

一弘化元辰八月十二日父小左衛門家督無相違被下置、大御番組江被入

一嘉永五子年江戸詰、同六丑四月十七日帰着

一安政六未十一月十一日病身二付内願之通休息

一万延元申六月廿六日勤中御番皆勤二付、金三百疋被下候段、養子閑平二被仰付候

内田ヒトシ 閑平 実小宮山周藏次男

百石

安政四巳四月十九日兵科局詰被仰付候

一同年十一月廿日兵科局詰其儘軍艦方被仰付候

一同六未四月廿二日今般御造之一番丸乗船二而出帆、九月廿日大坂表方帰着

一同年十一月十一日養父作兵衛病身二付内願之通休息被仰付、家督百石無

相違被下置、大御番組へ被入候、且又制産方見習被仰付、軍艦方之儀ハ

是迄之通相心得候様被仰付候

一万延元申十月廿日制産方被仰付候

一文久元酉六月五日航海術為御用支度出来次第出府被仰付、同廿日出立

一同二戌正月十七日中将様御附御近習被仰付候

一同年四月三日横浜表江臨時致出張太儀之段御褒詞

一同年五月十三日三ノ丸内御用屋敷へ替被下候

一同三亥正月廿三日中将様御船二而御上京被遊候二付御供、三月廿五日御

〔士族〕

供二而着

一同年八月廿九日家屋敷地御用二付、長崎藤四郎家屋敷江替被下候

一同年十月十三日中将様御上京御供出立

一同年十一月十六日於京都表御滞京御用向取扱被仰付

一同年同月廿日嶋田近江義御用向有之、早急立帰出府被仰付候二付、同道

致出府候様被仰付、右二付為失却金五両被下置、同日廿六日着府

一同四子正月九日御附御近習番被仰付候

一元治与改元、二月廿五日御奉行役見習被仰付、格式末之番外二被成下、年々銀拾枚ツ、被下置候

一同年三月十八日御内用有之二付御国表江被遣候旨被仰付、廿一日帰着

一同年四月九日御奉行役見習其儘御徒頭次席二被成下、御役料五拾石被下置御役人並被仰付候

但御役料被下置候二付、銀拾枚之儀ハ以降不被下候

一同年五月七日御内御用有之二付立帰上京被仰付、早速致出立候様、翌八日出立、廿九日帰

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒被下置候

一同廿七日御含有之二付早速上京被仰付、廿九日出立

一同年八月三日一橋様二而御感状御渡二付御国元江被遣候間、早速致出立候様被仰付出立罷越、同六日御国江着

一元治元子八月十七日当秋京都詰被仰付、桑山十兵衛と致交代候様

一同月廿六日京都江出立、九月晦日帰

一同年十月十五日長征出立、夫方京都へ

一同二丑四月三日京都方帰着

一慶応下改元、四月廿九日席并役儀其儘御役料五十石御増、都合百石被下置候

一同年七月十日御内用有之二付長崎表江被遣、同廿一日出立、十一月廿八日帰

八日帰

一同二寅二月九日産物会所掛り被仰付

一同年四月六日御内用有之長崎表へ被遣候処、格別心配行届御用弁相成候二付、別段之訳を以御足高三拾石被下置

一同廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千弍百疋被下置候

一同年六月五日御奉行本役被仰付、御役料都合百五拾石被下置候

一同年七月廿二日御内用有之二付長崎表江罷越候様被仰付候、十二月十六日帰

一同三卯正月十六日他国会所掛り被仰付

一同年五月二日席其儘会所奉行被仰付候

一同月十四日此度似七札一件二付、手附同心林忠左衛門御不審之儀二付揚り屋入申渡、且又指免候件二御指図不待取計候段恐入伺之上遠慮、同十九日御免、御用之外慎、同廿四日御免

一同年八月廿六日出府、夫方京都江、十一月晦日帰

一同四辰正月廿四日今般勅使御国内御通行二付、御奉行役兼被仰付候

一同年二月五日上京、同廿三日帰

一同年三月十二日会所奉行其儘御奉行役兼被仰付

一同年五月四日会所奉行其儘御奉行役之儀ハ御免被成候

一同月九日御役名産業元締役ト被仰付、御役人並被相止

一同月廿日産業元締役其儘評定役并牧民会計方被仰付

一明治下改元、十月十一日役儀御免被成、席予備組支配上二被仰付

但役義御免被成候二付、御足高并御役料共已後不被下候

一同二巳十月廿五日御家従被仰付候事

但出納方勤

一月給米一年分十俵被下候事

一四等官 小栗環次

一同年十一月十九日御用有之二付、支度出来次第東京江罷越候様被仰付、

同廿五日出立

一同月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下候

一同年十二月廿八日閑平事衡卜改

一同三年正月廿七日東京ヨリ帰

一同四未四月五日当分年給 十貳級 四十三俵九升壹合貳勺

一同年五月八日御家従被免候事

薄井

薄井伴右衛門

廿五石五人

元禄四未閏八月五日養父甚五右衛門跡目

享保十三申十一月十一日玉葉奉行中村丈右衛門跡

元文元辰十月五日鉄砲薬調合役阿部喜兵衛跡

此後代た二出、但田中与改

宇貝

宇貝八郎右衛門

拾八石三人

正徳五未五月廿五日役人方御取立、新番入、御勝手請込役

享保十巳五月十六日御代官被仰付、御留守番入

宇貝八郎右衛門

拾八石三人

享保十七子五月廿一日養父八郎右衛門跡無相違被下、大番入

寛延三年七月廿三日相身躰末

宝曆十二年六月廿六日不慎、不埒之趣相聞、御呵、閉門

同七月廿五日御免

宇貝八郎右衛門

拾八石三人

明和二酉二月廿五日父八郎右衛門休息、家督無相違、大番入

安永三年十月十七日御定之年数相満順席

寛政九巳正月十六日番改小堀伝右衛門跡

文化二丑十月十八日表納戸

同三寅十月廿五日御代官、御留守番入

同八未八月四日病死

宇貝八郎右衛門 八郎平事

拾八石三人

一文化八未九月廿九日養父八郎右衛門家督無相違被下置、御留守番組江被

入候

一同九申十月十九日無役御留守番組江被入候

一文政元寅九月四日大御番組江被入候

一天保四巳六月廿日御番改本役本多佐五右衛門跡被仰付候

一弘化五申三月五日表御納戸役滝沢元右衛門跡被仰付候

一嘉永元申九月十六日御代官役大町次左衛門跡被仰付候

一同五子七月五日年寄候二付休息被仰付候

宇貝伝平 伝九郎 孫八 八郎右衛門

拾八石三人

〔士族〕

一嘉永五子七月五日親八郎右衛門年寄候二付休息被仰付、家督拾八石三人

扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入候

一安政三辰九月十六日大御番組へ被入候

一同年十二月八日孫八与名替

一文久二戌十月朔日野村彦太夫江戸留守中、砲術所世話役被仰付候

一元治元子七月朔日上京

一同年同月十七日在京中農兵教授方手伝被仰付

一同年九月朔日今度長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、大砲

方差配行届相働候段達御聴、格別之事二被思召候、依之為御賞御三所物

被下置候

一同十一月歸着

一同年十月十三日長征出立、丑正月廿九日歸

一慶応元丑四月廿七日上京、翌寅四月十七日歸

一同年五月廿八日大砲方御免被成候、但在京中是迄之通

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年七月五日御番皆勤二付時服被下置候

一同三卯十月十九日御警衛増詰上京、辰二月廿九日歸

一同四辰閏四月五日上京、九月十五日歸

一明治与改元、十二月廿八日八郎右衛門卜名替

一同月十三日殿様御上京御供出立、巳三月朔日歸

一同二巳二月十七日砲長被仰付、月給十俵

一同年六月十六日八郎右衛門事伝平卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同三年六月廿二日第一大隊二番小隊江被入候事

一同年十二月八日任権曹長 但常備砲隊 年給二十俵

一同四未十月十三日解隊

浦井

浦井七左衛門

廿石四人

延享五辰正月十六日御取立、新番入、御勝手役其ま、

宝曆四戌二月六日二石彦人扶持御加増

同八寅九月十六日病身二付御役御免

浦井七左衛門

廿石四人

宝曆十一巳十月十一日父七左衛門休息、家督無相違、新番入

安永八亥正月十六日大番入

浦井文左衛門

廿石四人

寛政二戌八月廿九日養父七左衛門病身内願二付休足、家督無相違、大番入

同三亥正月十六日御勘定吟味役、御留守番入

同五丑九月朔日御台所頭岩佐弥五太夫跡、御儉約掛り兼帯

同九巳十月五日役義御免、其儘御留守番二被指置

同十年四月十一日大番組へ被入

文化元子八月廿九日年数相滿候二付相身代末

同二丑上水奉行

同三寅六月十六日役義

文政元寅六月十一日病死

浦井五兵衛 市十郎 七左衛門

廿石四人

文政元寅年七月廿九日養父文左衛門家督無相違廿石四人被下置、無役御

留守番組へ被入

文政七申閏八月廿三日大御番入

浦井藤次郎

廿石四人

天保十三寅十一月廿五日養父五兵衛家督廿石四人扶持無相違被下置、無

役御留守番組へ被入

嘉永二酉十二月病死

浦井勝之助 実武部作太夫弟

廿石四人

一 嘉永三戌二月十一日病中養子願之通被仰付、家督廿石四人扶持無相違被

下置、無役御留守番組へ被入

一同五子八月廿八日御番割二付年数相滿候間順席二被仰付候

一 安政六未十二月十九日御堀殺生心得違二付遠慮伺指扣、廿二日御免、過

料銀拾匁被仰付候

一元治元子四月十三日上京、八月廿二日帰着

一元治元子八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町於御固場所戦争之砌、相

働候段達御聴、御褒詞

一同年十月十二日番改役永田順右衛門跡被仰付

一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張、二月廿三日帰

一 慶応与改元、五月六日御役御免被成候

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀被下配当金千疋、同五百疋

被下置候

一同年七月五日御番皆勤二付時服被下置候

一同三卯三月十日御上京御供出立、直二御警衛詰、七月十九日帰

一同四辰四月三日京都御警衛詰出立、閏四月十二日帰

一同年五月十六日御趣意二付他番江被入候

一同年八月五日彈薬預り小銃取扱方兼被仰付、役御番組江被入、四番大隊

〔士族〕

之二番小隊江附属、支度出来次第越後表江出張被仰付、同十日出立、十月十七日帰

一明治卜改元、十二月廿一日其隊之器機并彈藥差配方江被仰付、製造局へ附属被仰付

但大隊へ附属之義ハ是迄之通相心得可申事

一同二巳二月廿二日長々出張太儀思召、仍六両式步被下

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾五俵壹斗四升四合被下

一同月廿七日右同断二付製造局被廢候、依之役儀被免 予備隊

一同三年四月廿五日戊辰北越出張軍事精励二付、御賞典之内金式十五両被

下候事

一同年閏十月廿五日予備隊名目被廢非役卜唱



※「剝札」末にあり

内海道安 松岡

七拾俵

元禄十二卯父道策跡目無相違被下

元文五申正月七日死

内海玄三

七拾俵

元文五申二月廿九日父道安跡目無相違被下、表御医師

寛保元酉九月死

内海松察

米六拾俵

寛保元酉十一月十一日養父玄三跡目、幼年二付跡目五人扶持

延享三寅二月十一日六拾俵被下

宝曆七丑五月廿九日不慎二付御擬作被召上、蟄居

内海桃仙

五人扶持

宝曆七うし五月廿九日内海松察蟄居、御擬作六拾俵被召上、名跡御立被

下、五人フチ、表御医師

内海玄高

七人 外五人御足

天明二寅二月廿五日父桃仙跡目無相違被下置、表御医師

文化元子八月廿五日奥御医師

同三寅十月廿四日御足五人扶持被下置

文政七申十月廿四日御匙格被仰付

文政十亥十月十六日年来出精相勤候二付、御足扶持之内二人扶持御加増

文政十一子十二月十六日御匙醫師被仰付候

天保二卯十一月十六日隠居

内海桃仙

拾人扶持

一天保二卯十二月十六日親玄高隠居被仰付、家督拾人ふち無相違被下置、

表御医師被仰付候

一同九戌六月十一日奥御医師被仰付候

一同年七月廿二日松栄院様御附兼帯被仰付候

一嘉永三戌年江戸詰

一安政三辰十二月十六日除痘館当番致皆勤候段、達御聴太儀ニ思召候、此

段申渡候様被仰出候

一同四巳五月十六日年寄候ニ付内願之通休息

内海孝順

拾人扶持

一安政四巳五月十六日親桃仙義内願之通休息被仰付、家督拾人扶持被下置、

御医師被仰付、席之義ハ惣御医師末席江被入候

但医業未熟候趣相聞候得共、御趣意被仰出間も無之事故、格別之

御憐愍を以右之通被仰付候

一同年十二月十六日除痘館当番皆勤ニ付御褒詞

一同五午十二月八日右同断

一同六未十二月十六日右同断

一万延元申十二月十六日表御医師順席ニ被仰付候、且又右同断

一文久元酉十二月十六日除痘館当番皆勤ニ付御褒詞

一同二戌十二月十六日除痘館当番致皆勤候ニ付御褒詞被成下候

一同三亥十二月十一日除痘館当番皆勤、其余番外数度致出勤候ニ付御褒詞

一元治元子七月五日京都表へ出立

一同年十月十一日先達而京都騒乱之砌、堺町御門御固場所へ出張之処、奔

走中道筋踏迷ひ近国へ相廻り、終ニ岡崎御屋敷へ帰参不致、其後御国へ

罷帰候始末不屈至極、乍併病氣之趣も有之二付御憐愍を以御暇被下置、
他国江ハ罷出不申様被仰付候



上田万順

式拾五石五人

享保六丑四月十六日養父万順為跡目五人扶持

同十七子九月廿五日此通被下

上田万順

廿五石五人

宝曆六子九月十一日父万順跡目無相違、表御医師

上田万隆

廿五石五人

明和六うし九月廿九日養父万順跡目無相違、表御医師

上田万順 玄朔

廿五石五人

安永四未七月十五日養父万隆跡目無相違、表御医師

天明六年九月廿九日奥医

寛政二戌八月十五日御人少ニ付、席其儘ニテ奥御針兼帯

同四子十一月廿九日兼帯御免

同五丑四月廿五日奥御医師御免被成、遠慮

同六寅五月廿二日奥御医師御針兼帶

同七卯八月九日御匙医格於江戸

同九巳九月十一日於江戸御匙医師

文化元子九月十五日江戸詰之内留主扶持五人扶持ツ、被下

同七年四月十一日倅玄策不慎二付逼塞被仰付、万順義伺之通遠慮

文政五年五月十一日隠居被仰付

上田玄策

廿五石五人

文政五年五月十一日父万順隠居、家督無相違被下置、表御医師、病死

上田元策

廿五石五人

文政十亥年九月十六日上田玄策病中養子願之通被仰付、家督無相違被下置、表御医師被仰付

文政十三寅五月三日不埒至極之趣有之二付、御暇被下

上田耕輔コウスケ 万順 杏庵事

〔士族〕

五人扶持 外二御足五人

一文政十三寅五月三日養兄玄策儀不届至極之儀有之御暇被下候処、祖父万

順年来御奉公実躰相勤候二付、御隣愨を以家名御立被下、為名跡五人扶

持被下置、表御医師被仰付

上田

一天保十四卯八月廿五日心得違二付遠慮被仰付

一嘉永四亥年十月廿八日奥御医師御鍼醫師兼被仰付候、且又種痘御端立之

節格別致出精太儀思召、此段申渡候様被仰出候

一同五子十二月十六日種痘格別致出精候二付、鑑定方勤中三人扶持御足被

下候

一安政四巳四月廿五日江戸御供詰出立、同五年年詰越

一同六未三月十五日奥御医師勤中式人扶持御増、都合五人扶持御足扶持被

下置候

一同四月十四日帰着

一万延元申六月廿六日、一昨廿四日恐悦之節心得違之儀有之遠慮伺差扣、

廿八日御免

一同年十月十一日来酉年太田御陣屋詰被仰付、右詰中御足三人扶持被下置

候

一同年十二月十六日除痘館当番皆勤、其上数十度致出勤候二付御褒詞

一文久元酉三月廿六日御陣屋詰出立

一同二戌二月朔日太田御陣屋詰被仰付置候処御免被成、当分江戸詰被仰付

候

一同年四月三日横浜表江長々出張出精之段、御褒詞之上銀沓枚被下置候

一同年十一月廿八日来春殿様御上京被遊候二付、為御待請出立之面々も有

之二付出立

一同三亥三月廿五日中午将様御供二而帰着

一元治元子五月廿五日御匙医師奥御鍼醫師兼帶被仰付候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月五日帰

一慶応元丑十月朔日宰相様御出坂御供二而出立、同三日今庄方御引戻二付

帰

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰着

一同四辰三月十九日少御充行二付、京都詰之節留守扶持五人扶持被下置候

一同月廿日上京、同年六月廿日帰

一明治二巳二月晦日御執匕試補可相勤事

一同年五月朔日御執匙試補被免、更ニ内務局当番可相勤候

一明治二巳七月十七日万順事耕輔卜改

一同年八月十六日除痘館預り被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米十九俵三斗六升五合被下

一同年十二月十八日種痘所預り被免候事

一同三年六月四日医学所病院詰被仰付、役義之儀ハ被免候事

但十五等

一年給ハ無之事

一同年七月十八日枝病院診察廻診方兼被仰付候事、但十五等

但孝頭寺

一同年八月廿八日支度出来次第東京詰被仰付、九月十一日出立

一同年九月五日詰中常磐橋邸之御用相勤候様被仰付候事

但詰中年給ハ俵御家禄方被下候

一同四未二月七日東京ヨリ帰

一同年三月十三日任三等医 年給三十六俵 孝頭寺

但診察方

一同年十月三日准二等医

但松病院主務

一同年十二月四日廃院ニ付免職

一同十八日二等医松病院主務、更ニ会社

宇佐美

此前代や二出、山名卜号

宇佐美喜平治 仲右衛門 実次郎八弟山名小太郎

〔士族〕

百三拾石

一弘化三年六月五日家督百三拾石被下置、大御番組江被入、遠慮被仰付候

一嘉永五子十二月廿八日喜平治与名替

一安政七申二月九日江戸詰出立

一万延与改元、七月九日御供皆勤ニ付御褒詞

一文久元酉四月十六日帰着

一同三亥三月江戸詰出立、子五月廿一日帰

一元治元子七月朔日上京、八月廿四日帰着

一同年十二月賊徒一件ニ付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑四月廿九日京都詰出立、翌寅四月十七日帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年七月五日御番皆勤ニ付時服被下置候

一同三卯十月十八日御警衛詰引揚上京

一同月廿五日第一級ニ相進候ニ付、花葵御紋御印被下置候

一同四辰二月廿九日京都方帰

一同年閏四月十九日倅良太郎御咎ニ付伺之上指扣、同廿四日御免

一同年九月八日上京、十一月十六日帰

一明治二巳二月十八日大砲隊弾薬預り被仰付

一同年六月廿八日御広間当番勤被仰付、役義之儀ハ被免候事

一同年九月廿九日多年精勤之处御藩制御改革ニ付、為御慰勞廿五両被下置

候

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米七十三俵四斗式升七合被下

一 予備隊

一 同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

瓜生¹

此前代た二出、多部与号

瓜生三左衛門 多部長作 多部三左衛門

廿五石五人

一 嘉永元申九月十六日親三左衛門家督廿五石五人ふち無相違被下置、無役

御留守番組江被入候

一 同五子九月廿四日三左衛門と名替

一 安政三辰六月廿五日多部五郎右衛門於牢内御仕置被仰付候、依之母方之

叔父ニ付伺之上遠慮被仰付候、同晦日御免

一 同年十二月廿八日瓜生与改姓

一 安政四巳二月朔日明道館典籍方被仰付候

一 同六未九月十八日病死

瓜生等^{ヒトシ} 由蔵 三左衛門 実井上鍊吉親 故定右衛門養家之弟

〔士族〕

廿五石五人

安政六未十一月八日瓜生三左衛門病中願之通養子ニ被仰付、家督廿五石

五人扶持無相違被下置、大御番無役組へ被入候

一文久二戌閏八月八日御番割ニ付大御番入

一同三亥正月廿五日当春芝御陣屋詰被仰付、二月廿五日出立

一元治元子六月廿九日帰

一 同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一 同年十二月三左衛門卜名替

一 慶応元丑十一月晦日大坂表江出張

一 同二寅九月十八日帰

一 同三卯十月廿三日御趣意ニ付御留守番組へ被入候

一 同四辰五月十一日今般御趣意ニ付無役組ニ被仰付

一 明治二巳六月廿一日三左衛門事等卜改

一 同年八月十四日御広間当番勤被仰付

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合被下

一 予備隊

一 同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

同五申十一月廿五日病身ニ付願之上隠居被仰付家督

瓜生捨吉 故三左衛門長男

〔士族〕

一 給禄米式拾四石三斗壹升三合

瓜生²

瓜生三寅^{ミトラ}

〔士族〕

五口

元治元子十一月十一日御国居住被差免候

一 同年十二月廿日英学厚心懸候ニ付右為修行扶持三人扶持被下置候

慶応元丑九月十四日其身一代被召出五人ふち被下置、英学方被仰付御用

人支配ニ被仰付候、但是迄被下候修行ふち三人扶持之儀も其儘被下置候
 一同月廿九日長崎表江出立、四月九日帰

一同二寅四月廿五日昨年出崎被仰付候節御含通りも有之処、不都合之次第有之趣不調法之事ニ候、依之遠慮被仰付候、急度相慎可罷在候、且又当分他国出之義ハ御差留被成候、五月十一日御免

一同年六月七日英学取調方并兵学所へ罷出候様、且又大砲小銃等之儀ハ砲術所役輩江も申談候様被仰付候

一同年八月廿九日英学致世話候訳も有之ニ付、当分御泉水御建物之内御貸被成候

一同三卯二月四日英学教授方被仰付、右勤中御足五人扶持被下置候

但御足扶持被下置候ニ付、是迄修行中被下候三人ふち之儀ハ以後不被下候

一同年四月六日御用有之ニ付上京被仰付、同十三日出立、五月廿日帰

一同年六月十六日は迄山脇元恭罷在候家屋敷、当分英学所ニ被仰付御預被成候

但同所江建継之上、航海術修行之面々集会所ニ被仰付

一同年十月朔日取調御用有之ニ付江戸表江罷出候様被仰付、同八日出立

但一日金巻歩ツ、被下、外二一ヶ月五両ツ、為御手当被下置候
 一同年十二月十一日先達而江戸へ出立、夫々京江罷越候処帰

一同四辰六月十二日御用有之上京被仰付候、十六日出立、九月四日帰

一明治ト改元、十月廿二日已来御目付支配ニ被仰付

一明治二己二月廿七日御足月俸三口被下、月給米十俵被下
 但是迄御足五口已後不被下候

一同年三月朔日学校附属被仰付

一同年六月廿一日兵学教授方兼被仰付候事

一同年七月四日三寅事^{サンインミトラ}三寅ト改

一同月八日は迄罷在候洋学所外塾ニ御取建、西村閑吾へ御預ケ被成候

一同年十一月廿八日武学所佐教被仰付候

一同三年三月八日今般奏任官江御登用相成候間至急上京可申付旨ニ付、同月廿一日東京江出立

一同年四月四日被任大助教

一同月九日叙従七位右宣下之事

一同年五月二日東京江家族引寄申度願之通被仰付、旅費之儀ハ從朝廷頂載之事

一同年十二月十五日任少博士宣下之事

一同日叙正七位宣下之事

一同四未六月廿二日其身一代之名目被指除候事

一同年十月廿二日東京府貫属編入之事

四 福井藩士履歴 一



江口次郎兵衛

三百石

貞享元子十二月十一日父作左衛門跡目、御扶持方

元禄六酉八月廿三日御切米

宝永二酉九月廿三日、新知百五十石

同六丑七月四日百石御加増

正徳六申正月廿一日勘定奉行立岩長右衛門跡

享保四亥十月十五日郡奉行、役料無之雨森儀右衛門跡

同五子七月廿一日御預所郡奉行

同八卯二月七日五十石御加増、都合三百石

同十一午三月廿一日席御上ケ、御先物頭順席

同十三申正月十六日御奉行蠲江善右衛門跡

同十七子七月十六日不調法有之御役被召上、拜知五十石減、逼塞被仰付、

大番入

元文元辰七月廿二日五拾石御加増、御先物頭大藤次兵衛跡

江口九之丞

五郎右衛門

ヨシオ
幸雄

三百石

延享三寅六月廿八日父次郎兵衛隠居、家督無相違被下、大番入

寛延三年九月十一日御使番雨森庄兵衛跡

宝曆六子十月五日御杉形奉行小川次兵衛跡

江口源左衛門

三百五拾石

宝曆十一巳四月廿九日父九之丞跡知無相違被下、大番入

安永六酉五月廿五日御徒頭河津孫十郎跡

同十丑正月十五日御側物頭御目付助荻野小右衛門跡

天明寅十月十四日御泉水預り

同四辰七月廿四日御目付千本長右衛門跡

同六年五月廿七日御広式御用人榎並猪十郎跡、長袴格

同七年三月十四日御形合被相改、万端御省略被成下候二付御役御免、御

先武頭次席被仰付

同年同月廿五日御目付海福久右衛門跡

寛政二戌八月十五日札所御目付兼帯

同四子十二月廿日格別出精相勤候二付長袴御奉行次

同十年四月廿七日病身二付御番御供当分御見除

寛政十二庚申七月十七日格別出精相勤候二付、五拾石御足高被成下

文化二丑六月廿一日年来格別出精相勤候二付、御足高五十石御加増被成

下

文化十二亥二月四日御政事向是迄之通御札所目付吉田茂左衛門跡、於御

前被仰付

文政十三子六月廿四日勤向是迄之通二而、席定座番外御勝手掛り、席海

福久右衛門次

同十四丑十月廿九日内願二付御札所目付之義御免、御褒詞、御召御上下

拜領

文政三辰七月十日倅半弥義触頭見習野廻り定御供被仰付

文政三辰八月廿五日病死

江口次郎兵衛 半弥

三百五拾石

文政三辰十月十六日父源左衛門跡知無相違、定座番外、触頭見習席海福
三作次

同年十一月朔日触頭村上喜内跡被仰付

同十亥八月病身内願二付触頭御免

天保八酉十一月三日寺社町奉行鈴木彦太夫跡被仰付

天保十二丑年八月十六日内願之趣も在之二付御役御免

同年八月廿九日役中締り方不参届趣在之二付遠慮、九月十八日御免

天保十五辰二月内願隠居

江口九之允 源太郎

三百五拾石

一天保十五辰二月廿五日父次郎兵衛家督三百五拾石無相違被下置、定座番
外、席海福久次郎次

一嘉永五子十二月廿八日九之允与名替

一安政六未十二月十六日病身二付内願之通隠居

江口半吾

三百五拾石

安政六未十二月十六日養父九之允病身二付内願之通隠居被仰付、家督三

百五拾石無相違被下置、定座番外二被仰付候

一文久二戌十一月廿九日槍術年来出精之趣、師役方内達も有之二付、御下
緒一掛被下置候

一同三亥四月廿二日支度出来次第芝御陣屋詰被仰付、詰中御台場頭被仰付、

諸事永見主膳申談候様被仰付候、同廿九日出立

一同年七月十六日芝於御陣屋表病死

江口正己^{マサキ} 左十郎 湊

三百五拾石

〔士族〕

文久三亥九月五日養父半吾家督三百五拾石無相違被下置、定座番外二被
仰付

同年五月廿七日養父半吾同道御陣屋詰罷在候処、病人多御番頭方内達も
有之二付、当分御陣屋詰御雇被仰付、五人フチ被下置候、然処七月半吾
病死二付罷婦

一元治元子四月十一日御軍帳御割替二付、農兵二組酒井外記方江御附被成

候二付、其手江属シ外記方江申談致世話候様、且又農兵之義二付而八西

尾十左衛門へ申談候様被仰付候

一同年四月十九日酒井外記方御用多二付、訓練出勤無之節八明石将監へ都
而申談致世話候様被仰付候

一同年六月十四日是迄酒井外記方附農兵致世話候様被仰付置候処、御軍帳

御割替二付芦田信濃附農兵致世話候様被仰付候

一同年八月廿三日夜廻り順繰違出勤不致恐入何遠慮、九月二日御免

一同年十二月賊徒一件之節御留守御用相勤候二付、御手当三百三拾三匁被

下

一慶応二子十月廿八日下馬并三ノ丸南御門所御預ケ被成、御警衛向厚相心

得相勤候様被仰付、依之夜廻且出火之節詰所之義ハ御免被成、尚又勤方之儀ハ御用人申談候様被仰付

一同四辰六月 会征出陣 巳二月廿二日出張二付十三兩被下、外二

五百疋

一同年七月十五日遊撃隊入

一明治与改元、十二月廿八日湊卜名替

一同二巳五月十七日遊撃隊江被入、御門所御警衛夜廻之儀ハ被免候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百六拾三俵二斗三升五合被下候

一同三年四月廿五日戊辰北越出張軍事精励二付、御賞典之内十石三ヶ年令

領授候事

一同年五月廿四日第一大隊二番小隊入被仰付候事

一同年十一月十五日遊興二耽り不埒至極二付、二ヶ年之間給禄ノ九割被下

非役江被入謹慎被仰付、十二月五日被免

一同年十二月十八日湊事正己^{マサキ}卜改

一同四未六月八日不埒之儀二付二ヶ年之間給禄之内九割被下候処、今般更

二元ノ如く被下候事

米百六拾三俵式斗三升五合

一同五申正月九日東京品川天龍寺へ墓參旁上京



榎並左次右衛門

百石

宝永四亥八月廿九日父左次右衛門家督無相違

享保二酉八月五日御金奉行被仰付、御貯方も向後年替二可相勤旨被仰出

榎並左次右衛門

百石

享保六丑十月十五日表御小性被召出

同十一年四月十六日父左次右衛門隱居、家督無相違御小性其儘

同十七子十二月五日奥御納戸井上孫左衛門跡、御書院番入

延享元子十一月三日御膳番、但自分御擬作ハ上ル

榎並安次郎

百石

延享四卯十一月十一日父左次右衛門跡知無相違被下

榎並勘兵衛 左次右衛門 病死

百石 役料百五拾石

延享五辰二月十六日養父安次郎跡目幼年二付十人扶持被下、御留主番入

宝曆二申八月五日新知御直シ被下、大番入

同十辰正月十六日表小性

明和二酉正月十九日中奥

同三戌九月二日御次詰御書院番入

同五子七月九日御小納戸波々伯部八右衛門跡

安永五申正月廿六日於江戸御近習頭取、御小道具方其儘

同七戌六月廿二日御側向頭取秋田七郎兵衛跡、末之番外

同年七月廿日御役料五拾石

天明元丑十二月五日於江戸御目付加藤半左衛門跡、御役料百五拾石

同二寅七月八日御広式御用人長袴格

同六年五月廿七日新番頭川村十郎右衛門跡

同年十二月十四日御役人席御武具支配忍之者御預ケ、席川村十郎右衛門

次

同七年三月十四日御形合被相改万端御省略被成候二付、御武具忍組支配

御免被成、御役料其儘二而御先物頭次席

同八申五月廿二日御先武頭波多野五郎左衛門跡

寛政二戌十月十五日御目付助大関彦兵衛跡

同四子十二月廿六日御目付助御役名被相止、前々之通御側物頭

同八辰正月十六日御旗奉行長谷部半右衛門跡

榎並勘右衛門 虎三郎

廿石三人

享和三亥三月十六日養父勘兵衛跡知無相違、大御番入

文化三寅五月廿九日拝知御取上、御切米廿石三人扶持被下、新番組へ御

下ケ、遠慮

同七年十二月十一日御作事改役、御役中老人半扶持被下

文政二卯正月廿五日大御番入

同五年正月十六日御先武具奉行竹内五郎兵衛跡

榎並左次右衛門 他三郎事

廿石三人

一文政十一子正月廿五日親勘右衛門家督無相違、廿石三人扶持被下置、無

役御留守番入

一天保二卯六月廿五日大御番組入

一同四巳二月十六日御作事方改役井上茂右衛門跡、御留守番入

一同七、八月五日今般天梁院様御靈屋御普請出精二付、御目録銀式枚被下

置

一同十亥九月十六日諦観院様御靈屋御普請二付右同断

一同十一子四月廿五日江戸御屋形御普請、於此表切組被仰付、右御用掛リ

出精二付御褒詞

一同十二丑十一月十八日御広敷御用達榊原藤五郎跡被仰付

一同十三寅十月十六日川除奉行川地権内跡被仰付

一同十四卯二月十六日御作事改役被仰付

一弘化四未十二月晦日御本城橋御繕之節出精二付御褒詞

一嘉永三戌三月五日昨酉年柳御門頼当御普請二付御褒詞

一同四亥二月十一日御代官役滝沢元右衛門跡被仰付

一安政四巳二月五日御花畑絵奉行高木庄右衛門跡被仰付候

一同六未二月五日年寄候二付休息被仰付候

榎並勘兵衛 熊太郎 勘兵衛 左次右衛門 左治栄 [士族]

式拾石三人

一安政六未二月五日親左次右衛門儀年寄候二付休息被仰付、家督廿石三人

扶持無相違被下置、大御番組へ被入候

一文久二戌十二月廿八日勘兵衛与名替

一元治元子六月廿九日上京、八月廿四日帰着

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一慶応元丑十一月晦日大坂表江出張

一同二子四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年九月十八日帰

一同年十二月左次右衛門与名替

一同三卯九月廿三日弟鋪馬出奔二付遠慮伺之上指扣被仰付、十月三日御免

一同年十月十五日弟鋪馬出奔之処召連来候処、侍御削被成围入被仰付恐入

伺之上遠慮、廿二日御免

一同月廿九日宰相様御上京御供被仰付、十一月二日出立

一同年十二月六日二条御城方御下り之節、暫時御供欠候二付伺之上遠慮、

同十日今度非常之義二付御免

一同四辰二月晦日京方帰

一同年三月十六日御留守番組江被入候

一同年五月十一日今般御趣意二付無役組へ可被入置処、御広間当番勤被仰

付、御留守番組二其儘被指置

一同年五月廿八日弟鋪馬出奔二付伺之上指扣、六月三日御免

一同年七月五日弟鋪馬蟄居被仰付置候処、先達而出奔不埒二付入牢、且又

左次右衛門締方不参届不調法二付遠慮被仰付、同廿五日御免

一明治二巳二月十八日大砲隊彈藥預り被仰付

一明治二巳六月廿一日左次右衛門事左治栄卜改

一同月廿八日御広間当番勤被仰付、役義之義ハ被免候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四十式俵六升被下

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同五申五月勘兵衛卜名替

榎並²

榎並芸碩

百石

享保三戌二月廿九日被召出七人扶持

同六丑五月五日御切米廿石五人御扶持被下

同十七子七月廿二日五石御加増、江戸詰

元文二巳十一月廿八日於江戸新知百石

同四未十一月十五日御前様附奥医格

寛保三亥六月廿八日奥御針医

榎並芸碩

百石

宝曆十辰九月十六日親芸碩休息三人扶持被下、家督百石無相違、表御針

医

同月廿二日奥御針医

榎並芸碩 休

百石

天明二寅十月十四日父芸碩病身二付休息、家督無相違、表御針医

同六午正月廿日奥御針医

同八申七月四日奥御針医御免被成、表御針医二被仰付

榎並玄沢

百石

文化二巳年三月十六日親芸碩病身二付休息被仰付、家督無相違、表御鍼

医

同年九月五日奥御鍼医

同七年四月十一日不慎之義有之、奥御鍼医御免、閉門

文政二卯九月五日奥御針医師

天保九戌二月十六日江戸詰之節、留守扶持五人扶持被下置候

嘉永元申六月病死

榎並孝斎

百石

一弘化三年閏五月廿八日奥御鍼医師、御雇被仰付

一同年十月十五日被召出、御扶持方三人扶持被下置候

一嘉永元申八月十一日養父玄沢家督無相違被下置、奥御鍼医師其儘被仰付、

三人扶持ハ以後不被下

一同四亥年江戸御供詰

一同五子十二月十六日種痘之儀致出精候段達御聴、太儀二思召候段、御側

御用人を以被仰付候

一安政元寅十二月十六日種痘之義二付右同断

一安政三辰二月廿八日江戸御留守詰出立

一安政四巳閏五月五日漢学助句読師被仰付候

一文久元酉三月十一日以来江戸詰之節、為留守扶持五人扶持被下置候

一同十九日御供二而出立

一元治元子十二月賊徒一件之節御留守御用相勤候二付、御手当式百匁被下

一慶応元丑四月廿五日病氣内願之通休息

榎並彦作 宋純

百石

〔士族〕

文久三亥三月廿六日奥御鍼医師御雇被仰付候

一同年十二月十一日除痘館当番皆勤、其余番外数度致出勤候二付御褒詞

一元治元子三月廿日奥御鍼医師御雇勤中三人扶持被下置、是迄被下置候銀

三枚之儀者以後不被下候

一同二丑正月廿九日除痘館当番皆勤、御褒詞

一慶応卜改元、四月廿五日養父孝斎義病氣内願之通休息被仰付、家督百石

無相違被下置、奥御鍼医師其儘被仰付候

一同年十月朔日宰相様御出坂御供二而出立、同三日今庄方御引戻二付帰

一同年十二月十六日除痘館皆勤、其上番外数度出勤二付御褒詞

一同二子六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日御供帰

一同三卯十一月二日宰相様御上京御供出立、辰三月廿九日帰

一明治元辰十月廿二日京都詰被仰付、十一月十三日出立、巳三月七日帰

一同二巳四月七日宋純事彦作

一同年五月朔日中納言様御用被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三年六月四日年給四俵、在京中八俵被下候事

一同日今般医員之分惣而医学所病院詰被仰付候二付而ハ、御針家之分科被

相止候処、是迄相嗜居候儀二付更ニ御家從御針治御用可相勤事

一同四未正月廿五日御家從被免候事

一同日非役江入候事

江上

江上茂太夫

廿石四人

寛政十三酉二月十一日御勝手役、小役人方御取立、新番組へ被入

文化三寅九月廿五日二石御加増、三石御足高、勤方は迄之通り、大坂定

居

同五辰七月二日御趣意ニ付役儀御免、是迄之御足擬作ハ不被下

文化十酉八月五日御勝手役、支度出来次第江戸詰

同十二亥九月廿日江戸詰之節不参届義有之ニ付遠慮

同十三寅三月御勝手役御免、一人扶持御取揚、伺之上遠慮被仰付

文政二、七月廿日御趣意銀御貸方三好久左衛門跡

文政三辰七月病死

江上茂太夫 此三郎 茂太夫 此三郎

廿石三人

文政三庚辰九月十一日父茂左衛門家督式拾石無相違被下置、新番組へ被

入

文政七申七月十一日御住居御附御広式添役岩崎八右衛門跡

同九戌四月十六日御借米方笹木七左衛門跡

文政十二己丑八月十三日御勝手役被仰付

天保三辰六月五日川除奉行笹木七左衛門跡

江川

江川吉左衛門

式拾石四人

享保十六亥十二月廿四日御取立新番入、勝姫様附、御擬作あなた方被下

候ニ付不記之

元文二巳十月十九日三石老人扶持御加増、是迄ハあなた御擬作なり

同三年二月七日春照院殿附

江川宗左衛門

廿二石四人

宝曆四戌四月十八日養父吉左衛門休息跡目被下、新番

同十三未九月廿三日御守殿御取次

同年十月十五日御広式御用達御留守番入、鈴木弥右衛門跡

明和四亥十月廿五日御守殿御取次鈴木惣太夫跡

同七寅四月十日巢鴨御屋敷奉行柳下瀬兵衛跡

天明八申十一月十一日御定之年数相満候ニ付相身跡末

寛政七卯十二月十九日二石御加増、都合廿二石四人扶持

江川吉之助

廿二石四人

寛政九巳正月十六日父宗左衛門休息、家督無相違、御留守番入、巢鴨御

屋敷奉行

同十年二月十四日靈岸島御屋敷奉行御武具奉行兼帶、松田庄太夫跡
同十一月未十一月朔日表納戸笹木長左衛門跡、大御番入

文化九申ノ二月廿日御役御免、遠慮伺之上指扣

文化九申 御定之年数相満候ニ付順席

文政十一子十二月十六日年来相勤候ニ付御目録銀五枚被下置候

天保七申ノ二月十三日休息

江川馬之丞

貳拾二石四人

天保七申二月十三日親吉之助年寄候ニ付内願之通休息被仰付、家督二拾

二石四人扶持無相違、大御番組へ被入

弘化二巳四月六日休息

江川常之助 常三郎

廿貳石四人

〔士族〕

一弘化二巳七月十六日養父馬之丞病身内願ニ付休息被仰付、家督廿貳石四

人被下置、大御番組へ被入候

一嘉永二酉六月廿九日松栄院様御附廣式御用達柳下雄助跡被仰付候

一同四亥四月九日今般両御丸様神田橋御住居江御立寄之節、御用掛り出精

ニ付御褒詞

一同五子四月廿五日御住居御普請御用掛り出精之段達御聴太儀ニ思召候、

依之金貳百疋被下置候

一同六丑二月九日松栄院様花之頃浜御庭へ被為入候御沙汰ニ付、掛り同様

被仰付候

一安政四巳九月十四日松栄院様御逝去ニ付、御附御広敷御用達御免被成、

大御番組へ被入候、且又是迄出精ニ付御褒詞

一文久二戌三月晦日御広敷御用達被仰付、御留守番組へ被入候

一同三亥三月廿三日御前様御供ニ而御国へ着、同廿六日折返し江戸へ出立

一慶応元丑五月十五日清心院様御用取扱掛り被仰付候

一同年十二月十九日出精相勤候ニ付御書院番組江被入、且近来御用多之処

厚致心配候ニ付、銀五枚被下置候

一同四辰正月廿五日今般御趣意ニ付家内共御国表へ引越被仰付、然ル処詰

罷在、但家内二月廿三日着

一同年三月廿日御手元并御広敷御用向清心院様御用御屋形向惣掛り被仰付

候

一同月廿五日先般居残り被仰付候処、今度罷帰候様被仰付候、四月廿七日

着

一同年四月廿九日家屋鋪中ノ馬場元御花畑ニおゐて、東方一番新規之家屋

鋪被下置候

一同年閏四月廿五日今般江戸御屋敷引払一件致心配候ニ付、御紋御上下一

被下置候

一明治ト改元、十一月十日幸姫様為御迎上京、同廿九日帰

一同二巳二月十五日御役名御裏庶務方執事ト被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾七俵壹斗七升六合被下

一同三午正月十三日右同断ニ付役義被免候事

一同日御家從被仰付候事 但御裏庶務執事勤

一同年二月廿七日御簾中様青松院様来ル三月御東上ニ付御供被仰付、三月

廿四日出立

- 一同年七月十七日常三郎事常之助卜改
- 一同四未二月十六日奥詰被仰付候事
- 一同年四月五日当分年給 弍拾二俵壹斗八升弍合四勺 十四級
- 一同月十八日東京ヨリ帰
- 一同年五月八日御家従被免候事

円乘

¹ 此前代た二出、高松与号

円乗彦藏 高松二六 高松彦藏

百石

- 一文政十三寅十月十一日養父綱藏家督百石無相違被下置、大御番組へ被入
- 一天保七申年江戸詰、四月十五日出立
- 一同十一子年江戸詰、四月十三日出立
- 一弘化四未年江戸詰、三月十七日出立
- 一嘉永元申十一月五日与内立合横井三郎右衛門跡被仰付
- 一同三戌九月十一日御金奉行榊原孫兵衛跡被仰付
- 一同五子四月五日役前不念之趣相聞二付、役儀御免遠慮、同廿五日御免
- 一同年十二月廿八日円乗与改性
- 一安政二卯三月十四日御広敷御用達高江善四郎跡被仰付、御留守番組へ被入候
- 一同三辰二月廿六日江戸御留守詰出立
- 一同五年正月十六日御勘定拝借奉行御趣意金取扱、奈良助右衛門跡被仰付候
- 一万延元申五月廿五日格式末ノ番外被仰付、役儀之儀ハ御免被成候

- 一文久三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日御供二而帰着
- 一元治元子二月廿日御水主頭井原次郎右衛門跡、御役料百五拾石被下置候、家屋敷次郎右衛門是迄罷在候宿浦御役屋敷へ替被下候
- 一同年四月廿四日宿浦御台場并大砲諸道具等悉皆御預ケ被成候
- 一同年十月十五日長征出立、丑二月二日帰
- 一慶応三卯六月十六日年寄候二付隠居

円乗仙吉 彦藏倅

百石

文久三亥七月八日上京被仰付相止

- 一同年八月十日御参府之節為御警衛垂井辺迄御供被仰付、同月廿日大坂御泊り方京都へ罷越
- 一元治元子四月廿三日宰相様御供二而帰京
- 一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤候二付、銀壹枚被下置候
- 一同年十月長征出陣、丑二月五日帰
- 一慶応二子十二月廿六日円乗彦藏差添被仰付
- 一同年同月廿八日一番之補兵隊江被入候
- 一同三卯六月十六日親彦藏年寄候二付隠居被仰付、家督百石無相違被下置、大御番組江被入候

但親彦藏御水主組支配二付宿浦御役屋敷二罷在候処、隠居被仰付

- 候二付、此度村上武左衛門家屋敷江替被下候
- 一同年十月十九日御警衛増詰上京、辰二月廿九日帰
- 一同四辰六月廿五日会征出立、十一月十七日帰

〔士族〕

一同年八月廿五日家屋敷是迄坂田助太郎罷在候家屋敷江替被下候

一明治二巳二月廿二日長々出坂太儀思召、仍十三兩被下

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三年四月廿五日戊辰北越出張軍事精励二付、御賞典之内十石三ヶ年令

領授候事

一同年五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備三番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

一同五申十月廿五日病死二付

円乗乙次郎 実弟

一米式拾七石七斗九升六合

〔士族〕

円乗仙右衛門 高松仙右衛門 順

拾八石三人

一天保十五辰十月五日養父権太夫病中内願二付休息被仰付、家督拾八石三

人ふち無相違被下置、無役御留守番組江被入候

一嘉永二酉八月三日番改役竹沢五郎兵衛跡被仰付候

一同五子十二月廿八日円乗与名替

一安政四巳四月廿九日用水奉行野田喜平次跡被仰付、御留守番組へ被入候、

安政六、八月十四日病死

円乗素 権次郎 権之助 権介 彦太 権助 実仙右衛門養家之弟 〔士族〕

拾八石三人

一安政二卯三月十六日横山引続年々支合皆勤二付、御持御扇子二本被下置

候

一安政三辰正月廿日衆道之儀二付風儀不宜、御移り

一五月廿二日横山引続年々支合皆勤二付御褒詞

一同六未十月五日養父仙右衛門家督拾八石三人扶持無相違被下置、大御番

組へ被入候

一文久二戌十二月廿八日権之助与名替

一同三亥正月十六日農兵教授手伝被仰付候

一同年八月十七日御参府御供二而出立、同年十二月江戸方御上京御供、子

二月十三日帰

一元治元子三月二日上京、四月十二日帰

一同年九月十二日農兵教授手伝御免被成候

一同年十月十五日長征出立、丑二月二日帰

円乗名右衛門

拾八石三人

寛延三年七月五日役人方御取立、御留守番入、御土蔵番小林善八跡、三

石御加増

此後代た二出、但高松与改

権太夫 権太夫 権太夫

右三代高松与唱、又々仙右衛門代嘉永五子十二月廿八日方円乗与改

依之中三代た之部二出之

一 同年十月十三日解隊之處東京府御用ニ而居残り、東京府探索方

円乗³

円乗虎吉 高松虎吉

拾八石三人

一天保十二丑八月五日兄栄吉病中養子願不参届、且又一家共之内心得違之

趣も相聞候ニ付、願書御返被成家可及断絶処、格別之御憐愍を以家名御

立被下、為名跡其方へ御充行拾八石三人扶持被下置、新御番組へ被入、

遠慮被仰付

一 嘉永五子九月五日御供勤被仰付候

一 同年十二月廿八日円乗与名替

一文久三亥十月十三日中将様御供ニ而上京、子四月廿三日同断帰

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之

御酒被下置候

一 同年十月十七日京詰出立、十二月帰

一 同年十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀三百匁被下置候

一 同二丑正月廿五日上京、五月七日帰

一 慶応三卯十月十八日第二遊撃隊ト被仰付候

一 同廿五日新番組ニ被仰付候

一 同四辰五月十一日今般御趣意ニ付無役組ニ被仰付

一 同月廿日無役新番組江被入候

一 同年七月廿六日御広間当番勤被仰付、御留守番組江被入候

一 明治二巳五月 病死

一 慶応二子四月七日京都詰出立

一 同三卯正月十六日鳴物方頭取被仰付、御役御番組江被入候

一 同年四月十九日帰

一 同年五月廿日鳴物方頭取其儘締方被仰付候

一 同年十月廿二日右其儘教授方兼被仰付候

一 同年十二月廿二日鳴物御改正之砌格別出精相勤、且在京修業中失却も有

之趣ニ付、銀拾五枚被下置候

一 同年十二月廿八日權之助事權介ト改

一 同四辰閏四月十一日繁勤ニ付、小者給一人扶持銀三百匁被下置候

一 同月十九日養弟範之介御咎ニ付窺之上指扣、同廿二日御免

一 明治ト改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳三月六日帰

一 同二巳正月十八日大坂神戸辺へ罷越、喇叭致直伝候様被仰付

一 明治二巳二月十八日月給米一年分八俵被下候、小者給ハ相止

一 同年六月權介事彦太ト改

一 同年九月十四日居屋敷南、表等ニ而御茶園地拝借之儀願之通被仰付

但南ノ方ニ而六十六坪三步五厘、表之方ニ而八坪八分三厘、メ七

十五坪壹分八厘

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三十九俵四斗三合下賜

一 同月廿八日今般御改正ニ付、当役被免候事

一 同三年正月十九日楽隊派立以來出精相勤ニ付、金七百匁被下置候事

一 同月廿日修業隊江被入候事 但席福嶋廉平次

一 同年五月廿四日第一大隊一番小隊入被仰付候事

一 同年十二月八日常備一番隊 年給六俵

一 同四未 權助事素ト改

円乘虎弥太

〔士族〕

拾八石三口

明治二巳七月十二日養父虎吉家督十八石三口無相違被下、無役新番組江

被入候、席三沢次郎吉次

一同年八月十四日予備隊被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給祿米三拾九俵四斗三合被下

一同三年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年十二月 予備一番隊 年給貳俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

表 幕末維新期の福井藩人事関係資料（松平文庫）

番号	資料名	数量	判型	備考
917	剝札上・下 嘉永四	2冊	美濃	
921	士族1-7〔3欠、表紙貼紙ニ「十四冊之内」トアリ〕	6冊	半紙	
922	子弟輩1-3〔表紙貼紙ニ「十四冊之内」トアリ〕	3冊	半紙	
926	新番格以下1-7 御記録方	7冊	半紙	書役
923	新番格以下増補雜輩〔表紙貼紙ニ「十四冊之内」トアリ〕	1冊	半紙	
918	雜輩之類剝札 御記録方	1冊	半紙	書役
924	元陪臣乾・坤〔表紙貼紙ニ「十四冊之内」トアリ〕	2冊	半紙	
925	徳川家脱走御預人〔表紙貼紙ニ「十四冊之内」トアリ〕	1冊	半紙	
920	(士族略履歴)1-13 御記録方〔6欠〕	12冊	美濃	認方など
927	(諸役人并町在御扶持人姓名)御記録方〔表紙貼紙ニ「共十三冊」トアリ、7欠〕	12冊		
-1	御役人列集		半紙	
-2	御役人列集		半紙	
-3	御医師御鍼医御目医師御外科		美濃	認方など
-4	御茶道御絵師御儒者(中略)御鷹方御餌刺御鶴匠蘭学方英学方		美濃	認方など
-5	御徒目付御徒組頭		美濃	認方など
-6	御徒		美濃	
-8	御坊主記録		美濃	認方など
-9	御料理方御菓子方椀奉行		美濃	認方など
-10	減切		美濃	
-11	御本丸一ツ橋紀州田安京都江戸大坂大津柏崎(以下略)		半紙	
-12	御国町方		半紙	
-13	御国在方		半紙	

解説

幕末維新期の福井藩人事関係資料（松平文庫）について

吉田 健

はじめに

松平文庫には幕末維新期の福井藩士についての人事関係資料がまとまって残されています。目録番号九一七から九二七の一点四七冊(九一九「姓名録」一〇冊は天保期までを扱った資料なので除外)で、表のように三つのグループにまとめることができます。本編が主に対象とするのはこのうちの九一七「剝札」・九二一「士族」ですが、説明の都合上、他のグループの中心資料「新番格以下」と「(士族略履歴)」の説明から始めることにします。

一、卒身分の藩士の記録

九二六「新番格以下」は表紙には「新番格以下諸下代迄」とあるように、参考資料の資格別人数表の「与力」から「下代」、すなわち「諸組(足軽)」を除く「卒」身分の藩士の人事記録です。「卒」身分の藩士は一代限りの召抱えが原則で、家督相続は認められませんでしたが、実際は親の引退後、子供が新たに召抱えられることが多く、したがって家ごとに書き継ぎ管理することが可能でした。このため家ごと(同姓複数)の場合は扶持高順)に、いろは別で七分冊に構成されています。

さらに各冊子とも裏表紙に弘化四年(一八四七)十一月付で「書役」の名が記されています(写真1)。二人目の大橋佐四郎の肩書きは「石原甚十郎物書」とあり、三人目以降の肩書きにある横田、土屋、中根、浅井を含めてすべて当時の目付です。『福

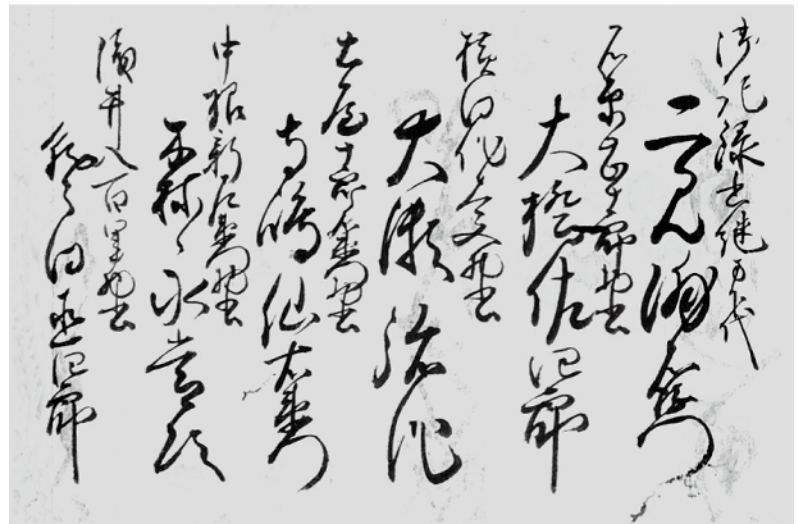


写真1「新番格以下」書役

松平文庫 福井県立図書館保管

井藩史事典』（鈴木準道著、舟沢茂樹校訂）によれば、「御目付役（六人）は執法官にて番士より人撰拜命、国政枢機に關し上は家老職より下は荒子あらしこに至るまで褒貶・黜陟を掌る」とあり、また「目付が部下として使用するに徒目付（中略）、此外に目付組（一組十人。此内に小頭・分役ぶんやく・物書等一名つつあり）あり。徒目付并小頭・分役・物書等は日々市街見廻り、大小によらず目撃したる事を目付へ報告、また内密調事に従事す」とあります。これらのことから「新番格以下」七冊は、弘化四年十一月「褒貶・黜陟」すなわち人事管理を掌る目付の職務上、その下で「内密調事」などに従事する「目付物書」が手分けして作成した、卒身分の藩士各家の先祖を含む人事記録であることがわかります。

なお写真一人目の二見浦右衛門について「新番格以下」は、目付浅井八百里組の物書であり「弘化四未九月十六日訳合も有之二付、諸下代之内江被召出」「同月十八日御目付御記録書継方下代被仰付候」と記録しています。また二見の後任の鷺田直四郎についても「弘化四未年十月十九日江戸詰之処、御呼返し浅井八百里物書役被仰付」と記録しています。このことからこの「新番格以下」の編さん作業は、本巻六一ページから明らかなように前年の七月九日に目付に就任した浅井が中心になり、各目付の書役を動員し約二か月間で仕上げた仕事であったことがわかります。「新番格以下」は、こうして完成された後も何人もの筆跡で明治五年（一八七二）頃まで書き継がれており、福井藩の「卒」身分の藩士の人事記録としては、唯一まとまった資料となっています。

二、士分の藩士と専門職の記録

九二〇「士族略履歴」は家格別人数表の「本多家」から「新番格」までの士分の藩士について、各家ごとにまとめられた歴代当主の人事記録で、いろは別に、禄高順に記載されています。各家ごとに丁が改められていて、書き継ぎにより行が詰まれば新たに紙を綴り足す形で管理されています。各家とも天保十一年頃までが同じ筆跡ですから、この頃に一応完成し、その後は何人もの

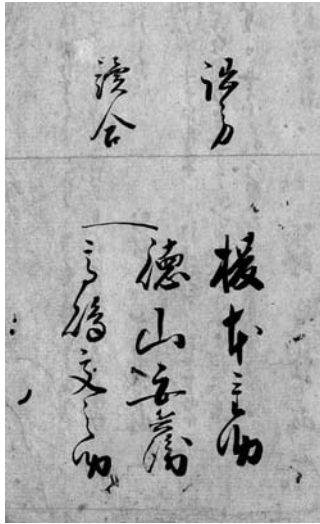


写真2「(士族略履歴)」認方など

松平文庫 福井県立図書館保管

筆跡で明治二年頃まで書き継がれています。各冊子とも裏表紙に「認方」と「読合」の名が記されています(写真2)。冊子により役割、顔ぶれが替わる場合がありますが、天保期に御奉行下代を勤めている者が確認できる程度で、これにより作成の主管を確定することはできません。

ところで、九二七「(諸役人并町在御扶持人姓名)」一三分冊のうち枝番三から一〇の七冊(七欠本)は「(士族略履歴)」と同じ体裁の美濃判で、うち五冊には同様に「認方」と「読合」の名が記されています。これらは「(士族略履歴)」と同時に作成され、また同じように書き継がれたもので、医師や絵師など専門職の藩士の履歴が収められています。家格別人数表に見るとおり、医師や絵師などの専門職も禄高により士分に格付けされる者もありますが、「(士族略履歴)」には記載されず、別に専門職として、医師や絵師などの職種ごとに、士分から卒までをまとめて記載、管理しています。じつは卒の人事記録である「新番格以下」にもこれら専門職は記載されていません。すなわち一般職は士分が「(士族略履歴)」、卒が「新番格以下」と分けて管理されたのに対して、専門職は職種ごとに、士分・卒がまとめて管理されていたのです。

ところで、これら一連の資料の表紙には「御記録方」とあります。先の『福井藩史事典』は「御目付の管理のもとに立つ者」として「上水奉行一名・徒目付十四人・記録方一人」などを挙げていることから、「御記録方」はこの御目付の管理下にある「記録方」を指すと考えられますので、これらの資料が目付の所管によって作成管理された人事関係資料と位置づけることができます。

三、もうひとつの士分の記録

「剝札」と「士族」は、一般職と専門職を含む士分のみ的人事記録です。この点では「(士族略履歴)」などと内容が部分的に重複する資料です。「剝札」は美濃判で二分冊、「士族」は半紙判で七分冊(内一冊欠本)です。「剝札」は士分各家について、最近の引退当主まで、歴代当主の履歴を記録しています。各家は、いろは別にまとめられ、そのなかで禄高順に配列されて、同姓

複数の場合に限って最高禄高の家に続けて記載されています。一方「士族」には、現役当主のみの履歴が、いろは別にまとめられ、禄高順に記載されています。

「剝札」の最大の特徴は、履歴の記載された短冊型の紙片を貼り付けて整理している点で、おおよそ明和・安永期頃までの短冊は美濃判の原簿から、それ以降は半紙判の原簿から剥ぎ取られたことがわかります。「剝札」の表紙には「嘉永四辛亥歳ヨリ改正」とありますから、この時、古い美濃判の原簿とそれに続く新しい半紙判の原簿があったことが想像されます。さらにおおよそ元治期以降の記録は、半紙判の原簿を切り取って貼り付けているのが確認されます。このことは「士族」が、おおよそ元治期までは半紙判の短冊、それ以降は直接記載となっているのに対応しています。つまり「士族」搭載の当主が現役引退すると、短冊部分は剥ぎ取られ、直接記載の部分は切り取られて「剝札」にあらたに貼り足されたことが容易に想像できます。このことから、「剝札」と「士族」は、内容が連続する資料であることがわかります。

このことを「い」にまとめられている「剝札」七二家と、「士族」六八家について確認すると、うち六一家が接続し、「剝札」の残り一一家は降格二家、改名六家、その他三家となり、また「士族」の残り七家は元武生の家臣二家、新規召出四家、改名一家となります。このことから、「剝札」と「士族」の内容は、接続すべき家はすべて連続していることがわかります。

このように、ひとつの資料とみなすことができる「剝札」「士族」を、内容のよく似ている「(士族略履歴)」と比較してみると、記録の下限が明治五年と長く、内容も豊富であり、医師・絵師などの専門職も含んでいることなど、利用価値が高いことがわかります。このことが、「剝札」と「士族」を連結して『福井藩士履歴』とし、翻刻、刊行することにした理由です。その際、各家は「剝札」の記載順とし、利用の便を考慮して、五十音順に組み替えました。

ところで「士族」は第三冊の「かよたれそ」が欠落しています。これを補うべき「(士族略履歴)」も第六冊の「よたれそ」が欠けています。このため「か」は「(士族略履歴)」で補い、「よたれそ」

は内容が似ている明治元年の八九八「藩制役成」を利用する予定です。同書は福井藩士分九六五名の履歴付き職員録で、すでに『福井市史 資料編5』に収載されていますので、詳細はその解題を参照してください。

おわりに

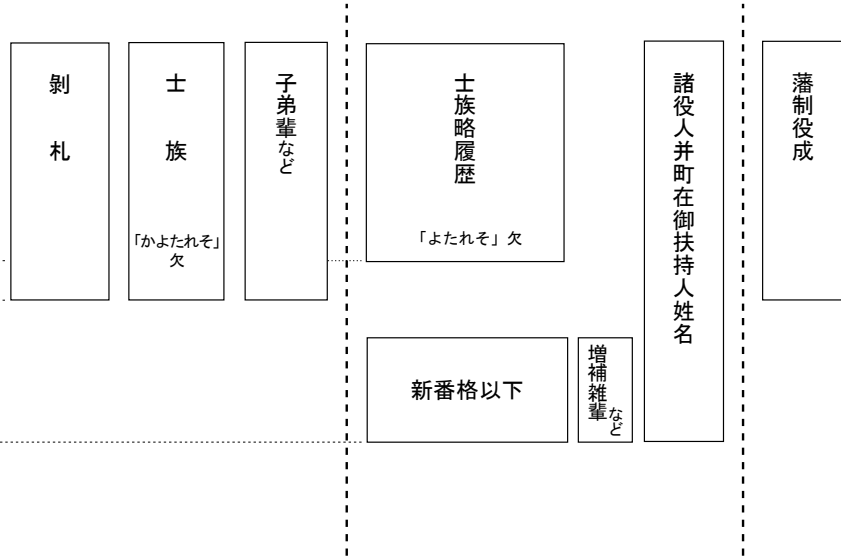
「剝札」「士族」の筆耕原稿は大学ノート四九冊（剝札二八冊・士族二一冊）にのぼり、すべて田原健子氏のボランティア活動によりました。氏は引き続き「（士族略履歴）」四五冊、「新番格以下」二八冊、「子弟輩」五冊、「御医師」「御茶道」など一一冊と、合計で大学ノート一三八冊の筆耕をすでに終えられ、なお精力的に活動を続けておられます。遠からずして、資料群全体の筆耕を完了されることでしょう。今回の「剝札」「士族」すなわち『福井藩士履歴』でも六分冊で、発刊完了に最短でも六年を要することを考えますと、これ以上の翻刻、発刊計画の延長拡大は望めない現状にあります。が、何らかの形で、この膨大な情報の共有化が図られることを願って止みません。

参考資料

各資料と家格などとの関係

福井藩家臣団の家格別人数
(嘉永5年)

家 格	人 数
本多家	1
高知席	16
高 家	2
寄合席	38
定座番外席	14
番士 (役番外)	106
番士 (大番など)	495
新番・新番格	81
医師・絵師など	49
士分合計	802
与力	39
小役人	84
一統目見席	87
小算・坊主・下代	347
諸組(足軽)	1,341
卒合計	1,898
家臣団総計	2,700

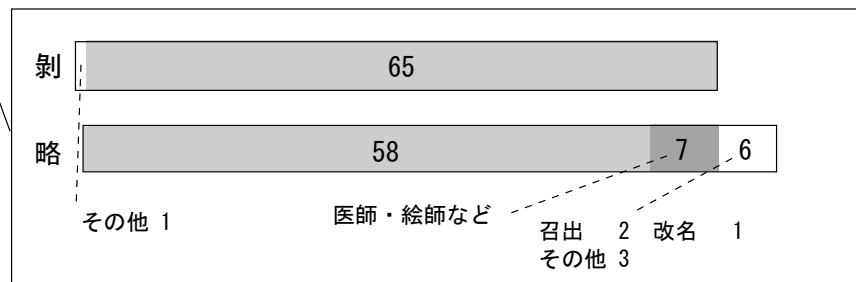
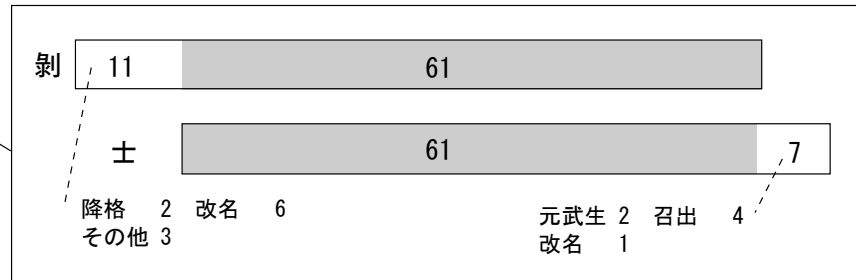


・荒子・中間等の小者973人を除く
 ・舟沢茂樹氏「福井藩家臣団と藩士の昇進」
 『福井県地域史研究』創刊号 1970年による

剥札と士族・士族略履歴との連繋 (い・かを例に)

資料別家数・人数

	剥	士	略	藩
あ	46	47	41	51
い	72	68	62	69
う	13	14	11	14
え	8	7	6	7
お	67	77	67	77
か	66	欠	64	73
き	13	9	7	14
く	21	25	18	27
け	2	2	2	3
こ	21	22	20	28
さ	46	45	41	48
し	19	18	18	20
す	23	26	26	28
せ	10	10	7	9
そ	1	欠	欠	2
た	68	欠	欠	70
ち	2	2	6	2
つ	25	23	17	25
て	2	3	3	3
と	14	19	11	15
な	50	52	41	55
に	17	15	15	16
ね	1	1	1	2
の	12	11	10	11
は	40	46	37	44
ひ	26	23	20	17
ふ	10	9	9	11
ほ	24	26	22	34
ま	36	43	32	42
み	29	36	23	27
む	9	10	7	12
め	1	1	1	1
も	8	7	5	8
や	43	50	41	53
ゆ	2	1	2	2
よ	22	欠	欠	29
わ	10	15	8	11



- ・「剥札」「士族」は一連の資料で、幕末維新期の福井藩家臣団(士分以上)の人事記録としてはもっとも充実している。
- ・「士族」の第3冊(かよたれそ)が欠本、「(士族略履歴)」「藩制役成」で補完が必要。
- ・「剥札」と「士族」「(士族略履歴)」は、ほぼ連繋する。「剥札」では改名や卒への降格、「士族」「(士族略履歴)」では子弟の新規召出(戊辰戦争など)、武生家臣などの新規繰入(明治3年2月)などが不連繋の原因。
- ・資料別家数・人数の「あ」～「え」は確定値。「お」以下は筆耕原稿などによる概数。

福井藩士履歴 1 あゝえ

福井県文書館資料叢書 9

平成二十五年二月二十三日 発行

編集発行 福井県文書館

九一八―八二一三

福井県福井市下馬町五二―一一

電話〇七七六―三三三―八八九〇

印刷 創文堂印刷株式会社

九一八―八二一三

福井県福井市問屋町一―七

電話〇七七六―二二一―三三三(代)

